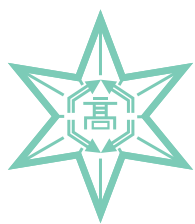


150
Anniversary



石川県立翠星高等学校

創立150周年記念誌 1876-2026



石川県立翠星高等学校

創立150周年記念誌



石川県立翠星高等学校

校歌

川口久雄 作詞
高田信一 作曲

一 青雲の 空澄みとほり

さやかなる 雪の白山

けがれなき 思索に生きて

いさぎよく 我等こぞれり

土よ照れ 母なる大地

高らかに 若さ讃へむ

二 眼のかぎり しぶきあげつつ

日本海 波こそ騒げ

揺がざる 学びにつとめ

眉あげて 我等こぞれり

潮とわけ 真理の泉

新しき 光讃へむ

三 加賀野行く 水は浄らに

花霞む 千代尼のあとよ

時知らぬ 松の翠を

いただきて 我等こぞれり

星と澄め 心の奥処

一筋の 気魄讃へむ



翠星高校の 四季



校舎
School





生物資源コース





食品科学コース



環境科学コース

環境設計分野

造園分野





部活動 Club Activities



創立150周年記念誌

CONTENTS

校歌	
翠星高校の四季	
学校生活	
ご挨拶 六星同窓会 会長 本 昌康	15
翠星高等学校 学校長 宮下 正司	16

本校の沿革	18
-------	----

第1章 150年の歴史

1 明治期開校から石川県立農学校の松任移転まで	24
2 大正期の県立農学校	26
3 石川県立松任農学校時代	27
4 松任女子実業学校	29
5 石川県立松任高等女学校	29
6 総合制石川県立松任高等学校	32
7 石川県立松任農業高等学校	35
8 石川県立松任農業高等学校 新しい百年への出発を	38
9 石川県立翠星高等学校	40

第2章 教育活動の変遷

松農から翠星へ	44
総務課	48
教務課	50
生徒指導課	59
特活指導課	61
進路指導課	62
保健課	65
教育相談課	66
学科・農場	67
生物資源コース	69
食品科学コース	70
環境科学コース環境設計分野	71
環境科学コース造園分野	72

第3章 生徒の活動

2000 (平成12年度)	74
2001 (平成13年度)	76
2002 (平成14年度)	78
2003 (平成15年度)	80

2004 (平成16年度)	82
2005 (平成17年度)	84
2006 (平成18年度)	86
2007 (平成19年度)	88
2008 (平成20年度)	90
2009 (平成21年度)	92
2010 (平成22年度)	94
2011 (平成23年度)	96
2012 (平成24年度)	98
2013 (平成25年度)	100
2014 (平成26年度)	102
2015 (平成27年度)	104
2016 (平成28年度)	106
2017 (平成29年度)	108
2018 (平成30年度)	110
2019 (令和元年度)	112
2020 (令和2年度)	114
2021 (令和3年度)	116
2022 (令和4年度)	118
第73回日本学校農業クラブ全国大会 令和4年度北陸大会特集	120
2023 (令和5年度)	124
2024 (令和6年度)	126
2025 (令和7年度)	128

第4章 地域と共に歩む翠星高校

・継続は力なり 廃棄果皮ゼロ宣言！	132
丸ごと生かそう「金沢ゆず」	
・全国六次産業化計画！	136
各地域に合わせた「廃棄果皮Oシステム」	
・「HACCP導入」応援団！	140
農業高校生が食品の安全安心を考える	
・石川の未来を創るイチゴ	144
イチゴ高設栽培モデルの確立と校内6次産業化への挑戦	
・和菓子でつなぐ世代の絆	148
白山市から全国へ届ける敬老の日の贈り物	
・あつまれ！100年の森	152
高校生が実践する学校庭園再生と環境教育・ 防災教育・生涯学習の拠点づくり	
・地域社会や産業界で活躍できる人材育成を目指して 石川県内唯一の農業高校の挑戦	
校長 宮下 正司	156

ご挨拶



創立150周年記念誌発刊にあたって

六星同窓会 会長 本 昌康

本年、母校石川県立翠星高等学校は、創立150周年という輝かしい節目を迎えました。この記念すべき年に、長きにわたる母校の歩みを振り返り、その歴史と伝統を未来へつなぐ記念誌を発刊できますことを六星同窓会会長として大変うれしく、また誇りに思います。発刊にあたり、多大なるご尽力とご支援を賜りました教職員の皆様、同窓会員の皆様、そして関係各位に心より厚く御礼申し上げます。

翠星高校が創立150周年を迎えたことの意味を、私は今、あらためて深く感じています。本校が県内で最も長い歴史を持つ高校であり、農業高校としても全国で最も長い歴史を誇る学校であることを、私自身、在校生のころから幾度となく聞いてまいりました。しかし、10代のころには、その重みを十分に理解することなく聞いていたように思います。卒業して50数年を経た今、「150年」という歳月を前にすると、その歴史の長さや今日まで母校を守り育ててこられた方々のご努力の大きさに、あらためて思いを致さずにはられません。

明治9年、本校が創設された当時、日本では多くの人々が農業に携わり、農業を学ぶことは、まさに社会そのものを学ぶことでもありました。その後、幾多の改称や変遷を経ながらも、本校は一貫して実践を重んじる教育を受け継ぎ、地域社会、そして日本の発展を支える多くの有為な人材を世に送り出してきました。今日までの150年を築いてこられた歴代の校長先生、教職員の皆様、地域の皆様、そして先輩諸氏の並々ならぬご尽力に、深い敬意と感謝を申し上げます。

これまで本校を巣立った卒業生は二万余名に及び、それぞれが農業のみならず、産業、行政、教育、文化をはじめ、さまざまな分野で活躍し、地域社会を支えてこられました。その一人ひとりの歩みの積み重ねこそが、翠星高校150年の歴史そのものであると思います。

時代は大きく変わりました。明治の時代とは異なり、農業に直接携わる人の割合は大きく減少し、今やAIをはじめとする新しい技術が、社会や仕事のあり方を急速に変えつつあります。しかし私は、AIの時代が進めば進むほど、本校で「食・農・環境」を学ぶ意義は、むしろ大きくなっていくのではないかと考えています。

土に触れ、自ら作物を育て、食と命の尊さを知り、仲間とともに汗を流す。自然は決して人間の思い通りにはなりません。だからこそ、そこから忍耐することを学び、考え、工夫することを学び、そして人と力を合わせることの大切さを学ぶことができます。こうした実体験を通して身につく力は、どれほど科学技術が進歩しても変わることのない、人間として生きていくための大切な力です。翠星高校で学んだ経験は、卒業後、どのような道に進もうとも、生涯にわたり自らを支える揺るぎない土台となるものと確信しております。

150年という歴史は、単に過去を振り返るためだけのものではありません。先人から受け継いだ志と伝統を、次の50年、100年へとつないでいくための、新たな出発点でもあります。この記念誌が、母校の長い歴史と伝統をあらためて心に刻むとともに、世代を超えた同窓生の絆をさらに深め、未来を担う在校生や後輩たちにとって、大きな励ましとなることを願ってやみません。

結びに、創立150周年記念事業ならびに本記念誌の発刊にあたり、多大なるご支援とご協力を賜りましたすべての皆様に、重ねて深く感謝申し上げます。母校石川県立翠星高等学校のさらなる発展と、六星同窓会会員の皆様のますますのご健勝、ご活躍を心より祈念申し上げ、発刊にあたってのご挨拶といたします。



ご挨拶

翠星高等学校 学校長 宮 下 正 司

今年、令和8年、本校は日本で最も歴史と伝統ある農業高校として、創立百五十周年を迎えることができました。この記念すべき節目にあたり、「石川県立翠星高等学校 百五十周年記念誌」を発刊できますことは、この上ない喜びであります。

本校は明治9年12月、石川県勸業所に農学科が設置され、農業実習の技術指導者を養成する機関としたことにその創始を見ます。明治初期において、農業は国の礎として位置づけられ、農業教育機関への期待も極めて大きいものでありました。本校はその期待に応え、本県農業の近代化にも大きく貢献してまいりました。その後、校名は幾多の変遷を辿りました。明治10年には石川県農業講習所、明治19年には石川県農学校、明治34年には県立農学校、大正15年には県立松任農学校と改称されました。さらに戦後、昭和23年の学制改革により、農業課程と普通課程を併設する県立松任高等学校へと改編され、昭和28年には県立松任農業高等学校となりました。そして平成12年には、農業高校として全国で初めて単位制を導入するなど、新しい時代にふさわしい農業専門高校を目指し、「石川県立翠星高等学校」へと校名を改めました。県内の特定の地名を冠しない校名のもと、全県から「食・農・環境」に強い興味・関心を持つ生徒を迎え、知識と技術、そして実践力を備えた人材を育成することを、本校の使命として今日に至っております。

この十年を振り返りますと、平成30年にはグローバルGAPの認証を取得し、またコロナ禍にあった令和元年には、国内の教育機関として初めて食品安全規格（JFS-B）を取得いたしました。県内唯一の農業高校として、全国に先駆けた挑戦を続け、着実に歩みを重ねてきた十年でありました。また、令和4年10月には第73回日本学校農業クラブ全国大会が本県を中心とした北陸3県で開催され、本校は大会事務局として大会成功に大きく貢献いたしました。さらに、この農業クラブ活動においては、令和7年10月に開催された全国大会において、プロジェクト発表会の全部門に本校の3チームが北信越代表として堂々と発表するなど、目覚ましい躍進を続けております。

現在、社会は急激な変化の時代を迎えています。その中で、AI（人工知能）は、まさに変革の鍵を握る技術として大きな注目を集めています。今後、本校の生徒をはじめとする若い世代は、生成AIを活用しながら、より便利で豊かな社会を生きていくことになるでしょう。生徒たちがAIを活用する能力を身につけるとともに、新たな価値を創造できる人材として成長できるよう、教育環境の整備を一層推進してまいります。また、次世代の農業や地域社会の発展に貢献できるよう、多様な学習機会を的確に捉え、主体的かつ積極的な学びを支援していくことが重要であると考えております。今後十年、さらには五十年先を見据え、新しい技術に主体的に関わる姿勢と、それらを活用する確かな力を身につけられるよう努めてまいります。

本校はこれからも、地域に根差した農業高校として着実に歩みを進めてまいります。農業をはじめとする地域産業の担い手として、また地域の発展を牽引するリーダーとして活躍できる人材の育成に、今後も一層努めてまいります。そして、日本で最も歴史と伝統のある農業高校として、その誇りと使命を胸に、さらなる未来へ向かって力強く飛躍していくものと確信しております。

結びに、本校の発展と充実のために多大なるご支援を賜りました教育関係各位、PTA、六星同窓会をはじめ、各方面の多くの皆様に深甚なる謝意を表しますとともに、本校のますますの発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

本校の沿革

明治9年

- 4月 石川県金沢区方勸業場において農業篤志家を集めて農書を講義する。
- 12月 石川県勸業所と改称し、農学科を設け農業実習の技術指導者を養成する機関とする。これをもって本校の創始とする。
- 石川県勸業所総括 吉崎宇一 就任

明治10年

- 1月 農学科を分立し石川県農業講習所を設立、下等科（1年制）、上等科（2年制）を置く。
- 石川県農業講習所総括 吉崎宇一 就任

明治11年

- 9月 明治天皇御巡幸の際、果実・野菜を天覧に供す。

明治12年

- 9月 下等科を廃止し、修業年限を2年（正則）と定める。

明治13年

- 7月 石川県農業講習所初代所長 渡辺譲三郎 就任

明治14年

- 10月 正則修業年限を3年とする。

明治15年

- 8月 正則修業年限3年を、本科2年 専修科1年とし、変則修業年限を2年とする。

明治19年

- 4月 本所を羽咋郡東土田村字火打谷串田野に移転し、石川県農学校と改称する。
- 6月 石川県農学校取締 吉崎宇一 就任
- 7月 校舍及び教職員生徒両宿舍落成

明治21年

- 4月 規則改正し、修業年限3年の中等学校となる。別に就業年限1年の撰科を置く。

明治22年

- 3月 石川県農学校初代校長 吉崎宇一 就任

明治23年

- 8月 修業年限2年の獣医科別科を置く。

明治29年

- 3月 獣医科別科を獣医学科（定員50名）とし、修業年限を農業科（定員100名）と同じく3年とする。また撰科は1年とする。
- 4月 能美郡小松町字小馬出町に移転し、公会堂を校舎とする。農業科・獣医学科を置く。

明治30年

- 11月 撰科を廃止し短期の農事講習科を設け、各郡に臨時教場を置き、出張授業を行う。

明治33年

- 3月 農学科（定員150名）獣医科（定員50名）を両学科を通して（定員200名）とする。

明治34年

- 5月 県立農学校と改称する。
- 県立農学校初代校長 高田鑑三 就任

明治35年

- 3月 石川郡松任町馬場町に新校舎が落成し移転する。

明治36年

- 4月 卒業式と併せて校舎落成式典举行

明治37年

- 3月 農業講習科を廃止し、農科、獣医科を置き修業年限3年とし、両科通して定員300名とする。
- 本校に修業年限2年の補修科を置く。

明治42年

- 5月 清国教育視察団来校
- 9月 東宮殿下本校行啓

大正7年

- 4月 本校付設県立農業教員養成所開所式举行

大正8年

- 4月 本校付設県立農業補習学校開所式举行

大正9年

- 8月 別科講習所創設

大正10年

- 4月 県立農業教員養成所を県立実業補習学校教員養成所と改称

大正11年

- 3月 県立農業補習学校を廃止

大正12年

- 3月 松任女子実業学校初代校長 加藤政吉 就任
- 4月 農科第1部（尋常5年制）、農科第2部（高卒3年制）林科（尋常3年制）を置く。
- 松任市古城町で松任女子実業学校（修業年限前期2年、後期2年、定員200名）開校式举行

大正13年

- 4月 松任女子実業学校に修業年限4年の農業科、商業科を置く。

大正15年

- 4月 県立松任農学校と改称する。修業年限5年の林科を廃止し3年制（高卒）を置く。
- 松任農学校初代校長 竹内秀雄 就任

昭和2年

- 4月 松任女子実業学校を県に移管し、県立松任高等女学校とする。修業年限4年、各学年2学級（定員400名）開校式举行
- 松任高等女学校初代校長 畑山治作 就任

昭和8年

- 4月 林科を農林科と改称する。県立実業補習学校教員養成所の修業年限を3年とする。

昭和9年

- 4月 鹿島郡徳田村に専修科（1年制）を置く。「昭和15年 七尾農学校として独立」

昭和10年

- 4月 県立実業補習学校教員養成所を県立青年学校教員養成所と改称
- 9月 創立60周年記念式典举行

昭和11年

- 4月 県立松任高等女学校創立10周年記念式典举行

昭和13年

- 4月 師範学校卒業者を1年修業する県立臨時教員養成所を併置

昭和15年

- 4月 修業年限3年（高卒）の獣医畜産科を置き、専修科を廃止する。

昭和18年

- 4月 修業年限3年（高卒）の拓殖科を置く。

昭和19年

- 4月 県立青年学校教員養成所は青年師範学校となり河北郡津幡町に移転。

昭和20年

- 4月 修業年限2年の女子農業科を設置
- 9月 創立70周年記念式典举行

昭和21年

- 4月 拓殖科を廃止し、在学生を農業科に編入させる。獣医畜産科を畜産科に改称する。

昭和22年

- 4月 学制改革により、併設中学2・3年、高女4・5年制の編成となる。高女創立20周年記念式典举行

昭和23年

- 4月 学制改革により、県立松任高等学校（3年制）が設立され、県立松任農学校校舎を農業課程、松任高等女学校校舎を普通課程とし、同時に併設中学（3年制）を置く。
- 8月 松任高等学校初代校長 難波得三 就任
- 9月 定時制を設け、本校に農業課程、普通課程、石川郡美川町に水産課程を置く。

昭和24年

- 4月 学区制実施により、男女共学の総合制高校となり、普通・農業・商業・家庭の4課程を置く。
- 高女第19回卒業式举行 これをもって高女自然廃校となる。

- 定時制水産科を廃止し、普通課程として美川中学で授業を行う。分校を廃止し第1学年を本校に移籍する。

昭和25年

- 3月 畜産科を廃止する。県立松任高等学校同窓会設立

昭和27年

- 6月 文部省産業教育指定校となり、農業に関する課程に農業・農林工学・農芸化学の3課程を設置。

昭和28年

- 4月 県立松任高等学校の生徒募集を停止し、県立松任農業高等学校が設立される。農業に関する課程に農業・農林工学・農芸化学・農業経済の4学科と家庭課程を置く。
- 6月 松任農業高等学校初代校長 飯倉 薫 就任
- 7月 1日に開校記念式典举行 この日を創立記念日と定める。
- 8月 県立松任農学校同窓会・県立松任高等女学校清輝同窓会・県立松任高等学校同窓会の3者を統合して六星同窓会を結成

昭和29年

- 4月 県立小松実業高等学校農業課程廃止となり、その在校生（80名）を本校に移籍する。
- 農業専攻科（農業高校卒2年制）を置く。

昭和30年

- 11月 創立80周年記念式典举行
- 12月 寄宿舍北星寮移転改築完了

昭和31年

- 4月 文部省産業教育指定校となる。

昭和32年

- 4月 農林工学・農芸化学の2学科の募集を停止し、農林・農業土木・農産加工の3学科を置く。
- 募集定員農業科（80名）農林・農業土木・農産加工・農業経済（各科40名）、更に家庭科（135名）となる。

昭和34年

- 4月 農業専攻科の修業年限を1年に改める。

昭和35年

- 1月 校舎改築第1期工事着手
- 12月 新館普通教室1棟落成

昭和36年

- 4月 家庭科の募集定員90名となる。

昭和37年

- 1月 石川郡松任町字三浦町で新校舎の起工式举行

昭和38年

- 4月 農業経済・農産加工の2学科の募集を停止し、畜産・農産製造の2学科を置く。家庭科2・3年生を新設の県立松任高等学校へ移籍する。
- 募集定員は、農業・畜産・農林・農産製造・農業土木（各科50名）、定時制農業科（50名）となる。

昭和39年

- 5月 松任町字三浦町に新校舎が落成し移転する。

昭和40年

- 5月 第1期造園工事（中庭芝生）完了

昭和41年

- 4月 農林科の募集を停止し、造園科を置き各科の募集定員は45名定時制40名となる。
- 9月 水理実験室完成
- 10月 創立90周年記念式典挙行 記念館落成

昭和42年

- 4月 定時制課程の募集を停止する。全日制各科定員40名となる。農業専攻科を2年制とする。

昭和43年

- 3月 定時制農業科廃止 大農具室完成

昭和44年

- 3月 漬け物加工実習室、造園実習室完成 松任町木津地区に農場設置

昭和46年

- 4月 県農業短期大学設立に伴い農業専攻科の募集を停止する。記念会館を県に移管し図書館とする。

昭和48年

- 4月 農産製造科の募集を停止し、食品製造科を置く。7月プール竣工式挙行
- 10月 第24回日本学校農業クラブ全国大会開催、本校事務局

昭和50年

- 10月 開校100年記念式典挙行 記念庭園完成 畜霊碑竣工

昭和53年

- 3月 畜舎の汚水処理施設完成

昭和54年

- 3月 県道松任・鶴来線沿いの農地を運動場東側等に交換移転する。
- 11月 全自動化鶏舎完成

昭和56年

- 5月 造園施工実習棟・造園材料実習棟完成
- 12月 ぶどうガラス室完成

昭和57年

- 4月 推薦入学制実施

昭和58年

- 4月 農業科・畜産科の募集を停止し、農業畜産科・園芸科（各科40名）を置く。
- 6月 第2体育館完成

昭和60年

- 4月 食品製造科2学級募集、5学科6学級定員240名となる。
- 10月 園芸実験実習棟完成
- 11月 開校110年記念式典挙行

昭和63年

- 3月 食品製造実習棟完成

平成2年

- 9月 運動場拡張整備完成

平成4年

- 3月 農業土木実習棟完成

平成5年

- 4月 農業畜産・園芸の2学科の募集を停止し、生物生産・園芸科学の2学科（各科40名）を置く。

平成6年

- 4月 造園・農業土木・食品製造の3学科の募集を停止し、緑地デザイン・環境工学・食品科学の3学科（各科40名）を置く。

平成8年

- 4月 食品科学科1学級募集停止し、5学科5学級定員200名となる。

- 10月 創立120周年記念式典挙行

平成9年

- 3月 園芸実験実習棟・環境工学棟防音工事完了

平成10年

- 12月 本館防音工事及び大規模改修工事完了

平成11年

- 11月 2号館防音工事及び大規模改修工事完了 スクールカラーを「翠緑」と制定

平成12年

- 4月 校名を県立翠星高等学校と改称 生物生産・園芸科学・食品科学・環境工学・緑地デザインの5学科の募集を停止し、総合グリーン科学科（定員200名）を置き、単位制・2学期制となる。
- 翠星高等学校初代校長 大藏捷直 就任

平成13年

- 3月 鉢物温室・切花温室改築工事完了

平成14年

- 2月 造園施工実習棟更衣室改修工事完了

平成17年

- 3月 3号館 福祉実習棟（図書室）完成
- 4月 募集定員160名となる

平成18年

- 10月 創立130周年式典挙行

平成20年

- 3月 市道 末松徳光線用地として果樹園用地等を白山市に売却

平成21年

- 4月 総合グリーン科学科（定員160名）を、6系から5コースとする。

平成22年

- 3月 白山署用地として旧果樹園用地を警察本部に管理換
- 4月 市道 末松徳光線 本校西側に開通

平成27年

- 3月 旧図書館棟解体

平成28年

- 4月 総合グリーン科学科（定員160名）を5コースから3コース6分野とする。
- 8月 太陽光発電設置
- 9月 創立140周年記念式典挙行

平成30年

- 1月 特別教室棟大規模改修工事完了

令和2年

- 11月 第2体育館改修工事完了

令和4年

- 4月 総合グリーン科学科（定員160名）を3コース6分野から3コース4分野とする。
- 10月 第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会開催、本校事務局

令和5年

- 11月 衛生環境整備工事（トイレ洋式化等）完了

令和6年

- 12月 管理教室棟大規模改修工事（電気設備・機械設備）完了

令和7年

- 1月 図書館棟空調整備工事（電気設備・機械設備）完了
- 3月 管理教室棟大規模改修工事（建設）完了

令和8年

- 9月 創立150周年記念庭園「100年の森」完成
- 10月 創立150周年記念式典挙行、創立150周年記念誌発刊

卒業生数（令和8年3月31日現在）

石川区方勸業場	}	…合計	533名
石川県勸業場			
石川県農業講習所			
石川県農学校	}	…合計	4,536名
石川県立農学校			
石川県立松任農学校			
石川郡松任女子実業学校		……………	102名
石川県立女子実業学校		……………	89名
石川県立松任高等女学校		……………	1,682名
石川県立松任高等学校（総合制）		……………	1,897名
石川県立松任農業高等学校		……………	9,972名
石川県立翠星高等学校		……………	3,563名
			総計22,374名

第 1 章

150年の歴史



はじめに

本校は明治9年石川県勸業場に農学科を設け開講したことに始まっている。以来、明治、大正、昭和、平成、令和の150年にわたり金沢、能登火打谷、加賀小松、松任と校地を変え、農業の改善発展に貢献してきた。この間、校名も石川農業講習所、石川県農学校、石川県立農学校と改め大正15年石川県立松任農学校となり、昭和20年の終戦を迎えている。一方女子教育の場として大正12年に創立された松任町女子実業学校が昭和2年、県に移管されて石川県立松任高等女学校となり多くの有能な卒業生を世に送り、戦後の学制改革により昭和23年総合制の松任高等学校として統合された。さらに地元の強い要望により建学の昔に帰り松任農業高校として再発足した。平成12年単位制の農業専門高校、翠星高校として現在に至っている。150年誌を発刊するにあたり、先人たちの歩みを振り返りその創造と努力の結晶を再確認したい。本校には記念誌として昭和41年に発刊された九十年史及び昭和50年に発刊された百年史、そして平成28年度発行の140年誌が存在する。これらを元に主な出来事を抜粋しまとめた。

1 明治期開校から石川県立農学校の松任移転まで

(1)草創期の農業講習所

明治9年4月

金沢区方勸業場において、同場職員島田直充が篤農家を集めて農書を講義する。

明治9年12月

金沢区方勸業場が県に移管され、石川県勸業場と改称され、同場内の一部に農業科を創設し、本県11等出仕の吉崎宇一を総括者として規模の整備に努めた。これを本校創立の起源としている。



吉崎宇一
本校の前身農業講習所の初代の所長

金沢市柿木畠（現県知事公舎付近）にあった旧壮猶館の建物内明治14年10月農学普通科・専修科（いずれも3年制）を置き、別に短期養蚕伝習生制を置く。

(2)石川県農学校時代

明治19年3月

石川県農業講習所（農業指導者養成学校）から石川県農学校（農業従事者の養成学校）へ改称し、本科・別科を置く。

羽咋郡東土田村字火打谷串田野に移転した。



火打谷時代の教科書およびノート



志賀町火打谷跡地の記念碑

明治23年4月

獣医学別科（2年制）が設置される。本県人がほとんどであるが、他府県人の入学者も増えてきた。

(3)小松校時代

明治29年4月

能美郡小松町字小馬出町に移転する。獣医学別科を獣医学科とし、就業年限を農学科と同じく3年とする。また撰科は養蚕と耕種の2科として修業年限1年とした。

明治33年4月

補習科が設置される。当時、本校以上の農学校は、東京農科大学と札幌農学校があった。そのような中で、本校の補習科が明治32年5月8日に、文部省告示第64号で徴兵令第13条の認定を受けたことは、本校の全国的な位置が、当時きわめて高かったことを意味するものである。

(4)石川県立農学校（松任移転）

明治35年3月

石川県松任町に本館、寄宿舎、畜舎、農場関係の建物が落成する。

明治35年4月

石川県立農学校と改称され、石川県松任町に移転する。



松任町移転当時の校舎正面



松任町馬場町に新築された新校舎(明治35年)

明治35年11月

養蚕室、生徒控室、調剤室、動物実験室、顕微鏡室、養虫室、蹄鉄室、手術室、解剖場が完成する。全国的にもその名が知られ、各地から入学者が絶えなかった。

明治40年

農事実習室、農場観測室、温室、炊事用納屋、肥料場、雨天体操場、銃器室が新築される。

明治42年9月

東宮殿下（大正天皇）の行啓の際、休憩に用いられた玉座。（椅子は記念として、本校同窓会資料室に大切に保存されている。）



東宮殿下（大正天皇）の玉座

明治43年

講堂、御真影奉安庫が新築される。

明治43年2月

本県庁より校旗が授与され、披露式が挙行された。

明治44年

燻豚室が新築される。



石川県立農学校時代の校旗

(5)明治期に来校した文化人たち

山崎延吉（やまざき のぶよし）

明治39年1月8日来校

明治6年生まれ、石川県金沢市山崎町の出身、明治27年旧第四高等学校卒業、明治30年東京農科大学（現東京大学農学部）卒業、福島県立養蚕学校教諭、大阪府立農学校教諭、明治34年愛知県立安城農林学校の初代校長となる。

「農民の道」を説きつづけて50有余年、全国農民の父と慕われる。自らを我農生と称し、「我は農に生まれ、我は農を生かさん」という信条を雅号に託し、農民道を説いて東奔西走した。

「上農は草を見ずして草を取る。中農は草を見て草を取る。下農は草を見て草を取らず。」延吉の農民道は、この短い文章の中にあますところなく表現されている。



山崎延吉

暁烏敏（あけがらす はや）

明治41年4月23日来校

明治10年生まれ、石川県石川郡出城村北安田（現白山市北安田町）の出身、北安田小学校・松任小学校・松任高等小学校卒業、共立尋常中学校中退、京都・大谷尋常中学校編入・卒業、真宗大学卒業。

真宗大谷派の僧、明治から昭和にかけて浄土真宗宗門の改革に活躍し、「浩々洞」を設立、近代仏教の確立を叫ぶ。また『歎異抄』研究でも知られる宗教家。



暁烏敏

柳田国男（やなぎだ くにお）

明治42年6月16日来校

明治8年生まれ、兵庫県神東郡田原村の出身、日本民俗学の創始者。東京帝国大学法科卒。農商務省に入省し、法制局参事官・宮内書記官等貴族院書記官長を最後に官界を辞任。朝日新聞社客員となり、論説委員として社説を執筆。『常民』『遠野物語』などの多くの著作をあらわし、「日本民俗学の父」と呼ばれる。



柳田国男

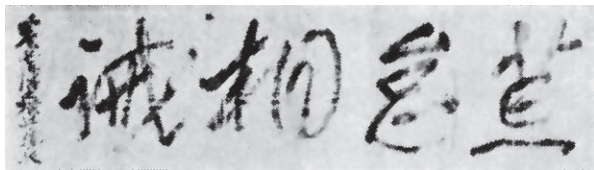
横井時敬（よこい ときよし）

明治43年1月26日来校

万延元年生まれ、肥後熊本藩士横井久右衛門の四男として生まれ、熊本洋学校を卒業後、東京駒場農学校農学本科を卒業した。卒業後は兵庫県、福岡県に勤務し、東京農科大学助教授・教授に進み、東京農業大学初代学長となった。その他にも農業教育の普及、発展に尽力した。



横井時敬



荒怠相戒（こうたいあいはいしむ）
農学博士・横井時敬の揮毫 本校第一体育館に掲示

2 | 大正期の県立農学校

(1)農学校の教育拡充

明治35年、小松より松任に移転した県立農学校は、全国的にその名が知られ、各地から入学希望者が絶えなかった。

教育方針（教授訓育）

教育はなかなか厳しく「授業中は真剣に勉学せよ、実習中真摯な態度で終始せよ」という具合であった。公德を重んじ人格の修養にまい進すること、すなわち人を作ることに重きを置く学校であった。先生と生徒は、教え習うというより、人格と人格の触れあいによる混然一体の農法伝授という感じがピツタリするふうであった。質実剛健、不言実行を旨とし、意志はあくまでも強く、どんな苦難にでも、耐えることができる忍耐力を養ったのである。学校側は生徒に対して信賞必罰の精神でのぞみ、どんなささいなことでも、看過することはなかった。



寄宿舎の朝礼（大正期の頃）



学生相撲優勝祝賀行列
優勝旗をもって町をねり歩く

大正6年

獣医科が廃止され、農科だけとなり、地域的な結びつきが多くなった。また、生徒は、県内の比較的裕福な農家の子弟が多く入学するようになった。生徒は、実習を通して、勤労の喜びを知り、晴耕雨読の精神を学んだ。また、職員も常に鋭意研究を怠らなかった。



果樹せん定実習

六星の起源

現在の「六星会」という同窓会の名称は、明治40年には六星会という校友会の愛称として親しまれていた。明治34年（1901）に県立農学校として発足したときに六星という愛称が定められたのではないだろう

か。当時県の中等学校設置のあり方として、先ず義務教育普及の要員養成のため、師範学校、普通教育向上のため男子に中学校、女子に女学校を、実業教育振興のために農商工校の設置をなし、この6つを教育の目標としたもので、本校校章の創定もこの頃と推定される。そして、この6つの異なった目的を持つ学校をそれぞれ一つの星と見做し、6つの光芒を表し、「農は国の本なり」の意を含め、「農」の文字を中央に据えたものと推察される。

創立50周年記念

記念式典は協賛会員来賓父兄らがたくさん参席して祝賀気分満点の大正14年9月13日、知事閣下並びに来賓が入場し、花火の合図と共に式が始まった。9時41分に一同起立して国歌斉唱。竹内秀雄校長が忝しく勅語を奉読して降壇されると全国で最も古い歴史を持つ本校に対する長知事閣下の告辞があった。来賓祝辞並びに祝電披露は、金沢医科大学長須藤憲三氏、石川県下郡長総代石川郡長城森省三氏、田中喜太郎松任町長、県下中等学校長五坪茂雄氏の祝辞があり、その他数名の祝辞があった。次いで各方面からの祝電を披露。盛夏のような暑さの中に生徒総代角屋喜八の答辞があつて、10時25分閉会した。

大正15年（1926）4月1日

石川県立農学校から石川県立松任農学校と改称し、修業年限5カ年制の林科を廃止して、修業年限3カ年（高卒）とした。



県立農学校校章

3 | 石川県立松任農学校時代



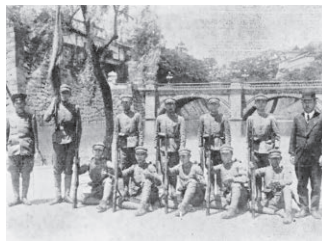
昭和10年ごろの農学校全景



石川県立松任農学校正面

(1)戦時体制下の農業教育

第一次世界大戦後の日本は、戦時中の空前の大繁栄のあとをうけて、慢性的な不況の中にあつた。大正末期から昭和初期にかけて、都市部には失業者があふれた。昭和2年の金融恐慌、昭和4、5年頃の米国をはじめとする農業生産の不安など日本の経済的行き詰まりをみた。政府・財閥・軍部の目は、不況からの脱出の道を大陸に求めた。そして、昭和16年、太平洋戦争へ突入していった。



青少年学徒に賜りたる勅語発布記念
分列行進参加（昭和14年宮城前にて）

(2)松任農学校の教育

教育目標と校訓

本校の目的「実業学校令農業学校規定」により「農業、林業、蚕業二従事セムトスル者及獣医手タラムトスル者二須要ナル教育を為ス」

校訓

「忠孝至誠」・「勤勉力行」・「農業報国」

教育方針

- (一)教育勅語、青少年学徒に賜りたる勅語を奉仕し、皇国民たる光栄に感激して負荷の大任に堪えるの自覚を明確にすること。
- (二)興亜の理想と大和民族の使命を明確にす。
- (三)「農は国の基」の真意義に徹せしむ。
- (四)興隆の迫力と創造発展の能力を養う。
- (五)勤労に徹し身体を鍛錬し質実剛健の気風を振興す。

農産物の加工

本校は農家の加賀地方の農業センターの性格をもっていた。加工室では水飴の製造、青年団対象の講習会、婦人会に対する加工講習を開き、毎年大変盛会であった。ドラマチックな恐慌の中、農村不況はなかなか打開できなかった。このような時に中野義隆教諭は、農業恐慌を克服する手段として農産物加工の必要性を痛感していた。そのような折り、缶詰蓮根の研究を委託され、蓮根の缶詰製造化に成功したことを機に、県に農産加工室の設置を求め、農産加工室と機械設備一式が完備された。加工実習では、缶詰蓮根・白山なめこ・缶詰枝豆・トマトケチャップ・缶詰筍・トマトソース・トマト羊羹・福神漬・苺ジャム・馬鈴薯澱粉・漂白葛粉が製造された。



ソース製造

創立60周年記念祭

昭和10年9月17日、18日の両日に、本校を中心にして「創立60周年記念祭」が盛大に挙行された。記念式典は、17日、10時30分より、花火の合図と共ににはじまった。同窓生、父兄、知事をはじめ、来賓多数が出席された。国歌斉唱、教育勅語の奉読のあと、五坪校長の式辞、生駒高常知事の告辞、来賓の祝辞、生徒総代金田平進の答辞と続けられた。最後に、祝電が披露され、11時30分記念式典を閉じた。



60周年記念講演会

主な学校行事

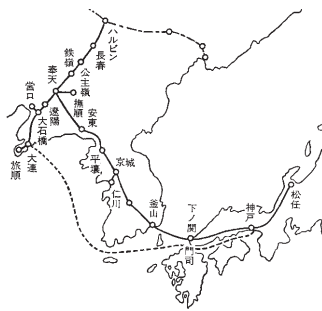
- ・関西関東旅行
- ・中部地方一周旅行
- ・演習林生活
- ・満鮮旅行
- ・兎狩り



演習林実習

満鮮旅行

修学旅行のいくつかの中で特筆すべきは、満鮮修学旅行である。中等学校の修学旅行は国内に限られていたが、学校側では、農学校生徒の



将来のためには、満州、朝鮮への修学旅行こそ意義があるとの見解で、県を説得し満鮮旅行が許可になったのである。大正15年10月、最上級生の第1回満鮮旅行が行われた。旅行日程は約半月、旅費は70円を要した。

農業報国

- ・軍事教練
- ・特別大演習
- ・錬成教育
- ・国民精神総動員
- ・勤労報国隊

女子農業教育

太平洋戦争に突入するようになると、戦時食料自給体制確立の重要性から、農村労働力を補給する意味において女子の農業教育が盛んになってきた。本校でも農村労働力の補給と女子農業指導者の養成機関として修業年限2か年の女子農業科が、昭和20年4月に設置された。

江沼郡から河北郡にいたる高等小学校卒業者の中から、口頭試問と筆記試験を通して、入学を許可された第1期生は57名であった。

(3)松農健児の活躍

校友会の基調

校友会活動は、青年期人格形成にとって不可欠な教育活動であり、それは生徒の自主性を尊重しながら展開された。生徒は時代の児であり、六星の松農健児は大正末期から、昭和初期にかけての大正デモクラシー期の社会的風潮を敏感に反映し、自由な生徒気質が培われつつあった。そして、校是として「国家有用」の人材養成のための精神的支柱として「忠孝至誠」「勤勉励行」「農業報国」の校風を目指して校友会活動があった。

(4)本校付設教育機関

付設教員養成機関

大正7年4月に本校に付設された石川県立農業教員養成所は、大正10年4月、実業補習学校教員養成所と改称され、昭和に入ると青年学校教員養成所令の公布とともに、昭和12年4月石川県立青年学校教員養成



ハルピンにて



演習参加（校門を出る）

成所となり、昭和19年4月、石川青年師範学校として、河北郡津幡町に移転するまでの26年間、92名の卒業生を送り出してきた。名称は種々変更してきたが、いずれの時代にも勤労青年の教育を第一の目的とし、これらの青年を包括する青年団、さらに社会教育の中心人物を育成する教育機関であった。

徳田専修科

昭和初期の経済恐慌は農村に大きな問題を生み、その対策が種々と議論された中で、特に農業教育の姿勢の根本改革と、農村の中堅農業者育成を目的とする施設の設置が要望された。このような時代の要望を担って、松任農学校徳田専修科が、全寮1年制として、昭和9年4月、入学生17名で、鹿島郡徳田村旧石川県営種畜場跡で発足した。

以来、昭和10年農業教育訓練道場、11年満蒙開拓訓練所、あるいは傷病兵再教育所を併設しながら、昭和15年3月、35名の卒業生を送り出してその任を終え、新しく石川県立七尾農学校として生まれ変わるのである。



徳田専修科での早朝体操の一コマ

(5)戦争終結と学校

戦時教育の廃止

昭和20年5月、戦局の敗色が濃厚になり、本土決戦の声がようやく高くなってくるとともに「戦時教育令」「同施行規則」が制定され、学徒の「勉学停止」が決まった。全校生徒を食糧増産、防空強化に動員し、勤労一本に徹せしめめるという最終段階に到達し、ここに学校教育はくずれていった。このような激しい混乱のうちに8月14日、日本政府がポツダム宣言を受諾し、8月15日終戦日を迎えた。文部省の戦後教育方針は、軍国主義的、戦時的色彩を払拭し、文化国家・平和国家の理念に基づいて日本の教育を進めていくものであった。苦しい戦争が終わり、勤労働員が解除され、生徒たちは再び学校に帰り、山崎賢一校長は生徒たちを集めて、戦争の敗北での生徒への慰めと激励を行なった。本校は9月1日天候晴空の下、授業が再開された。

創立70周年記念

昭和20年9月17日、以前から計画されていた諸行事が、「創立70周年記念祭」として、本校や聖興寺を舞台に繰り広げられた。

記念式典には、第39代県知事伊藤謹二をはじめ来賓約35人と同窓生・在校生・父兄ら関係者1,600人が列席した。

4 | 松任女子実業学校

(1)創設前期

中等女子教育制度

我が国の女子中等教育は、明治4年官立女学校設立布達に基づき、翌明治5年に設立された官立女学校に端を発する。

明治30年頃、県内には官立では、石川県高等女学校があるのみであった。その後、明治42年の高等女学校令改正により高等女学校に実科を設置することが認められ、江沼郡立実科高等女学校、能美郡立実科女学校、鹿島郡立実科高等女学校、さらに明治45年に珠洲郡立実科高等女学校がそれぞれ設立された。大正期には、江沼、能美、鹿島、珠洲などの各郡立実科女学校は高等女学校に改編、県立に移管された。一方で、家庭婦人として必要な裁縫、家事、家業に関する知識・技能を与えるかたわら女子の常識を高める中等程度の普通学科を修められる教育機関の設立を望む者も少なからずあった。そこで、農家及び商家の家事に従事する女子に須要の教育を行うため、実業学校令、農学校規定、商業学校規定によって、石川郡実業女学校を設立する機を待ったのである。



北國新聞記事 大正12年3月7日

5 | 石川県立松任高等女学校

(1)県立松任高等女学校の創立

大正15年3月9日

松任町長はじめ関係者の努力により、実業女学校を高等女学校令に依る県立高等女学校に変更申請が文部大臣の認可指令があり、県立女学校が4月1日発足の見通しがついた。

高等女学校の発足

4月8日には在校生、女子実業学校の2、3年生の始業式が行われ、翌9日には、松任高女の入学許可者85名の入学式が午前9時から講堂に於いて晴れやかに挙行され、



石川県立松任高等女学校校門

(2)女子実業学校の創立と県移管

開校までの経緯

大正12年3月5日

松任町長より松第161号を以て文部大臣に本校設置の認可要請をなす。

大正12年3月6日

本校設置の認可申請を出した松任町長は、生徒募集その他の準備について賛同を得るために、付近村長18名と懇談会を開く。

大正12年3月22日

申請中の本校設置は難しくなる。そこで、松任町長は実業補習学校令に基く願書に変更して申請する。

大正12年3月23日

実業補習学校令に基く申請が認可されたので、松任町長は石川県知事に本校を松任尋常高等小学校に併置の認可稟請をなし、石川県知事より併置の件認可あり。

大正12年4月1日

石川県石川郡松任女子実業学校と称して開校する。

大正15年11月22日

松任町会は小学校の新築移転を機に松任女子実業学校を石川県に移管する。



松任女子実業学校制服

めでたく石川県立松任高等女学校は歩みはじめた。4月26日、石川県知事はじめ150名にのぼる来賓を迎えて盛大な開校式が行われた。学科目、学科課程は、修身、国語、外国語（英語）、歴史・地理、数学、理科、図画、裁縫、音楽、体操、実業（農業、商業）が行われた。



松任高女 第1回卒業生

(2)発展期の松任高女

昭和5年3月、女子実業学校最後の卒業生を送り、4月から単独の松任高等女学校となり、各学年2学

級、8学級編成（4年制）の学校となったのである。
良妻賢母を目指して



茶道

家庭の女子に須要な教養を身につけるための学習はどんな学習であったか、謹厳そのものの畠山校長はじめ歴代校長は週1回、修身の時間を担当され、女子に必要な道徳について人格を通しての指導をされ、講堂に於ける朝礼や各儀式などを通しての指導又然り、そして、ある時期には月曜朝礼に続いて「孝経、国体の本義」などを素材に全校生徒が人の道、大の道について先生方の講義を受けた。国語に出てくる教材に文学的なものも勿論多いが内容に於いて、女性の知徳を涵養するものが多かった。家事、裁縫が重視されたことは勿論である。又本校の特色でもある実業科に於いては、商業では商業一般・珠算、農業では校地内は勿論、校外にも実習地を求めて園芸・蔬菜・家畜の飼養と幅広く実習を通して身につけていった。



当時の国語教科書

通学状況

生徒は松任町を中心に、鶴来、美川、野々市、石川、柏野、笠間、宮保、一木、出城、御手洗、旭、安原、郷、中奥、林中、山島、舘畑、林、河内、富奥など、広範囲の地から通学していた。

校友会の活動

松任高女の校風樹立の原動となったものに校友会の活動がある。会長に学校長、各部にはそれぞれの先生が顧問として配属され各学年から選ばれた代表がその先生の指導のもとで、年間の計画から実施まで担当した。

主な学校行事

講演会、遠足と、4年生の修学旅行、音楽会、学芸会



音楽会



学芸会

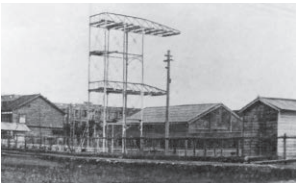
体育面での活躍

10月10日前後に行われる秋の運動会は恒例の学校行事であるが、春の運動会、学年対抗の排球、庭球大会、このほか対外的に行われる県下女子中等学校体育大会、加賀地区女子中等学校体育大会に本校の選手も出場した。

水泳松任高女

地元にはプールがあることは大きな強味で、毎年行わ

れる各種水泳大会への参加選手の層も厚く各種目選手を送り込んで頼もしい限りであった。特筆すべきもののうち、昭和7年7月22日に行われた北國新聞社主催中部中等学校水上競技大会各種目で松任高女のホープ吉本一子氏が個人優勝されたことである。これに続いて7月30日の全日本水上競技大会地方予選で、200メートル自由型1着、400メートル自由型1着を獲得、明治神宮外苑プールでの大会に出場等、自由型においては北陸水泳界ばかりでなく日本的な選手として大活躍された。吉本一子氏は卒業間もなく関学時代マニラ極東オリンピックに出場された大崎卯藤久氏と結婚され、夫婦揃って石川県水泳界の名指導者として大きく貢献された。



昭和3年に完成した松任プール

手取川氾濫による水害

昭和9年7月、1週間以上も降り続いた雨のため11日手取川堤防が決壊し、その沿岸一帯水害に見舞われる。当時この地方から通学の生徒もあり、緊急事態としてその処置に当たる。



昭和9年 手取川水害の跡（現川北町橋新）

創立10周年記念祭

昭和11年、創立10周年を迎える。昭和2年創立以来、確固たる教育信念のもと堂々と築いた校風・環境・内容共に充実し、天下の松任高女として対外的にも大きく活躍していたのである。

同窓会の歩み

昭和6年3月17日、本校卒業生の同窓会を創設し、直ちに従来本校に付設されていた女子実業学校卒業生の同窓会と合併して之れを「清輝会」と名付け、その発表会を午後1時から挙行了た。



恩師の出征送別会

**(3)戦時下の松任高女
戦争前夜時代**

関東大震災以後、世界恐慌の波は日本にも押し寄せて世は緊縮時代となり、人心を緊張させたのであるが、昭和5年頃から更に国際関係風雲急を告げ、満州事変、支那事変などが勃発し、日本にとって試練の幕開けとなるのである。そして、国民精神作興に関する実施事項が示され、皇民錬成の教育へと進みだし、昭和7年

上海に飛火して郷土師団の出征、恩師、生徒の父や兄の応召出征、当駅通過の出征兵士の見送り、宮様方の地方視察に伴う歓送迎とあわただしく、楽しい学園生活の中に戦争を身近に感ずる日が多くなり、まさに、戦争前夜の不気味さが漂い始めたのである。

宣戦布告

昭和16年12月8日、第4限講堂に於いて英米に対する宣戦布告の詔勅及び東条首相の講演放送をきく、そして12月10日に宣戦の詔書拝読式が行われた。

戦時編成

昭和16年9月19日～26日にかけて動員準備態勢をとるため、報国隊編成、警備団編成、学校防衛団編成、報国隊の自転車隊編成を完了する。ひとたび動員下れば、この編成でそれぞれ部署につき、行動開始の構えをとることができるようにした。

戦時の学習

戦時一色、食糧不足、人手不足の当時では学習よりも戦争に勝つことに重点が置かれ、昭和19年に至っては毎朝授業は1限のみとなってしまった。内容は全体に亘ることが原則のようであったが、地理・歴史の学習が多かったようである。講堂で朝礼の時、戦地からの便りが読んで聞かされ、千人針が教室にまわってくれば学習や作業に優先してこれを結び、出征兵士の死線を越えられることをひたすら祈ったのである。

戦い終わって

一億総火の玉となり、聖戦完遂の理想のもとに衣・食・住すべてを我慢し、「欲しがりません勝つまでは……」をスローガンに、来る日も来る日も緊張の連続、勉強よりもお国のための勤労に身を捧げて、その辛ささえ感じないで戦中を過ごした乙女たちが、昭和20年8月15日正午を境に、こまでの緊張感から解放されたその解放感は譬えようなない寂寥さで身を締め付けられ、じっと瞑目して一歩を踏み出さなければならなかったのである。



分列行進



白衣縫製

(4)新教育制度とともに

新気運みなぎる学校

昭和20年9月、戦後の学校が始まった。文部省は「今後ノ教育ハ益々国体ノ護持ニ努ムルト共二軍国

的思想及び施設ヲ払拭シ平和国家ノ建設ヲ目途トシ……」といていたのに対して、G・H・Qはまず戦時中の教科書の本文の中で、軍国主義に関する箇所を削除する通牒を出した。修身、歴史、国語、地理などの書物の中で、軍国主義に関する箇所を墨で消すのである。さらに、12月31日の指令で修身、日本歴史、地理の授業は停止され、再開までは新聞の記事、論説などを教材として討議法による授業が行われることになった。

女学校にも新しい学園生活が始まった。それは、戦争で打ちひしがれた混乱から立ち上がった新生への息吹であり、自由という名の解放でもあった。云いたいことは自己の意見として憚ることなく発言し、興味があれば特技としてこれを深めることのできる時代が訪れたのである。

学制改革

昭和22年3月の教育基本法によって、6・3・3制度は確実となった。その頃から、これまでの高等女学校がこの制度でどのように扱われるか問題となり、いろいろ論議された。新制中学として、また高等学校としてか、悲劇的、楽観的観測が交錯した。殊に、新学制が男女共学を建前としたものであることから、風紀の頹廃を予言しているかのように考えられ、女子高校となることを切に望んだ。県下の公立高校は全部男女共学となった。心配された共学も、校舎の都合で現在在校の生徒が巣立つまではこの校舎で女の学園をまもることができ、むしろ生徒には男女共学に対する意味を模索することになった。

創立20周年記念

新学制の発足をみた昭和22年4月6日、創立20周年式典が挙行された。勤続職員を表彰式並びに成績品展覧会、祝賀会も併せて行われた。

綜合制松任高校へ

昭和22年4月15日、松任高等学校（普通部）の開校式が挙行された。この年の編成は、併設中学3年生（3組）、高校1年（3組）、高校2年（3組）高校3年（3組）と一応高校1年から3年まで揃った。しかし、高校2年は、高校2年生と呼ばれたり、高女5年と呼ばれたり、二つの呼称が存在したのである。

松任高女最後の卒業式

昭和24年3月7日、高校第1回卒業式（普通科3名）同3月19日、高女第19回卒業式が挙行された。この時の卒業生は、昭和19年戦争苛烈を極めている4月に入学した生徒である。学制改革によって高校2年生とも高女5年生とも呼ばれて茲に卒業式を迎えた。松任高等女学校最後の卒業生88名である。

むすびに

昭和2年4月松任町立女子実業学校の県移管を機に、県立松任高等女学校として発足以来22年、戦前、戦中を良妻賢母を目指す楽しい女の学園として、また、苦しくとも銃後の護りを果たす勤労学徒の学園として、創立以来作られてきた校風とともに意義深く受け継がれてきた。そして、かつて経験したことない敗戦の洗礼を受けた本校が、一時はその目標を失い棹をなくして波に漂う学園にさえ見えたと、昭和22年の教育大改革によって一大転換を余儀なくされながら

も、平和な学園を取り戻した。学科課程に於いても、戦後の学制改革の前に発展的な幕を閉じることになったのである。昭和24年4月から、名実ともに男女共学の松任高等学校として校舎をあとにし、次の教場へと吸収されたのである。



高女最後の修学旅行

6 | 総合制石川県立松任高等学校

(1)新学制の発足 新教育の成立

敗戦後の精神的な混乱を整理し、戦前の教育を否定し、因襲を引きずりながらも、少しずつ新しい教育理念が芽生えていった。昭和21年3月、米国教育使節団が来日し、連合軍最高司令部（G・H・Q）民間情報局教育課、日本側教育者委員、各種職域代表者と協議の末、報告書をG・H・Qに提出し、4月7日これが発表された。

政府は、昭和21年8月教育刷新委員会を設けた。26年6月に教育刷新協議会と改称、27年に廃止されるまでに、教育に関する重要事項を審議し、教育理念および教育基本法、学制、教育財政に関することなど最も重要な事項が答申された。

教育三法の制定

教育刷新委員会の答申に基づいて、教育基本法、（22年3月）、学校教育法、（22年3月）、教育委員会法、（22年7月）などが制定された。

(2)新制高校創設期 設置準備

昭和22年2月、文部省は新学制実施方針を発表し、小・中学校は22年度、高校は23年度、大学は24年度から実施することとした。本県では、22年3月、新学制準備協議会をつくり、中学校に関して審議答申している。さらに6月に教育刷新協議会が設けられ、県の諮問を受けて、新教育に関する一般的事項や、高校設置に関する根本方針を答申している。その後、軍政隊民間情報教育課と県との折衝により、以下の通りの設置案が作成された。

金沢市立工業及び女子普通校一校を除いてすべて共学とし、金沢に普通（家）3、工芸・商業各1、小松に普通（家）、実業（商・工）、農業各1、七尾に普通（家）・商、実業（農・工）各1、大聖寺に普通（家）1、松任に普通（家）・農1、津幡に普通（家）・農1、羽咋に普通（家）1、飯田に普通（家）1、輪島に普通（家・工）1、宇出津に水（普）1、柳田に農（普）1となっている。

松任高校の誕生

本校は昭和23年4月、松任農学校と松任高女を合併して、男女共学の高等学校として発足した。しかし教場は二つに別れ、元松任農学校に本部および農業部、元松任高女に普通部が設けられた。



高女から高校への進学者

(3)新制高校の再編成 三原則

新制高校の設置について、軍政隊が県に主張したものは、「小学区制」「共学制」「総合制」のいわゆる三原則であった。その中で、23年11月から発足した教育委員会によって新制高校再編成準備が進められ、24年三原則による再編計画が決定、4月から実施に移されることになった。

第1回卒業式

24年3月7日高等学校第1回卒業式が、第1教場馬場町校舎講堂において行われた。この日卒業証書を手にしたのは、普通課程女子3名、農業課程（農業科）

男子25名、同（園芸科）男子14名、同（農林科）男子19名、同（畜産科）男子14名、同（女子農業科）3名であった。

松任高校の再編成

昭和24年4月1日、本校は普通・農業・商業の4課程を設置する総合制、男女共学の高等学校として再発足し、小学区制が実施された。

石川郡内川・犀川・湯涌谷村区域。但し美川町・蝶屋村に現住するものは小松高等学校に、北陸鉄道石川線の通過する町村並びに金石線の沿線の村に現住するものは金沢泉丘高等学校に入学することができる。

この小学区制の実施により他校から転入する生徒が多数あった。一高：48名、二高：9名、三高：3名、金商：24名、工芸高：1名、石川師範予科：1名、金城：1名、小松：6名、柳田：1名、金市工：13名、小松実：2名、その他：88名これらと再編成前の本校生徒を加えて814名となった。

(4)新制高校の教育内容 教育課程

新制高校の教育課程の特色は、選抜教科制と単位制および大教科がとられていること、また教科学習とならんで特別教育活動が重要な内容をなしていることにある。選択教科制は、新制高校が旧制中学校、高等女学校、実業学校などの統一されたものであることから、生徒の多様な進路に対応した教育課程がとられるべきであること、生徒の主体性を尊重し、各教科の興味や資質に応じた教科を選択させ、個性的な成長を図ろうという二つの要求を満たすものである。

新制高校の教育課程は、生徒の主体性を大幅に認め、各自の個性能力を十分に発揮できるとともに、生徒の生活経験に基づく自主的な学習活動ができるようにつくられたのが特徴である。

新しい農業教育

敗戦による日本の社会的変革は、きわめて大きなものであったが、農業を取り巻く産業構造は、基本的条件においては大きな変化はなかったから、従来の小規模経営を前提とした自営者の養成を主眼とする農業教育に、大きな変化を加える必要は起こらなかった。

新しい農業教育の目標

第一に、民主社会の有為な形成者であること。

第二に、科学性と社会性に裏付けられた、合理的な経営感覚を持つ農業技術者および農業自営者の養成。

第三に、地域社会の構成員として望ましい資質を備え



第1回卒業生（農業課程）

た農業経営者の養成。

総合農業

総合農業は、生徒がその土地の良き農民となるために必要な農業に関する知識・技能を総合的に発達させるように体系づけた教科である。特徴は農業経営を中心概念として、それに必要な教科の知識や技能の外に、共同生活に必要な自主性や社会性、さらに指導性の育成も考慮されて、効果的に構成されている。総合農業はおおまかにいって3本の柱で支えられているといえよう。教科の授業、農業クラブ、ホームプロジェクトなどで、特に農業クラブは米国を範とした色彩が強かった。

農業クラブ

農業クラブの導入は、農業教育の体系に新風を送り込んだといえよう。アメリカにはFFA（Future Farmers of America）があるが、これを原型として、日本の農業教育体系に採用されたのが農業クラブ活動である。日本の農業クラブ活動は、戦後CIEの職業教育官ネルソンの助言によって、いち早く新学制下の農業教育に採用されたが、昭和25年には、全国高等学校長協会農業部会によって全国連盟の結成が決議され、クラブ員代表2,000余名が参加して日本学校農業クラブ連盟（FFJ Future Farmers of Japan）が結成された。



耕運機競技



測量競技

プロジェクト活動の実施

農業科のプロジェクト活動は自分達の住んでいる地方の、農業や農村生活等に関するいろいろな問題をよく認識し、この問題を解決するために自分の手で計画実施し、さらに、その成果を反省することによって、自主的実践的な能力および合理的科学的に物事を考える態度を養うことが目的とされている。

ホームプロジェクト

ホームプロジェクトは、農業科や家庭科の学習指導法の一つとして、アメリカで体系的に発達し、日本では、第二次世界大戦後の学校教育や4Hクラブで広く行われるようになった。

ホームプロジェクトは専門知識や問題解決の能力を身につける上に、きわめて有効であった。この活動は、農業クラブの課外活動とも関連して、その成果は

校内発表会や県連・北陸・信越ブロックの大会で争われ、さらに、全国大会に出場する仕組みになっていた。

松高祭



ホームプロジェクトの研究発表
結局は平常の着実な研究と努力が物をいう

昭和23年本校が新制高校として出発し、農業部と普通部がそれぞれ、元松任農学校、元松任高女の校舎を教場として設けられたが、農業部では、この年の秋、松農時代の伝統を継いで収穫祭を行った。そして、農業に関する展示、農産物の販売・食堂を開設した。これが松高祭の起源となった。翌24年男女共学の総合制高校となり、文化祭も全校あげて行ない、文化クラブ関係の展示や演示も加えた。昭和25年には収穫祭、文化祭を統合して松高祭と称した。

校章、校旗、校歌

校章は、昭和24年生徒職員から公募し、選ばれたものをさらに検討して創作した。二組の松葉を組み合わせ高等学校の「高」を浮き上がらせている。校旗は、松任高女の校章を抜いて生地を染め直し、金糸で新しい校章を刺しゅうした。昭和26年の秋、待望の校歌が出来上がった。金沢大学教授川口久雄先生に歌詞を依頼したのであるが、先生はわざわざ本校を訪ね、2階の窓から眼下に広がる加賀平野や、遙か彼方の白山、さらに日本海に眼を転じて構想を練られ、これがそのまま歌詞に生かされて出来上がったのである。また作曲も先生を通じて、当時東京フィルハーモニー交響楽団の専任指揮者であった高田真一氏に依頼して出来上がったのである。



校旗

(5)定時制の課程

本県において、定時制の教育が本格的に取り上げられるようになったのは昭和23年4月である。まず、県教育部によって原案が作成され、石川県議会教育民生委員会、石川県新学制実施準備協議会に諮られて原則的な決定をみたあと、7月に定時制入学者募集要項が示された。この年は、第1学年のみを募集し、9月に入学式を迎えた。本校では、馬場町校舎を中心として、普通科（夜間）と農業科（昼間）を、美川町旧美川水産を分校として水産科（夜間）を於いて生徒を募集し、合計66名の生徒を入学させた。美川分校では、翌24年に水産科を廃止して普通科（夜間）を設けた。定時制が発足し、昭和27年に始めて普通科男子29

名、女子1名、農業科男子12名の第1回卒業生を送り出したのであったが、普通科は昭和38年に新設された松任高等学校へ移籍された。一方、農業科にあっても、昭和28年度の総合制高校の解体にともなって、設立された松任農業高等学校に併置されることとなった。定時制入学希望者が減少していく中、昭和42年、本校定時制の農業科の生徒募集を停止するに至った。

(6)変容する新制高校教育

総合制の解体

昭和25年の朝鮮戦争をきっかけに、日本の政治、経済は急激な変ほうをとげていった。その中で、総合制を維持してゆくためには、地域による学校差を解消し、施設設備を充実させる必要があった。しかし、名門校の解消という能力的格差は学校単位では減少したが、一校内における課程別の格差は増大し、志望者の偏りが著しくなり、実業課程不要論も出てきた。また乏しい教育予算の枠内で設備を充実させることも困難であった。地域社会や産業界の総合制に対する不満は以上のような情勢から生まれた。このような動きの中で、本県では27年度から小松実高、七尾実高の分離の決定、28年度には本校松任農高の単独設置、29年度に七尾農高と分離または転化が決定していった。

小学区制の解体

昭和25年には34府県にわたって実施された小学区制は年々減少していった。本県では28年に本校が農業高校に転化したため、通学区域を変更することとなり、これが小学区制解体の直接の動機となった。

農業教育の危機感と松任農業高等学校の誕生

本校の前身である松任農学校は全国でも最古の歴史をもち、農業教育の名門校として自他共に認めていた。生徒は石川郡を中心に全県にひろがり、農家はもとより農家以外の有力者の子弟が集まり、卒業生は県内各階層にわたって活躍していた。新制中学が発足した昭和22年度は約980名、5つの学科を設置していた。23年に新制高校が発足したときはこれらを統合して農業課程とし、高校再編が行われた24年は普通課程340名、農業課程359名、商業課程40名、25年には普通課程530名、農業課程230名、商業課程80名と激減した。このまま放置すると農業教育、ひいては農業の将来に暗雲を投げかけるものとして憂慮され、単独農高として設備を充実し、農業に専念できる環境づくりが必要であるという気運が盛り上がったのである。

昭和28年4月、松任高校の生徒募集を停止し、松任農業高等学校が誕生した。

7 | 石川県立松任農業高等学校

(1)本校の成立

成立の経過

総合制高校が実情にあわない幾多の矛盾を含み、特に実業振興上障害があるとの観点から各界の不評を買い、実施の当初から改編の動きが生じることとなり、本県では昭和24年末、宇出津高校の水産学校設立の陳情、26年の小松高校より商工部分離独立の要望など相次いで実業高校の単独設立の要望となって現れた。このような動きの中で、本校において25年に農業短大設立運動として始まった。そして、26年、短大設立運動が頓挫し、専攻科設置と本校の独立設置運動へと転向した。

松任農業高等学校の発足

昭和27年12月13日に高等学校再編成計画・設置課程変更の件で臨時に教育委員会議が開かれ、松任高校は昭和28年度から農業課程だけの学校として、松任農業高等学校と改称することが決定され、農業課程、農林工学課程、農芸化学課程、農業経済課程、家庭課程の5科が設置される運びとなった。もちろん、現存の普通・商業・家庭課程の生徒が卒業するまで（昭和30年3月31日）は松任高校を存続させることになった。

校章・校旗・校歌

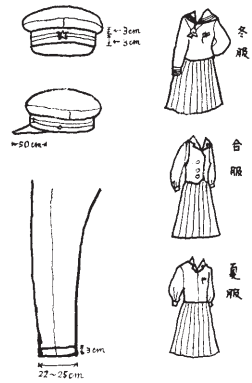


校旗

松任高校が存続した昭和30年3月まで、校章は松任高校のものを引き継ぎ、卒業を待って新しい校章を制定した。本校は松任農学校の後継者として、その校章であった「六星」を用い、中心の「農」に代わって「高」を配した。校旗は松任高校の生地を再び染め直し、校章を刺しゅうした。地色は紫紺である。校歌は川口久雄作詞、高田信一作曲の松任高校校歌「青雲の……」がそのまま受け継がれた。

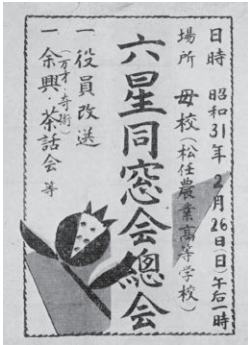


松高・松農高併設期の校門



三校同窓会の統合

石川県立松任農学校六星同窓会、石川県立松任高等女学校清輝同窓会は総合制松任高校が成立したときは統合しなかったが、昭和28年7月1日本校の開校記念式典が挙行されたのを期に、三校の同窓会統合の努力がなされた。昭和28年8月17日六星同窓会、清輝同窓会、松任高校同窓会は解散し三校同窓会を統合した新しい「六星同窓会」に発展した。



総会案内ポスター

創立80周年記念

昭和30年は創立80周年に当る。そこで、農業教育振興会、同窓会、育友会の合同評議員会をもち行事について協議した。創立記念日は同評議員会で審議され、農業高校の開校記念式の行われた日より7月1日と決定した。80周年記念行事は、追悼法会、記念式典、祝賀会が行われた。遠く関西関東からも同窓会員が集まり、その数は600名を超えた。この記念式にあわせて行われた行事生徒会主催の松高祭には、記念式参加の卒業生をはじめ、父兄、付近民など続々と来校し、各クラブ展示会場も食堂も、午後から開かれた舞踊演劇発表会も大盛況であった。中でも人気のあったのは、農産物（野菜加工品・肉加工品）即売場でよい売れ行きをみせた。運動場では野球、バレーボール、ソフトボールなどの交歓試合が行われた。

(2)専攻科の誕生

新制農業高校の設立を期して組織されていた期成同盟は、その前進が農業短大誘致のための運動組織であったので、新農高の独立設置を強力に押し進めていくと同時に、短大設立の含みを持った運動であったが、設立が難しくなった。そこで短大にかわるものということから、新農高の独立にあわせて専攻科の併設が推進された。昭和27年12月13日に開かれた臨時教育委員会で、松任高校から松任農業高校へと切り替えが決定されると同時に、専攻科の設置が決



専攻科入学記念写真



定された。その後、不振により34年4月より2年制から1年制へ移行した。

(3)本校の発展
馬場町校舎改築

明治35年、石川県立農学校として、総額5万円をもって新築した校舎は、幾千の人材を育成しすでに60有余年の星霜を経て、石段にまで水が溜まるほどの歴史を刻み込んでいたのである。その間に増設や一部改修がなされたが、今や修繕の余地なく危険校舎として、幾度か全面改築の陳情がなされるようになった。昭和34年12月24日校舎西側の敷地において地鎮祭を行ない、引き続き工事が開始され、翌年の2月24日竣工した。鉄筋3階建18教室を収容する本館である。



民有地農場及び校舎全景

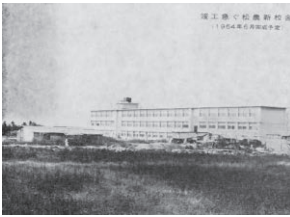
三浦現校舎の新築

馬場町校舎の改築第1棟は落成したが、前途にはいろいろ困難な問題が横たわっていた。その一つが文部省の設置基準と民有地の買収の問題があった。そこで、本校の大きな発展のために、改築促進とは別に移転という案が浮上した。農学校の将来を心配した田谷知事は農学校の敷地の問題が解決しない現状において、いたずらに手狭い現在地に固執しなければならない理由はなく新時代が要求する農業、斜陽と呼ばれる屋台骨を、立て直さなければならない運命を荷なう新しい農業具現の道場は、新天地にこれを求むべきであると述べている。本校移転が企画されたのはこの田谷知事構想によるのである。

三浦校舎の竣工と松任高校の設置

昭和37年12月5日、三浦町曠野に青竹を立てて地鎮祭を行い、引き続いて第1期工事本館の建築が始まった。本校の移転新築が決定した一方では、松任高校の設置が決まり、先に完成した馬場町新館1棟を含めた本校校舎を使用することになり、38年4月新入生が入学、新館を使用することになった。39年5月25

日から数日にわたって机、椅子、段ボール箱を満載したトラックが、三浦・馬場町間を往復した。



工事中の校舎



移転風景

校舎落成式

昭和39年11月12日、盛大な落成式を新装なった体育館で挙行了た。

創立90周年記念

校舎新築移転の整理のため、準備が間に合わず、創立90周年記念行事の実施は翌41年10月とし準備が進められた。募金、名簿、年史の編集は前年

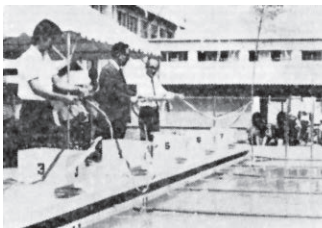


90周年記念会館

より開始され、11月には記念会館建設の計画が立てられた。記念会館は、同窓会、育友会の合同事業として、41年6月着工、同年10月竣工した。鉄骨づくり、外装はモルタル、内装は木造で、2階建生徒食堂及び寄宿舎にあてるべく施設が充実された。記念植樹には「だいおうまつ」「このてがしわ」及び同窓会会員内村又一寄贈の「ひとつばたご（一名なんじゃもんじゃ）」が植えられた。なお、このとき寄贈された書画には、中西県知事「天行健」、坂田栄一農林大臣「農学」の書と、同窓会員寅若繁「農婦」、宮田耕一「田園風景」の絵画がある。

施設の充実

水理実験室（41年度）、果汁濃縮プラント（43年度）、温室（46年度：本館前、鉢物室、切り花室、繁殖室、標本植物室）、水泳プール（48年度）、木津農場、39年三浦移転後も馬場町の農場実習地を使用していたが、これを県に移管し、



プール竣工式

木津町に水稻、飼料作物の実習地を買収し、そして、実習地への生徒輸送用にマイクロバスを購入した。通学路、メインストリート（49年度）、造園実習見本園、学校前に国道8号線が開通すると、環境保全という観点から学校と8号線間の土地を学校用地として買収する計画が盛り上がった。県の実験を得て、45年地主

の理解と好意により16,000平方メートルを購入することができた。その後、造園実習見本園とする計画が立てられ、百年記念事業の中に組み入れられ、県の予算を待って、石川県民公社村田秀作技師の設計、立花造園、中部緑地株式会社の施工により50年4月着工した。

設置学科の変遷

昭和28年度～

全日制：農業、農林工学、農芸化学、農業経済、家庭

定時制：「農業（昼間）」

昭和32年度～

全日制：農業、農林、農業土木、農産加工、農業経済、家庭

定時制：「農業（昼間）」

松任普通高校の誕生

戦後復員、引揚で一氣にふくれあがった人口についてベビーブームの到来となり、その波はその後の社会に大きな問題を投げかけていった。小学校にあふれ、やがて中学校、そして進学率の漸増と相まって高校進学者の激増となって現れた。本県でも、PTAは大会において高校生急増対策の完全実施を決議して県に要望した。県教委は36年に高校の新設・教室の増設計画を発表、37年開校した羽咋工業高校をはじめ新設5校、その他4校について増設したのである。松任高校は38対策の一環として、普通課程を新設し、これに本校の家庭課程・定時制課程を吸収して38年4月、本校馬場町校舎内に誕生した。

畜産科の設置

旧農学校時代「獣医畜産科」は、後に「畜産科」として多くの有為な人材を育成したが、戦後は廃止されていた。これが畜産界からの要望があり、地域酪農の振興を目標として38年度に復活した。



搾乳実習

造園科の設置

日本経済の飛躍的発展、また一方で、産業発達のみずみとしての各種公害、自動車排気ガスによる大気汚染が問題となり、都市計画・緑地計画が考えられるようになった。加えて、生活に余裕ができたため石ブーム、庭園ブームがはじまった。このような背景のもと、農林科を改編して「造園科」とし、41年度以降入学生に適用することとした。



造園科実習

コース制の後退

農業の成長が他産業に比し伸び悩み、その格差が増大するや、農業収入の不足分を農外収入に求めんとし、若年層から順次他産業に出向く者が増加し専業農家から第一種兼業に、更に第二種兼業にと落ち込み、農業に対する意欲はしだいに失われていった。このような情勢を反映して、高校進学者の多くは普通高校志望で占められ、農業高校への志望は漸減し、次には激減していった。定員を割る学科は44年度から目立ち始める中、畜産科のコース制維持は困難となり、45年度から農業科にわずかに形を残すだけで、これを廃止するのやむなきに至った。

食品製造科

農産製造科は昭和48年度入学生より食品製造科と改称することとなった。



8 | 石川県立松任農業高等学校 新しい百年への出発を

(1)開校百年から十年の流れ

開校100年記念

記念式典は県知事、県議会議長、教育長、松任市長、父兄来賓父兄らが多数参席して昭和50年10月30日本校体育館にて挙行された。開校100年記念事業として、記念図書・雑誌の刊行（松任農業高等学校百年史、祝賀記念回想録（六星百年）、六星同窓会会員名簿、祝賀記念グラビア、記念式典、特別記念事業開校百年記念の碑の建立、記念植樹、造園実習見本園の充実助成を行うとした。



式典会場（壇上は祝辞をのべる中西知事）



開校百年記念之碑（永井文部大臣揮毫）

造園施工実習棟・造園材料実習棟完成

前庭の造園実習見本園の整備に伴い、昭和56年5月に造園施工実習棟、造園材料実習棟が完成した。

地域への学校開放

本校の農業教育に対する理解を深めることを目的として、昭和55年度、「中学生の1日体験入学」を実施し、初年度は177名、翌年以降は300名を超える希望者があった。この体験入学は、県



平板測量実習

内の職業高校として最初の取り組みであり、後に県教委でも予算化し、県内の全職業高校で実施することとなった。また、一方で一般の成人を対象とした「県立学校開放講座」に取り組み、「やさしい園芸教室」、「ホーム・ベーカリー」の2講座を開講するなど、地域への学校開放に取り組んだ。

推薦入学制度の実施

兼業化が進む中で、新しい村づくりのリーダーとなる人材の育成の必要性から、目的意識を持った生徒、学校のリーダーとなる生徒の入学を目的として、推薦入学制度の導入を県に働きかけ、昭和57年度より、定員の2割を推薦入学させることとなった。

畜産科の募集停止

昭和30年代から始まった経済の高度成長は、農業ばなれを引き起こし、減反政策がこれに拍車をかける結果となった。農業高校においても、志願者の減少、非農家の子弟増加という形で影響が現れ、定員を大きく割るようになり、中でも畜産科は30%を割る事態となった。そのような中で、自営学科の内容検討と21世紀を目指す新しい農業を考慮して、昭和58年4月農業科、畜産科の募集を停止し、新たに農業畜産科・園芸科を置くこととなった。

農業畜産科、園芸科の設置

中核農家の育成と中堅農業指導者の育成は、本校の歴史と地域農業の実態からみて、本校の中心であることは免れない宿命である、ととらえ、本県の基盤である稲作に畜産部門を加えた複合経営を中心とする中核農家の子弟及び近代農業を理解した農村形成者の育成を目的とした「農業畜産科」、また野菜、果樹、草花部門でもニューメディア、ハイテクノロジーに対応した中核農家の育成、稲作プラス園芸の複合経営農家の育成を目的に「園芸科」が設置された。

園芸実験実習棟完成

新学科の設置に伴い、ニューメディア、ハイテクノロジーなど、新しい農業に対応するための知識・技術の習得に必要な施設・設備の充実が図られることになった。その中で、昭和60年10月、園芸実験実習棟が完成した。



クッキーづくり ホーム・ベーカリー

食品製造科の1学級増設

昭和56年度には志願倍率が1.3倍となった。中学卒業生の増加もあり、本校への定員増が県へ陳情され、内外事情から食品製造科の1学級増が決定され、昭和60年4月、食品製造科を2学級募集、5学科6学級定員240名の規模となった。

開校110年記念

昭和60年11月2日、開校110年記念式典が挙行された。

(2)開校百十年から十年間の歩み

食品製造実習棟完成

農業高校は、新しい時代の農業に対応した農業教育を行うとともに、地域農業のセンタ一的な役割を担わなければならない。昭和60年に食品製造科が2学級募集となったこともあり、昭和63年3月、食品科学実習棟が完成の運びとなった。



自動発酵制御装置（平成8年度完成）



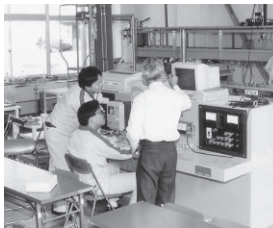
食品科学実習棟（昭和63年度完成）

運動場拡張整備完成

平成2年9月、運動場拡張整備完成。三浦町移転時から使用されてきた運動場を排水機能を向上するとともに拡張した。

農業土木実習棟完成

平成4年3月、東門付近にコンピューター制御の水理実験装置と40人一斉授業ができるコンピューター室を装備した2階建の実習棟が完成した。



環境工学実習棟、水理実験装置（平成4年度完成）

生物生産科、園芸科学科の設置

農業畜産科、園芸科の2学科の募集を停止し生物生産科、園芸科学科が設置された。



生物工学実験装置（平成6年度完成）

緑地デザイン科、環境工学科、食品科学科の設置

造園科、農業土木科、食品製造科の募集を停止し、緑地デザイン科、環境工学科、食品科学科を設置する。

食品科学科1学級減

平成8年4月、食品科学科を1学級募集とし、5学科5学級定員200名の規模となった。

生物生産実習棟・ピュアマートの完成

生物生産科の実習として、地域に開放された学校教育の一環として販売所ピュアマートが開設される。



生物生産実習棟 販売実習場「ピュアマート」（平成8年7月完成）

創立120年記念式典

平成8年10月25日松任市文化会館にて開校120年記念式典が挙行された。記念講演では日本人初の宇宙飛行士、秋山豊寛氏が「宇宙から見た地球と明日の農業」の題で講演された。

9 | 石川県立翠星高等学校

(1)開校百二十年から十年間の歩み

県立翠星高校と改称

平成12年4月、生物生産科、園芸科学科、食品科学科、環境工学科、緑地デザイン科の5学科の募集を停止し、総合グリーン科学科（定員200名）を置き、単位制・2学期制となる。校名は本校職員宮下敦実習教諭の発案で、現校歌に「時しらぬ松の翠よいただきて我等こそれり」とあるが、この「翠」は年中青々として絶えることなく成長し続ける姿を称えている。また、現応援歌「若葉の風」にも「翠」がうたわれている。「翠」は農業のシンボルカラーでもあり、さわやかな翠と校章の星をイメージして改称され、地域の人たちにも親しまれている。学校の木を「クロマツ」に制定する。

3号館 福祉実習棟完成

平成17年3月、3号館が新設され、福祉科の実習・講義専用の実習棟と図書館が新設された。



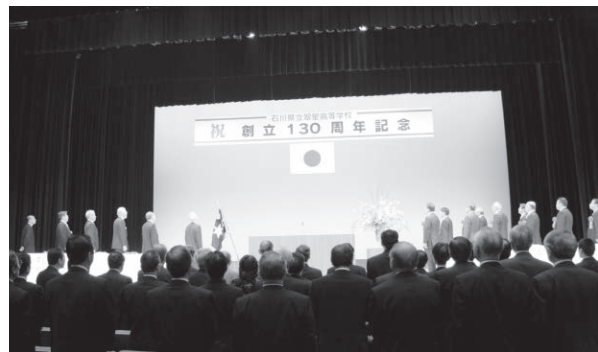
3号館 福祉実習棟（平成17年3月完成）

1学級減

平成17年4月、募集定員が200名から160名に減じられた。

創立130年記念式典

平成18年10月21日白山市松任文化会館にて開校130年記念式典が挙行された。10月19日には時計塔の除幕式と記念植樹が行われた。



(2)開校百三十年から十年間の歩み

6系から5コースへの再編

平成21年4月、食品科学・生物化学・園芸福祉・環境土木・緑地デザインの5コースが設置された。

5コースから3コース6分野への再編

平成28年4月、生物資源（農学・生物工学・生物活用）、食品科学、環境科学（環境設計・造園）の3コース6分野が設置された。

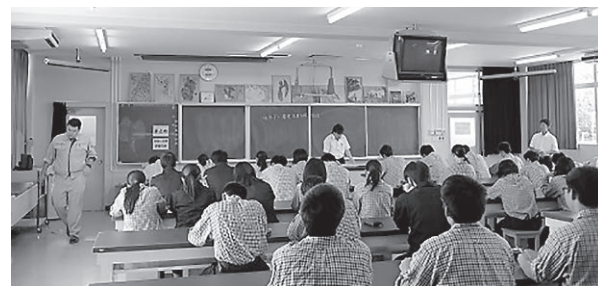
創立140周年記念式典

平成28年9月22日、白山市松任文化会館にて開校140年記念式典が挙行された。

(3)開校百四十年から十年間の歩み

グローバルGAP認証取得

平成30年10月、農作物の安全性などを証明する国際規格で、翠星高校は北陸三県で初めて取得した。



グローバルGAPを取得するための実技講習

キャリア教育に関する文部科学大臣表彰を受賞

平成31年1月、本校の取組について、キャリア教育の充実発展に尽力し顕著な功績が認められたとして、文部科学大臣表彰を受賞した。

食品安全規格（JFS-B）教育機関初の合格

令和元年11月、世界的な食品安全規格である「HACCPに基づく衛生管理」に対応したJFS-B規格について、国内教育機関として初めて適合証明に合格した。



自分たちでつくったHACCPプランを説明する生徒

3コース6分野を3コース4分野に再編

令和4年4月、生物資源、食品科学、環境科学（環境設計・造園）の3コース4分野に再編した。

第73回日本学校農業クラブ全国大会北陸大会

令和4年10月、本校が事務局をつとめた北陸大会は、石川・富山・福井の三県を会場に実施され、日本学校農業クラブ員や教職員・関係者等約5,300名が参加した。



令和4年度 北陸大会 報告書

創立150周年記念式典

令和8年10月3日、白山市松任文化会館にて開校150周年記念式典が挙行された。

同日、「星の見える丘」の除幕式とお披露目式が行われた。

第2章

教育活動の変遷



1. はじめに

平成9年6月、中央教育審議会答申「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」及び同年10月には「専門高校の今後の在り方」について産業教育審議会中間まとめが出された。これらを受けて、県内では高等学校再編整備検討委員会の最終答申が平成9年3月に出され、新しいタイプの学校や総合学科及び医療・福祉や地場産業関連の特色ある学科・コースの設置などが提言された。その後、21世紀石川学校教育推進会議が設置され、5つのワーキンググループの中で総合学科の増設や魅力ある専門高校づくりが検討され始めた。このような状況の中で、近隣の学校においても総合学科への転換を検討する学校も出てきた。

本校は当時120年の歴史と伝統を誇り、農業教育一筋に歩む中県内外に多くの有為な人材を輩出していた。しかしながら、昭和40年代後半を境に本校を取り巻く環境は変化し、農業教育の悪化や偏差値教育、少子化の影響から次第に厳しさを増し、数年前よりそのピークを迎えていた。具体的には、在校生の90％は非農家であり、農業後継者も例年数名程度である。また、関連産業への就職者数は年々減少をたどり30％を大きく下回り、その一方で進学者が増加していた。さらに、中途転退学者数の割合が極めて高く、平成9年度入学者選抜では定員割れを生じている。こうした状況下で、多様化する生徒たちを、従来の農業高校や農業教育システムの枠内で教育することは限界に達しており、抜本的な改革が必要となっていた。

2. 学校ビジョン検討委員会の設置

平成10年4月27日に委員会設立発表、校長、教頭、農場長、教務課長、総務課長、5学科代表の10名で構成し、11月に普通科代表者3名を追加した。以降27回に渡る委員会を開催。

審議内容は次のとおりである。

- 1 学校改革資料の配付と委員の顔合わせ
- 2 教育及び学校改革の必要性
- 3 視察校の選定
- 4 視察方法と内容の学習
- 5 学校視察報告とこれまでの反省
- 6 学校視察報告、改革に関する議論
- 7 学校視察報告、本校の改革方向の議論
- 8 学校改革の基本的な考え方の提示と具体的方向案についての審議
- 9 改革の方向案についての手直し

- 10 視察学校比較一覧表の提示
系統例の審議
 - 11 改革最終案の作成、単位制導入の確認
分担系統案の内容についての報告、説明
 - 12 学校視察報告、単位制の学習
臨時職員会議打ち合わせ
 - 13 臨時職員会議の反省、今後について審議
 - 14 臨時職員会議の質疑回答審議
単位制の学習、群及び系統についての議論
 - 15 総合学科の全国大会内容（石川県開催）
単位制経験者からの説明、系統の内容審議
 - 16 10系統の科目群の確定、各系統の研究分担
 - 17 各系統科目群の報告、審議
 - 18 教育課程表、履修モデル表配付、審議
 - 19 各系統の教育課程履修モデル案審議
 - 20 各系統の教育課程履修モデル案審議
 - 21 各系統の最終教育課程履修モデル案審議
 - 22 教育課程モデル案の提示と専門科目の厳選審議
 - 23 学習モデル、教育課程表の再検討
 - 24 共通普通科目の審議、校名審議
 - 25 校名審議、学科目標提示
 - 26 学習系統の目標審議、校名の確定
 - 27 学習系列目標の確定
- この間に職員会議11回、農場会議4回及び36校の学校訪問を行い、校名変更については全国23校からのアンケート調査を実施した。5月に改革案をまとめ担当指導主事との打ち合わせを行っている。

3. その後の動き

平成11年5月26日県教育委員会は、公立学校再編整備の具体案を発表した。その中で、本校については、生徒の多様な進路に対応できる幅広い学習システムが必要とされ、平成12年度に新しいタイプの農業高校（単位制）に改編する方向性が示された。

上記のことを基に、6月9日にキャッチフレーズを「さわやかなみどりの風にのって！」とし、校名を石川県立松任六星高等学校、総合グリーン科学科1学科（農業系3、福祉系、工業系、商業系各1）に6つの学習系を設置すること等からなる新学校構想案をまとめるに至った。

6月14日新学科設立準備委員会の設置発表と委員委嘱、委員は校長、教頭、事務長、農場3名、課9名、学科4名の19名。

6月30日学校改革に関する要望書を県教委へ提出。その内容は以下のとおりである。

1. 改革の理念

大きな歪みが生じている社会や本校の現状を考慮して、時代の要請に応える新しい専門高校を目指す。幅広く産業全体へ視点を移し、普通・専門の幅広い選択科目を開設して、生徒自らの主体的選択と、これまで培ってきた体験的総合学習を重視し、多様な能力・適性に対し柔軟な教育を行う。

2. 改革の目標
- ①多様化する生徒に対応した魅力ある学校、学科の再構築
 - ②多様化する地元産業への対応
 - ③21世紀の魅力ある農業教育の創造

3. 改革の骨子
- 新しい教育観に立ち、理振・産振の答申にある専門高校の改善・充実のための視点を尊重し、改革の骨子は下記のとおりとした。
- (1)骨格
単位制の専門高校とする。(単位制、2学期制)
 - (2)学科
1 学科とする。
 - (3)募集規模
200名募集とする。
 - (4)校名
イメージの一新を図るため変更する。
 - (5)特色
 - ①農業をベースに幅広い工業・商業・福祉など幅広い専門科目が選択できる学校
 - ②幅広い進学が可能な学校
 - ③興味・関心や幅広い進路に応じて、自由に科目選択ができ、個人の時間割が作成できる学校
 - ④独自のユニークな科目を開設し、一人一人の適性に応じ、個性を伸ばす学校
 - ⑤自主的・体験的学習を重視し、少人数の授業を展開する学校
 - ⑥生涯学習センターとしての役割を担う学校

4. 改革の具体案

(1)教育目標

社会や時代の進展に対応して、農業本来が持つ総合科学の視点から、産業の基礎・基本的な知識や技術を、身につけるとともに、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を育てる。

(2)校名

校名は全国のアンケート調査結果や本校の歴史が

ら、「石川県立松任六星高等学校（仮称）」とする。

(3)学科名

総合グリーン科学科（仮称）とする。

(4)システム

単位制（2学期制、総合選択制）

1 年次に共通科目を学び、その学習・ガイダンスを通じて各自の興味・関心から将来の進路目標を設定する。2 年次からは進路や興味・関心に応じて、生徒自らが科目を選択し学習する。

科目・単位の目安

必修科目 普通：35単位
 専門：30単位

選択科目 25単位（普通・専門は自由）

すべての生徒が原則学ぶ科目

「産業社会と人間」、「農業情報処理」
「農業基礎」、「課題研究」、「総合実習」

(5)学習系統とその目標

2 年次以降の科目選択やクラス編成の目安になる科目群として、系統を設ける。

- ①グリーンデザイン系
- ②バイオテクノロジー系
- ③フードテクノロジー系
- ④ヒューマンセラピー系
- ⑤アーステクノロジー系
- ⑥フードビジネス系

となっている。

(6)系の内容と進路目標

(7)教育課程表

(8)系履修モデル案

その他添付資料

- ・学校ビジョン検討委員会の経過概要
- ・校名変更アンケート調査結果
- ・校名変更理由書
- ・「農業」のついていない農業高校の例

4. 要望書提出後の動き

7月7日 県教委と中学校向け説明会に向けて①系、②授業時数、③施設、④その他科目の開設科目を確認し、リーフレット作成についての協議を行った。

7月15日には県教委と校名について、キャッチコピー「さわやかなみどりの風にのって！」を基に「翠」、「風」を軸に検討していくことが提案されるとともに、開設準備計画及び施設整備の方針が示された。

県教委提案を受け開設準備委員会は委員を教務、総務、農務、生徒指導、特別活動、入試検討の6 グルー

プに分けてそれぞれ必要事項の検討を進めることとした。検討内容は次のとおり

○教務グループ

カリキュラム編成、時間割シミュレーション、個人時間割例、シラバス作成、学校規則、進路（進学）指導の研究、新科目の研究

○総務グループ

必要施設、実施教室の割り振り、施設充実のマスタープランの作成、中学校進学案内、リーフレット作成、中学校訪問計画、体験入学、ビデオ作成

○農務グループ

農場整備、農場運営

○生徒指導グループ

制服、生徒心得

○特別活動グループ

部活動

○入試検討グループ

入試方法、配点

7月27日 校名に関する県教委提案を受け校名を松任星輝、松任翠星、松任白嶺、松任翠風、松任若葉の5つに絞り新校名案を示した。

その後更に協議を重ね県教委は8月23日新校名を、スクールカラーで校歌に歌われている「みどり」と校章や同窓会名にも使われている「星」を組み合わせ「石川県立翠星高等学校」とすることを発表した。以降各グループでの検討結果を踏まえ、14回に及ぶ新学科開設準備委員会を開き必要事項を決定するとともに、3週間にわたる中学校への説明会の実施、プロモーションビデオの作成、学校案内の作成、「産業社会と人間」のテキスト作成などを行っている。11月18日には協議題「単位制専門高校開設に向けて」を設定した教科指導等研究会開催している。



1. 創立150周年を機に制服を一新

創立150周年を目前に控えた本校において、新制服制作は、未来へ向けた大きな節目の事業であった。

本校は平成12年、校名を松任農業高等学校から翠星高等学校へと変更した。その際、学校の新たな歩みを象徴するものとして制服も一新され、多くの生徒たちに親しまれてきた。それからおよそ四半世紀が経過し、令和5年、三年後に迎える創立150周年を前に、「新しい時代を迎えるにあたり、制服も新たにしていこうか」という声が校内で上がった。



まず、この件について教職員および在校生を対象にアンケートを実施した。教職員からは、時代に合った機能性やデザインへの期待もあり、圧倒的に賛成意見が多く寄せられた。一方で、在校生の意見は賛成と反対がほぼ半々であった。長年親しまれてきた制服に愛着や誇りを持っている生徒が多く、「今の制服が好きだ」「翠星高校らしい」という声も数多く聞かれた。そのことは、現在の制服が生徒たちに深く根付いている証でもあり、学校として大変嬉しく感じた。

しかし同時に、150周年という大きな節目を迎えるにあたり、未来へ向けた新たな象徴をつくる意義についても議論が重ねられた。そして最終的には、「次の時代へ歩みを進める翠星高校の姿を制服にも表現しよう」という方向で意見がまとまり、新制服制作が本格的に始動することとなった。

令和5年9月には制服検討委員会を設置し、導入までのタイムテーブルを策定した。また、生徒・教職員・保護者を対象に改めてアンケートを行い、多様な立場から意見を集約した。さらに、県内高校へ制服画像の提供を依頼し、現在の高校制服の傾向や特色について研究を進めた。

次年度4月からは、生徒代表も制服検討委員会に参加し、本格的な検討が始まった。制服は毎日身につけるものであり、何よりも生徒自身が誇りを持てるものでなければならない。そのため、会議では生徒の意見を最大限尊重しながら協議を重ねた。

新制服制作において、私たちが最も大切にしたのは「翠星高校らしさ」である。その象徴として着目したのが、周年行事の目玉として整備された「100年の森」であった。この庭園は、近年注目される造園技法であるレインガーデンの考え方を取り入れ、「100年後も大切にされる庭」をコンセプトとして造成されたものである。私たちは、この庭に調和し、同じように長く愛され続ける制服を目指した。

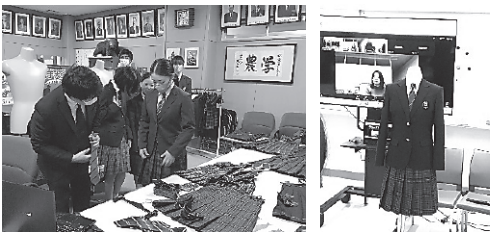
そこで、制服業者三社に対し、このコンセプトを共有し、冬服試作品をそれぞれ二タイプずつ提出していただくよう依頼した。各社からは、それぞれ特色ある提案が寄せられ、制服に込める想いや学校理解の深さを感じられた。

提出された試作品は校内に展示され、多くの生徒や教職員が実際に目にしながら意見を寄せた。その後、9月には制服制作を担うパートナー企業の選考会を実施した。各社にはプレゼンテーションを行っていただき、デザインコンセプトや機能性、生地へのこだわりなどについて説明を受けた。

その中で選ばれたのが明石S.U.C.である。上品で落ち着いたネイビーとグレーを基調としながら、さりげなく「翠」を取り入れた配色は、翠星高校らしさを見事に表現していた。また、細部まで工夫を凝らしたデザインは、生徒にとって着こなしやすく、同時に格式も感じさせるものであった。「150周年以降も本校の伝統を継承していく制服」という点において、非常にふさわしい提案であったと感じている。

以降、10月、12月、翌年1月と、デザイナーの方にも参加いただきながら検討会を重ねた。リボンやネクタイの色合い、シルエット、素材感など、細かな部分に至るまで丁寧に議論を行った。生徒たちは、自分たちの学校の制服をつくるという意識を強く持ち、真剣に意見を交わしていた。その姿は大変頼もしく、本事業が単なる制服変更ではなく、生徒自身が学校づくりに参画する貴重な機会になっていることを実感した。

冬服のデザインが形となった後、令和7年5月の検討会では夏服についての協議を行った。近年の気候変動による猛暑への対応も考慮しながら、快適性とデザイン性の両立について意見交換を重ねた。



さらに6月の検討会では、7月終業式の日在校生への披露を兼ねた「プチファッションショー」を実施することが決定した。そして7月、中学3年生を対象とした体験入学において、新制服を初披露した。来校した中学生たちは、入学すれば新制服第一期生となる世代である。新制服に目を輝かせながら見入る姿は非常に印象的であり、翠星高校の新たな歴史の始まりを感じる瞬間であった。

制服は単なる衣服ではない。それは学校の理念や伝統、生徒たちの誇りを形として表す存在である。今回の新制服制作を通じて、多くの方々が本校への想いを寄せ、未来の翠星高校について真剣に考えてくださったことを強く感じた。

今後50年先を見据えても、決して見劣りしない制服が完成したのではないと思う。この制服が、生徒たちに愛され、翠星高校の新たな歴史とともに歩み続けていくことを願っている。そして150周年を迎える本校が、これからも地域に愛され、未来へ発展し続ける学校であることを心より期待している。



2. PTA活動

翠星高校PTAは、会長1名、副会長3名、会計1名の幹部役員を中心に運営されており、幹部役員を含む全理事が「広報」「生活指導」「家庭教育」の各委員会に所属し、学校と家庭、地域をつなぐ架け橋として活動しています。

主な活動としては、PTA機関誌の発刊、登校時の挨拶運動の企画・実施、文化祭での模擬店出店など、生徒たちの学校生活を支える取り組みを継続して行っています。こうした活動を通じて、保護者同士の交流も深まり、学校への理解を高める貴重な機会となっています。

この10年間で振り返る中で、特に忘れることのできない出来事がコロナ禍です。学校行事の中止や制限

が相次ぎ、人と人とのつながりが希薄になる中、生徒たちも多く不安や寂しさを抱えていました。そのような状況の中で、PTAとして「高校生のために何かできないか」を真剣に考え、企画したのがフォトコンテストです。

お気に入りの風景や日常の一コマなど、生徒たちが思い思いの写真を応募し、優秀作品を表彰するこの企画は、多くの生徒の参加を得て、大きな励みと楽しみにつながりました。コロナ終息後もこの取り組みは継続され、令和8年度には第6回を迎えます。写真を通して互いの思いや感性に触れ合う機会は、生徒同士、そして学校全体のつながりを深める大切な活動として定着しています。

これからも翠星高校PTAは、生徒たちの充実した学校生活を支え、学校・家庭・地域が協力し合える環境づくりに努めてまいります。



3. 修学旅行の推移

令和8年度	北九州方面（11月実施予定）
令和7年度	北九州（11月）
令和6年度	北九州（6月）
令和5年度	北九州（6月）
令和4年度	北九州（6月 3年） 北九州（11月 2年）
令和3年度	能登への日帰り旅行（3年） 次年度に延期（2年）
令和2年度	中止（コロナ禍のため）
令和元年度	関東方面（11月）
平成30年度	関東方面（11月）
平成29年度	関東方面（11月）

1. 教育課程の変遷

(1)総合グリーン科学科

平成12年度、専門高校として全国で初めて単位制を導入し、新しいタイプの農業専門高等学校として、これまでの松任農業高等学校から翠星高等学校へと校名も含めて改編された。その背景は、その当時の教育の流れである「ゆとり教育」、「基礎・基本の重視」、「生徒の多様化と個性の伸長」などがキーワードとして目されており、その流れに沿った大改革であった。

学科は総合グリーン科学科の1学科とし、農業専門分野を6つに分け、グリーンデザイン系、バイオサイエンス系、フードテクノロジー系、ヒューマンセラピー系、アーステクノロジー系、フードビジネス系を設置した。専門分野の学習内容は、グリーンデザイン系が造園と都市緑化、バイオサイエンス系が農作物の栽培とバイオテクノロジー、フードテクノロジー系は食品製造と食品の分析、ヒューマンセラピー系は福祉分野における農業の活用、アーステクノロジー系は農業土木と生活の環境、フードビジネス系は食品流通とした。

教育課程では、従来の普通科目、農業科目に加えて、商業科目、工業科目、さらに学校設定科目として「加賀の国の伝統文化」、「アジアと日本の農村文化」、「アメニティデザイン」、「演劇」や「邦楽」など特色のある選択科目が開設された。また、ガイダンス科目として「産業社会と人間」を取り入れ、自己の将来や進路の希望に合わせて自由に科目選択を行い、個々の生徒がオリジナルの個人時間割を組むシステムを取った。

学 習 内 容

- 必修科目 全ての生徒が学ばなければならない科目です。
- 全員履修科目 翠星高校生として学ばなければならない科目です。
- 選択科目 興味・関心・進路に応じて自ら選択し学ぶ科目です。



この改編は全国的にも大いに注目され、多くの学校が本校の視察に訪れた。また、単位制に伴って、4月の始業式から9月末日までを前期、10月以降を後期とする2学期制を導入し、併せて、あらかじめ申請があった場合は、学期ごとに単位の2分の1の履修、修得を認定できることになった。

(2)単位制の農業専門高等学校

平成12年に単位制の農業専門高等学校としてスタートしたが、総合グリーン科学科という名称や科目の自由選択制という点で、総合学科の高校へと改編されたと間違っって認識されることもあり、農業高校として、生徒個々が将来に向けて、どのような専門分野を選択し、3年間で何を学び身につけるのかということを明確にする必要がでてきた。

そこで、平成14年度からは単位制を生かしながら、農業高校としての専門分野の特徴を明確にするという観点の下、2年次以降の科目選択では、自己の進路に合わせた専門分野の系とその中核となる専門科目を履修するように指導することになった。

(3)平成15年度の改訂

総合グリーン科学科へと改編されてから3年が経過し、教育課程の見直しを行うことになった。生徒には自分の将来を十分に考えさせ、系や科目の選択に際しては専門分野の知識や技術が身につくよう留意し、2年次及び3年次で学習する専門分野の中核となる専門科目を2科目4単位履修するように指導した。また、自由選択科目に関しても、選択者数の少ない科目や環境関係で重複している科目を中心に整理・削減した。

(4)平成17年度の改訂

平成8年度以降、1学年200名の定員で生徒募集が行われてきたが、平成17年度より1学年4クラスとなり、160名定員となった。また、同時に教育課程の一部変更も行われた。

(5)平成20年度の改訂

農業の専門高校としての専門性を高め、生徒により実践的な力をつけさせるために、専門分野を中心に学習内容を見直すこととなった。その中で、農業専門分野の学習区分を、従来の6系から専門性をより明確にした5コースへと改編し、生物科学コース、食品科学コース、園芸福祉コース、緑地デザインコース、環境土木コースの5つのコースを設定した。それに伴い教育課程では、従来、各コースの中核となる専門科目を2年次、3年次の各年次で4単位指定していたが、それぞれ、6単位を指定し履修するように指導した。

学 習 内 容

- 必修科目 全ての生徒が学ばなければならない科目です。
- 全員履修科目 翠星高校生として学ばなければならない科目です。
- 選択科目 興味・関心・進路に応じて自ら選択し学ぶ科目です。



(6)平成28年度の改訂

グローバル化、高度情報化など変化の激しい時代の中で、農業はIT化や技術革新の真ただ中にあった。また、TPPや成長産業としての位置づけなど大きなチャンスも巡ってきていた。教育基本法の改正や学習指導要領の改訂に伴い、生徒自らが主体的に学び、問題解決を図っていくなど、これからの時代に求められる資質や能力を身につけさせねばならなくなった。このような大きな転換期を迎え、教育内容の見直しと教育課程の変更が必要となった。

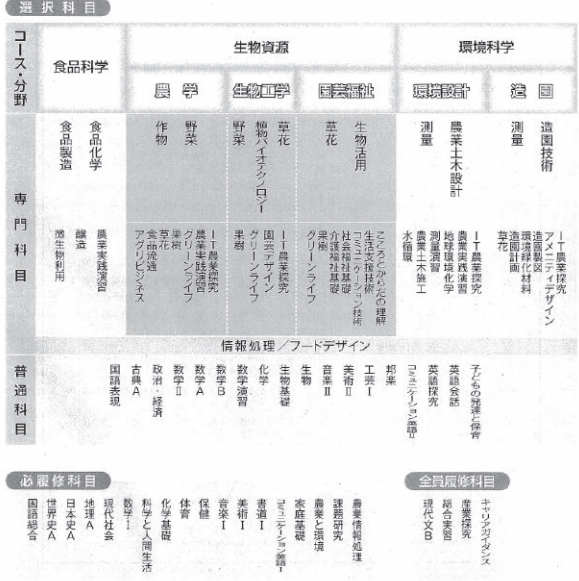
現行の5コースから、「食」、「農」、「環境」をテーマとした3つのコースに再編した。食品科学コース（食）は、食品製造や特産品の開発などを学ぶコースとした。生物資源コース（農）は、6次産業化や生物活用、生物工学や植物工場など先端農業について学ぶコースとした。環境科学コース（環境）は、造園分野や環境設計分野を学べるコースとした。いずれのコースも従来からある農業の専門分野を継承する形で再編を行った。

(7)平成31年の改訂

社会構造の変化やグローバル化、ICT・AIの発展により先行きが不透明な社会に対応するため、学習指導要領が告示された。これを受けて、本校においても教育課程の見直しを行い、主体的・対話的で深い学びや探究的な学習を重視した授業づくりへと改善を図った。また、思考力・判断力・表現力の育成、ICTの活用、さらには地域社会との連携の強化を通して、生徒が変化の激しい社会に主体的に対応できる力の育成を目指した。

学 習 内 容

- 必修科目 全ての生徒が学ばなければならない科目です。
- 全員履修科目 翠星高校生として学ばなければならない科目です。
- 選択科目 興味・関心・進路に応じて自ら選択し学ぶ科目です。



(8)令和4年の改訂

新たな学習指導要領が適用されることを受け、生物資源コースの農学・生物工学・園芸福祉の3分野を廃止し、1つに統合した。さらに、それまで開講されていた園芸デザイン、造園製図、醸造、産業探究、アグリビジネス、IT農業探究などの学校設定科目が削減され、科目の大幅な見直しを行った。

(9)令和8年の改訂

グローバル化に対応するため、外国語（英語）の科目である論理・表現Ⅰを2年次で全員履修とした。また、生物資源コースや環境科学コースの一部科目で単位数を整理し、各コースで履修できる科目を明確化した。



2. 翠星タイム

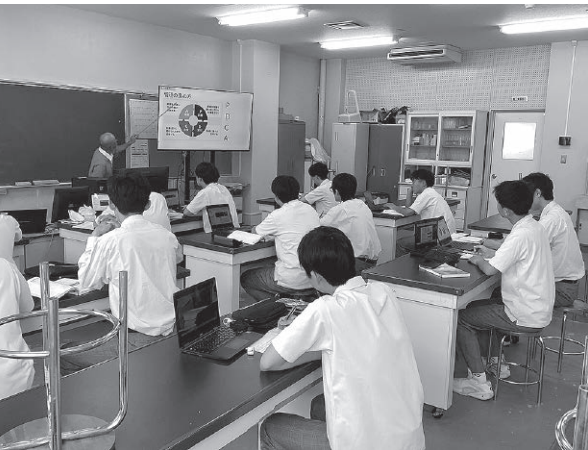
平成20年度より、毎朝、朝礼前の10分間を「翠星タイム」と称した時間を設け、基礎学力の充実を図っている。「翠星タイム」では、年間計画を立て英語、数学、国語の復習を中心に、高校での学習の礎となるよう実施している。また、漢字検定試験に向けた学習や読書週間なども組み入れながら、授業の前の集中した時間を設けることで学習意欲の向上につなげている。短時間の学習ではあるが、毎日の積み重ねが進学や就職、そして、将来へと結びついていくという考えのもと取り組んでいる。

令和6年度からは、リクルートのオンライン学習サービス『スタディサプリ』を導入し、中学校の内容の学び直しや、基礎・基本の定着、個別最適化された学習を取り入れている。

毎年のアンケート調査では、翠星タイムによって基礎学力が身についたと答える生徒が多く、進学や就職に向けた学習時間の確保や定着という観点からも確実に効果が上がっている。



スタディサプリを活用した翠星タイム



大型モニターとChromebookを活用した授業

3. ICTの活用

(1)校務支援システム

生徒の時間割作成や出欠管理については、平成30年度までは「学事エース」を利用していたが、令和元年度から「校務支援システム」が導入された。本システムは石川県内の県立学校で統一して導入されたものであり、成績処理、出欠管理、各種帳票作成などの事務作業が大幅に効率化された。これにより教職員間の情報共有が円滑になり、授業準備や生徒指導に充てる時間を十分に確保できるようになった。その結果、学校全体の教育の質の向上や働き方改革の推進につながっている。

(2)生徒一人一台端末の導入

石川県立高等学校における生徒一人一台端末の導入は、国のGIGAスクール構想（平成31年～）を背景に進められた。コロナ禍による臨時休校を契機としてICT環境整備の必要性が一層高まり、県は無線LANの整備やクラウド型学習基盤の導入とあわせて端末配備を加速した。Chromebookの一人一台配備を基盤に、Google ClassroomやドライブなどのGoogle for Educationを活用し、教材配信や課題提出、共同編集が可能となった。これにより、座学だけでなく、農業科の実習では作物の生育記録の蓄積や写真・データの共有、分析に活用されているほか、部活動や課外活動でも連絡調整や活動記録、成果発信に利用され、学習の場と機会を大きく広げている。

(3)図書室の蔵書管理

平成26年度までは図書室の蔵書管理は表計算ソフトウェアとデータベースソフトウェアを活用して行っていたが、平成27年度より学校図書館管理システム『探検隊』が導入されたのに伴い、ハンディタイプのバーコードリーダーも新たに導入された。これにより蔵書点検が以前よりも簡単に行えるようになり、蔵書点検のための閉館期間が短縮された。

また、ライトノベルや雑誌、漫画の配架も増え、授業での利用だけでなく、休み時間の生徒の利用も増えてきた。

平成12年度の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン学科

教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次	3年次	科目 計	教科計
国語	国語Ⅰ	4	4			4	4~20
	国語Ⅱ	4		*2・4	*2	2・4	
	国語表現	2			*2	2	
	現代文	4			*4	4	
	古典Ⅰ	3		*2		2	
	古典Ⅱ	3			*2	2	
	古典講読	2			*2	2	
地理歴史	世界史A	2		○2		2	4~12
	世界史B	4		○4		4	
	日本史A	2			◇2	2	
	日本史B	4			◇4	4	
	地理A	2			◇2	2	
	地理B	4			◇4	4	
公民	現代社会	4	2	2		4	4~8
	倫理	2		*2		2	
	政治・経済	2			*2	2	
数学	数学Ⅰ	4	4			4	4~18
	数学Ⅱ	3		*2・4	*2	2・4	
	数学Ⅲ	3			*4	4	
	数学A	2		*2		2	
	数学B	2			*2	2	
	数学C	2			*2	2	
理科	物理ⅠA	2		△2		2	6~18
	物理ⅠB	4		△4		4	
	物理Ⅱ	2			*2	2	
	化学ⅠB	4	2	2		4	
	化学Ⅱ	2			*2	2	
	生物ⅠA	2		△2		2	
	生物ⅠB	4		△4		4	
保健体育	生物Ⅱ	2			*2	2	9
	体育	7~9	3	2	2	7	
芸術	保健	2	1	1		2	2~10
	音楽Ⅰ	2	☆2			2	
	音楽Ⅱ	2		*2		2	
	音楽Ⅲ	2			*2	2	
	美術Ⅰ	2	☆2			2	
	美術Ⅱ	2		*2		2	
	美術Ⅲ	2			*2	2	
	書道Ⅰ	2	☆2			2	
	書道Ⅱ	2		*2		2	
	書道Ⅲ	2			*2	2	
	○演劇	2~6			*2	2	
	○邦楽	2		*2		2	
外国語	英語Ⅰ	4	4			4	6~10
	英語Ⅱ	4		*2・4	*2	2・4	
	オーラル・コミュニケーションA	2		□2		2	
	オーラル・コミュニケーションB	2			□2	2	
	リーディング	4			*4	4	
	ライティング	4		*2	*2	2・4	
	家庭一般	4		2	2	4	

○◇△☆は、必修選択科目
□は、1科目以上履修すること
＊は、教養・系・自由選択科目
（内 2年次において農業科目2単位を履修する）
科目左の○は、学校設定科目

教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次	3年次	科目 計	教科計
家庭	保育	2~6			*2	2	0~10
	調理	2~18		*2		2	
	食品衛生	2~4			*2	2	
	児童心理	2~6			*2	2	
	○食文化	2			*2	2	
農業	農業基礎	2~4	3			3	14~41
	農業情報処理	2~8	2			2	
	総合実習	4~12	2	1	2	5	
	課題研究	2~4			2	2	
	作物	2~6		*2	*2	2・4	
	栽培環境	2~4		*2		2	
	農業経営	2~1			*2	2	
	野菜	2~8		*2	*2	2・4	
	草花	2~8		*2	*2	2・4	
	測量	2~10		*2	*2	2・4	
	食品製造	2~10		*2	*2	2・4	
	食品化学	2~10		*2	*2	2・4	
	応用微生物	2~6		*2	*2	2・4	
	食品製造機器	2~6			*2	2	
	生物工学基礎	2~6		*2	*2	2・4	
	造園計画	2~10		*2	*2	2・4	
	農業経済	2~4			*2	2	
	食品流通	2~6		*2		2	
	○環境制御	2~6			*2	2	
	○園芸デザイン	2~6			*2	2	
	○造園技術	2~4		*2	*2	2・4	
	○グリーンライフ	2			*2	2	
	○造園製図	2~4		*2	*2	2・4	
	○アメニティデザイン	2			*2	2	
	○醸造	2			*2	2	
	○森林科学	2			*2	2	
	○園芸セラピー	2			*2	2	
工業	土木施工	2~6		*2	*2	2・4	0~10
	土木設計	2~8		*2	*2	2・4	
	環境保全	2~10			*2	2	
	簿記	2~8		*2		2	
商業	情報処理	2~5		*2	*2	2・4	0~18
	マーケティング	2~5			*2	2	
	商業デザイン	2~8			*2	2	
	商業法規	2~5			*2	2	
	英語実務	2~9		*2		2	
	国際経済	2~4			*2	2	
	○ビジネス技術	2~4		*2		2	
	クラフトデザイン	2~4		*2	*2	2・4	
	○産業社会と人間	2~4	2			2	
	○キャリアプランニング	1		1		1	
○福祉	○社会福祉基礎	2~4		*2	*2	2・4	0~8
	○社会福祉援助技術	2~4		*2		2	
	○社会福祉実習	2~6			*2	2	
○環境	○環境科学	2~4		*2		2	0~8
	○地球環境	2~4			*2	2	
	○地域環境	2~4			*2	2	
	○環境浄化	2~4			*2	2	
総合的な学習の時間			1~6		1	1	1
ホームルーム活動				1	1	1	3
合計				32	32	30	94

平成21年度以降の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科									
教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次	3年次	単位数の合計		備考	
						科目	教科		
普通 教育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	国語	国語表現Ⅱ	2		* 2	0・2			
		国語総合	4	4		4			
		現代文	4		2	2	4		
		古典	4	* 2	* 2	0・4	8～14		
	地理歴史	世界史A	2	2		2		◇必履修選択科目(1科目選択)	
		日本史A	2	◇ 2		0・2			
		地理A	2	◇ 2		0・2	4		
	公民	現代社会	2		2	2			
		政治・経済	2		* 2	0・2	2～4		
	数学	数学Ⅰ	3	3		3			
		数学Ⅱ	4		* 2	* 2	0・4		
		数学A	2	* 2		0・2			
		数学B	2		* 2	0・2	3～11		
	理科	理科総合A	2	2		2			
		理科総合B	2		2	2			
		化学Ⅰ	3	* 2	* 2	0・4			
		生物Ⅰ	3	* 2	* 2	0・4	4～12		
	保健体育	体育	7～8	2	2	3	7		
		保健	2	1	1	2	9		
	芸術	音楽Ⅰ	2	☆ 2		0・2		☆必履修選択科目(1科目選択)	
		音楽Ⅱ	2		* 2	0・2			
		美術Ⅰ	2	☆ 2		0・2			
		美術Ⅱ	2		* 2	0・2			
		工芸Ⅰ	2		* 2	0・2			
		工芸Ⅱ	2		* 2	0・2			
		書道Ⅰ	2	☆ 2		0・2			
		書道Ⅱ	2		* 2	0・2			
	○邦楽		2		* 2	0・2	2～10		
	外国語	オーラル・コミュニケーションⅠ	2		* 2	0・2			
		英語Ⅰ	3	3		3			
		英語Ⅱ	4		* 4	* 2	0・6		
	○英語探究		2		* 2	0・2	3～13		
	家庭	家庭基礎	2	2		2	2		
	情報	情報A	2	2		2	2		
普通科目単位数計			23	9～19	7～17		39～59		
専 門 教 育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	農業	農業科学基礎	2～4	3		3		* 選択科目	
		環境科学基礎	2～4		* 2	0・2		2年次2単位以上履修	
		課題研究	2～4		2	2	4		
		総合実習	4～8	2	2	4	8		
		農業情報処理	2～4		* 2	0・2			
		作物	2～8		* 2	* 2	0・4		
		野菜	2～8		* 2	* 2	0・4		
		果樹	2～8		* 2	* 2	0・2		
		草花	2～8		* 2	* 2	0・4		
		食品製造	2～8		* 2	* 4	0・6		
		食品化学	2～6		* 4	* 2	0・6		
		微生物基礎	2～4		* 2	* 2	0・4		
		植物バイオテクノロジー	2～4		* 2	* 2	0・4		
		動物・微生物バイオテクノロジー	2～4			* 2	0・2		
		農業経済	2～4		* 2		0・2		
		食品流通	2～4		* 2		0・2		
		農業土木設計	2～8		* 2	* 4	0・6		
		農業土木施工	2～4		* 2	* 2	0・4		
		造園計画	2～8		* 2	* 2	0・4		
		造園技術	2～8		* 2	* 2	0・4		
		測量	2～8		* 2・4	* 2	0・4・6		
		生物活用	2～6		* 2	* 2	0・4		
	○園芸デザイン		2			* 2	0・2		
	○造園製図		2～4		* 2	* 2	0・4		
	○アメニティデザイン		2			* 2	0・2		
	○醸造		2		* 2		0・2		
	○農業実践演習		2		* 1	* 1	0・2	17～49	
	工業	地球環境化学	2～10			* 2	0・2	0～2	
	商業	簿記	2～6		* 2	* 2	0・4		
		情報処理	2～6			* 2	0・2	0～6	
	家庭	フードデザイン	2～6		* 2		0・2	0～2	
	福祉	社会福祉基礎	2～6		* 2	* 2	0・4		
		社会福祉援助技術	2～6		* 2		0・2		
		基礎介護	2～6		* 2		0・2		
		社会福祉実習	2～10			* 2	0・2	0～10	
	○総合	○キャリアガイダンス	1				1		
専門科目単位数計			6	10～21	12～23		28～50		
農業科目単位数計			5	6～21	6～23		17～49		
ホームルーム活動			1	1	1	3	3		
総合的な学習の時間								課題研究で4単位分を代替	
単位数合計			30	30・31	30・31		90・92		

教科・科目左の○は、学校設定教科・科目
◇ ☆ は、必履修選択科目 * は、選択科目

平成28年度以降の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科									
教科	科目	標準 単位数	1年次	2年次 食品科学：生物資源：環境科学	3年次 食品科学：生物資源：環境科学	単位数の合計		備考	
						科目	教科		
普通 教育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	国語	国語総合	4	4		4			
		国語表現	3		* 2	0・2			
		現代文B	4		2	4			
		古典A	2	* 2		0・2	8～12		◇必履修選択科目(1科目選択)
	地理歴史	世界史A	2	2		2			
		日本史A	2		◇ 2	0・2			
		地理A	2		◇ 2	0・2	4		
	公民	現代社会	2		2	2			
		政治・経済	2		* 2	0・2	2～4		
	数学	数学Ⅰ	3	4		4			
		数学Ⅱ	4		* 2	0・4			
		数学A	2		* 2	0・2			
		数学B	2		* 2	0・2			
	○数学演習		2		* 2	0・2	4～12		* 選択科目
	理科	科学と人間生活	2		2	2			3年次で生物を履修する場合は、生物基礎を履修していること。
		化学基礎	2	2		2			
		化学	4		* 2	0・4			
		生物基礎	2		* 2	0・2			
		生物	4		* 4	0・4	4～14		
	保健体育	体育	7～8	2	2	3	7		
		保健	2	1		2	9		
	芸術	音楽Ⅰ	2	☆ 2		0・2		☆必履修選択科目(1科目選択)	
		音楽Ⅱ	2		* 2	0・2		* 選択科目	
		美術Ⅰ	2	☆ 2		0・2		2年次で、Ⅱを付した科目を履修する場合は、それぞれに対応するⅠを付した科目を履修していること。	
		美術Ⅱ	2		* 2	0・2			
		工芸Ⅰ	2		* 2	0・2			
		書道Ⅰ	2	☆ 2		0・2			
	○邦楽		2			0・2	2～8		
	外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	3	2		4			
		コミュニケーション英語Ⅱ	4			* 4	0・4		
		英語会話	2			* 2	0・2		
	○英語探究		2		* 2	0・2	4～12		
	家庭情報	家庭基礎	2	2		2	2		農業情報処理の履修で代替
		社会と情報	2						
共通科目単位数計			21	11～19	7～17		39～57		
専 門 教 育 に 関 する 各 教 科 ・ 科 目	農業	農業と環境	2～6	3		3		農業の専門教科・科目を25単位以上履修	
		課題研究	2～6		2	4		□■○コース原則	
		総合実習	4～8		2	4	6	履修選択科目	
		農業情報処理	2～6	2		2	4	2年次4～6単位履修	
		作物	2～8		□ 2	□ 2	0・4		
		野菜	2～8		□ 2	□ 2	0・4		
		果樹	2～8		□ 2	□ 2	0・2		
		草花	2～8		■ 2	■ 2	0・4		
		食品製造	2～8		2	4	0・6		
		食品化学	2～8	4		2	0・6		
		微生物利用	2～6	* 2		* 2	0・4		
		植物バイオテクノロジー	2～6		○ 2	○ 2	0・4		
		食品流通	2～6		* 2	* 2	0・4		
		農業土木設計	2～8			□ 2	0・6		
		農業土木施工	2～6			□ 2	0・4		
		水循環	2～6			* 2	0・2		
		造園計画	2～10			■ 2	0・4		
		造園技術	2～6			■ 2	0・6		
		環境緑化材料	2～6			* 2	0・4		
		測量	2～8			2	0・4		
		生物活用	2～6		■ 2	■ 4	0・6		
		グリーンライフ	2～6			* 2	0・2		
	○園芸デザイン		2			* 2	0・2		
	○造園製図		4		* 2		* 2	0・4	
	○アメニティデザイン		2		* 2		* 2	0・2	
	○醸造		2			* 2	0・2		
	○産業探究		2	2			2		
	○アグリビジネス		4		□ 2	□ 2	0・4		
	○IT農業探究		2			* 2	0・2		
	○測量演習		2			* 2	0・2		
	○農業実践演習		2		* 1	* 1	0・2	27～49	
	工業	地球環境化学	2～6		* 2		0・2	0～2	
	商業	簿記	2～6		* 2		0・4		
		情報処理	2～6			* 2	0・2	0～6	
	家庭	子どもの発達と保育	2～6			* 2	0・2		
		フードデザイン	2～6		* 2		0・2	0～4	
	福祉	社会福祉基礎	2～6		* 2		0・2		
		介護福祉基礎	2～6		* 2		0・2		
		コミュニケーション技術	2～4		* 2		0・2		
		生活支援技術	2～12			* 2	0・2		
		ところとからだの理解	2～12			* 2	0・2	0～10	
	○総合	○キャリアガイダンス	1	1			1		
専門科目単位数計			8	10～19	12～23		30～50		
農業科目単位数計			7	10～19	10～23		27～49		
総合的な学習の時間			3～6					課題研究の履修で代替	
ホームルーム活動				1	1	1	3	3	
単位数合計			30	30・31	30・31		90・92		

教科・科目左の○は、学校設定教科・科目
☆ ◇ は、必履修選択科目 □ ■ ◎ は、コース原則履修選択科目 * は、選択科目

平成31年度の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科											
	教 科	科 目	標 準 単位数	1年次	2年次		3年次		単位数の合計		備 考
					食品科学：生物資源：環境科学	食品科学：生物資源：環境科学	食品科学：生物資源：環境科学	食品科学：生物資源：環境科学	科目	教科	
普通教育に関する各教科・科目	国 語	国語総合	4	4					4		
		国語表現	3				* 2	0・2			
		現代文B	4		2	2	4				
		古典A	2		* 2		0・2	8～12			
	地理歴史	世界史A	2	2				2			◇必履修選択科目（1科目選択）
		日本史A	2				◇ 2	0・2			
		地理A	2				◇ 2	0・2	4		
		現代社会	2		2		2				
	公 民	政治・経済	2				* 2	0・2	2～4		
		数学Ⅰ	3	4				4			
	数 学	数学Ⅱ	4		* 2		* 2	0・4			
		数学A	2		* 2			0・2			
		数学B	2				* 2	0・2			
		○数学演習	2		* 2			0・2	4～12		
	理 科	科学と人間生活	2		2			2		* 選択科目 3年次で生物を履修する場合は、生物基礎を履修していること。	
		化学基礎	2	2				2			
		化学	4		* 2		* 2	0・4			
		生物基礎	2		* 2		* 2	0・2			
		生物	4				* 4	0・4	4～14		
	保健体育	体育	7～8	2	2		3	7			
		保健	2	1	1			2	9		
	芸 術	音楽Ⅰ	2	☆ 2				0・2		☆必履修選択科目（1科目選択） * 選択科目 2年次で、Ⅱを付した科目を履修する場合は、それぞれに対応するⅠを付した科目を履修していること。	
		音楽Ⅱ	2		* 2			0・2			
		美術Ⅰ	2	☆ 2				0・2			
		美術Ⅱ	2		* 2			0・2			
		工芸Ⅰ	2		* 2			0・2			
		書道Ⅰ	2	☆ 2				0・2			
		○邦楽	2				* 2	0・2	2～8		
		コミュニケーション英語Ⅰ	3	2	2			4			
	外国語	コミュニケーション英語Ⅱ	4				* 4	0・4			
		英語会話	2				* 2	0・2			
		○英語探究	2		* 2			0・2	4～12		
家庭情報	家庭基礎	2	2				2	2			
	社会と情報	2							「農業情報処理」で2単位分代替		
共通科目単位数計				21	11～19	7～17		39～57			
専門教育に関する各教科・科目	農 業	農業と環境	2～6	3				3		農業の専門教科・科目を25単位以上履修 □■◎コース原則履修選択科目 2年次4～6単位履修 3年次6単位履修	
		課題研究	2～6		2	2	4				
		総合実習	4～8		2	4	6				
	農 業	農業情報処理	2～6	2	2		4				
		作物	2～8		□ 2	□ 2	0・4				
		野菜	2～8		□ 2	□ 2	0・4				
	農 業	果樹	2～8			* 2	0・2				
		草花	2～8		■◎ 2	■◎ 2	0・4				
		食品製造	2～8	2		4	0・6				
	農 業	食品化学	2～8	4	2	2	0・6				
		微生物利用	2～6	* 2		* 2	0・4				
		植物バイオテクノロジー	2～6		◎ 2	◎ 2	0・4				
	農 業	食品流通	2～6		* 2	* 2	0・4				
		農業土木設計	2～8			□ 2	□ 4	0・6			
		農業土木施工	2～6			□ 2	□ 2	0・4			
	農 業	水循環	2～6				* 2	0・2			
		造園計画	2～10			■ 2	■ 2	0・4			
		造園技術	2～6			■ 2	■ 4	0・6			
	農 業	環境緑化材料	2～6			* 2	* 2	0・4			
		測量	2～8			2	2	0・4			
		生物活用	2～6		■ 2		■ 4	0・6			
	農 業	グリーンライフ	2～6				* 2	0・2			
		○園芸デザイン	2				* 2	0・2			
		○造園製図	4			* 2	* 2	0・4			
	農 業	○アメニティデザイン	2			* 2	* 2	0・2			
		○醸造	2				* 2	0・2			
		○産業探究	2	2			2				
	農 業	○アグリビジネス	4		□ 2	□ 2	0・4				
		○I T農業探究	2				* 2	0・2			
		○測量演習	2			* 2	0・2				
	農 業	○農業実践演習	2		* 1	* 1	0・2	27～49			
		地球環境化学	2～6		* 2		0・2	0～2			
		簿記	2～6		* 2		* 2	0・4			
	商 業	情報処理	2～6				* 2	0・2	0～6		
		子どもの発達と保育	2～6				* 2	0・2			
	家 庭	フードデザイン	2～6					0・2	0～4		
		社会福祉基礎	2～6		* 2			0・2			
	福 祉	介護福祉基礎	2～6		* 2			0・2			
		コミュニケーション技術	2～4		* 2			0・2			
		生活支援技術	2～12				* 2	0・2			
		こころとからだの理解	2～12				* 2	0・2	0～10		
		○総合	○キャリアガイダンス	1	1			1			
	専門科目単位数計				8	10～19	12～23		30～50		
	農業科目単位数計				7	10～19	10～23		27～49		
	総合的な探究の時間				3～6					「課題研究」で4単位分代替	
	ホームルーム活動				1	1	1	3	3		
	単位数合計				30	30・31	30・31		90・92		

教科・科目左の ○ は、学校設定教科・科目
☆ ◇ は、必履修選択科目 □ ■ ◎ は、コース原則履修選択科目 * は、選択科目

令和4年度以降の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科										石川県立翠星高等学校（全日制課程）									
教 科		科 目	標 準 単位数	1 年次	2 年次			3 年次			単位数の合計		備 考						
					生物 資源	食品 科学	環境 科学	生物 資源	食品 科学	環境 科学	科目 数	教科 数							
各学科に共通する 各教科・科目	国 語	現 代 の 国 語	2	2							2		8～12						
		言 語 文 化	2	2							2								
		文 学 国 語	4			2			2			4							
		国 語 表 現	4			*2			*2			0・4							
	地理歴史	地 理 総 合	2								2		4						
		歴 史 総 合	2			2					2								
	公 民	公 共	2	2							2		2～4						
		政 治 ・ 経 済	2						*2			0・2							
	数 学	数 学 I	3	3							3		5～11						
		数 学 II	4			*2			*2			0・4							
		数 学 A	2			2					2								
		数 学 B	2						*2			0・2							
	理 科	科 学 と 人 生 活	2	2							2		◇ 必修選択科目（1科目選択）						
		化 学 基 礎	2			◇2					0・2								
		化 学	4						*4			0・4							
		生 物 基 礎	2			◇2					0・2								
	保健体育	生 物	4						*4			0・4	4～8						
		体 育	7～8	3		2			2			7							
	芸 術	保 健	2	1		1					2		9						
		音 楽 I	2	☆2							0・2			☆必修選択科目（1科目選択）					
	外国語	音 楽 II	2						* 2			0・2							
		美 術 I	2	☆2							0・2								
		美 術 II	2						* 2			0・2							
		工 芸	2			* 2					0・2								
		書 道 I	2	☆2							0・2								
		英語コミュニケーションⅠ	3	3							3								
	家 庭 情 報	英語コミュニケーションⅡ	4			* 2			* 2			0・4	3～11						
		論 理 ・ 表 現 I	2			* 2					0・2								
論 理 ・ 表 現 II		2						* 2			0・2								
家 庭 基 礎		2	2							2	2								
共 通 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計				22	11～17			6～16			39～55		1 年次「農業と情報」で2単位分代替						
専門学科において開設される 各教科・科目	農 業	農 業 と 環 境	2～6	3							3		農業の専門教科・科目を 25単位以上履修 □■▲コース原則履修選択科目 2年次6単位履修 3年次6単位履修						
		課 題 研 究	2～6			2			3			5							
		総 合 実 習	3～8	2		2				4				8					
		農 業 と 情 報	2～6	2		2						4							
		作 物	2～8			◇ 2			◇ 2			0・4							
		野 菜	2～8			◇ 2			◇ 2			0・4							
		果 樹	2～8						*2			0・2							
		草 花	2～8			◇ 2			◇ 2			0・4							
		農 業 経 営	2～6			*2			*2			0・4							
		農 業 機 械	2～6							*2		0・2							
		植 物 バイオテクノロジー	2～6			*2			*2			0・4							
		食 品 製 造	2～8			■ 2			■ 2			0・4							
		食 品 化 学	2～8			■ 2			■ 2			0・4							
		食 品 微 生 物	2～6			■ 2			■ 2			0・4							
		食 品 流 通	2～6			*2			*2			0・4							
		農 業 土 木 設 計	3～8					△4			△2	0・6							
		農 業 土 木 施 工	2～6					*2			*2	0・4							
		水 循 環	2～6					*2				0・2							
		造 園 計 画	3～8								▲2	0・6							
		造 園 施 工 管 理	2～6								▲2	0・6							
	造 園 植 栽	2～6						*2		*2	0・4								
	測 量	3～8						△2			△4	0・6							
	生 物 活 用	2～6			*2				*2			0・4							
	地 域 資 源 活 用	2～8							*2			0・2							
	○ 農 業 実 践	2				*1			*1			0・2	32～50						
	工 業	社 会 基 盤 工 学	2～4						*2			0・2	0～2						
		簿 記	2～6							*2		0・4							
	商 業	情 報 処 理	2～6							*2		0・2	0～6						
		保 育 基 礎	2～6							*2		0・2							
	家 庭	フ ェ ッ ド デ ザ イ ン	2～6						*2			0・2							
		食 文 化	1～4							*2		0・2	0～6						
	福 祉	社 会 福 祉 基 礎	2～6						*2			0・2							
		介 護 福 祉 基 礎	2～6							*2		0・2							
		コ ミ ュ ニ ケーション技術	2～4						*2			0・2							
		生 活 支 援 技 術	2～12							*2		0・2							
体 育	こころとからだの理解	2～10							*2		0・2	0～10							
	ス ポー ツ	2～10								*2	0～2	0～2							
○ 総 合	○ 日本の伝統音楽と農業	2							*2		0・2	0～2							
専 門 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計				7	12～19			13～24			32～50								
総 合 的 な 探 究 の 時 間				3～6									「課題研究」で5単位分代替						
ホー ム ルーム 活 動				1	1			1			3								
単 位 数 合 計				30	30・31			30・31			90・92								

..... 生徒指導課

令和8年度の入学生に適用する教育課程表

総合グリーン科学科				石川県立翠星高等学校（全日制課程）									
教科	科目	目	標準 単位数	1年次	2年次		3年次		単位数の合計		備 考		
					生物 資源	食品 科学	環境 科学	生物 資源	食品 科学	環境 科学		科目	教科
各 学 科 に 共 通 す る 各 教 科 ・ 科 目	国 語	現 代 の 国 語	2	2					2	8～12	◇ 必修選択科目（1科目選択）		
		言 語 文 化	2	2					2				
		文 学 国 語	4		2		2		4				
		国 語 表 現	4		*2		*2		0・4				
	地理歴史	地 理 綜 合	2				2		2	4			
		歴 史 綜 合	2		2				2				
	公 民	公 共	2	2					2	2～4			
		政 治 ・ 経 済	2				*2		0・2				
	数 学	数 学 I	3	3					3	5～9			
		数 学 II	4		*2		*2		0・4				
		数 学 A	2		2				2				
		数 学 B	2					*2	0・2				
	理 科	数 学 C	2						*2	0・2			
		科 学 と 人 間 生 活	2	2					2	4～8			
		化 学 基 礎	2		◇2				0・2				
		化 学	4				*4		0・4				
	生 物 基 礎	2		◇2				0・2					
	保 健 体 育	生 物	4					*4	0・4	9			
		体 育	7～8	3	2		2		7				
		保 健	2	1	1				2				
		芸 術	音 楽 I	2	☆2							0・2	2～6
	音 楽 II	2				*2		0・2					
	美 術 I	2	☆2					0・2					
	美 術 II	2				*2		0・2					
	工 芸	2		*2				0・2					
	書 道 I	2	☆2					0・2					
外 国 語	英 語 コミュニケーション I	3	3					3	5～11				
	英 語 コミュニケーション II	4		*2		*4		0・6					
	論 理 ・ 表 現 I	2		2				2					
家 庭 情 報	家 庭 基 礎	2	2					2	2	1年次「農業と情報」で2単位分代替			
共 通 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計				22	13～17		6～16		41～55				
専 門 学 科 に お いて 開 設 さ れ る 各 教 科 ・ 科 目	農 業	農 業 と 環 境	2～6	3					3	農業の専門教科・科目を 25単位以上履修 □■▲コース原則履修選択科目 2年次6単位履修 3年次6単位履修 測量については、環境科学コースの 環境設計分野は6単位 原則履修科目 造園分野は4単位 選択科目			
		課 題 研 究	2～6		2		3		5				
		綜 合 実 習	3～8	2		2		4			8		
		農 業 と 情 報	2～6	2		2			4				
		作 物	2～8		□ 2		□ 2		0・4				
		野 菜	2～8		□ 2		□ 2		0・4				
		果 樹	2～8				*2		0・2				
		草 花	2～8		□ 2		□ 2		0・4				
		栽 培 と 環 境	2～6		*2				0・2				
		農 業 経 営	2～6		*2		*2		0・4				
		植 物 バイオテクノロジー	2～6		*2		*2		0・4				
		食 品 製 造	2～8		■ 2		■ 2		0・4				
		食 品 化 学	2～8		■ 2		■ 2		0・4				
		食 品 微 生 物	2～6		■ 2		■ 2		0・4				
		食 品 流 通	2～6		*2		*2		0・4				
		農 業 土 木 設 計	3～8			△2		△4	0・6				
		農 業 土 木 施 工	2～6			*2		*2	0・4				
		水 循 環	2～6			*2			0・2				
		工 業 商 業 家 庭 福 祉	造 園 計 画	3～8			▲2		▲2		0・4		
			造 園 施 工 管 理	2～6			▲2		▲2		0・4		
	造 園 栽 植		2～6			▲2		▲2	0・4				
	測 量		3～8			△4,*2		△2,*2	0・4・6				
	生 物 活 用		2～6				*2		0・2				
	地 域 資 源 活 用		2～8				*2		0・2				
	造 園 総 合		4			*2		*2	0・4				
	○ 農 業 実 践		2		*1		*1		0・2				
工 業 商 業 家 庭 福 祉	社 会 基 盤 工 学	2～4					*2	0・2	0～2				
	簿 記	2～6		*2	*2	*2	*2	0・4	0～6				
	情 報 処 理	2～6				*2		0・2					
	保 育 基 礎	2～6				*2		0・2					
福 祉	フ ー ド デ ザ イン	2～6		*2				0・2	0～4				
	食 文 化	1～2				*2		0・2					
	社 会 福 祉 基 礎	2～6		*2				0・2					
	介 護 福 祉 基 礎	2～6				*2		0・2					
福 祉	コ ミ ュ ニ ケ ー シ ョ ン 技 術	2～4		*2				0・2	0～10				
	生 活 支 援 技 術	2～12				*2		0・2					
	こ ろ と か ら の 理 解	2～10				*2		0・2					
	ス ポ ー ツ II	2～10					*2	0・2					
体 育	○ 総 合	○ 日 本 の 伝 統 音 楽 と 農 業	2				*2	0・2	0～2				
専 門 教 科 ・ 科 目 単 位 数 計				7	12～17		13～24		32～48				
総 合 的 な 探 究 の 時 間				3～6							「課題研究」で5単位分代替		
ホ ー ム ル ー ム 活 動				1	1		1		3				
単 位 数 合 計				30	30・31		30・31		90・92				

教科・科目左の ○ は、学校設定教科・科目
☆ ◇ は、必修履選択科目 □ ■ △ ▲ は、コース原則履修選択科目 * は、選択科目

1. はじめに

翠星高等学校は、2016年4月より総合グリーン科学科、生物資源コース・食品科学コース・園芸福祉コース・緑地デザインコース・環境土木コースの5つのコースから、「食」、「農」、「環境」をテーマに食品科学コース・生物資源コース・環境科学コースの3つのコースに再編することにより、生徒自らが主体的に学び、問題解決を図っていく資質や能力を身につけなければならない時代となり、生徒指導の対応も変化を求められるようになった。

2013年にいじめ防止対策推進法等の関係法規の成立など学校、生徒指導を取り巻く環境が大きく変化するとともに、生徒指導上の課題がより一層深刻化している状況の中、2020年には、新型コロナ感染拡大により、学校教育がはじまって以来、初めての全国の小中高校のすべての学校が臨時休業となり、生徒指導の体制も大きく変化することとなった。また、2022年12月には、生徒指導提要の改訂が12年ぶりに公表された。その大きな変動の中、本校においては規範意識の醸成とマナーの向上を目指し、懇切丁寧な指導・生徒理解と深い愛情を併せ持ち、農業高校ならではの大らかさで教科指導に取り組み、全職員で課題解決に向けて努力している。

具体的な取り組みとしては、生徒心得の策定、学校いじめ防止基本方針の策定といじめ問題対策委員会の常設、ネットトラブル防止教室、薬物乱用防止教室、非行防止教室、着こなしセミナー、交通安全講話の実施、ヤングイーグル隊ウエストによる交通安全啓発活動、S&Pサポート制度等があげられる。

2. 生徒指導計画について

(1)目標

ア 教養を高め、自ら学ぶ態度の確立を図る。

イ 規範意識を高め、「規律ある集団づくり」に努める。

ウ 相互の人格を尊重し、思いやりや慈しみを持って人と接することのできるような精神と実践力のある生徒を育成する。

(2)方針

ア あらゆる機会を捉えて生徒とのコミュニケーションを図り、生徒と教師の相互理解を深める。

イ 目的を持って学校生活を送れるように、学校と家庭の連携を密にする。

ウ 指導にあたっては、全教職員の共通理解のもと

一致団結（組織的）して行う。

エ 「いじめ」の防止と根絶に向け、いかなる原因が存在しても、いじめを肯定する理由とはならないという明快で毅然とした態度で指導に臨む。

(3) 取り組み

ア 基本的な生活習慣を身につけ、人格の健やかな発達と成長を支援する。

イ 「生徒心得」を遵守して、高校生としての品位と責任のある行動がとれるような教育活動を実践する。

ウ いじめの未然防止及び早期対応に向け、「学校いじめ防止基本方針」に則り、より実効的な指導を実施する。

3. 年間指導重点事項

☆規範意識の醸成とマナーの向上

「全ての生徒が落ち着いた環境のもとで、自ら学習活動や学校行事に励むことができる学校」を目標とし、生徒が良好な人間関係を築くための基盤となる「規範意識の醸成」、「ルールの確立」、「マナーの向上」を図り、誰もが「安心できる学校」に向けて規律ある集団づくりをすすめる。

規範意識を高め、年次・年齢にふさわしい、装い（身だしなみ）、ふるまい（態度）、受け答え（言葉遣い）を身に付けさせ、学校生活において同様の行為で繰り返すことへの注意を受けることのないよう意識させる。

また、ネットトラブルやモラル・人権意識の未成熟さ、社会性の未発達による「いじめ」に対し、「いかなる原因が存在してもいじめを肯定する理由とはならない」という明快で毅然とした態度で指導に臨み、全教職員がいじめはもちろん、いじめをはやし立てたり傍観したりする行為も絶対に許さないという強い姿勢で教育活動を実践する。

さらに、自転車乗車マナーの向上を意識させながら、道路交
通法などの法令遵守を呼び掛け、交通安全に努める。

4. 日常的重点指導項目

(1)品位ある服装と容儀の維持

生徒心得の遵守を徹底し、制服のだらしない着用や基準を無視した着こなしは積極的に指導する。また度が過ぎる違反に対しては再登校指導を実施する場合がある。

- ・登校指導の実施と教職員の参加。
- ・服装容儀指導の毎月実施と年次団との連携による再検査の徹底。指導後1週間以内の是正を徹底する。

(2)遅刻の防止

基本的な生活習慣を身に付けるため、無遅刻月間の取り組みや遅刻防止に関する保護者との協力連携体制を通じて、遅刻者数減少を目指す。

- ・無遅刻月間を設定し、遅刻をした生徒はその日の放課後に奉仕作業を行う。

(3)身の回りの整理整頓と貴重品管理の徹底

身の回りの整理整頓をし、学習にふさわしい周辺環境を確立する。終礼後、机の上や周辺に私物を置いたままの状態で帰宅しない。また、学業に不必要な物を校内で所持しない。さらに、盗難防止の観点からも高額な金銭や物品は学校に持ち込まない。やむを得ず持ち込む場合は必ず生徒ロッカーに入れ、鍵をかけて管理するかHR担任に預けること。(ロッカーの鍵がかかっていない場合は、生徒指導課でかける場合がある。)

(4)諸届願の徹底

安易な無断欠席、遅刻、無届アルバイトがみられるため、様々な許可願・届出および報告書の提出を徹底し、生徒の校内外での状況把握を図り、学校安全管理、適切な学習環境の維持に努める。

- ・許可事項
入室（2種類）、自動車運転免許取得、アルバイト（3種類：就業・許可願、継続願、長期休業期間中許可願）
- ・届出事項
早退、外出、公欠・忌引、異装、自転車通学、自転車変更、（自動車運転免許証取得に関わる検定受検のための）欠席、旅行、盗難紛失、交通事故状況調査
- ・報告書
アルバイト

5. 携帯電話等の使用に関するルール

校舎内において携帯電話等を使用もしくは持ち込んだ場合、一度生徒指導課で預かり、指導回数に応じて

段階的な指導を実施する。

- ・1回目（反省文指導）
放課後反省文を書き、各職員室（第1、2、3職 or 進路）を周り、各居室の先生による指導（指導後に認印）を受けたうえで、生徒指導室に提出した後に携帯電話を返却。
- ・2回目（担任同席による保護者招聘）
保護者を招き、指導協力の依頼をした後返却。その際、次回違反した場合は数日間学校で預かる旨を約束。
- ・3回目（数日預かりのうえ保護者返却）
前回約束した日数の学校預かり期間を経た後、保護者に対し再び指導協力の依頼を実施した後返却。

6. 取り組み強化月間の設定について

- ①無遅刻月間（5、9、11月）
- ②下校指導月間（7、12月）

最後に、近年の生徒指導課の取り組みの成果について簡単に紹介する。令和元年より授業の始めと終わりの挨拶礼法の徹底により、気持ちよいあいさつができる生徒が増えた。併せてフォーマル月間をなくし、ネクタイを常時着用することを徹底した。このことにより、以前より制服の着こなしは良くなった。しかし、未だに着こなしについての指導を行わなければならない状態は継続している。



YEW活動の様子

1. はじめに

2020年に猛威を振るった新型コロナウイルスにより、学習が制限され、特別活動などの学校行事が一時的に自粛・制限を余儀なくされた。マスクをつけた中での学校生活、感染を予防するためソーシャルディスタンスを徹底した中での行事は、声を出すこともできずコロナ禍以前のように盛り上がるできない窮屈なものとなった。

その後、コロナが終息に向かい、学校生活も本来の盛り上がりを取り戻していった。生徒の笑顔も増え、学校に明るさが戻った。以下の行事では、コロナ禍以前とコロナ禍後の様子を示す。

2. マナー環境美化週間

平成14年（2002年）度より開始されたマナー習慣は、平成26年度より朝のあいさつ運動が始まり、より強化された。毎月定められた日に生徒会役員の生徒と各ホーム生徒が玄関に立ちあいさつを交わすことで、朝から活気が生まれるとともに職員との交流の場となった。

また、朝のあいさつ運動・放課後の環境美化委員会を中心とした美化清掃が定着し、有志で参加する生徒も増えた。

令和5年（2023年）度より農業クラブ役員の生徒も朝のあいさつ運動に加わり、生徒会の生徒と農業クラブの生徒が連携を図る活動へと発展した。

令和8年度からは、「マナーの向上」を掲げ、新たな取り組みを計画・実施する予定である。



PTAと連携したマナー環境美化週間の様子

3. 文化祭

コロナ禍以前は、11月上旬に農作物の収穫・販売も含めた3日間の開催であった。そのうち1日が一般開放として、地域の方々にも来校してもらい大きな賑わいを見せていた。講演会も開き多くのゲストを招いた形で活気のあるものとなっていた。

コロナ禍には、コロナウイルスの流行の様子や感染予防対策徹底のもと、『文化的行事』として農作物の即売会、体育館でクラス企画など可能な限りの形での開催となった。従来は、本校体育館で開催されていた『芸能王選手権』も松任文化会館を借りて開催し、生徒の思い出に残るよう職員が知恵を絞って形にしていた。

コロナの終息とともに、文化祭も以前の形に戻して開催することとなった。開催時期を11月上旬あたりとして、2日間での開催となった。1日目に『芸能王選手権』、2日目に『一般開放』として準備を進めた。当初は、大きな行事の準備に戸惑う生徒も多く、職員も手探りの状態でありながらも共に協力しながら学校行事を手作りしていく様子が見られた。令和6年度は、一般開放の日が大雨の予報であったので、造園棟の大きな催事用のテントを立てることになり、教員と生徒が一緒になって頑張って立てた時には歓声が上がった。

特別活動や学校行事が改めて、大いに学校に活力を与えるものだ実感した。今後も生徒・職員が協力しながら盛り上げていけるものにしていきたいと考えている。



催事用のテントの様子

進路指導課

1. 近10年の情勢

この10年の間に日本を取り巻く世界の情勢は大きく様変わりした。令和2年から世界的に大流行した新型コロナウイルスは人々の生活様式全般を変えることとなった。世界的な紛争も後を絶たない。令和4年にはロシアがウクライナへ侵攻を開始、令和8年にはアメリカとイスラエルがイランを攻撃した。石川県内における大きな出来事といえば、やはり令和6年元日に起きた能登半島地震や、翌年の能登豪雨が挙げられる。

こういった情勢の中、日本の人手不足は深刻で、厚生労働省が発表している「高校新卒者のハローワーク求人に係る求人・求職状況」を見ると、高卒者に対する有効求人倍率は令和5年には3倍を突破し、令和7年には3.7倍にもなっている。石川県内の求人倍率も高く、令和8年3月高校新卒者のハローワーク求人に係る都道府県別求人・求職状況（令和7年7月末現在）は全国平均よりやや高い、3.84倍となっている。

こういった状況は、本校の就職希望者にとってはありがたい。近年は就職希望者における内定率がほぼ100%となっている。

2. 就職者と進学者の割合やその傾向

令和8年度卒業予定者の就職希望者と進学希望者の割合は、ほぼ6：4である。近年は7：3～5：5で推移しており、就職希望者の方が多い傾向がある。

令和元年度から令和7年度までの就職者の業種割合は、製造業が最も多く23.2%、次いでサービス・飲食店が17.2%、卸売・小売が14.8%、建設・建築業が14.6%となっている。農業関連企業・造園業は9.2%となっている。

一方、進学希望者の合格先の割合は、四年制大学が31.2%、短期大学が9.1%、公立専門学校・大学校・高等技術学校等が5.2%、専修学校・各種学校等が54.5%となっている。

3. 国公立大学への進学者

国公立大学へは、毎年2名～5名程度が進学している。令和4年度には石川県立大学へ5名の生徒が進学し、令和7年度には石川県立大学へ2名、福井県立大学へ1名、公立小松大学へ1名の生徒がそれぞれ進学した。

年度	大 学 名	人数
R 元	石川県立大学	1 名
R 2	石川県立大学	3 名
R 4	石川県立大学	5 名
R 5	石川県立大学	1 名
R 5	福井県立大学	1 名
R 6	石川県立大学	1 名
R 7	石川県立大学	2 名
R 7	福井県立大学	1 名
R 7	公立小松大学	1 名

4. 進路指導方針

進路指導課では、以下のような目標を方針として示し、取り組んできた。

(1) 各年次、担任と連携を密にしながら、生徒一人ひとりの自己実現に向けて、指導・助言を行えるような支援体制の確立を目指す。

(2) 進路に際し必要な基礎学力の向上を目指し、全教科の教員が一体となって学力を身につけさせる。特に、進学を希望している生徒に対しては、補習のあり方も含め学力向上に向けた体制を目指す。

(3) 3年間を通したキャリア教育の充実と進路決定の支援を目指し、各学年次で効果的なキャリアガイダンスを行う。

以上の方針は、これからも引き続き持ち続けていく。

5. 具体的な取り組み

(1)基礎学力の向上

令和6年度より、10分間の朝学習（翠星タイム）の時間に株式会社リクルートが運営する「スタディサプリ」を導入した。これは「到達度テスト」を受験することにより、生徒一人ひとりがどこまで理解しており、どこでつまづいているかが分かり、各個人の現状に連動した課題を配信できる仕組みである。これによって、5教科の学習を個人の習得状況に応じてバランスよく取り組むことができる。また、平成27年度から取り入れた、1・2年生の漢字検定全員受験や、それに応じた年間全10回の漢字テストも引き続き行っており、生徒の漢字力向上につながっている。

(2)JST面談と面接指導の充実

JST（ジョブサポートティーチャー）制度を活用し、週に3日勤務するJSTの先生が就職希望の3年生一人ひとりと面談を行い、本人の希望や適性等の理解促進につなげている。

一方では、外部機関と連携し、7月には就職希望者面接待策講座、8月にはジョブカフェ石川による面接指導、9月からは進学者の面接練習等も実施し、生徒が面接で自分のことをきちんと話すことができるように継続的に指導している。

また、平成24年度から行っている2年次生のPTA役員による模擬面接指導は、現在も引き続き行われている。

(3)進路に対する意識づけ

3年間を通して、各年次に多くの進路ガイダンスを設けている。

1年次には、10月にライセンスアカデミー主催の職業別説明会、11月にはリクルートのスタディサプリ適性検査、3月にはさんぼうによる進路ガイダンスを実施。

2年次には、5月にライセンスアカデミー主催の系統・分野別職業説明会、6月にはリクルートによるオープンキャンパスに向けたガイダンス、12月にはライセンスアカデミーによる進学・就職合同相談会へ参加、1月末と2月にはリクルートやさんぼうによる進学・就職別ガイダンスを実施。

3年次には、4月に進学・就職別ガイダンスを2回、6月にはライセンスアカデミーと本校進路課による進学・就職ガイダンス、7月には石川県主催の企業ガイダンスへ参加、9月にも進学・就職ガイダンスを実施する等、生徒の進路意識を高める取り組みを行っている。

以前から実施している2年次のインターンシップは引き続き行われている。平成22年度から導入した長期型企業実習（デュアル）や、平成25年度から就職と進学とを分けて実施している「卒業生と語る会」も継続して行っている。

これらの取り組みによって、生徒は自分の希望進路をより明確に持つことができている。



白山商工会議所と連携した地元企業説明会



スタディサプリの活用によるオープンキャンパス申込み



ライセンスアカデミー主催の進学就職進路相談会への参加



PTAの協力による模擬面接指導



卒業生と語る会



保護者進路説明会

令和8年度 進路指導行事計画

月	1 年 次	2 年 次	3 年 次
4	9日 課題テスト 28日 第1回進路希望調査 配付 「進路の手引」 配付	8日 第1回進路希望調査 配付 9日 第3回スタディサブリ到達度テスト 14日 「進路の手引」 配付 進路希望調査フォーム入力	8日 第1回進路希望調査 配付 9日 第6回スタディサブリ到達度テスト 14日 「進路の手引」 配付 進路希望調査フォーム入力 20日 進学補習開始(進学希望者) 21日 進学・就職別ガイダンス③(LH) 28日 進学・就職別ガイダンス④(LH)
5	15日 進路希望調査フォーム入力	26日 系統・分野別職業説明会(ライセンスアカデミーLA)	8日 JST面談開始(就職希望者～6/24) 19日 大学入学共通テスト模試(ベネッセ)
6		18日 OCに向けたガイダンス(放課後)(リクルート) 20日 第1回進研実力診断テスト(ベネッセ) 22日 OC予約講座(放課後)(リクルート)	16日 進学(LA)・就職別ガイダンス⑤ 20日 第1回進研実力診断テスト(ベネッセ) 26日 卒業生と語る会(就職希望者)
7		23日～29日 夏季進学補習(進学希望者)	1日 就職求人受付開始 3日 企業ガイダンス事前指導(就職希望者) 6日 求人情報① 配付 11日 高校生対象企業ガイダンス(就職希望者) 13日 求人情報② 配付 15日 応募前見学申込締切(就職希望者) 17日 求人情報③ 配付 22、23日 就職希望者面接対策講座(さんぼう) 23日 第1回進学申出書締切(石川県立大学等) 23～29日 夏季進学補習(進学希望者)
8			7日 第1次就職出願者締切 18日～就職に向けた夏期指導(就職希望者) 20日 第2次就職出願者締切 26日 履歴書1次締切 26日 卒業生と語る会(進学希望者) 27、28日 ジョブカフェ面接指導(就職希望者)
9	1日 第1回スタディサブリ到達度テスト 25日 保護者履修説明会	1日 第4回スタディサブリ到達度テスト 9～11日 インターンシップ	1日 第7回スタディサブリ到達度テスト 履歴書最終締切 5日 就職出願開始 7日 第2回進学申出書締切(進学希望者全般) 8日 進学・就職別ガイダンス⑥ 16日 就職試験開始 17日 進学面接練習開始(進学希望者)
10	9日 職業別説明会(LA)	9日 第2回進路希望調査 配付 10日 第2回進研実力診断テスト(進学希望者) 20日 進路希望調査フォーム入力	
11	10日 第2回進路希望調査 配付 17日 スタディサブリ適性検査(リクルート) 24日 進路希望調査フォーム入力		
12		8日 進路決定へ向けたガイダン(大講義室) 9日 進学希望者ガイダンス事前指導(リクルート) 11日 進学・就職合同相談会(LA 5,6限) 24日～28日 冬季進学補習(進学希望者)	
1	6日 第3回進研実力診断テスト(進学希望者) 7日 第2回スタディサブリ到達度テスト	5日 冬季進学補習(進学希望者) 6日 第3回進研実力診断テスト(進学希望者) 7日 第5回スタディサブリ到達度テスト 26日 進学(リクルート)・就職(さんぼう)別ガイダンス①	16、17日 大学入学共通テスト
2		2日 進学(リクルート)・就職(進路課)別ガイダンス② 10日 保護者進路説明会 12日 模擬面接指導(PTA共催)	
3	11日 1年次進路ガイダンス(さんぼう)		

1. はじめに

今こうして通常の学校生活が送られていることに安堵している。令和の新しい時代が始まって間もなくに発生した「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）」のパンデミックでは、日本はおろか全世界の人々がこの感染症によってあらゆる活動が制限され、人類と感染症の歴史にも刻まれる未曾有の経験をした。

学校生活でもいろいろな行事や活動が制限された。感染対策として三密を避けるといったことやソーシャルディスタンス、朝の健康チェック、マスクの着用、黙食等の指導が行われた。また、感染症予防には手洗いや換気の大切さを再認識することとなった。コロナ禍もインフルエンザ等の大流行があり、現在も教室前には手指消毒液を設置してある。



教室前に設置してある手指消毒液

2. 環境美化活動について

(1)環境美化委員会の取り組み

環境美化委員会では、毎月のマナー環境美化週間にて環境美化活動を行っている。普段の掃除ではなかなかできないような場所の清掃や、校舎外のゴミ拾い等も行っている。また、スポーツテストや文化教室等の校外での学校行事の際には、最後に会場点検とゴミ拾いを行っている。

その他には、環境美化に関する標語や掲示物を作成し、環境美化に関する喚起を行っている。

(2)保健委員会の取り組み

保健委員会ではマナー環境美化週間に教室前に設置してある手指消毒液の補充や消毒液を設置してある机周囲の衛生活動を行っている。

3. 保健活動について

(1)生徒保健委員会の取り組み

近年著しい気候変動の影響で熱中症警戒アラートが発令される時期が早くなってきており、期間も長くなっている。熱中症は正しく対応すれば防ぐことができることから「熱中症ゼロ」を目指して放送による注意喚起を行っている。また、感染症の流行時期には換

気の推奨等、知識の普及・啓発活動を行っている。

(2)学校薬剤師とともに

本校の文化祭でも模擬店を行っているが、模擬店の衛生指導には学校薬剤師をお招きして指導を行っている。コロナ禍明けからは3年生全員を対象に学校薬剤師は食中毒について、保健課からは模擬店従事者の衛生管理やゴミの処理について、家庭科からは調理室の使い方についての指導を行っている。

文化祭が楽しく安全に終わることができるよう、一人ひとりが正しく実践できるように指導を行っている。

(3)教職員研修

本校は広大な敷地があり、多岐にわたる分野別授業を開講している。教職員も農場管理の方々を含めるとたくさんの職員が従事している。毎年、日赤の救急法指導員を講師として心肺蘇生法やAEDの使い方について講習を行っている。有事の際には現場で対応ができるように研修を受けている先生方も真剣である。

また、本校は食品科学コースや造園コースがあり、アレルギー物質にさらされる機会がある。食物アレルギーや蜂アレルギーが発生した際にも対応できるように、実際にエピソードレーナーを使つての実技演習や、生徒が嘔吐をした際の対応・処理についてなどの実技演習も行っている。生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう実際の状況に即した知識や技術の研鑽を重ねている。



救急法講習会

4. おわりに

さまざまな要因で健康が脅かされる状況であっても生徒が安全で安心して学校生活を送ることができるよう支援・指導を行っていかねばならない。

教育相談課

1. はじめに

コロナ禍を経て、この10年は様々な学びのスタイルが模索される時代となった。平成19年から始まったスクールカウンセラーの配置に続き、平成30年からは高等学校発達障害アドバイザー巡回事業も開始となり、本校でも月1回程度、専門相談員の派遣が行われている。教育相談課の教育活動も多様化していく中、その一端を以下に紹介したい。

2. 心理教育・人権教育

近年、子どもや親の価値観が多様化し、学校現場ではその対応に苦慮している。他の生徒とのコミュニケーションがうまくとれず孤立したり、いじめられたりすることも少なくない。また、SNSなどによる誹謗中傷により心の傷を抱える生徒もいる。スクールカウンセラーによる親子へのカウンセリング、心理教育や人権教育などを通して、生徒の自尊感情を高めたり、人権意識を啓発したりして、お互いを尊重する精神を育成している。新入生には、新学期早々に人間関係づくりの基礎として、グループエンカウンターなどを取り入れた活動を実施している。



3年 自尊感情を高めるために (2026.5.12)



3年 校外講師による人権教育講話 (2024.11.19)



1年 グループエンカウンター (2026.4.14)

3. 特別支援教育

不登校や悩みを抱える生徒の実態把握と校内連携を図るために、年間5回定期的に特別支援委員会を開いている。ここで共有される情報をもとに、気になる生徒や特別な支援を要する生徒の理解と対応について検討することで、今後の指導をさらに充実させるための取り組みを行っている。

4. 関係機関との連携

発達障害や抑うつ傾向、家庭環境など特別な配慮が必要とされる生徒に対応するため、児相や医療機関などとの連携を図っている。また、発達障害アドバイザーの巡回事業により、よりきめ細かい指導ができるようになっている。



2年 SOSの出し方・受け止め方について (2026.6.2)

学科・農場

1. 近年の学科再編

本校は、時代や地域社会の要請に応じながら、農業教育の在り方を見直し、コース・分野の再編を進めてきた。近年は、生徒の多様な進路希望や学習ニーズに対応するため、従来の学科・系列の枠組みを再編し、専門性と実践性を高めた教育課程の充実を図っている。

平成28年には、農・食・環境の3分野を柱として、生物資源コース、食品科学コース、環境科学コースの3コースを開設した。生物資源コースには農学分野・園芸福祉分野・生物工学分野を、環境科学コースには環境設計分野・造園分野を設け、教育内容の充実を図った。さらに令和4年には、生物資源コースの3分野を統合し、農業分野をより広く学ぶことができるコース編成へと改編した。

農業を取り巻く環境が大きく変化する中、知識や技術の習得にとどまらず、地域課題の解決や産業の持続的発展に貢献できる人材の育成が求められている。そのため本校では、各コース・分野の基礎を重視しながら、実習や課題研究を通して専門性を深めることのできる教育体制を整備してきた。こうした学科再編は、本校教育を時代に即したものとするとともに、生徒一人ひとりの学びを確かな進路実現へとつなげる重要な基盤となっている。



1年次総合実習での田植え実習

2. 農場の取組

本校農場は、農業教育の中核を担う実践の場として、長年にわたり多様な教育活動を支えてきた。作物・野菜・草花・果樹・造園などの各分野において実践的な学習を展開し、生徒が「育てる」「管理する」「収穫する」「販売する」といった一連の過程を体験できる環境を整えている。

近年は、従来の栽培技術の習得に加え、地域農業の将来を見据えた新たな取組にも力を入れている。特

に、イチゴの高設栽培や加工品開発を通した校内6次産業化の実践、100年の森の整備など、本校ならではの特色ある学びが展開されている。

農場は、単なる実習の場ではなく、生徒が失敗と改善を重ねながら主体的に学ぶ教育の場でもある。本校農場の日々の取組は、農業の魅力と可能性を伝えるとともに、地域社会に貢献できる実践力を育む重要な役割を果たしている。



レインガーデンを含む円形広場 (100年の森)

3. 地域に根ざす農業教育活動

本校は、地域に開かれた学校として、農業教育を通じた地域貢献に継続して取り組んできた。校内で生産した農産物の販売や地域行事への参加、オープンハイスクールの実施、地域の小学生を対象とした「田んぼの学校」の実施などを通して、地域とのつながりを深めている。さらに、イオンモール白山の周年祭では「SUISEIマルシェ」を行い、日頃の学習成果を地域に発信し、地域住民と交流する貴重な機会となっている。本校は、イオンモール株式会社と包括的連携協定を締結し、相互の連携と協力のもと、生徒の人材育成や自己実現につながる取組を進めている。こうした活動は、生徒が地域社会との関わりを学び、自らの学びを地域に生かす力を育んでいる。



オープンハイスクール開会式

4. 次世代の地域産業を担う人材育成事業

本校では、地元企業や関係機関と連携し、石川県の産業を支える人材の育成を目指した実践的な学びを進めてきた。特に農業分野では、高卒新規就農者を輩出するなど、地域農業の担い手育成に成果を上げている。また、デュアルシステムを活用した地域と連携した学びを通して、生徒は現場で必要とされる知識や技術、職業観を養っている。専門家による実践的な指導では、最新の農業機械に関する学習を通して、時代の要請に応じた専門性の向上を図っている。

5. 専門性を高めるインターンシップの実施

本校では、専門性を高め、進路意識を育てるためにインターンシップを重視している。生徒は校外の現場で実際の仕事を体験することで、学びを深め、責任感や職業観を養っている。地域産業と連携したこの取組は、生徒が将来を考えるうえで大きな意義を持っている。

6. 高等学校DX加速化事業

本校では、令和6年度高等学校DX加速化事業の採択を受け、データサイエンスを活用した農業教育に取り組んでいる。実践的な農業教育を基盤とし、環境データの収集・分析や情報機器の活用を通して、農業と情報を結び付けた新たな学びを展開している。特にイチゴ栽培では、温度などの環境データを生育状況と関連付けて分析し、栽培技術の向上と学習内容の深化を図っている。これらの取組は、機器導入を目的とせず、生徒がデータに基づいて課題を発見し、考察し、改善へつなげる力を育成することを重視している。今後も、農業教育にデジタル技術を取り入れ、地域農業の将来を支える資質・能力の育成を目指していく。



イチゴの定植実習

7. 農業クラブ活動

本校の農業クラブ活動は、学習成果を発表し、生徒が大きく成長する重要な教育活動である。意見発表やプロジェクト発表、各種競技会への参加を通して、専門性だけでなく、表現力や協働性も高めている。農業クラブ活動は、本校の農業教育を支える大切な柱のひとつである。

【主な受賞歴】

平成29年（2017年）

第69回日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表会 分野Ⅱ類 最優秀賞・文部科学大臣賞

令和元年（2019年）

第70回日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 最優秀賞・文部科学大臣賞

令和3年（2021年）

第72回日本学校農業クラブ全国大会 プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 最優秀賞・文部科学大臣賞



平成29年大会式典最優秀発表 食品科学研究会

8. これからの学校農場

学校農場は、教育の場であると同時に、生産の場としての役割も担っている。だからこそ本校では、生徒の学びを最大限に高めながら、安全性、作業効率、生産性のすべてを大切に、日々農場経営の改善に努めてきた。教育であるからこそ妥協せず、現場であるからこそ本物を求める。その積み重ねが、本校農場の価値を支えている。

これからも、教育的価値と現場性の両立を図りながら、持続可能な学校農場経営を追求していく。生徒が農業の厳しさと魅力の両方を実感し、地域を支える力を身に付けられる農場であり続けるために、本校は挑戦を続けていく。

生物資源コース

1. コースの目標

生物資源コースでは、農作物の栽培やバイオテクノロジー、食品流通を学び、農業に関する基礎的な知識と技術を身に付ける。近年は、データサイエンスやICTを活用したスマート農業にも取り組み、地域農業に貢献できる人材の育成を目指している。

2. コースの変遷

平成28年に生物資源コースと名称変更し、農学・園芸福祉・生物工学の3分野を設けた。さらに令和4年には、生物資源コースの3分野を統合し、農業分野をより広く学ぶことができるコース編成へと改編した。

3. 主な実習内容

年 次	主な実習内容
1 年次	農業生物栽培の基礎実習
2 年次	作物栽培の管理実習 野菜栽培の管理実習 草花栽培の管理実習 食品流通の基礎実習
3 年次	農業生物栽培の管理技術の応用 農業生物の収穫・調整実習 食品流通の実践実習 バイオテクノロジーの基礎実習 福祉（保育/介護）の基礎実習
生産物	作物部門 コシヒカリ、ユメミズホ、カグラモチ、ダイズ、アズキ 野菜部門 〈果菜類〉メロン、イチゴ、ナス、トマト、キュウリ 〈葉茎菜類〉サラダ菜、金時草、ネギ、キャベツ、ハクサイ 〈根菜類〉ダイコン、ニンジン 草花部門 〈一年草〉ジニア、センニチコウ、マリーゴールド、ケイトウ、ニチニチソウ、パンジー 〈多年草〉シャクヤク、キキョウ、オステオスペルマム 果樹部門 ブドウ

4. コースの展望

現在の翠星高校では、非農家出身の生徒が9割を超え、学校に求められる役割も大きく変化している。進学・就職を含めた多様な進路選択に対応するため、生物資源コースでは、作物・野菜・草花・果樹の栽培を中心に、流通、販売、福祉、生物工学、課題研究などを通して農業を幅広く学んでいる。

生徒は栽培や管理に関わる中で責任感を育み、天候や生育状況に応じて判断する力を身に付けている。また、農産物の販売や地域の農業法人、企業、大学等との連携を通して、農業の現場に触れる学習も充実させている。農業関連の進路に限らず、ここで得た責任感、調整力、課題解決力を社会で生かせる人材の育成を目指している。



農業機械を用いた田植え実習



地域の園児との交流（サツマイモの定植）

5. おわりに

いしかわ農業支援機構や地域の農業法人との連携、インターンシップやデュアルシステムの活用により、生徒が農業の現場を知る機会が増え、ここ数年は農業法人へ就農する生徒も出てきている。今後、農業を通して責任感、判断力、課題解決力を身に付け、社会で活躍できる人材の育成を目指していく。

食品科学コース

1. コース目標

食品科学コースでは、分析や衛生管理に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得しながら、HACCPの考え方に基づいた衛生管理による安全で安心な食品製造を実践し、地域食品産業の発展及び伝統的な製造技術継承に主体的に貢献していく人材を育成する。

2. コースの変遷

食品科学コースは、農産製造科を前身とし、昭和48年度に食品製造科、平成7年に食品科学科へ改称。平成12年度には総合グリーン科学科の設置に伴いフードテクノロジー系となり、平成21年度に食品科学コースへ改称された。

3. 主な実習内容

年次	科目名	主な実習内容
1年次	衛生	一般衛生管理
	実習	食品製造の基礎
	実験	食品成分分析の基礎、ピペット操作技能検定
	加工品	まんじゅう、ロールパン、イチゴジャム、花、漬物
2年次	衛生	コーデックスの7原則12手順
	実習	小麦粉・果実・野菜の加工、肉加工、クッキー・パン製造技能検定
	実験	標準溶液の調整、食品成分の分析、実験精度検定
	加工品	ラッキョウ甘酢漬、イチゴジャム、包子、うどん、中華麺、燻鶏、ハム、ベーコン、ソーセージ
3年次	衛生	翠星HACCPシステムの実践（クッキー・イチゴジャム）、トレーサビリティシステムの実践
	実習	密封包装食品製造、食品の簡易包装、課題作品製造
	実験	醤油分析、水分析
	加工品	【JFS - B規格適合品】 翠星クッキー、イチゴジャム ロールスポンジケーキ、デコレーションケーキ、梅ジャム、梅干し、梅シロップ、たけのこご飯の素、乳酸菌飲料ラクピス、味噌、ケチャップ

4. 食品加工施設の充実

食品科学実習棟は昭和63年度に完成した。1,722㎡の棟内に5つの実習室を備え、全国有数の規模と充実した設備を誇る。令和2年にはHACCP制度化に対応するため施設の整備・改善が行われ、令和3年にはスマート専門高校事業により棟内のIoT化が進められた。

5. 国内教育機関初の実践的HACCP教育

令和3年、HACCP制度化を契機に、国内の教育機関初となるHACCP第三者認証「JFS-B規格」適合証明にクッキーラインにおいて合格した。これにより、実践的なHACCP教育が可能となり、HACCPモデルとして地域のHACCP推進に貢献している。



HACCPの考え方を取り入れたクッキー製造の様子

6. 地域連携

伝統食材や未利用資源を活用した加工品開発や企業との商品開発・販売に取り組み、平成29年から白山市地産地消連携事業を実施し、地産地消の推進に貢献している。さらに、小学校への出前授業や体験会を通じ、食育活動や伝統食文化の普及に努めている。



小学生和菓子体験会の様子

7. おわりに

創立150周年を迎え、食品科学コースでは、校内六次産業化の取り組みとしてイチゴジャム製造を実践し、「生産から加工・販売まで」を体現した学びを展開している。さらに、安全・安心な食品づくりを通して、「食の安全基地」として全国へ発信を続けていく。

環境科学コース(環境設計)

1. コースの目標

環境の保全や都市緑化など生活環境の整備に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、人と環境の関係についての理解を深めるとともに、これからの時代の地域環境を創造していく人材を育成する。

2. コースの変遷

平成28年（2016）、環境土木コースと造園コースを統合して「環境科学コース」を新設し、それぞれ環境設計分野、造園分野とした。

教育内容では、学校設定科目「測量演習」を新設した。その後、令和4年の新教育課程編成に伴い「測量演習」を廃止。これに伴う教育課程の見直しにより、造園分野の測量選択者も「測量（6単位）」を履修する体制へと移行し、併せて「地球環境化学」に替わり「社会基盤工学」を導入した。

3. 主な実習内容

年次	主な実習内容
1年次	ものづくりの基礎実習 コンクリート実習、電卓計算実習
2年次	昇降式による環閉合差の測定 器高式による往復較差の測定 石川県高等学校測量技術検定（水準） 現地測量実習（松任グリーンパーク） ものづくりの基礎実習 土工機械操作訓練実習 CAD製図実習、溶接実習
3年次	単測法及び倍角法による角測量実習 方向法による方向角の測定 石川県高等学校測量技術検定（角） トラバース測量及び製図実習 ものづくりマイスター型枠施工実習 土工機械施工実習、大日川ダム見学実習

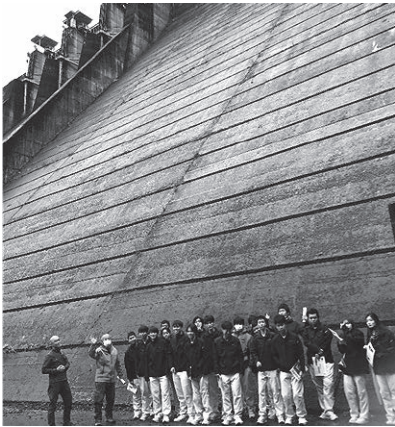
4. コースの展望

総合実習における特筆すべき取り組みとして、平成30年より職業能力開発協会が実施する「ものづくりマイスター派遣（実技指導）」制度を活用した型枠施工実習が挙げられる。3年次の1学期中に14時間を充て、コンクリート型枠及びコンクリート製品の製作を通じて、現場で活躍するマイスター（柳昌建設工

業・阿部氏）から直接指導を受ける機会は、生徒たちの実習に臨む姿勢や意気込みを高める貴重な経験となっている。

施設・設備面においては、令和2年にICT施工実習装置として、ドローン、トータルステーション及び点群作成ソフトウェアを導入し、授業等において活用している。また、従来の測量機器（レベル、セオドライト）の更新も順次進めている。同年からは校内の無線LAN整備も着手され、環境棟においてはほぼ全室からアクセス可能な環境が整った。

さらに、インターンシップをはじめとした地元建設業界との連携も深化しており、2年次末に実施している白山野々市建設業協会青年部との座談会は、その一例でもあるが、毎年好評を博している。今後も地元建設業を主とした地域産業の次代の担い手を育成し輩出できるコース分野として、その社会的役割を果たしたい。



ダム見学実習

5. おわりに

近年は、生徒たちの学習意欲の向上に伴い、自身の進路先に関連する国家資格に挑戦する様子が多々見られるようになった。資格取得を目指して放課後や休日に行う補習に意欲的に参加する生徒が増え、結果として合格者をコンスタントに輩出するようになった。さらに、農業クラブ全国大会の平板測量競技会においては、約3年に1回の頻度で優秀賞を受賞できている。

また、令和7年度には約30年ぶりとなる白山市役所初級土木職への合格者を輩出することができた。

＜本校における測量士補国家資格合格者数の推移＞

	R2	R3	R4	R5	R6
受験者数	5	5	2	1	4
合格者数	2	3	1	1	2

＜2級土木施工管理技術検定＞

令和7年度 受験者数2名 合格者数1名

環境科学コース(造園)

1. 分野の目標

造園分野では、自然環境の保全や緑化、住みよい生活環境の整備に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、人と環境についての理解を深めるとともに、新時代の地域環境を創造する能力と態度を育て、地域建設業の担い手となる人材を育成する。

2. コースの変遷

平成12年度、総合グリーン科学科の誕生とともに6系のひとつとしてスタートしたグリーンデザイン系は、教育課程の変更に伴い、平成21年度から5コースのひとつとして緑地デザインコースとなった。平成28年度から環境科学コース造園分野になる。

3. 主な実習内容

年 次	主な実習内容
1 年次	造園の基礎実習 刈り込みの基礎実習 道具の基礎実習
2 年次	造園製図の実習 庭園の管理実習 庭園管理機械の実習 樹木鑑定の基礎実習
3 年次	庭園施設の実習 竹垣、敷石、縁石の制作実習 樹木鑑定の実習 雪つりの実習 庭園管理の実習 小型建設機械の操作実習

4. 分野の特色

本コースは、石川県の専門高校としては唯一の造園に関する内容を総合的に学ぶことができる分野である。本県は、兼六園をはじめとした様々な形態の庭園を多く持つことから庭園文化が盛んであり、それらの地域や社会の要望に応えることが本コースの役割である。卒業生も毎年、造園関係企業に就職し造園産業の土台を支えている。

また、都市計画や屋内外緑化、各種庭園様式などを学び、地域の環境づくりの一環となる人材を育成している。造園を通じて環境保全や持続可能性に配慮できる学習を行い、将来の地域環境・景観・自然に寄与できる力を養っている。

5. 目標とする資格取得一覧

- ・造園技能士3級
- ・小型車両系建設機械運転特別教育



造園技能検定3級「作庭実習」



雪つり実習

6. 創立150周年記念事業庭園との関わり

創立100周年事業で作庭された「造園実習見本園」は、平成12年の学科改変により造園を学ぶ生徒や授業数が大幅に減少（生徒数45.2%減、総合実習時数64.5%減）したことに伴い、手入れが行き届かず、荒廃した。そのため、創立150周年記念事業において、生徒が主体となって庭園の整備に取り組み、持続可能な庭園を目指した「100年の森」として再整備された。「100年の森」には、地下水の涵養や都市型水害の抑制に寄与する最新の造園手法「レインガーデン」を取り入れた。環境保全と防災への理解を深める実践的な学びの場としての役割も担っている。また、本校のある白山市松任地区は手取川扇状地に位置し、扇状地の丸石をレインガーデンに取り入れることで、地域の地形や自然環境を学ぶジオ学習の場となるよう工夫した。

これらを契機に、過去に開催していた体験型環境学習「グリーンアドベンチャー」を復活させ、幅広い世代が学べる生涯学習の場を目指した。「100年の森」が、持続可能な地域社会に貢献する「環境教育・防災教育・生涯学習」の拠点として、次代を担う生徒とともに、さらなる充実と発展を目指していく。

第3章 生徒の活動



シンガポール海外派遣研修に参加して

1年 義基 舞

私は第2回農業高校生の海外派遣研修でシンガポールへ行きました。私にとってシンガポールは初めての海外旅行になりました。飛行機の中は、長時間いるにはとても良い空間が広がっていました。約7時間の後、シンガポールの大変大きなチャンニ空港に着き、市内をバスで移動しながらまず思ったことは、その緑の多さに驚かされました。日本で言えば、大きな植物園のようで、町のいたる所に木や花が植えられ、美しく整備された町全体が植物園そのもののようでした。そして、この研修中、日本では経験したことのない大粒の雨が、まるでホースで水を撒いているような状態で突然降り出した「スコール」を体験したことが、新鮮な驚きでした。また、この国は多国籍国家として有名で、インド人街、チャイナタウン、アラブ人街を見て回り、これだけ人種の違う人達が一緒に暮らしているからには、いろいろな問題があるのではないかと思いました。しかし、人々はお互いの文化を尊重しあい、私には平和に暮らしているように見えました。そして、文化の違いから料理の種類も豊富で、沢山の種類の食事を口にすることができました。特にアジア特有の細いパサパサしたお米が口に合わず、早く日本のご飯が食べたいと何度も思いました。その他にインド料理に使われている独特の香りのする香辛料も口に合わず苦労しましたが、それぞれの国の食文化に直接触れることができ、良い経験になったと思います。

また、マレーシアの国境越えもあり、文化体験でゴ

ムの木や伝統の楽器による演奏などを見ました。マレーシアにはイギリス人が建てた洋風のモスクがあり、その美しさには感動させられました。

農業関係の研修では、土を使わず野菜を宙に浮かせた状態で栽培する国土の狭いシンガポールならではの方法を見学しました。施設の中にはビニールハウスがあり、私達がよく食べる野菜が栽培されていました。その作物の種は、日本などから輸入されているそうです。



さらに、環境に関する研修では、シンガポールの環境省で、数年前までゴミがあふれていた街をどのように美しく生まれ変わらせたか、その後の対策などの政治的な話も聞かせていただきました。その中には、もう少し考えなくてはいけない事柄やとても参考になることもあり、日本ももっと自分たちの国の環境について、真剣に考え取り組むべきだと思いました。シンガポールと日本では、気候・文化など違う点がありますが、国際社会の一員としての国の一つの手本が、シンガポールにもあると思いました。そして、私はもう一度この国を訪れ、全てを見たいと思える充実した研修でした。



中央病院での体験学習

1年 吉岡 千夏

前期末の9月13日、私達1年生は「産業社会と人間」という授業の一環として、福祉体験学習をしました。いろいろな訪問先の中から、私は松任市内にある県立中央病院で体験学習をすることになりました。

病院では、担当の方が普段は絶対に入れないオペ室やカルテ室、注射器などを殺菌する部屋など丁寧な説明を加えながら案内していただきました。さらに、リハビリテーション室では、お年寄りなど身体の不自由な人達が実際にどれだけ実生活で苦労があるかを体感するため、車椅子に乗って左手足だけで操作する体験や、足をギプスのような物で固定して歩く体験、そして利き腕ではない方の手で豆を掴む体験などをさせて



もらいました。この体験をすることで、普段気にも留めていなかった身体の不自由な方々の大変さや辛さが少し分かるようになった気がしました。また、担当の方から病院内の様々なサービスについて説明もうけました。例えば、食事の際には必ず何か一言メッセージを添えることや、特別な日（敬老の日など）には、それを知らせるカードも準備してあるとのことでした。そして、特に衛生面では院内すべてに気配りがなされ、病棟が三角形の形に造られていることにより、どの病棟にも陽の光や風が入るように設計されているなど、環境全般にわたって細かい配慮がなされていることを知り、大変感心させられました。

普段何気無く利用している病院が、ここまで丁寧に私達利用者のことを考えてくれているということが分かっただけでも、この体験学習は有意義なものでした。

今回、病院という特殊な場所での体験学習でしたが、他の友人たちが体験した様々な施設でも実際に体験して、新しい知識と認識を得たいと思うようになりました。

吟詠剣詩舞の活動について

3年 松田今日子

本校には、吟詠剣詩舞の部活動はありませんが、郊外での活動として、剣詩舞の活動に取り組んでいる生徒が2名います。

そこで今回は、その中の1人、3年の松田さんに、剣詩舞の活動について振り返ってもらいました。

詩吟は、日本人の心を磨く古典芸能として今日まで引き継がれてきたものです。

詩吟と漢詩の鑑賞は難しいところがあります。伝統芸術である詩吟や剣舞をとおして、日本人の礼節と深い精神性に触れると共に、吟題に登場する様々な風土や歴史とそこに生きた心情を体感できるものだと思ひます。

詩吟や剣舞の練習で難しいのは、その時代に生きた心情や風土を知り、それを、詩吟や剣舞で表現することにあります。コツコツと何度となく練習することで、少しずつ理解し、上達していったような気がします。

こうして練習してきた成果を県内・県外などの大会で発表します。色とりどりの着物を着て、詩吟や剣舞で表現します。

全国高等学校文化祭に2回も出場し、今年度は、学校の文化祭にも出場でき、剣詩舞を多くの人に見てもらいました。とても嬉しかったです。

部、同好会活動以外での本校生徒の活躍

【吟詠剣詩舞】

石川県高文連邦楽合同発表会（7月28日）

石川県女性センター

出場者 松田今日子（3F）、西 恵美（3H）

全国高等学校総合文化祭

福岡大会（8月6日～8日）

福岡県飯塚市 嘉穂劇場

出場者 松田今日子、西 恵美

農業クラブ全国大会
クラブ員代表会議に参加して

3年 立山 陽子

クラブ員代表者会議に参加するにあたって、課題レポート、学校PRチラシ、そして名刺作りの3つの課題がありました。中でも、課題レポートを作るのに苦労しました。分科会は第1～第3の分科会があり、それぞれの分科会のテーマについて考えを書かなくてはならなかったからです。文が続かなかったり、内容があってなかったり、何度も作り直しました。作るのに結構時間がかかり大変でしたが、出来上がった時は、

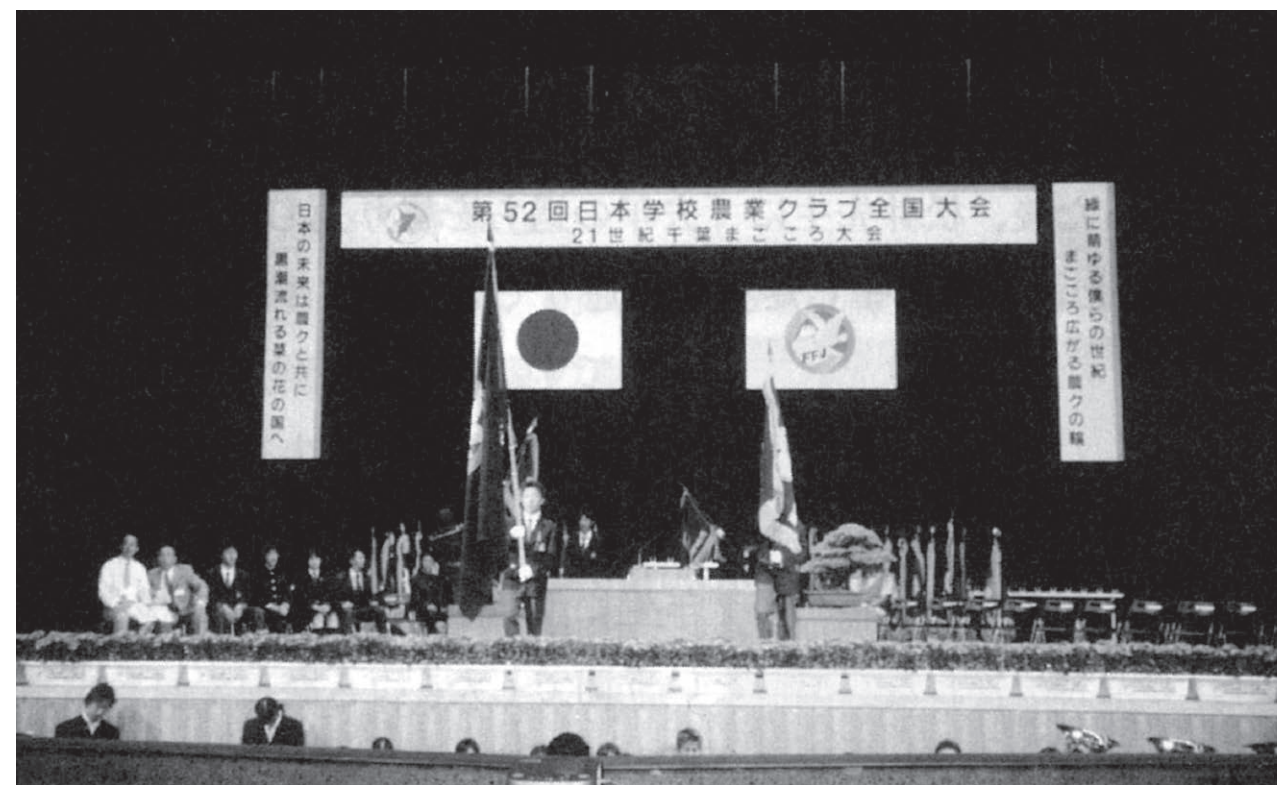


達成感がありました。

10月24日に行われた代表者会議では、それぞれのテーマごとに分かれて討論会を行いました。私は、第3分科会の「21世紀に対応した新しい競技には、どのようなものがあるか？」という題で、他県の代表者と討論しました。初めは、知らない人ばかりでしたが、名刺交換をしてから話すとしやすく討論が楽しく思えてきました。

東京都立園芸高校では、新しい競技をしてみようということで、他の農業高校の人達とケーキ作りコンテストをしてみたいという発表がありました。私達の学校でも、今まである競技以外のことをしてみたらもっと農業が楽しくなるのではないかと思います。また、環境問題について対策を考え、新しい競技をつくってみれば良いと思いました。

クラブ員代表者会議に出席して、他県での数多くの新しい競技を知ることができ、本校でも、もっと農業クラブ役員が中心となり新しい競技を作り、学校の行事にしたいと思いました。今まで、他県の学校がどのような活動をしているか一つも知らなかった私はとてもいい経験ができました。それと、私が討論会で意見を言えたことと、ちゃんと話し合いができたことがいい思い出になったと思いました。



韓国 修学旅行

3日目 (10月24日 木曜日)

学校交流

修学旅行第3日目、10月24日は学校交流でした。
水原農生命高等学校は、我校と同じく農業高校です。
温室内の花（レモングラスなど）、盆栽などがよく見
られた。韓国の生徒は前もって日本語を勉強してくれ
ていた。けれど会話するのに苦労し、英語やジェスチ
ャーでコミュニケーションをとる事が多かったです。

【交流の感想】

- 制服のスポンを足首の部分で細めるのが流行。
- 日本と同じでやっぱりBOAが人気だった。
- 韓国の人は無愛想ってイメージしてたけど、高校生は積極的でとてもフレンドリーだった。
- お互いの言葉は分からなかったけど、逆にそれでお互いの気持ちを分かろうとする事で、交流がかなり深まったと思います。
- 農業高校だけに、翠星高校と施設が似ていると思った。

学校交流はやはり、言葉が通じないので難しい。しかし、気持ちがあれば無理なことはない。最後には結構仲良くなれたのでOKでしょ。

言葉をもっと覚えていけばよかった。そうすればもっと楽しめたはず……。



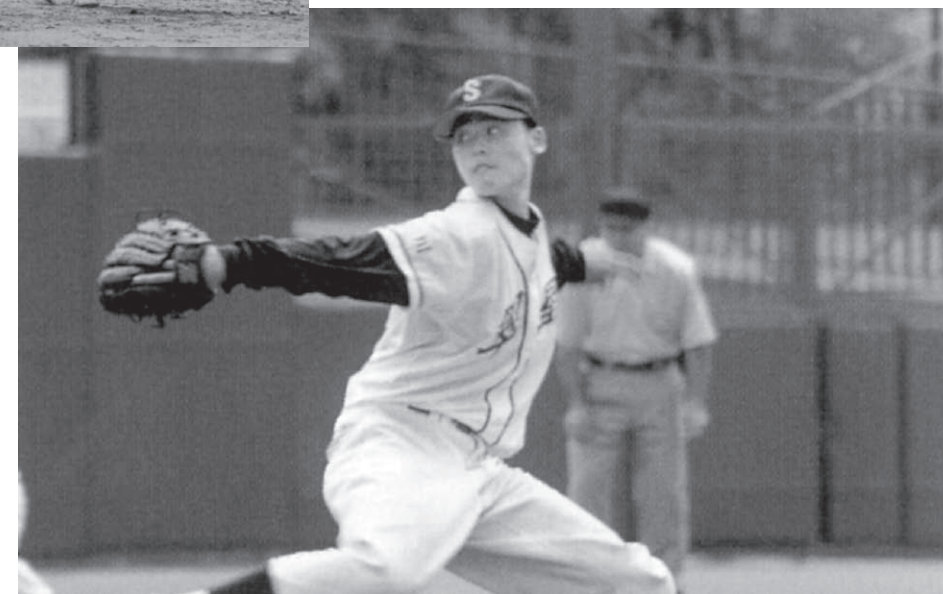
高校野球から学んだこと

3年 加野 大樹

僕は高校野球を3年間続けてきて、様々なことを体験した。中でも3年生の春夏の大会が一番印象に残っている。

春の大会では僕が先発を務め、1・2回戦をコールドで勝ち進み、3回戦の遊学館に挑んだ。結果は負けてしまい悔しかったが、公式大会での2勝に、これまでの練習の手応えを感じ、次の大会に向けて頑張ろうと決意した。

夏季大会での対戦相手は金沢西高校だった。高校生活最後の大きな大会に、僕の気持ちは高ぶり、とても緊張していた。先発を務め、4回まで抑えたが、その後ジリジリと点を取られていった。相手チームに点が入るたび、チームの雰囲気がいっしょにより大きく変動するのを感じ、重たいプレッシャーとなった。そんな時、チームメイトの励ましが本当に心強かった。5対2で



敗れた時は悔しくて「これが最後の高校野球だ」と思って涙がこぼれた。

僕は3年間、毎日ハードな練習を積んできた。練習をキツイと思ったことはあったが、嫌だと思ったことは一度もない。野球ができなくなることは、自分にとって想像以上に辛いことだと実感した。大会が終り、僕が高校野球の優秀選手に選ばれたことを知り、とても驚いた。優秀選手の表彰式に出席し、ゴールデンボールと表彰状を手にした時、あの夏の大会で味わった悔しさや、一生懸命練習した日々のがよみがえってきた。野球をやっている辛いと思ったことや悔しいと思ったことは沢山あったが、その辛さも含めて野球を続けてきて良かったと思えたし、自分は本当に野球が好きなんだと改めて思った。

野球は僕に様々なことを教えてくれた。目上の人に対しての礼儀、自分に厳しく接することの大切さ、仲間の素晴らしさ。そして一つのものに集中し、それをやり遂げる精神力も野球を通して育てることができた。僕はこれから先も野球を続けていきたいと思っている。続けるからにはプロ野球で活躍できる選手を目指すつもりだ。高校野球で学んだことを胸に、夢を叶えるために一生懸命頑張っていきたいと思う。

演劇部

演劇部は、筋肉トレーニング・ストレッチ・発声などの基礎訓練とエチュードといった演技のトレーニングを中心に部活動を行っています。

春と秋には県全体での講習会があります。その講習会では演技力を上げるためのプロの指導・トレーニング方法や新しいミニゲームの紹介があります。また、



講習会に参加しているメンバーで台本を読み、芝居を作って上演するという事をしています。

夏には合同発表会がファーストステージ・セカンドステージと開催され、みんな、中部大会出場を目指して上演します。本校は、今回、生徒創作「メビウスの輪～The Endless Love Story～」を上演し、上の大会であるセカンドステージに進む事ができました。

8月には、中部6県の演劇部生徒によるワーク・ショップ（能登演劇堂）にも参加し、演出・演技の勉強をしました。



文化祭では、生徒創作「風鈴」と「アラビアンナイト・赤い砂漠の伝説」を上演し、クリスマス公演では1・2年生でサンタクロースを題材とした劇を作り、上演しました。

1月～3月までは、演劇の基礎となる稽古や早口言葉などの発音・発声、前に述べた基礎トレを中心とした部活をして夏の大会にむけて力をつけていこうと思います。

農業クラブ
県連会長として

3年 高村 和宏

私は、高校2年生のとき、農業クラブ役員になりました。それからの1年は、やること全てが始めてのことで、なにをして良いのかわからず戸惑ってばかりいました。

ときには、先輩達の足を引っぱったりもしました。私はそんな何も出来ない自分が嫌いでした。何も出来ない自分が惨めで情けなくて悔しかったです。そんな自分を強くするために、最も大変な役割である会長になろうと思い、3年生のときに会長に自ら立候補し、



農業クラブの石川県連盟会長となったのです。

会長となってからは毎日が大変でした。不運なのか幸運なのか、今年は、北信越大会の事務局も兼ねていたので、前年よりもスケジュールが詰まっていたので、みんな焦っていました。8月21、22日の北信越大会までに、校内リーダー研修会、春季代議員会、県連リーダー研修会、校内大会、県連大会の、5つの仕事をこなさなくてはなりませんでした。

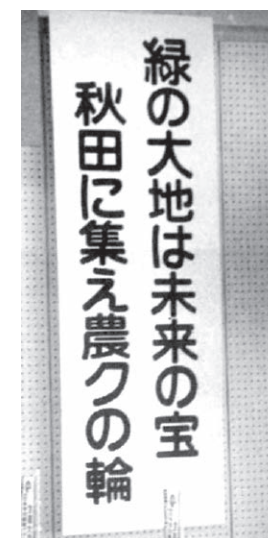
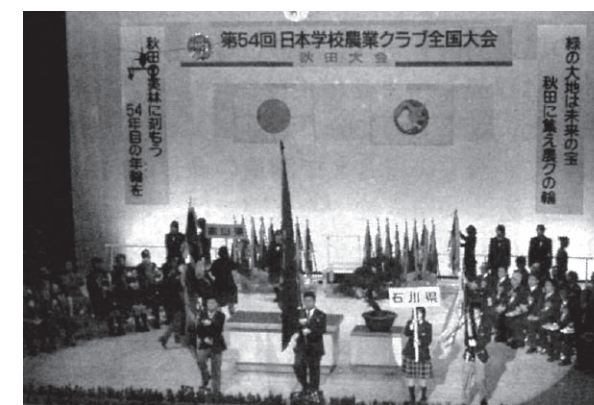
私は途中何度も挫折しそうになりましたが、きまつて仲間が頼りない会長を支えてくれました。彼らの存在が私にとって、頼りであり、希望でありました。

月日は流れ、5つの仕事は全て難く終わらせることができました。そして、いよいよ北信越大会が目の前に迫ってきました。

大会3週間前ぐらいから、ほぼ休みなしで学校に行き、大会準備をしていました。私の仕事は、当日の開会挨拶及び閉会挨拶、それと代議員会の原稿作りでした。

私はこの大会で、プロジェクト発表の選手でもあったので、農業クラブと、プロジェクトの両立が難しく、

大会の準備に遅れが出て来ていました。連日のハードスケジュールに全員疲れがたまっていました。それでも、大会の日はどんどん近づいてきました。そして当日になりました。準備は、なんとか間に合いました。準備にあれほど時間を費やした大会は、あつと言う間に時間は流れ気がつけば終わっていました。この大会でさらに仲間との信頼関係がよくなりました。北信越大会を終えて、大切なものをまた一つ手に入れたように思いますし、自分自身とても自信ができました。大変でしたけどその体験が今では貴重な財産です。

秋田大会
スローガン

食と農のゆめ・みらい作文コンクール

主催 北陸農政局

作文の部 最優秀賞【北陸農政局長賞】

地域型農業を活かした農業経営

3年 藪野 慎介

金沢市窪町は加賀野菜の一つタケノコの産地で、私の家も曾祖父の代からタケノコを栽培する兼業農家です。幼い頃から農作業に行く父に付いていき、タケノコ掘りなどの手伝いをするようになり、自然と農業に興味を持てるような環境で育ちました。将来私は父の後を継いで、専業農家になろうと思っています。私と同じバイオサイエンス系（栽培系）で学んでいる20名のうちで、農学部への進学を考えている私を含めた3名以外は農業以外の業種に就職や進学を希望していて、自営を目指しているのは私ただ1人です。農業を学んでいるのにどうして自営や関連産業に就かないのかを聞いてみると、「求人がほとんどない」「趣味で栽培するのはいいが職業としてやりたくない」「大変そうだ」などの声が返ってきました。彼らと私の違いは非農家で、子どもの頃からの農業体験がほとんどないことがあります。「農業を知れば知るほど大変さだけが焼き付いてくる」と話してくれた人がいました。タケノコ栽培も大変な状況にありますが、経営計画を考えていく上で課題研究で知った金沢市農産物ブランド協会の活動とインターンシップで知った農業法人の経営を元にあれこれ考えています。

金沢のタケノコは江戸時代から始まり、積雪の下で水分を十分吸って芽生えるので味は良質で、現在も東京の築地市場で高評価を得ています。私の住む富樫地区は明治初期頃から栽培が盛んになった地域です。父の子供の頃は、山の麓でタケノコを作り、斜面を利用して果樹を栽培し、平地で稲を栽培する、地形を活かした農業を行っていました。しかし、宅地開発によっ



て農地は団地となり、新しい人たちが移り住んでくるに従い、農家も農地を手放し安定した収入が入るサラリーマンになる人が増え、農村から金沢のベッドタウンになってしまい、農村のまとまりがなくなっていました。それによって竹林の手入れが行き届かなくなり、タケノコの質が低下し量も減ってしまいました。良質のタケノコを栽培するには、除草や日当たりをよくするために細い竹や余分な竹を伐採したり、古い親竹を若い竹に更新したり、施肥など意外に多くあるのです。以前、竹林の手入れは地域ぐるみで行っていましたが、農家戸数の減少で個別に行うようになり、手入れ不足となったり、放置された竹林が増え竹の繁殖が環境問題にまで発展しているところもあります。

金沢にはタケノコのように地域の風土をいかして栽培されてきた独特の野菜がいくつもありました。しかし、食生活の変化や均一規格の大量流通、工業などの第二次産業への労力の移動によって、栽培が衰退し、数件の農家で細々と栽培するようになった野菜もあります。こんな金沢市の特産農産物の良さを見直し、生産振興と消費の拡大を目標とした金沢市農産物ブランド協会が平成9年に設立されました。この協会は流通業者、消費者、農業団体、生産者、行政が一体となり、さつまいも、ヘタ紫なす、加賀太きゅうり、金時草、たけのこなど15品目を「加賀野菜」として認定し、品質の良い物には認定シールを貼って消費者へ積極的な消費宣伝などを行っています。その甲斐があって消費量が伸び、生産量が増大する野菜や栽培が復活しつつある野菜もあります。

私はこの夏、学校の近くの農業法人のインターンシップ（就業体験実習）を1週間行いました。その会社は五戸の農家が結集して法人化し、現在は20名の従業員で稲作をベースに野菜栽培や餅、漬物加工を行い、売上高4億2千万円にまで拡大しています。ベテランの技術力と若手のパワーや発想を融合して、農家のようにあれもこれもするのではなく分業化によって、非農家出身でもサラリーマン農業ではなくプロの農業士目指して取り組めるような組織となっていました。勧められるまま参加した実習でしたが、社会の変化に対応した農業経営の形を体感することができました。



どこでも同じような味の野菜が栽培されるようになり、製品化された均一な味から、郷土料理、味の違い、地域の食文化が見直される今日、その元になる郷土野菜の供給が農業の使命になります。しかしー農家で専業経営を考えていたのでは限界があり、これまでの農業のように、朝から晩まで働きつめの職業になってしまいます。経営にあたっては共同経営で分業組織とし、農地近辺の地域住民との関わりを大切にし、消費につなげる加賀野菜ブランドの活用など、計画の柱が立ちました。地域の風土を活かした金沢タケノコを地域の人たちとのつながりを大切にして生産していきたいと思います。



インターンシップを終えて

2年 菅上 悟之

今回体験したインターンシップは、池田造園という造園業者さんにお世話になりました。

緊張から始まったインターンシップ初日は、午前中あいにくの雨でした。そこで、会社や仕事の説明を受けた後、ロープワークの実習を始めました。久しぶりの男結びは、記憶があやふやで、最初はうまく出来ませんでした。しかし、指導者の方に指の動かし方や、かたく結ぶための方法を教えていただき、ゆっくりではあるもののとてもうまく結べるようになりました。その後、池田造園の職人さんたちが手がけた庭園見学を行いました。午後からは少し晴れてきたので歩道の掃除をすることになりました。範囲が広くてすごく大変でした。これで1日目が終了しました。

2日目は、そんなに緊張はしませんでした。実習は、民家の生垣の剪定をさせていただきました。これでもかというくらい伸びた枝は1日で終わるのかという感じなくらいに思いました。しばらくして、トリマーという機械を使わせてもらいました。トリマーは、刈り込みバサミを使うよりとても早く刈り込むことができました。午前中で横がだいたい終わりました。午後からは上の刈り込みでした。上は切った枝が落ちないので、落すのが少しやりにくかったです。後は、刈り込みの微調整を行い、切った枝の掃除をしましたが、

これがすごく大変で一番疲れました。そして休憩後、後片付けを行い、完全に終わりました。終了後の綺麗になった生垣を見たとき、とても達成感があったので嬉しく思いました。



3日目は芝刈りの予定でしたが、雨が降り、とても残念でした。午前中は造園資材を整理する実習で、平板運びをしました。午後は現場に行き、剪定した枝を掃除する実習をしました。その時、職人の方から「松の枝と他の枝は分けて掃除しなさい。」と言われました。なぜかと思っていると「松は油が出るので、他の木と分けて出さないと処理されない。」と言われました。枝はいろいろな所に落ちていて、特に木の下にもぐりこんで掃除をするのが大変でした。最後の休憩で、職人の方から「男結びをしてみろ。」と言われて、出来るか少し不安になったが、何とか出来たので良かったと思いました。そして休憩が終わるとそれと同時に3日目の仕事も終わりました。

今、振り返っても、とても大変な3日間でした。しかし学校では学べない、仕事をする事の難しさや大変さが少しわかった気がします。この先、進路を考える上で、今回のインターンシップの体験を通して学んだ事を生かしていきたいと思います。



生徒会活動を通して学び得たこと

3年 山本 玲

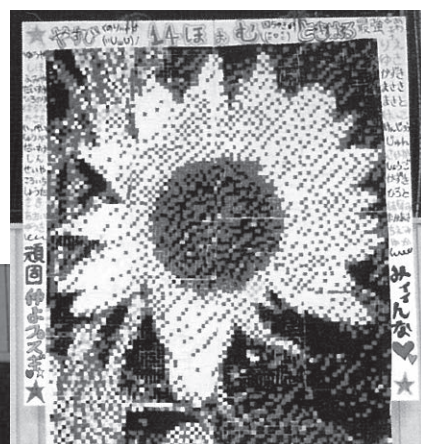
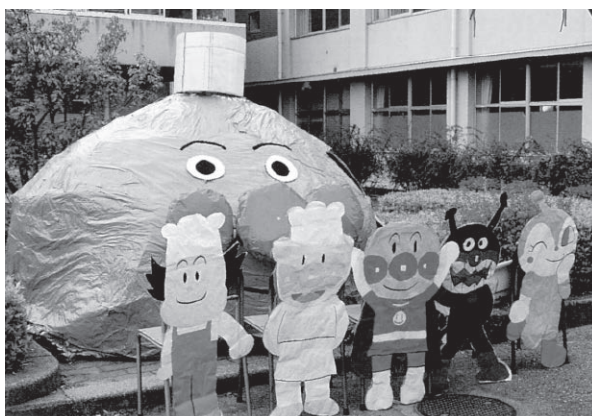
前期の生徒会活動は、あいさつ運動、募金活動などのボランティア、そして3年生メンバー最後の活動、文化祭の運営が主な活動でした。

あいさつ運動は、昨年からやっているの、始めたころにくらべ、生徒みんなが元気にあいさつをしてくれるようになったと思いました。

募金などのボランティア活動で、アピタの前で大きな声を出して募金をお願いするのは、はじめ少し恥ずかしさがありましたが、だんだんと楽しくなってきた、たくさんの方が募金してくれたのがとても嬉しかったです。他にボランティア活動として、白山市が行ったスポーツ大会のお手伝いとして参加しました。出場者の方は、知的障害者の方がほとんどで、1人に対しボランティアが1人ついて、参加する種目の補助を行いました。話をうまくできない人もいて、コミュニケーションをとるのにとても苦労しました。

文化祭では、後期の役員と一緒に運営をし、昨年の文化祭よりも楽しくなるように頑張りました。3年生メンバーは、昨年の文化祭にも実行委員として参加している人ばかりで、先輩たちの働きを見ていたので、自分たちも「頑張らなくちゃ!!」という気持ちでした。

生徒会活動は私たちにとってとても良い経験になり、思い出になりました。

第49回全国学芸科学コンクール
自然科学研究部門 金賞 受賞

バイオサイエンス研究会顧問 宮下 正司

バイオサイエンス研究会2年次生の池松俊哉君、岡田龍君、原田梓さん、番作真一君、平松将宏君の5人は、旺文社主催、内閣府、文部科学省後援の「第49回全国学芸科学コンクール」において、金賞並びに特別賞を合わせ4賞を受賞しました。

コンクールには、全国の小中高校から「科学」「アート」「文芸」の3分野、11部門に約8万8千点の応募がありました。このうちの「科学」分野、「自然科学研究」部門で金賞の栄誉に輝きました。

バイオサイエンス研究会では、過去に、銀賞、銅賞を受賞しており、今回3度目の挑戦で最高賞の金賞を射止めました。これは、創立130周年を迎える本校にとって、大変な栄誉であり、大きな励みとなりました。

研究は、これまで先輩達が取り組んできたエビネの研究を引き継ぎ、新たにシュンランの研究を加えて発表したものです。生徒たちは、入学当初から積極的に研究に取り組んでおり、その研究活動が高く評価されました。なお、表彰式は、3月10日に東京で行われます。

受賞の喜び

2年 原田 梓

バイオサイエンス研究会では、8年前からエビネの増殖に関する研究に取り組んできました。自然豊かな石川県でも絶滅が危ぶまれるエビネ。また自生はみられるものの個体数の減少が懸念されるシュンラン。農業高校生として、野生ランを絶やさないために何かできることはないかと考え、5人で力を合わせ、研究を重ねてきました。

この2年間の研究は苦勞の連続でしたが、顧問の先生をはじめ、県立大学の先生方、農業総合研究センターの方、野生ラン愛好家の方など、たくさんの先生方にご指導とご助言をいただき、栄えある金賞の受賞となりました。今後も後輩達と研究を続け、環境や食料といった諸問題にも真摯に取り組み、研究に励んでいきたいと思っています。

最後になりますが、校長先生をはじめご指導とご支援をいただいた先生方に感謝申し上げ、喜びの言葉といたします。ありがとうございました。



第57回日本学校農業クラブ全国大会（愛媛大会） ～最優秀賞 文部科学大臣賞 受賞～

「蘇れ！里山の自然」

3年 池松 俊哉

私が里山を守りたいと考えるようになったのは、小学5年生の夏、県の自然博物館「ねいの里」を訪れ、里山の成り立ちの話を伺ったことからでした。里山では、薪や炭を得たり、落ち葉を利用したりするために、間伐や枝打ち、下草刈りなどを行ってきました。それによって、光の差し込む地表では花が咲き、それを求めて昆虫や動物などが生息し、新たな生物群落が形成された、安定した二次林となっているのです。つまり、人間と野生生物が共存してきた環境のことです。しかし、近年石油エネルギーへの転換や、過疎化と土地所有者の高齢化が原因で里山の放置が目立つようになり、たくさんの動植物の生息が危ぶまれていることを知りました。幼い頃から動植物が好きな私は、胸が痛くなりました。

「たくさんの生き物が生息できる里山を蘇らせたい」という思いから、県が育成するジュニアナチュラリストに応募しました。この活動では、「ねいの里」周辺の県有地で、動植物の生態調査や放置された里山の手入れを行っています。最初に活動を始めた6年前は、コナラやクヌギ、下草が生い茂り地表に光が届かず、動植物の多様性は失われていました。そこで、全体の約30パーセントの木々を間伐することにし、下草刈りやピオトープ作りなどの作業をしました。その結果、3年後にはササユリを確認することができました。その後、私たちの活動を多くの人に宣伝する意味も込めて「ササユリロード」や「ギフチョウの散歩道」など、たくさんの観察場所を設けました。

これらの活動のなかで一番工夫したのは、「サンシ

ョウウオの託児所」と名付けたピオトープ周辺に木道を設置し、木道と地表の間に空間を設けたことです。そのことによって、観察が容易になっただけでなく、サンショウウオが産卵のために山と池をたやすく行き来することができるようになりました。現在、「サンショウウオの託児所」は、年間最大80双の卵のうが確認され、世界一のホクリクサンショウウオの生息地となっています。

「ねいの里」での活動で、私は里山の自然を蘇らせることへの確かな手応えを感じました。そして、私たちが工夫や努力をすれば、里山はそれに応えてくれることを学びました。私たちの活動が、新聞などにも取り上げられ、里山の素晴らしさや大切さについて気付く人たちが増えてきています。反面、自生しているササユリを盗掘していく心ない人もいます。そのような時、活動が続いても無駄なのかもしれないと思うこともありましたが、「あっ、ここにあったササユリがなくなってる」という子どもたちの残念な声に、やはり活動を続けなければいけないと改めて思いました。

このような思いから、私は農業高校に入学し、バイオサイエンス研究会に入部しました。部では、絶滅が危惧されているエビネ・シュンランなどの野生ランやササユリの増殖を行っています。また、盗掘を防ぐために生産したバイオ苗を地域の方へ配布する活動や、栽培した苗を里山へ返す活動もしています。一昨年近隣の里山へ植えたササユリの球根が、今年花をつけました。なかでも、種をつけた株を見つけたときは、仲間と大喜びしました。今では活動が地域の人に理解され、里山と一緒に苗を植えるなど活動の輪が広がっています。また、これらの研究活動が昨年度、全国学芸科学コンクールで金賞を受賞するなど各方面から認められ、これまでの活動に自信を持つと共に、さらにやる気が高まってきました。

里山は、自然と人間をつなぐ重要な役割を果たして



います。里山を蘇らせることは、自然と人間の共存のための切り札です。それは人間が自然の生態系を崩すことなく、一員となって生活してきたところであり、たくさんの動植物を育み豊かな恵みをもたらすところだからです。私は今後も里山の再生に携わっていくために、将来は農業高校の教師になりたいと考えています。それはバイオサイエンス研究会のように農業技術を活かし、生徒と共に実践活動を通じながら後継者を育てることのできる職業だからです。里山の素晴らしさや大切さを多くの人々に伝えていくこと、これからの私の目標です。

荒れ果てていく里山を生命の活気あふれる里山に蘇らせることは、簡単なことではありません。しかし、私たち一人ひとりが里山の悲鳴に気付き行動することができれば、それが生態系の保全につながり、人間も自然の良い一員に戻れると思います。

皆で守りましょう！里山の自然を。私は、里山再生の輪を農業高校から世界に向けて広め、発信して行きます。



高校相撲金沢大会に参加して

3年 池松 俊哉

1ヵ月ぐらい前のこと、体育の瀬川先生から「相撲やってみるか？」と声を掛けられました。私は今まで相撲に関わったことがなかったのも、とても驚きました。しかし、何事にもチャレンジ精神が旺盛な私は、参加してみたいと心が動きました。

練習では、相手に頭からぶつかっていくのが、特に難しかったです。頭と頭がぶつかる瞬間、恐くて思わず顔を横にしてしまいます。初めのうちは痛いのが嫌でぶつかることができませんでしたが、次第に「どうしても勝ちたい」「勝つためならこれぐらい」という

思いが勝るようになり、徐々に恐怖心が消えていきました。

大会当日は、全国各地の3校と対戦しました。県内の中島高校と戦った時は、私より一回りも二回りも大きな相手で、圧倒されました。立ち合いでは、やはり体の大きさの違いもあり、土俵際まで追い詰められてしまいました。しかし1ヵ月間の練習で習った土俵際では体勢を低くすることと、脇をさされたら逆の方向へ体を移動させることの大切さを思い出し、寄り倒しで勝つことができました。勝った瞬間は、うれしくて思わず叫びたくなりました。さらに、応援して下さった方々からの「おめでとう」や「よかったな」などの言葉が心にしみました。



今回は、わずか1ヵ月の練習期間しかなく、十分な準備ができませんでした。しかし、相撲を通して培った体力・精神力・思い出は、私の一生の財産になりました。私は相撲を通して、何事もやればできるということを改めて感じました。また、今年は本校創立130周年でもあり、そういう記念すべき年に私たち自身が学校の名を上げることに少しでも貢献できたのではないかと考えています。最後に、指導して下さった皆さん、また応援して下さったたくさんの方々、本当にありがとうございました。



ハマナスの自生地保護活動

3年 安田 尚平

平成16年秋、当時の松任市役所文化課よりハマナス保護の依頼がありました。そこで、私たちグリーンデザイン研究会と「ハマナスを育てる出城ボランティアの会」の市民ボランティアの方たちで「ごけんちょう山」に潮風よけとなる竹垣を設置しました。これがハマナス保護の第一歩になりました。

「ハマナスを育てる出城ボランティアの会」は、白山市出城地区の住民を中心とした、白山市竹松海岸にある「ごけんちょう山」に自生するハマナスの保護活動を行っている民間ボランティア団体です。海岸清掃活動や、地域の学校で海岸の自然保護について啓蒙活動も行っています。

「ごけんちょう山」は白山市竹松海岸にある倉部川河口より南側にのびる海岸砂丘の山です。通称「ごけんちょう山」で、漢字での表記は確かではありません。昔は一面にハマナスが咲き誇る山だったそうですが、様々な問題からハマナスが減少し続けています。また、このハマナスは白山市の天然記念物に指定されています。

ハマナスは、有名な歌「知床旅情」の歌詞にもあるように、名前は有名ですが、その実態はあまり知られていません。ハマナスは、バラ科バラ属で、海岸の貴婦人とも言われています。日当たりを好むが暑さに弱いという性質の、海岸の砂地に生える落葉低木です。別名も、ハマナシなどたくさんあります。ハマナスの利用法も余り知られていませんが、ジャムを代表として意外と多くあります。ハマナスの分布は、茨城県から鳥取県以北の本州および北海道になります。そのなかでも石川県は自生のハマナス群落を見られる南の限界地点に近いと言われています。

平成19年度の主な活動は、5月22日（火）午前「ご



けんちょう山」で「ボランティアの会」の方々とハマダイコンの除草と追肥作業を行いました。5月26日（土）午前「本校」で「ボランティアの会」の方々とハマナスの苗1,183本を鉢上げしました。10月18日（木）放課後「ごけんちょう山」でハマナスの果実200個を採取しました。果実1個に種子約50個は入っています。これは後日、研究会で播種しました。11月4日（日）「ごけんちょう山」で「ボランティアの会」の方々とハマナスの苗800本を定植しました。これは平成19年度最大規模の活動で、あさがおTVやNHKでも放送されました。



私たち「グリーンデザイン研究会」は、白山市以外でも金沢市「下安原ハマナスの会」や能美市のボランティアの方々と地道なハマナス保護活動を行ってきました。その結果、平成18年度ボランティア・スピリット・アワードでコミュニティ賞（石川県で優秀なボランティア活動）を受賞しました。また、平成19年度ボランティア・スピリット・アワードではブロック賞（北信越で優秀なボランティア活動）を受賞しました。その結果、東京で年末に行われた全国授賞式に参加しましたが、全国トップ10には入りませんでした。

私たち「グリーンデザイン研究会」のハマナス保護活動は、地域の方々のご協力と民・官・学の連携により進行中です。そして、協力と連携なしには私たちの保護活動は失敗に終わっていたと思います。この活動を通して、お互いに協力し、連携することの大切さをあらためて知ることができました。

私たち「グリーンデザイン研究会」の今後の課題は、地域の連携を強化するとともに地域の連携を石川の海岸線沿いに拡大し、ふるさと石川の海岸線をハマナスで花盛りにする「ハマナス・ネットワーク」を作っていくことです。ご協力お願いいたします。

高校総体 2年連続 出場
六星賞 受賞

3年 中出 恭平

高校総体陸上競技に2年連続で出場。しかも48年ぶりとなる快挙であった。

本校運動部の活性化に大きく貢献し、対外的にも本校を大きくアピールした。

主な功績

2年次

石川県高校総体	400m ハードル	2位
北信越陸上対抗選手権大会	400m ハードル	5位入賞
	(大阪インターハイ出場)	
石川県新人大会	400m ハードル	優勝
石川県新人大会	400m	2位
石川県新人大会	200m	3位
北信越新人大会	400m ハードル	2位
北信越新人大会	400m	5位
	(北國スポーツ記録賞受賞)	

3年次

石川県高校総体	400m ハードル	優勝
北信越陸上対抗選手権大会	400m ハードル	3位入賞
	(佐賀インターハイ出場)	
国体石川県予選	400m ハードル	優勝
	(秋田国体出場)	



陸上競技部

2年 茶谷 智也

今年は部員が増え、とても良い雰囲気の中で練習に取り組めた1年でした。部員が増えたことにより、とても盛り上がる部活動になりました。記録会や大会が近づくにつれて、全員が努力をして頑張ってきました。シーズン前の冬季練習では、暖冬の影響もあって、毎日競技場を使うことができ、厳しい練習を重ねてきました。夏休みには合宿に行ったりして、全員が大きな力をつけました。

そして今年も中出先輩がインターハイに出場したほかに、国体にも出場を決め、注目を集めました。

今は3年生が引退して、部員も減りましたが、来年度へ向けて毎日、短い時間で質の高い練習に励んでいます。その成果は必ず来年度につながると思います。また、日々感謝の気持ちを忘れず、顧問の先生を信頼し、とても恵まれた環境の中で練習に励んでいきます。



高校生活を振り返って

3年 四十万侑佑

私が翠星高校に入学し、早3年が過ぎました。入学後の部活動紹介で、ハマナスの保護活動に興味を持った私は、グリーンデザイン研究会に入部しました。ハマナスの保護活動を行う中で、温度などの管理不足など多くの失敗もありましたが、活動が認められ、ボランティアスピリットアワードで表彰されるなど、嬉しいこともたくさんありました。また、表彰されたことで自信がつき、研究会活動に生かしていくことが出来ました。研究会に入ったことで、ボランティアの方々との交流などを通して、コミュニケーション能力を高めたり、仲間と協力して作業を行う大切さなど様々な経験が出来ました。

入学して最初の頃の総合実習でグリーンデザイン系をまわった際に、私は庭園の造形や技術に感動し、造園を勉強できるグリーンデザイン系に入る事を決めました。系に入ってからしばらく経ち、先生に農業鑑定競技という各分野の専門的な知識を競うものと教わ

り、造園をより詳しく勉強するために農業鑑定競技の造園区分に参加しました。1年次は専門教科が少なく、鑑定の勉強の内容を理解するのが困難でした。しかし、一生懸命勉強に取り組み、県連大会では運良く最優秀賞を受賞しました。自信を付けた私は2年生になっても、引き続き競技に参加しました。2年になり専門教科も増えたため、鑑定の勉強も理解できる部分が増え、全国大会でなんとか優秀賞を受賞しました。全国大会で優秀賞を受賞し、次は最優秀賞を目指すという目標が出来ました。3年生になり、放課後の空き時間や長期休暇を利用して、勉強しました。そして、全国大会で、念願の最優秀賞を受賞出来ました。3年間鑑定競技に参加し、こつこつ勉強を積み重ねてゆく大切さなど、色々な事を学べ本当に良かったです。

最後になりましたが、翠星高校に入学してから3年間お世話になった先生方、本当に有り難うございました。

エコギフト初代大賞を受賞

宮下 正司 教諭

本校は、今年3月、石川県庁で初めて開催された「地域環境力向上フォーラム」においてエコギフト初代大賞を受賞し、谷本県知事より小型風力発電機が贈られました（グラウンド横に設置されており、国道8号線よりご覧いただけます）。石川県では、環境保全活動の裾野を広げるために「エコギフト事業」を創設しています。

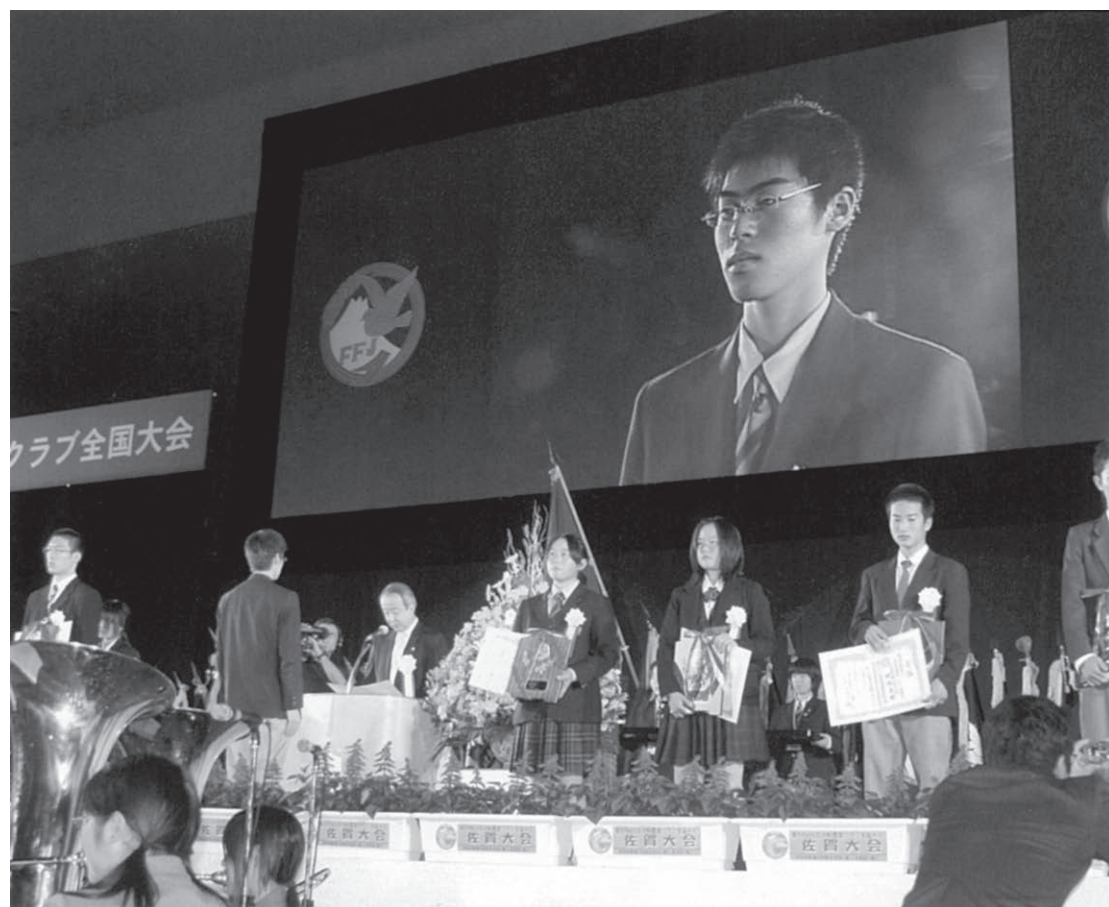
本校は、石川県独自の認定制度「いしかわ環境ISO」に登録しており、循環型社会づくりなど環境教育を推進する学校として認定を受けています。

大賞の受賞理由は、省エネ・省資源に取り組んできたことは勿論、農業高校の特色を生かし、絶滅危惧種であるササユリやエビネ、自生地が減少しているハマナスの復元に取り組んできたことが高く評価されたからです。

この受賞を契機に、農業高校だからこそできる環境教育をさらに推進していきたいと思います。



副賞の小型風力発電機



石川県高校駅伝 男女アベック初出場

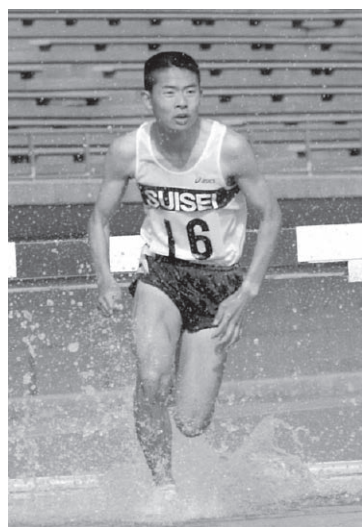
陸上部顧問 永島 泰治 教諭

今年の陸上部のメンバーは、県高校駅伝大会に男女アベックで出場という大きな目標を掲げて、冬季練習、夏季練習を積み重ねてきました。大会が近づくにつれて、結束力が高まり、加賀地区高校の中で唯一本校だけが、男女アベック出場を果たすことができました。

試合当日は、雨が降っており、気温も低かったが、生徒たちは、自分の任された区間を精一杯走りきったと思います。女子は松任農業高校時代を通じての初出場、部員は緊張感を持って試合に臨み、全員自己ベストで17チーム中、12位でゴール。男子は、昨年は7区で繰り上げスタートをさせられましたが、今年は、最終区までタスキがつながり、18チーム中、13位でゴール。男女ともよく頑張ったと思います。来年はさらに上を目指して感謝の気持ちを忘れず、努力を

積み重ねていきたいと思います。

また、学校長をはじめ、本校職員の方々、OBの方々ご声援ありがとうございました。



全国大会に参加して

3年 沢田 滯

『全国大会出場!!』これは私達フードテクノロジー研究会、プロジェクト班の今年の目標でもありました。私達3年生は昨年、この目標を掲げていました。

それは昨年の夏、農業クラブ県連大会で最優秀となり、北信越大会に出場しましたが、惜しくも敗退してしまい、とても悔しい思いをしました。それから私達はその時の思いを胸に、『来年は必ず全国大会に出場しよう!!』と心に決めました。

そして今年、新入部員を迎えて数ヶ月が経ちました。先生に「今の人数では全国大会に向けての活動は難しい。1年生を参加させてみないか?」と言われ、私達3年生6名に、1年生2名を加えて、新たにプロジェクト班を組むことになりました。

昨年は『地産地消』をテーマに、白山市の清酒メーカーの清酒から出る酒粕を使用したパンを作りましたが、味や香りに難があり品質的にも良いものではなく、残念ながら試作の段階で終わってしまいました。

そして今年は、『地元の素材を活かした高品質のパンを作り、そのパンを外部販売し、多くの人に地域の素材の良さを知ってもらおう』『私達のパン作りの技術をより多くの人に伝え、地産地消の意識を高めよう』という二つのテーマを設定し、研究をスタートしました。

今年は身近な素材に注目し、学校産小麦粉と石川県内産米粉を使用したパンを3種類完成させました。

そして二つのテーマに基づく活動として、本校ピュ

アマート、Aコープ富奥店でのパン販売、校内や市内の中学校での講習会を行いました。その他にも県内外の様々なイベントに参加するなど、自分達に出来ることは沢山しました。

農業クラブ県連大会…長野県で行われた北信越大会…と順に勝ち進み、ついに私たちの目標とする全国大会へ出場する事が決まりました。

私たちは、上位入賞を目指して前大会の発表を見たり、日々の発表練習を積み重ねていきました。

そして全国大会。前日にはリハーサルが行なわれ、各ブロック代表の発表を目の当たりにして、完成度の高さに驚きが隠せませんでした。

発表当日。私たちは、緊張してしまい思うような発表が出来ませんでした。さらに、他のブロックの発表は大変素晴らしいもので、全国大会のレベルの高さに圧倒されました。

翌日に大会式典が行なわれました。残念ながら私たちは、上位入賞をする事が出来ませんでした。最優秀賞を受賞した学校は、上位常連校だったので、凄いと思いました。

そして、翌日に顧問の先生からこれまでの反省を含めた言葉を言われ、入賞出来なかった思いがこみ上げてきました。

私たちは、3年間の活動を通していろいろな事を学びました。後輩には、私たちが達成する事の出来なかった全国大会入賞を目指して頑張ってほしいと思います。

最後に、応援して下さった地域の方々や先生方、そして何よりも顧問である谷先生にはとても感謝しています。

3年間ありがとうございました。



全国大会に参加して

3年 上出 歩



私は全国大会に行くために2年間勉強してきました。私たちには、放課後、夏休み、冬休み、春休みはなく、ほぼ毎日学校に来て勉強するようになりました。

2年生の時に県大会の1ヵ月前から勉強を始めたのですが、来年は全国大会に行きたいという思いが強くなり、2年生の冬休みからまた勉強を始めました。正直冬休みや夏休みがないのはつらかったですが、除々に身につけてきているのが嬉しかったです。

今年の県連大会は去年より問題を解くことは出来ましたが、賞はとれませんでした。その時点では、全国大会に行けるか分らなかったのが不安でしたが、数日後、先生から電話が掛かってきて「園芸区分から上出と今村が全国大会行くことになったぞ」と聞いたときはとても嬉しかったです。

私は全国大会に行くことが決まってから毎日の勉強をサボるようになってしまいました。しかし、友達が勉強しているのを見ると自分も頑張ろうと思うようになりました。

北海道に着いてからは今まで勉強してきたファイルを見返す程度しかできませんでした。大会当日は、少し緊張しましたが、今まで勉強してきた成果を発揮できたと思います。

速報を見たときは、自分の名前があるなんて思っていなかったのが、自分の名前を見つけたときは、とても嬉しかったです。今までがんばってきたことが結果として表れてよかったです。

この結果に辿り着けたのも先生方のおかげです。ありがとうございました。

文化祭

1年間を通じて最大のイベントである文化祭。前期の生徒会役員が中心となり準備・企画に当たりました。特に忙しさが増したのは、10月からです。実習や部活、入試などの準備でなかなか全員が揃わず、話し合いも作業の確認も出来ません。また、執行部として今までの文化祭を経験しているのはたったひとりです。他のメンバーはどのような仕事があるのか、何をしたらいいのか分からないのです。指示待ち人間で、自分から聞くことも出来ない状況でした。自分が知らないところで3年生の佐藤さんが随分と動いてくれていました。佐藤さんがいなかったらきっと成功しなかったと思います。ありがたかったです。

文化祭が終了した時は、ヘトヘトでした。しかし、無事やりきることが出来て良かったです。



宿泊研修

1年 大浦 元気

宿泊研修は中学までにやってきた合宿とは違って、本当に勉強になる事をやるのだと思った。

ジェラートの研修では、本物のジェラートを食べさせてもらえたり、柴野さんのジェラートに対する思いが強く感じられました。「継続する力の大切さ」という言葉を聞いた時とても感動したり、高校で入部した部活動を最後まで続けようと思った。野外炊飯は、合宿以来で本当にちゃんとカレーを作れるか心配でした。自分の班は火をおこし、燃やすのに手間取り、他の班が出来上がっているのを見て焦った。ルーはジャバジャバ、ご飯はカチカチのカレーライスになった。でも何とか出来上がって良かった。

農業クラブの研修は京都の高校のビデオを見た。世界遺産を遺すという大きな目標を持ってやっていたのを見た時、同じ高校生でも努力すればここまで出来るのだと思った。グループエンカウンターは、クラスのみんなのことを知れて良かったし楽しかった。クラスのみんなと沢山交流が出来た。マナー研修は、当たり前のことをやるということだったが、いざやってみるとなかなか出来なくてやり直しさせられた。でもそれも勉強になった。

この研修は、クラスや他のクラスの人たちともいろいろ交流が出来て楽しく勉強になった。



文化教室

3年 柿島 桜子

私はこのような演劇を見たのは初めてだ。歌舞伎やミュージカルと違い、人の微妙な表情までステージの間際で楽しむことが出来て、最初から最後まで見逃すことが出来なかった。

私にとってこの物語は、ハッピーエンドではなかった。なぜなら私はシャイロックの味方だったからだ。嫌われ者はどの町にもいるもので、どんな話にも欠かれない。しかし、シャイロックはそこまで悪い人ではないと思う。むしろこれまでの人生で感じた決して晴らすことの出来ない恨みや無念さが、法廷から去る後ろ姿から伝わってきて、愛しささえ感じた。彼にとっては長年の恨みをようやく晴らす時が来たのだ。人肉を利息として切り取ると宣言する程まで悲しみにあふれた彼には、慈悲の心などもう手遅れなのだと思う。むしろ問題なのは、アントーニオやその親友バサーニオではなかったか。巧みな弁舌でまるで善人のように振る舞い、情けをかけたくるような弱々しさ…。でも約束を破ったのは彼らのほうである。あちらでよい顔をし、聞こえの良い言葉を並べるバサーニオにも呆れた。

シャイロックの人肉を切り取ろうという行為や、人をあやめようとする行為は決して許されるものではない。しかし、その時代にあった暗黙の人種差別、そしてその上に塗り固めた美しい友情、法、知恵によって彼らはシャイロックという人間の心を殺してしまったのではなからうか。



全国大会に参加して

2年 上田 悠

私は鑑定競技、食品科学区分に参加しました。全国大会に行ける、と知った時はとても嬉しかったのですが、本格的に鑑定競技の勉強を始めてみると見たことのない道具や初めて聞く内容の問題も多く、とても大変でした。さらに、このような大きな大会は初めてだったので、大会が近付くにつれ、不安と緊張ばかりが増していきました。

競技前日に会場となる諫早高校に下見に行った時、あまりの広さに驚きました。会場を見たことでさらに緊張感が高まりましたが、同時に明日なのだ、という実感も湧き、気を引き締めることが出来ました。

当日は控室に入ってから競技が始まるまでがとても長く感じられました。そしていざ自分の番になり問題が並んでいるのを見たときには、あまりの緊張で頭が真っ白になりそうでした。それでも、大丈夫だ、出来

る、と自分に言い聞かせながら問題を解いていきました。問題がすべて終わったとき、予想以上に解けたことに嬉しくなりました。けれど答えが配布され自己採点してみると思っていたよりも不正解が多く、きつと入賞は無理だ…と思いました。そんなこともあり速報の優秀の欄に自分の名前を見つけた時はとても嬉しく、勉強を教えてくださった先生方への感謝の気持ちでいっぱいになりました。

式典では最優秀賞のプロジェクト発表を見ました。私も今年、プロジェクト活動に参加し、全国出場はなりませんでしたが、北信越大会で発表をしました。全国大会で最優秀を受賞した発表は、発表態度がとても堂々としていて内容も濃く、自分たちの発表やブロック大会で見た発表とのあまりの違いに驚きましたが、とてもいい勉強になりました。

今回の全国大会参加は、不安や緊張も大きかったですが、入賞出来ただけでなく、実際に参加してみないとわからない雰囲気を知ることができ、自分にとってもいい経験になったと思います。

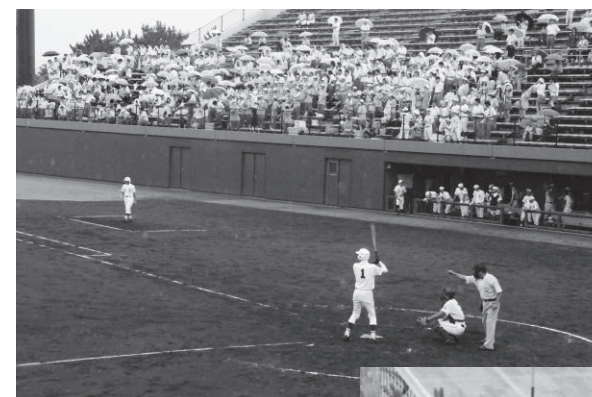


大会と全校応援

応援団長 丹保 祐貴

夏の高校野球、翠星高校は全校応援で大会に参加しました。そんな多くの人が応援する中で私は、応援団長というとても責任感のある立場にいました。応援団の活動は、6月の中頃から始まりました。応援の練習は振り付けを考えたり、打ち合わせをしたりと大変なことも多かったです。自分でもどうしてこんなに頑張ることができたのか、よくわからないけれど、たぶん自分達の大会の時、壮行式で野球部の応援、大会会場での保護者の方々の熱い声援のおかげで、今までやってきたことを全力でプレーすることができたと思います。そんな素晴らしい思いを野球部の人達にも味わって欲しいと思い頑張ってきました。

全校応援当日になり、試合が始まりました。全力で応援しましたが、健闘もむなしく翠星高校は負けてしまいました。試合が終わって、自分は本当に全力で応援できていたのかとても不安になりました。しかし、試合後の元雄監督と主将の川端君が「ありがとう」と言ってくれたとき、自分がやってきたことが野球部の力になっていたのだとわかりました。来年の応援団の人達にもこの思いを味わって欲しいと思います。



東日本大震災復興募金

3月に東日本大震災が起こり、自分たちでなにかできることをと考え、春休みに松任駅で募金活動をしました。野球・陸上競技・女子バレーボール・ボランティア部の皆さんが、自主的に活動に参加してくれました。

文化祭では、被災地へのエールも各企画に考えてもらいました。そして、3年次生の模擬店や2年次生の即売売り上げ金、1年次生の募金と併せて、被災地の義援金として使うことにしました。

部長の責任

男子バレー部主将 橋本 凌平

私たち男子バレー部は3年次生が中心となり頑張ってくれたおかげで総体をベスト8という結果を残すことができました。その主力となっていた3年次生が総体終了後引退し、部員6名というギリギリの人数となりました。

3年生の抜けた穴はとても大きく、存在の大きさを実感しました。

残った私たち1、2年次生でもう一度基礎から徹底した練習を行い、一人一人がスキルアップできるようにしたいと思っています。また、何よりもチームワークを大切にするチーム作りを心がけ、そしてこれからある大会に向けて日々練習し、3年次生が残してくれた結果を私たちも残せるよう頑張りたいと思っています。来年の新入生を増やすためにも今の自分たちが

よい成績を残して「翠星高校男子バレー部」と胸を張れるような部活動にしていきたいと思います。しっかり大きな声を出し、今の部員たちと少しでも長く活動ができたらと思っています。

全国大会を終えて

3年 四十万愛梨

私は農業鑑定競技の食品科学区分で全国大会に出場しました。鑑定競技に出ようと思ったきっかけは先生の誘いでした。それから全国大会まで1年ほどかけて勉強してきました。

全国大会当日は、全国から集まった農業高校生の多さに驚きました。会場の雰囲気も普段学校でやっている鑑定競技の雰囲気とは全然違いとても緊張しました。

今まで、基本的な勉強はもちろん、過去の問題も何回も繰り返しやってきたのでそれなりに問題が解ける自信がありました。でも実際、全国大会の問題は今までにやってこなかった問題もたくさんありとても難しく、全国のレベルの高さがわかりました。

競技が終わったあと自己採点をしましたが、目標の点数には届いていませんでした。もっと勉強し、応用問題もたくさんやっておけばよかったと後悔しました。

表彰式の日、配られた速報に自分の名前があり驚きました。自己採点では点数が低く、絶対に無理だと思っていたのでとても嬉しかったです。

最初は軽い気持ちで始めた鑑定競技でしたが、一生懸命勉強するうちにもっとできるようになりたいと思うようになりました。

全国大会に出場し、優秀賞をとって結果を残せたことが高校でのいい思い出になったのでよかったです。



農業クラブ全国大会長野大会に参加して

2年 中川 諒美

1年のとき、先生にすすめられて、農業クラブになんとか入りました。1年生のときは先生に言われるままに先輩の姿を見ながら活動していました。その時は、大会などに出ている選手を見ても、自分には関係のないものだと思い込んでいました。

2年生になって、2回目の校内鑑定競技がありました。そこから先輩や同級生が選ばれていて、少し安心していた部分もありました。しかし、野球の全校応援の日に、白石先生から「1人、選手の生徒が降りることになったから、中川どうや？」と言われて、初めは



なんで自分が選ばれたのかわからなかったし、他人の代わりなんて嫌やと思っていました。それでも、声をかけてもらえたから、全国大会には行けなくてもやってみようかなと思ったので、夏休み、部活や補習、農業実践演習もあったし、それらと並行し過去問を見ながら勉強していきました。

そして、県連大会。まだ分からないことばかりで、きっと答えられないだろうと半分諦めていたけど、夏休みの間勉強してきた分、頑張りました。その成果が、優秀をいただいて、本当は全国大会に出る選手ではなかったけど、3年生の宮下さんが農業クラブで係があたっているから出られなくなったので、全国大会に行くことになりました。

夏休み明けから本格的な勉強が始まりました。全国大会と同じ時期に文化祭もあったので、部活に行っからはほぼ毎日遅くまで学校に残って勉強していきました。その間、全国大会と部活のプレッシャーで、何度も嫌になる時もありました。けど、教えてくださっている親谷先生や、応援してくれていた先生や友達がいるし、自分のためにも頑張れました。

日が近づくうちに、先生から説明を受けたりして、「あーほんとに全国大会なんだ」と除々に実感していき、その頃には、夏休みより勉強してきたし、理解することも増えてきて少しずつだったけどプレッシャーが自信にも変わっていきました。

長野へ出発の日、あいにくの雨で寒かったのを覚えています。一瞬だけ大会のことを忘れて、バスの中、先輩や先生と話したりして緊張がほぐれ、リフレッシュできました。気づいたら長野に着いていて、旅館で最後の勉強をしました。

朝起きて準備している時、いよいよかという楽しみな気持ちと、緊張で胸がいっぱいでした。会場に着いて、他の全国各地から来た農業高校生を直に見て、これから始まると思っている内にもう競技が終わって、

ホテルにいました。自己採点をしていても、ぜんぜん答えられなかったし四十万先輩が入っていたら、それで気持ちよく帰れるなと思っていました。

次の日、式典の終わりごろ、速報が届き、小園さんが「おめでとう！」と言ってきて、初めは何のことかわからなくて速報を見にいくと、優秀の欄に2人の名前があって、見つけた瞬間、親谷先生を見ると大きくうなずいてくれて、泣きそうなくらいうれしかったです。いままで、そんな時間もなかったし、十分に勉強できていなかったのに、全国大会で優秀がとれて、本当に頑張ってきたよかったと思いました。

帰り道、親谷先生に「中川、来年は最優秀やな！」と笑いながらだったけど話していて、来年に向けて親谷先生が勉強をまた教えてくれるのでまた頑張ってみようかなと思いました。

全国大会にいけてよかったです。

どこにも負けない応援

1年 本濱愛理菜

高文連後、すぐに野球の応援曲を練習し始めた。私は楽器がよく変わって、その度に楽譜が変わり、一つの曲を暗譜するのが大変だった。しかし、昼休みの応援練習で、応援団の人が紙を見ずに練習している姿に「自分も頑張らんなん」と思い、毎日部活を頑張った。1日1曲は覚えられるように自分の苦手な所を集中して練習をした。でも、なかなか覚えられないのが悔しかった。

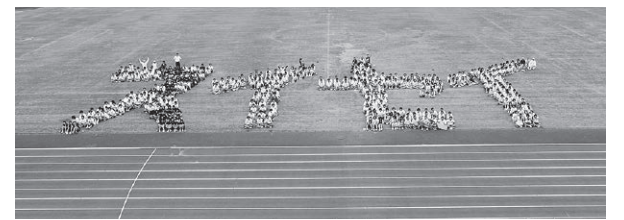
本番前の全校応援までには何とか暗譜できたけど、ミスは多かった。本番では、ましな音楽にしたくて家でも練習した。

当日、思ったより暑くない球場にほっとした。試合が始まって、みんなで応援していてすごく楽しかった。いくつかミスしたけど、そんなことが気にならな



いくらい応援を頑張っていた。音が裏返っても、少し間違えても、応援している間はいつもみたいに止まってしまうことがなくて、ずっと吹き続けていられた。みんなで声を出すことや、演奏することがこんなに楽しいと思ったことがなくて、嬉しかった。中学の時は大きな大会に進むことだけを考えていたから、そんなことを気にしないで吹けるのが一番良かった。

試合には負けたけど、今日の全校応援は今まで一番楽しかったことで、どの学校にも負けないすごい応援だったと思います。来年も今日みたいに応援したいです。



修学旅行を終えて

2年 勝島 亮佑

沖縄はすごく暑いと思っていたけれど、時期も時期だったので、気温もちょうどよくてとても過ごしやすい気候でした。

国際通りの自主研修では、長く見えて意外と短い1マイルを隅から隅まで移動して買い物をしました。どの人もとても優しく、良く話しかけてくれたので、楽しい気持ちになりました。行きたかったショップにも行くことができたので、計画通りとはいかなかったけれども楽しい自主研修になったと思います。

今回の沖縄修学旅行では、戦争のことを考えさせられることが多かったのではないかと思います。平和の礎、摩文仁の丘、ひめゆりの塔、資料館など沖縄戦のことを細かく知ることが出来て良かったです。最初は全く興味のなかったことだったけれども、日本の歴史を知ることの良いことだと思いました。

伊江島民泊体験では、島の人々がとても優しく、色々な体験をさせてくれました。理解できない言葉もありましたが、自分たちに一所懸命話してくれるので、自分たちもしっかり聞こうという気になりました。伊江島の歴史を教えてくれたり、島の絶景スポットなども見せてくれて、自分たちを楽しませようというのが伝わってきました。また伊江島にも行ってみたいと思いました。

第64回 農業クラブ全国大会（首都圏大会）

平成25年10月23日～25日、第64回日本学校農業クラブ首都圏大会が開催され、本校から、農業鑑定競技、クラブ員代表者会議、秋季代議員会に、9名が参加しました。

農業鑑定競技では、「食品科学区分」で優秀賞を獲得したほか、クラブ員代表者会議では、「クラブ員が興味を持てる活動にはどのようなものがあるか」というテーマで、事例を発表しました。



全国クラブ員代表者会議に参加して

2年 室 瑠衣

10月22日、23日に東京都立農芸高等学校で行われた、全国大会のクラブ員代表者会議に、第2分科会第4会場の事例発表校として、発表者2名と補助者2名、指導助言者1名の先生含め計5名での発表を行いました。私は発表者を担当し、全国から集まるクラブ員の前で、できるだけ大きい声で、わかりやすく話すことを心掛けながら発表しました。

前日のリハーサルの際は、みんな大きなミスすることなく緊張せずに出来たのですが、本番では文章を飛ばして読んでしまったり、練習の時は、スムーズに言っていたのに詰まってしまうと、やはり結構緊張していたようです。でも発表する前に、ミニゲームで伝言ゲームと名刺交換をしていたので、「いきなり発表するよりはマシだな。」と思いました。同じ学校の人とは、みんなバラバラの班に座っていたのですが、それぞれ周りの人と仲良くなれていました。私も最初は緊張して、あまり話せなかったのですが、段々と話せるようになり、発表に対するまとめやテーマについてのまとめの時に、それぞれの学校がどんな様子なのか、何を作っているのかを話し合いました。そして翠

星高校との違いがたくさんあることを知り、とても勉強になりました。なかでも農場への移動に1時間以上かかる農業高校があるという話には驚きました。

クラブ員代表者会議に実際に行くまでは、もっと堅苦しいものだと思っていたのですが、参加してみるとそんなことはなく、みんなが自分の意見を気軽に言い、会議も楽しくスムーズに進めることが出来ました。今回経験したことを無駄にしないよう、今後の学校生活や、進路を決めるときに役立つよう頑張りたいです。

クラブ員代表者会議に参加して

2年 辰田 唯奈

10月23日、24日に東京都立農芸高等学校で行われたクラブ員代表者会議に、翠星高校は事例発表校として参加しました。私はパソコンの担当でしたが、全国大会ということもありとても緊張しました。大会前日の練習では、これまでどおり滞りなく発表することができました。会議当日、名刺交換やゲームなどをして親睦を深めた後、「クラブ員が興味を持てる活動には、どのようなものがあるか」について話し合いをしました。事例発表では、少しミスがありましたが、焦ることなく進められたと思います。

話し合いでは、高校が違うという壁を感じることなく、楽しく意見交換ができました。私が思いつかないような意見が沢山あり参考になりました。ただ話し合いの中で、翠星高校について質問されたとき、すぐに答えられなかったことと曖昧になってしまったことに悔しさが残りました。休憩時間では、あまり会話ができなかったけど、話し合いをしているときに、自分の高校について教えあったりしました。私たちの高校にはない学科や活動を知ることができてとても楽しかったです。あまり体験することのできない全国大会に参加できたことは良い経験になりました。参加したことで農業クラブに対する意欲も以前より高まった気がします。この経験を活かし、より力を入れて今後の活動を行っていききたいと思います。



キャリアガイダンスを通して

1年 中藤 輝

僕はキャリアガイダンスでいろんなことをしてきました。またその活動を通していろんなことを学びました。5月に行われた宿泊研修では講習会や野外炊飯などをして新しい友達を作ることができました。

6月から7月にかけて各自が進みたいコースについて先生達から話をきいたりしながら決めました。自分の進むコースや自分がとる授業について真剣に考えました。9月には学校付近のゴミ拾いを行いました。普段使っている道でも、いざゴミを拾うとなるとそのゴミの多さに驚きました。ペットボトルや空き缶は言うまでもなく、折れた傘、お菓子の袋、タバコの吸い殻も多くみつけました。持ち歩いていたゴミ袋は短い間ですぐに一杯になりました。このことからゴミのポイ捨ては軽い事ではないと改めて感じました。

これらの活動を通して学んだことは、クラスの皆や友達と協力することの大切さや他人とのコミュニケーションの大切さです。僕はこれらのことを忘れずこれからも高校生活にいかしていきたいと思いました。

文化祭

2013年の文化祭テーマは、「SMILE翠星～GREENな僕たち～」でした。1日目は、笑福亭純瓶さんの公演が行われました。「俺がルールだ」という演台で、おもしろおかしく現代の若者を表現していて何か身近に感じるものがあつたと思います。2日目は、本校OBの堀達夫さんと北貴良さんをお招きして生徒とのパネルディスカッションでは、「高校時代と私」という演題で講師の高校時代の話や、私たちの進路に関する話が聞けて、とても参考になりました。



部活動の思い出

3年 山下 真美

私は高校野球が好きです。中学生の頃からずっと、高校生になったら野球部のマネージャーをしたいと思っていました。入学して、女子部員が一人もいないことに私は怖じ気づきました。一人じゃできないと入部することを諦めました。翌年、周りの友達にも背中を押され、やっとの思いで顧問である元雄先生の所へ入部希望を話しに行った緊張感は今でも忘れません。マネージャーを始めてから、放課後は毎日グラウンドで過ごしました。毎日毎日同じことの繰り返しでしたが、部員が少しずつ上手になっていく姿は嬉しかったです。休日の練習試合も、普段の学校生活よりもまじめな顔が新鮮でした。遠征にも行き、みんなのお世話をするのが楽しかったです。

今年の夏は、3年生と一緒にスコアラーとしてベンチに入りました。選手の間みなと同じ目線で熱くなりました。特に3回戦目は、手の震えが止まりませんでした。それほど入部当初より野球がもっと好きになったんだと実感しました。私は、野球部に入部して本当に良かったと思っています。応援してくれた家族や友達、指導してくれた顧問の先生方、私に元気をくれた野球部員やマネージャーの後輩たちには感謝の気持ちでいっぱいです。



全国大会に出場して

3年 室 瑠衣

私は、農業鑑定競技の造園区分で大会に出場しました。

全国大会となると問題も難しいものが出てくるだろうから頑張らないと、という思いで勉強しました。去年は県連大会で終わってしまったので今年初めて全国大会に行きました。今年の全国大会は沖縄県であり、大会前日暑くて眠れませんでした。横になっても眠れなかったので、フロントに行き勉強しました。勉強していると違う県の農業鑑定の方が来て仲良くなれたので眠れなかったのですが、良かったです。

大会会場は、県連大会の時とは雰囲気がとても違い

少し不安になりました。私の順番は一番最後だったので待ち時間が長かったのですが、勉強しても不安であまり頭に入って来ませんでした。自分の順番が来て問題にとりかかると、分かって当たり前の問題ばかり出てきたのに私はまったく解けませんでした。なので、終わった後は入賞もしていないだろうと思っていました。しかし、結果発表の日、号外が出され、見てみると入賞していたのでびっくりしました。ただ、入賞して嬉しかったのですが、逆にもっと勉強すれば最優秀を取れたかもしれないと思い少し悔しかったです。

全国大会に行ったことは、自分にとってとても良い経験になりました。また、県外に友達ができ、その人と話をして違う県に興味を持つことが出来たので本当に良かったです。



文化教室

2年 伊藤 星花

今年の文化教室のゴスペルコンサートはとても楽しかったです。ゴスペルを見るのは初めてで、力強く透き通る歌声で鳥肌が立ちました。途中感動で泣きそうになる場面もありました。一番印象に残っているのは、アナと雪の女王の主題歌「Let It Go」です。素敵すぎて見とれてしまいました。周りでは一緒に歌っている人もいました。見ていただけじゃなくて、参加できることがとても良かったです。手拍子や掛け声など、初めは恥ずかしかったけれど、楽しくって恥ずかしいと思うのを忘れていました。ソウルマティックスの皆さんと、楽しい時間を過ごせたことが一生の思い出になりました。一曲一曲の歌の歌詞が心に響き、たくさんの元氣や勇気をもらえました。また、ソウルマティックスの皆さんと、どこかでお会いできると嬉しいです。

文化祭

2014年の文化祭のテーマは「Smile blightly ～翠のキセキ～」でした。1日目は、河二敏雄さんの公演が行われました。演目は、「昔の農業と今の農業」で、とても分かりやすい内容で昔と今の農業の違いを学びました。河二さんの会社で販売されているお菓子もおいしくいただきました。2日目は、邦楽、芸能王、河口こうへいさんのものまねショーが行われました。芸能王では、7組のグループが参加し盛り上げてくれました。河口さんは、翠星高校の卒業生で安川先生と同級生だったそうです。河口さんのお父さんも来て下さり、楽しいマジックショーを見せて下さいました。3日目は、各クラス企画が行われました。1年生の企画は遊べる出し物、2年生は翠星で育てた野菜などの販売で、3年生は、翠星で育てた作物などを使って、模擬店を開きました。特に3年生の企画の食べ物、どれもすごくおいしかったです。他にも、各部活動（文化部、研究会、農ク、PTA）や生徒会も、企画をしました。それぞれ個性的な企画で、どれも楽しかったです。一般のお客様もとてもたくさん来てくれました。

3日間、全校生徒で楽しむことができ、良かったと思います。

園芸福祉コース

3年 倉田優芽乃

園芸福祉コースでは、1年の頃から沢山の種類の花や野菜を育ててきました。花や野菜の育て方や知識だけではなく、花を飾ることでその場の雰囲気をよくしたり、癒される効果があることを学びました。他にも一緒に野菜を育てることで、コミュニケーションをとれたりするので、園芸を学べて良かったと思いました。

福祉では障害や介護についてなどの知識を学んで、考え方が3年間で大きく変わりました。障害のある人や高齢者の人達と交流が出来たことは、自分のこれからの人生にとってもプラスになりました。それまでの自分は、福祉について無知だったので、怖いという気持ちがあったけれど、これからは積極的に困っている人がいたら助けたいです。そして、自分の学んだ事を知らない人がいたら、教えてあげたいと思います。私がこのコースで学んだ事は、卒業してこれから先も生かしていけます。とても良い経験が出来ました。



全国大会優秀について

2年 岩見 拓海

私は平成27年10月21日、22日に群馬県で行われた、「第66回日本学校農業クラブ連盟全国大会」に参加してきました。そして、その中のプロジェクト発表食料・生産の区分に出場し、見事に優秀賞という結果を残すことができました。これも、1年間コツコツと毎日活動を行ってきた、努力の表れだと思います。

私達の研究会発表内容は、野々市市で栽培されているヤーコンという野菜の加工品開発についてでした。研究のきっかけは、野々市市からヤーコンの加工品を開発してほしいと依頼があったことです。この時は、まだ私達は入学をしておらず、先輩方が様々な加工品をつくり、どんな風に加工すれば良いか、活動していました。そして金沢の郷土料理である、大根寿司からヒントを得て、ヤーコン寿司を作り出しました。

私達が入学してからは、ヤーコン寿司の製品化へ向

けて、様々な工夫や基礎的なデータを得るために硬度や酸度等の実験データを集めたり、学校でできない実験は、金沢工業大学へおねがいして分析させていただきました。他にも、通常は捨ててしまうような小さかったり、細いヤーコンを利用して、ヤーコンジャムやヤーコン甘酢漬けなどの製品開発を行ってきました。

野々市市や農家さんからの協力もあり、活動が大変充実しただけでなく、私達にとって良い経験になったと思います。

これらの活動をまとめ、全国大会での発表に臨みました。夏休みの間、毎日行ってきた練習を自信にして、チームが一致団結し、良い発表会ができたと思います。その結果、本校では16年ぶりとなる優秀賞をいただくことができました。私達の活動が全国に発信されることにより、野々市市のヤーコンを知ってもらうことができ、地域活性化への手助けになったと思います。

これからもヤーコンの普及活動を継続し、来年度は全国大会で最優秀賞をいただけるように、日々の活動にはげみたいと思います。



文化祭でのマナー向上PR、美化活動



全校生徒に、マナーについて意識してもらうため、文化祭で『す』ごしやすい 『い』い環境で 『せ』いとは 『い』つも元気と『す』い・せ・い』が頭文字の標語を考え、思いが伝わるように、マイクを通さずに大きな声でアピールしました。また、昨年に引き続き環境美化委員会がゴミ箱の設置と文化祭期間中の回収作業をしてくれたおかげで、校内がとてもきれいな状態だったと思います。

2015年の文化祭のテーマは「Smile 翠星～緑とコカイな仲間たち～」でした。今年の文化祭は、工事の関係で毎年のように出来ませんでしたが、全校生徒の協力のおかげで乗り越えることが出来ました。1日目は、本校の卒業生の方々5名を招き、シンポジウムを行いました。演目は「140周年を迎えて」でした。先輩方の話を聞き、翠星の歴史を感じることが出来ました。また、多くのアドバイスをいただきました。2日目は、邦楽や吹奏楽、芸能王、間 慎太郎さんのライブ&トークショーが行われました。間さんと廣正先生が仲良しということで、コラボライブもあり盛んに盛り上がりました。芸能王では、11組のグループが参加し大いに盛り上げてくれました。3日目は、各企画が行われました。1年生のクラス企画は遊べる企画を行い楽しませてくれました。2年生は、翠星の生産物や加工品を販売し、本校をPRしてくれました。3年生は、各クラスで模擬店を行いました。生憎の雨でしたが、各テントには行列が出来、売り切れた商品もありました。他にも、各部活動（文化部、研究会、PTA）や生徒会も、企画をしました。それぞれ個性的な企画で、どれも楽しかったです。

部活動の思い出

3年 長田 魅人

僕は野球部に所属していました。3年間を通して、元雄先生、坂下先生、木村先生に御世話になりました。3年間で遠征や練習試合などいろんな県のチームと試合をしてきました。もちろん調子のいい日も悪い日もありましたが悪い日は悪いなりにいかに良くするか考えながら野球をしてしました。人間なので誰でもミスはしますが、ミスをして誰かが補う。それがチームプレーの醍醐味だと思います。

大会では、県大会ベスト8という目標に向かって日々精進していました。目標は達成できなかったけど、目標に向かってみんなで練習をしました。楽しいことも辛いこともありました。

どんなこともみんなで頑張ってきました。うれしいことも辛いことも今では良い思い出です。

3年間も通して礼儀や挨拶など社会に出てですぐに役に立つことを学びました。高校野球はもう1度したくなるようなそんな感じです。この先2度と経験できないと思います。

そう考えると充実した3年間でした。



高校野球夏の大会の感想

3年 岡本 駿

夏の大会は、最後なので少し緊張していました。試合が始まると自分の力が出せたので良かったです。高いレベルを目指し、今まで練習等でやってきたことを出しきろうと決めていました。結果は、勝つことができたので嬉しいです。

この試合を通じ、今のメンバーと1試合でも多く野球をしたいという思いが強くなりました。僕は、プレーで引っ張っていけるよう頑張ります。次の相手は強いですが、自分達の野球を最後までやり抜き、相手よりも一点でも多く取ります。今までお世話になった先生や母や父に感謝して、次の試合に臨みたいです。目標はベスト8なので、そこを目指すため『一球入魂』一球を大事にして試合も練習もしていきます。

僕は小学生の頃から野球をしてきて、たくさん学ぶことがありました。顧問の坂下先生にはとてもお世話になり、僕の意識や行動を変えてくれました。その先生と1試合でも多く勝っていききたいので、今の一球を大事にしていきます。次の試合も勝ちます！

創立140周年記念式典 生徒代表の言葉



3年 沢辺 小晴

本日はお忙しい中、御来賓の方々ははじめ諸先輩方にご出席いただきまして誠にありがとうございます。今年度をもちまして、石川県立翠星高等学校は、創立140周年を迎えることとなりました。140周年という歴史の節目の場に立てることを、在校生一同、心より喜ばしく思っております。

さて、本校は明治9年、石川県勸業所農業科として設立され、その後何度か改編改称し、平成12年に校名が現在の翠星高等学校となりました。しかし、諸先輩方にとっては「松農」の方が親しみやすいのではないでしょうか。

本校は、これまで県内の政財界に幾多の人材を輩出してきました。また、農業高校として農業人の育成にも貢献してまいりました。しかし、現在農業はたくさ

んの問題を抱えています。そのような中、本校は、「食」と「農」と「環境」をテーマに三つのコースに分かれ、それぞれの生徒が専門教科の勉強に励んでいます。部活動では、今年、野球部が春季大会でシード校を破り三回戦に進出しました。また、陸上部も高校総体で北信越大会に出場するなど活躍しています。他の部もこれを励みに日々の練習に取り組み、着実に力をつけています。

また、食品科学研究会が先の農業クラブ北信越大会において、二つのプロジェクト発表部門で最優秀賞に輝き全国大会への出場を決めました。それ以外の研究会も里山や地域環境保全など、さまざまな活動を通じ地域社会に貢献しています。

授業では、それぞれの専門分野で実験実習などの実際的、体験的学習も含めて、食糧生産や環境の保全・創造に関する基礎的・基本的な知識や技術を広く学ぶことで社会に役立つ人間に、また、新しい時代に向けた農業人になるために日々の勉強に励んでいます。

このように翠星高等学校と校名が変わっても、私たち在校生は、諸先輩方から受け継いだ歴史と伝統という素晴らしいバトンを次の人たちに渡していきたいと思っています。

最後に、私たち在校生は、多くの先輩方と同様、社会に貢献できる人間として本校を巣立っていくことを諸先輩方や地域の方々にお約束し、生徒代表の言葉といたします。



受付係生徒



司会生徒

私達の世界農業遺産を守り続ける契機に



2年 松本 桃花

私は、世界農業遺産シンポジウムに実行委員として参加させていただき、世界農業遺産の重要さとこれを守り続けていこうとする人たちの情熱に感銘を受け、全国から集った農業高校生の皆さんとともに熱い思いを共有することができました。

私達、世界農業遺産シンポジウムの参加者は、産フェア前々日から能登青少年交流の家に集合しました。石川の他、新潟、静岡、岐阜、和歌山、大分、熊本、宮崎の8県から高校生が集まりました。国内の世界農業遺産認定地域の農業高校生が1カ所に集うという場が今回の産フェアで初めて設けられたのです。私は、世界農業遺産について学びを深めることは勿論ですが、交流の輪を広げたいという希望を持って参加しました。エンカウンターや世界農業遺産クイズ、熊本県への書ききなどを通して交流がどんどん深まっていきました。世界農業遺産クイズでは、他県の人とグループを作り、難しい問題にもみんなで相談しながら解き進めていったことも仲良くなれたきっかけとなりました。

エクスカージョンでは、能登の世界農業遺産を見学しました。輪島朝市、千枚田、塩田村、ボラ待ちやぐら、千里浜を巡り、講師の方から色々なお話を聞かせていただき、体験させていただく中で、「能登の世界農業遺産は、情熱を持って伝えていく人がいるからこそ継承されていくのだ」という思いを強く感じました。

シンポジウムでは、開会式の後、8校の発表に聞き入りました。農業高校生がそれぞれの地域で世界農業遺産を大切に、誇りを持ちながら活動に取り組んでいる内容に大変感動しました。これからも私たちは、それぞれの地域で、それぞれが責任を持って世界農業遺産を守って行かなければならないという志を確認できた大会でした。



充実した産フェア、ありがとう



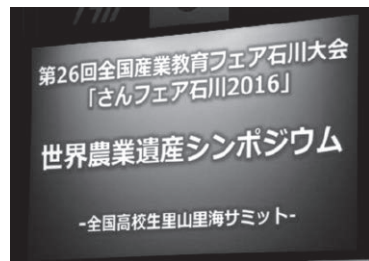
2年 宮窪 哲生

私は最初、世界農業遺産シンポジウムの実行委員に選出されてもあまり実感が湧きませんでした。しかし、産フェアが近づくにつれ、上手くいくなという悩みや緊張感が高まってきました。また、他県の高中生と交流し仲良くなれるのか、シンポジウムをスムーズに進行できるのかなど、いろいろと不安でした。

エクスカージョンに先立ち、能登青少年交流の家に宿泊し交流が始まりました。シンポジウムの打合せとともに親睦を深めることがねらいなのですが、最初はみんな緊張していました。しかし、ゲームやクイズを進めていくうちに仲良くなっていきました。最初はお互い遠慮していましたが、時間の経過とともに話すことが楽しくなっていきました。翌日、石川の世界農業遺産「能登の里山里海」を見学し、いろいろ体験することもできました。修学旅行のように、みんな打ち解けてワイワイと研修することができました。記念写真も撮りながら、世界農業遺産の地を巡り、理解を深めていきました。

シンポジウム当日は主にステージ運営を担当し、机や椅子を素早く移動・配置したり、映像スライドの操作などの役割を担いました。多少ドタバタする場面もありましたが、何とか乗り切ったという実感が残りました。特に印象的だったのは、シンポジウムの最後に写したステージ上での集合写真でした。みんな充実感がいっぱい、やりきったという雰囲気が十分に出ていました。そして、お別れの時がやってきました。最後はバス乗り場まで他県の参加生徒を見送りに行き、握手やハグなどを交わしながら別れを惜しみました。すごく感動的でした。女子はみんな泣いていました。

私は実行委員を務めたことで、様々な人たちと一緒に活動や交流ができ、自分自身が大きく成長できたと感じました。それほど充実した大会でした。みんな、本当にありがとう。



六星賞を受賞して

3年 上田 梨々花

3年間プロジェクト活動を行って思うことは、1年生の頃「プロジェクトをやってみないか？」という先生の誘いを断らなくて良かったということです。

1年から2年にかけては、「野々市市産ヤーコン」についての研究活動をしていました。そこでは何もないところから記録簿を作る大変さや誰にでも分かりやすい説明文の作り方、基本の実験方法などを学びました。1つ上の先輩と読み練習を重ねて臨んだ全国大会は、2年連続優秀賞でした。3年では、「金沢ゆず」についての研究活動を行いました。1からの記録簿作りでしたが、2年間行ってきたことが身に付いていたからか、1年の頃よりもクオリティが高く、時間的にも余裕を持って仕上げることができました。

今回の大会は、自分が最上級生で代表者ということもあり緊張でいっぱいでしたが、一緒に頑張ってきたメンバーと今までで一番良い発表で、「最優秀賞」を獲得することができて嬉しかったです。3年間のプロジェクト活動を通じて、地域とつながることの大切さを知ることやプレゼンテーション能力を身に付けることができたし、何事にも全力で取り組めば辛くても楽しめることと知りました。楽しいこと以外に辛いこともあったけど、充実した高校生活になったので諦めなくて良かったなと思います。高校生活で学んだことや身に付けたスキルを使って社会人生活も頑張っていけます。



校内陸上記録大会で8年ぶり男子200m走大会新!

3年 大谷内 陸

「男子200m走」で8年ぶりに大会新記録（23秒

49）を出すことができました。予選から力まず、気持ちの良い走りをするのを心掛け、決勝では、「今後、絶対に抜かれない記録をつくるぞ」という強い思いで走りました。最後の30mで力んでしまいました。高校最後の校内陸上記録大会で、大会新記録を出すことができたのでとても嬉しかったです。

高校生活を振り返って

3年 野々村 くるみ

今振り返って思うことは、高校生活が一番楽しかったということです。中学校もそれなりに楽しかったのですが、高校は勉強ばかりではなくてコースの実習もあり、様々なことをたくさん学ぶことができました。

特に昨年開催された「全国産業教育フェア石川大会」の実行委員になれた時は、とてもうれしかったのを覚えています。石川県の良いところを他県の高校生達に知ってもらえたし、私達も他県の良いところをたくさん知りました。各県の実行委員達とも仲良くなり、別れがとても悲しかったのを今でも思い出せます。

来年は専門学校へ進学するので、今より自由な時間が減ると思います。辛くなっても高校生活の思い出を胸に、頑張っていきたいと思っています。

高校生活を振り返って

3年 円角 圭吾

3年間を振り返り、私が一番印象に残っているのは、バドミントン部での活動です。特に今年に加賀地区大会では、後輩と組んで人生初のベスト8に入りました。

先輩が引退してから、部長という立場になり、楽しかったことや辛かったことなど、様々なことがありました。色々な壁を乗り越えたからこそ、ダブルスで良い成績を残せたのだと思います。

部長として、練習メニューを考えて部員をまとめるのは大変だったけど、今になって、後輩達が素直に聞いてくれたことに救われたと感じています。この3年間は技術だけでなく、人間力や忍耐力も同時に向上させてくれたし、今まで支えてくれた先輩や先生、後輩そして同級生のメンバーには特に感謝をしています。

1年生の時は人数が少なく、何度か辞めたいと考えた時もありましたが、続けるにつれてどんどん楽しく

なり、笑う場面が一番多い時間になっていきました。色々なOBや先生と話す機会も増え、知らないうちにコミュニケーション能力の向上につながっていったのではないかと思います。部活動を続けて良かったです。

高校生活を振り返って

3年 末 彩夏

3年間を振り返ってみると、楽しかった事や思い出に残った事、頑張った事など色々ありました。

私が一番頑張ったのは部活動です。卓球部に入部した頃は、何も結果が出ずダメダメだったけれど、3年間、他の部員とともに日々の練習を頑張った成果を、最後の大会で結果として残すことができた時は、「自分に自信が持てるようになったな」と感じました。

部活動は、自分が成長できる場であると思います。休みがちになり、みんなに迷惑をかけた時もありましたが、何とか克服し改善できたかなと思います。卓球部を続けてきて良かった。ありがとう！

43年ぶりの日本一



教諭 安川 三和

「夢は全国最優秀！」を合言葉に挑み続けて5年。遂に今年、農業クラブ全国大会(岡山大会)プロジェクト発表会分野Ⅱ類において念願の最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞しました。石川県がプロジェクト発表で最優秀を受賞したのは、本校が松任農業時代の昭和48年と49年でした。実に石川県内43年ぶりの受賞となりました。

食品科学研究会は、本校に5つ設立されている農業クラブ活動を行う研究会のひとつです。放課後や土日を使って、白山米粉の普及や規格外白山トマトの活用、ののいち健康野菜ヤーコンの加工品開発、加賀丸いものスイーツ化など、様々な地域農業の課題に挑戦してきました。平成24年には、食品科学研究会内に模擬株式会社SUISEI-FACTORYを設立し、6次産業化コンサルタント事業にも挑戦してきました。

プロジェクト発表は、「研究内容」「活動記録簿」「10分間の発表」「質問への解答」で得点を競い合い

ます。平成25年に前任者より食品科学研究会を引き継ぎ、競技のノウハウがほとんど無い中、歴代の生徒と共に試行錯誤を繰り返し、一歩ずつ歩みを進めてきました。今年プロジェクトの中心となった3年生は、1年次、2年次と2年連続優秀賞の受賞に留まったため、「最後の年に最優秀賞を！」という想いが強かったと思います。私自身もチャンスの年と思い、研究会活動に没頭しました。特に今年注力したのは、チームワークです。研究会活動を進める上で、大小様々な壁にぶつかります。そんな時は常に部員10名全員で話し合い、解決の道を探りました。解決困難と思われたことも、話し合いの中で解決法が見えた事が何度もあり、私自身チームワークの力を再確認できました。

夏休みを費やして全員で仕上げた「活動記録簿」は482ページにも及び、5月から大会前日の10月23日まで質を高めるために練習し続けた「発表」は、練習でも過去最高の出来となりました。万全を期して6名で挑んだ全国大会。ところが、岡山県へ向けた出発当日は台風の影響で電車が不通…、急遽米原駅まで本校の恩師であり先輩でもある先生に送っていただきました。さらに、前日の発表リハーサルでパソコンが投影されないなどトラブル続き。それでも生徒達の心は折れることなく、本番では一致団結したノーミスの発表を行ってくれました。

本校生徒達は、今回の受賞を通して「地道な努力は必ず実を結ぶ」ということを学んだと思います。このことを糧としてこれからの人生を実りあるものとして欲しいと思います。また、本校141年の長い歴史を受け継ぐ者としての誇りを新たにし、今後も生徒達と共に「食」・「農」の大切さを伝え広める活動を行っていきたいと思います。本校に関わる皆様のご支援・ご鞭撻をよろしくお願いします。



私と「GLOBALGAP」

3年 川上 大河

最初は「GLOBALGAP」という言葉も聞いた事がなく、何も分からないまま活動が始まりました。正直みんなあまり気が乗らなかったのですが、認証を取得するにあたり、GLOBALGAPのことを調べ、様々な説明を受け、何より今後の農業のことを考えた時に、自分たちも頑張ろうと本格的に活動が始まりました。しかし、いざ活動を始めようとした時に、何からして行けば良いかも分かりませんでした。そこで、卒業生でもある有限会社安井ファーム代表の安井善成さんに協力を得て、一つ一つ丁寧に教えていただき、少しずつですが理解することができました。

安井さんのご協力のおかげで、何とか私や仲間たちも本格的に取り組みを開始することができましたが、新たな課題がありました。理解したものの今度はGLOBALGAP認証への難しさに直面したのです。様々な難問の壁にぶち当たり、そして戸惑いながら仲間と相談し、先生方にも助けていただきながら、何とか一歩一歩少しずつ前進しました。認証を受けるための審査日が近づく頃には毎日必死でしたが、今思うととても良い経験でした。

審査日当日は、とても緊張しましたが、何とか今まで取り組んできた成果を発揮し、北陸の高校では初となる最難関の「GLOBALGAP」認証を取得することができました。認証の報告を受けた時はとても嬉しく、今まで取り組んできたことが報われて本当に良かったと思いました。本当に大変な作業と時間を費やしましたが、この経験ができたことは私にとって大きな財産になりました。今は、卒業後も就職先でこの経験を存分に発揮したいと思っています。



GAP隊のメンバー

応援団長として

3年 松田 拓也

僕は、高校生活で初めて応援団に入りました。応援団員の集まりで、2年生からすすめられたこともあり、頑張ろうと思い団長になりました。しかし、全校練習ではなかなか上手いきませんでした。大きな声を出してくれず何度もやり直しましたが、テンポ良く進めることができなかったのが、不安しかなかったです。

私が、昨年や一昨年の団長のようにできずに困っているのを助けてくれたのは、応援団のみんなや先生方です。たくさんの人に助けられ、最後の練習では生徒全員が声を出し、とても良い応援ができました。

迎えた高校野球夏の大会では、みんな大声で一致団結し、精一杯応援しました。残念ながら試合は負けてしまいましたが、応援団長として様々な経験ができ、多くの人に支えられたからこそ、頑張れたことを実感できました。「人を応援することは、自分も応援される。」人とのつながりの大切さがわかりました。

文化祭を振り返って

1年 石井 安妮

今年の文化祭は、私にとって高校生活で初めての文化祭でした。最初は、「楽しいのかなあ」と思っていたけれど、思った以上に楽しくて良い思い出になりました。とりわけ感動したことは3つあります。1つ目は、「天球ピンポンズ」のライブです。昼休みの放送で聞いた時からいいなと思っていたら、ライブは迫力と美しい歌声で素晴らしく、ファンになりそうです。2つ目は、「芸能王選手権」です。どれもテンションが上がり、面白くて可愛くて「青春だなあ」と思いました。特に先生バンドがかっこよくて幸せな時間でした。3つ目は「学校公開」です。私は、部活でスイーツショップを開きましたが、長い行列で開店早々に売り切れが出るほどでした。常連の方も多く、翠星スイーツは「好かれているのだな」と思えたり、徐々に商品が減っていくのを見るのが嬉しかったです。そして、なんと369個のスイーツを完売することができました。大変だったけど作り甲斐もあったし、完売した時は本当に嬉しくて感動しました。来年はもっと作りたいです。3日間充実した日々でした。

全国大会に出場して

2年 福村 月菜

私たちは、北信越大会で最優秀をとり全国大会に出場できました。北信越大会ではPCのスライドが重く、何カ所か固まってしまうことがあったため、全国大会でスライドが映るか、練習どおりミスなく押せるか等、北信越大会とは比べ物にならないほどの緊張に襲われました。県連大会からずっとPCという大事な役を任せてもらい、嬉しい気持ちもありましたが、私のせいで発表が台無しになるのではと毎日不安でした。

リハーサルの時、場の雰囲気のにまれ、初めの返事が小さくなってしまいました。今まで一生懸命練習してきたのに、一年生も私も初めての全国大会でしたが、この初めの返事で緊張を吹き飛ばせるほどの返事ができなかったことは、心が負けているからだと感じ、恥ずかしくなりました。まず一番に先輩の私が一年生の不安を押しつけて大きな返事をし、安心させてあげるべきでした。このリハーサルで、私の駄目なところを知ることができたので、しっかり向き合って直していきたいと思います。PCは一台目が上手く映りませんでしたが、二台目は映ったので、少し安心できました。発表会の朝、ホテルでの最終練習でもPCにトラブルがありましたが、本番では映すことができました。PC押しのタイミングも練習どおり上手いき、無事に発表を終わらせることができました。

残念ながら、最優秀賞を獲ることはできませんでしたが、不安を共有し合い乗り切ったこのメンバーと一緒に全国大会に出場できて良かったです。来年も同じメンバーで全国大会に出られるように頑張りたいです。



農ク全国大会平板測量競技で日本一を目指して

3年 中西 海斗 野村 大聖 請田 慎吾

私たちは、平板測量競技で全国大会に出場しました。開催地は鹿児島県で、大会日程は、10月23～25日でした。23日のうちに鹿児島まで移動し、24日が競技日で、25日には大会式典及び閉会式がありました。

私たちは、5月に国家資格である「測量士補」にチャレンジしましたが、あと一歩で合格に届きませんでした。その悔しさを胸に秘めて、競技の練習に打ち込みました。7月上旬から練習を始め、8月3日の県連大会で最優秀をとり、石川県代表に選出されました。

その後は、8月下旬から練習を再開し、9～10月にかけて合計90枚以上の図面を作成しました。特に2学期が始まると、6時30分に登校して朝練を行い、平日は1日2回、休日は3回以上の練習を行いました。さらに、雨の中や風の強い日にもあえて全国大会を想定して取り組みました。練習成果は、良い時もあれば悪く出る時もありましたが、回数を重ねるうちに上手に仕上げられるようになりました。また、学校のグラウンドは水はけが良く、平坦で測量しやすいため、あえて近隣の若宮公園や松任総合運動公園へ行き、傾斜や凹凸のある芝生面での練習も頻繁に行いました。

こうして迎えた大会本番は、まず会場に着いた際に多くの係の生徒がいて、たいへん驚きました。また、競技会場は思っていたよりも平坦で開けていました。競技開始前にはできるだけ緊張しないように、失敗しないようにとの思いから、なるべく3人での会話を弾ませながらテンションを上げることで、みんなの集中力を高めました。

競技が始まると、踏査ではNo.1～2の測線が1測長以上ないと判断したのに実際は30mを超えているなど、想定外の出題に戸惑いましたが、徐々に普段の自分達を思い出して調子を取り戻し、一次作業はほぼノーマスで終わることができました。二次作業も多少ハブニングはありましたが、時間内に終わることができました。しかし、三次作業では三斜法チームが制限時間内に終えられなかった上、終了の合図を間違え、「終わります」と声に出してしまったため多少焦りました。

競技終了後3人で振り返りながら、小さなミスについて1つ2つ指摘し合いました。しかしながら、閉合誤差が3cm(満点)で面積格差も2㎡以内(満点)であることを確認し合うと、とてもやりきった感で満たされました。結果優秀賞をとることができましたが、ひょっとしたら…、後少し頑張れば日本一に手が届いたかもしれないとの思いもありました。それでも全国大会で良い結果を残すことができ、たいへん良かったです。努力次第によって結果を変える事ができることを学べた、一生に一度の素晴らしい大会でした。

六星賞を受賞して

3年 太田 風音

今回、「六星賞」をいただくことができ、とても嬉しく思います。3年間、私が農業クラブ活動に打ち込めたのは、研究会の仲間や先生方、そして地域の方々などのご協力のおかげです。本当にありがとうございました。

私は、高校生活3年間をこのプロジェクト活動に捧げてきました。入学当初は、「農業」にあまり関心がなく、「農業クラブ」や「プロジェクト活動」についても、自分には関係のないことだと考えていました。しかし、食品科学研究会に入部し、その考えは変わりました。入部してすぐプロジェクト活動について説明を受け、プロジェクトメンバーに選ばれました。何もわからないまま、必死に先輩についていった初めての全国大会では、県内では43年ぶりの最優秀賞を獲得しました。表彰式で堂々と登壇するプロジェクトリーダーの姿は本当にかっこ良く、私のあこがれとなりました。その翌年、先輩が卒業し、私がプロジェクトリーダーを務めることになりました。リーダーを務め、仕事量の多さやチームをまとめることの難しさを知りました。大会本番はミスなく発表を終えることができたのですが、前日リハーサルで「はい！」と全員で返事をするはずが、練習通りの声が出ず、士気を高めきれなかった失敗があり、リーダーとしての未熟さを痛感しました。結果は優秀賞に終わり、悔しかったです。

最後の年である今年は、「二度目の最優秀賞をとり、先輩のように全国大会の表彰台に立つ」という目標を胸に、活動に励みました。日々の研究活動では、36都府県に電話をかけ、研究の普及を行ったりと今までになく大変でした。さらに、今年は1年生4人を含めた全く新しいチームでの発表だったため、初めて参加する一年生にとってはかなり厳しいことも言ったと思います。ですが、最後までついてきてくれて、本番は返事から退場まで完璧な発表になりました。昨年とは違い、リーダーとして最後までチームを引っ張ることができ、結果、最優秀賞を獲得することができました。先輩の力ではなく自分たちの力で最優秀賞を獲得し、堂々と表彰台に立つことができました。本当に嬉しく、努力は必ず報われるということを強く実感しました。

卒業後は、この3年間を活かし、地域社会で活躍できるような人材になれるよう頑張ります。

全国高校生パンコンテスト
パン祖のパン祭大賞

3年 南川 直輝

私は、1年生の時から食品科学コースPAN-BUに所属し、パン製造を学んできました。

今年、念願の「第14回全国高校生パンコンテスト地産地消部門」に出場することができ、4部門のグランプリである「パン祖のパン祭大賞」を獲得しました。大賞が発表された時は、心臓が飛び出るくらい嬉しかったです。パン製造練習、発表練習、質疑応答練習を最後までめげずに、頑張り抜いて本当に良かったと感じています。本番当日の実技試験は、慣れない環境で戸惑いましたが、トラブルにも臨機応変に対応でき、練習成果を出し切ることができました。プレゼンテーションも緊張しましたが大きなミスもなく楽しんでできました。先生方には丁寧かつ厳しく指導していただき、本当に感謝しています。春からは専門学校でパン製造技術を磨き、一流のパン職人を目指します！



生徒会役員を務めて

3年 福岡 愛理

私は生徒会役員を四期務め、様々な経験をさせていただきました。役員を務めた期間は忙しく大変なこともありましたが、濃密で有意義な期間になりました。

当初はわからないことが多く、先輩のサポートや雑務がほとんどでしたが、2年生になると少しずつ仕事を覚え、自分なりに考えて効率的に仕事ができるようになりました。また、先輩として後輩たちと積極的にコミュニケーションをとることに心掛けました。

2年後期には会長となり、学校行事の企画や運営により深く携わることができました。会長を務め、人の上に立つ立場として、敬意を持って人に接することや周りの意見を聴き、自分の行動に責任を持つことなど多くのことを学ぶことができました。

生徒会役員を務めた経験は、将来社会に出るにあたり、役に立つ貴重な経験となりました。会長を務めるにあたり、多くの方々に支えていただきました。ありがとうございました。

JRC部石川県健民運動
青少年ボランティア賞受賞

2年 西山 侑里

私たちJRC部は、石川県健民運動青少年ボランティア賞を受賞しました。石川県健民運動青少年ボランティア賞とは、自発的に自分の技能や時間を提供して社会に参加し、地域や学校、職場において、ひたむきに他人や社会に貢献する活動を行う青少年又は団体が表彰される賞のことです。

翠星高校JRC部を代表して、大家部長と私が11月19日の表彰式に出席しました。石川県庁で谷本知事より賞状をいただき、とても光栄に思いました。

私たちJRC部の活動は大きく分けて5つあります。一つ目は学童クラブ訪問です。週に2～3回の頻度で近隣の学童クラブを訪問し、児童の遊び相手や勉強のお手伝いなどを行っています。二つ目は高齢者施設への訪問です。特別養護老人ホームを訪問し、クリームを用いてのハンドマッサージ、車いすや歩行器具の手入れなどを行っています。三つ目は救急法の練習です。健康、安全への意識を高めるため、救急法の練習に取り組んでいる他、救急法大会への出場やイベントで傷病者が出た場合の対応などで実践力を身に付けていま

す。四つ目は募金活動です。24時間テレビや赤い羽根などの募金活動に参加し、多くの人に募金を呼びかけるとともに、自らの社会参加意識を高めています。五つ目は、通常の活動以外の活動です。ネパールへの国際交流派遣事業参加やベトナム赤十字からのJRC高校生受け入れなどの国際的な活動にも取り組んでいます。また、いしかわ子ども交流センターなど児童施設での行事の側面支援や百万石まつりでの巡回ボランティアなどの活動も行っています。

これからもさまざまな活動に取り組み、社会に貢献していきたいと思います。

高校生活を振り返って

3年 田邊 魁斗

まるで昨日のこのように覚えている。校庭の桜の道を体よりも大きな制服で歩いた。入学式の日の私を見守ってくれているように思えてワクワクしていた。そして競歩のように早く時が流れ、こうして今、私たちは卒業し、それぞれの道を歩き出そうとしている。

私には走る能力などないし、そして球技もできないが、体を動かすことはとても大好きだ。この学校では農業を通じていろいろなところに実習に行ったり、田植えをしたりと他の学校ではできないことが多く、毎日が本当に早く感じられて楽しかった。

今、農業高校が注目されている。昨年の高校野球甲子園大会での金足農業高校の快進撃は、「農業ってすごいぞ！」と思わされっぱなしだった。私もこんな風になりたいと思い、競歩を頑張ってきた。なかなか思うようなタイムや結果が出ず、「やめたい、もういや！」と思う日も少なくなかった。しかし、翠星高校の個性あふれる明るさやみんなからの「頑張れ！」との励まし、そしてとても素敵なあだ名？の命名など…本当に嬉しかったし、元気100倍になった。

これから私は大学生となる。そこでも高校ではできなかった青春を謳歌したい。競歩でも入賞したり、好タイムで記録を出したりし、翠星高校の卒業生として、全国にその名を知れ渡る選手になりたいと思う！そのためには、見えないところでの努力や何が何でもやってやるという強い気持ちを維持して頑張りたい。

翠星高校の3年間は、レースに役立つために何が必要かを教えてくれ、スタートラインに一步一步近づけさせてくれた場所だった。ありがとう。

第11回全国和菓子甲子園初出場 初優勝の快挙!



3年 巧 ヒカリ

私は、課題研究で和菓子について研究しています。「まんじゅうには、和菓子の基本的な技術が全て詰まっている!」と職人さんからお聞きし、皆でまんじゅうを研究することに決めました。まんじゅうの製造について一から指導してくださったのが、本校卒業生で「大松庵」という和菓子店を営む松浦さんです。和菓子甲子園でもたくさんお世話になりました。

和菓子甲子園は、全国の高校生が和菓子作りの技術とアイデアを競う大会で、今年のテーマは「青春」でした。青春といえば「恋」だと思い調べてみると、白山比咩神社に恋文を奉納して恋愛成就を祈願する「恋文奉納」という白山市観光連盟が運営するイベントを知り、「奉納恋文」をモチーフに青春の和菓子を作ることに決め、試作を繰り返しました。

私達の和菓子は、石川県産の素材を使用した3種の餡を白い羽二重餅でふんわりと包んだことから“恋つゝみ”と名付けました。何度も試作を重ね、やっと納得のいく作品に仕上がりました。特に巻紙の素材や餡の分量、配置に苦労しました。製造は1時間45分以内で完成させなければいけないため、餡担当と羽二重餅担当に分かれ、製造練習に明け暮れました。私は羽二重餅を担当したのですが、練り上げがとても難しかったことを今でも覚えています。スピードと体力が必要なので、練習が終わると毎回クタクタでした。

また、ご当地菓子化を目的とした試食会にも挑戦しました。10月1日、白山市観光連盟にご協力いただき、鶴来地区の和菓子店をお招きした「恋つゝみ・試食会」を開催しました。とても緊張しましたが、皆さんが私の話を優しく聞いてくださった上に、先生方にもフォローしていただき、無事終えることができました。多くのお店で「恋つゝみ」を製造販売してもらい、白山比咩神社や地元和菓子店の名物になったら素敵だなと思っています。

和菓子甲子園の具体的な活動は、休校明けの6月から行いました。5ヵ月という短い期間にたくさんの経験をしました。人前で話すのが苦手な私でしたが、以前より上手く話せるようにもなりました。また、説明

が苦手よく擬音を使っていたけれど、相手がよりわかるような言葉を使って説明する力も身に付いたと思います。勿論、何度も製造を繰り返したので、体力や忍耐力も養えました。正直、やめたいと思う時もありましたが、後悔をしたくないという想いでやり遂げました。初めは、優勝を信じられず、入賞?と思ったくらいでしたが、最後まで頑張っただけ良かったと思います。応援してくださった先生方や周りの皆さんにはとても感謝しています。ありがとうございます。この優勝経験を自分の強みにしていきたいです。将来は、ブライダル業界へ進もうと考えているため、商品化された「恋つゝみ」を和婚の結婚式で出せる日を心待ちにしています。



石川県文化優秀賞受賞

翠星野球部県大会で 強豪日本航空石川と対戦!

3年 中野 魁人

新型コロナウイルスの影響で、思うような学校生活、部活動ができない日々が続きました。2年生の終わり頃から休校が始まりましたが、すぐに終息して学校も再開すると思っていた。6月になりようやく学校が再開し、久しぶりにみんなで集まって練習ができるようになりました。しかし、甲子園へと続く夏の地方大会が中止になる事を聞いてショックでした。1年生の時から夏の大会で勝つことを目標にし、部活動を頑張ってきたのに大会がなくなり、正直何のために頑張ってきたのだろうと思いました。

そんな中、石川県高野連の方々が何とか独自の大会を開こうとしてくれて、石川県独自大会の開催が決まりました。大会があると聞いた時は嬉しかったし、思いつき楽しもうと思いました。

加賀地区予選では小松市立高校と対戦し、私は感謝の気持ちを強く持って試合に臨みました。結果は、9

対3で勝利しました。翠星に入って公式戦で初めて勝つことができて良かったです。県大会1回戦では、日本航空石川と対戦しました。ヒットで得点圏にランナーを進めるなどチャンスも作りましたが、うまく生かすことができず、結果は5回コールドで負けました。しかし、最後の試合が独自大会で優勝したチームと対戦でき、とても良い経験となりました。日々指導をしていただいた監督やコーチ、そして常に支えてくれた両親には感謝しかありません。3年生最後の大会は、新型コロナウィルスで大変なこともあったけど、このメンバーで最後の試合ができて本当に良かったです。小学校から10年間続けてきた野球を今後の人生に生かしていきたいです。高校野球は楽しかったです!

県連会長になって

3年 丸谷 将也

私は、二年間農業クラブに携わり、そのうちの一年間は県連会長を務めました。これまで先頭に立ってみんなを引っ張って行くような経験がなかったため、当初はとても不安でした。しかし、先生方や役員のサポートのおかげでしっかり続ける事ができ、県連会長としての責任も持てるようになりました。

今年度は、新型コロナウィルス感染症の蔓延により、本県で開催予定だった北信越ブロック大会、そして全国大会静岡大会も中止となりました。私は、県連会長としての大会運営は勿論、平板測量競技会に選手として出場を目指していたので、気合いを入れて頑張ろうと思っていた矢先に、このような事態になってしまい、非常に残念でした。しかも、個人的に楽しみにしていた「リーダー研修会」も開催されず、県内の農業クラブ役員との交流を深める機会が失われました。

そんなコロナ禍でも、県連大会発表大会をビデオ審査で実施したり、農業鑑定競技会は時期をずらして開催したりと、可能なかぎりの工夫を重ねて活動を行ってきました。また、10月の臨時代議員会では、オンライン上での全国の代議員の方々との交流を通じ、他県の農業クラブ活動の様子を知ることができました。

私が県連会長となって学んだ事は、仲間の重要性です。私一人で役員をまとめたのではなく、役員のみなさんに支えられたおかげで、コロナ禍でも様々な活動ができたと思っています。農業クラブ活動や県連会長としてこれまで培った経験は、今後の糧にしたいです。一年間ありがとうございました。

食品科学研究会HACCPチームリーダー

2年 山下 慎二郎

私は、食品科学研究会のHACCPチームリーダーとして、さらに研究会部長として部員をまとめ、「JFS-B規格適合証明合格」に向けての準備をしてきました。夏休みのHACCP製造練習や手順のまとめなど、大変なこともたくさんありました。特に入部したての1年生に、2、3年生と同じクオリティで作業をさせなければならず、チームリーダーとして、気の抜けない日々が続きました。

皆と協力し合って本監査合格にたどり着いた中、「HACCPの考え方に基ついた衛生管理」を行う上で大事な事は、全員が衛生管理のルールについて理解し、コミュニケーションを取り合って活動することであると感じています。HACCPを導入してからは、対象製品のクッキーだけではなく、他のスイーツや加工品の製造においても、以前よりも互いの声掛けが活発となり、スムーズに行えるようになりました。また、冷蔵庫の温度チェック、釜の庫内温度やクッキーのカラーチャートなど、細かな部分までマニュアル化され、以前まではあまり意識していなかった所まで管理されるようになりました。

HACCP導入以前も安心安全な製品を作っているという自負はありましたが、導入後は製品の安全性に根拠を示せるようになったことで、さらに自信を持つことができました。これからも、先輩から受け継いできた食品科学研究会に「HACCPの考え方」を加えて後輩に継承し、お客様に安心安全なスイーツや加工品をお届けし続けたいと思います。



適合証明書とHACCPチーム

第72回日本学校農業クラブ全国大会 令和3年度兵庫大会における次期開催地 生徒実行委員長決意表明

2年 吉村 絵里

皆さん、こんにちは。第73回日本学校農業クラブ全国大会生徒実行委員長を務めます石川県立翠星高等学校の吉村絵里です。石川県連盟4校約500名、富山県連盟5校約500名、福井県連盟3校約700名のクラブ員を代表し、来年開催されます全国大会に向けての決意を述べさせていただきます。

私は、さだまさしさんが作られた「美しい未来へ」がとても好きです。特に「今 私は立つ ふるさとの大地 今 夢に見る 地球の未来 土を起こせ 種をまけ 永遠の花畑を この手で築け」という歌詞が一番のお気に入りです。今私が立つこの場所は、26年前に未曾有の大被害をもたらした阪神・淡路大震災から力強く復興を遂げてできた大地です。想像を絶する困難を乗り越え、「美しい未来へ」の歌詞のごとく、未来を夢見て、決して歩みを止めることのなかった兵庫県の方々の努力と信念。そして、その大震災を知らない世代の私たちがこの地に集い、情緒溢れる景観をこの目に焼き付け、個性豊かな地域文化を十二分に堪能できたこと。真っ先に兵庫県連盟の皆さまに敬意と感謝を申し上げたいと思いました。

また、コロナ禍という状況下でも、「必ず大会を成功させる。」という皆さまの想いが一丸となって伝わり、大変感動し、そして勇気づけられました。この想いをしっかり受け止め、バトンを引き継ぐことが私たちの役割でもあると深く実感いたしました。兵庫大会のご成功本当におめでとうございます。この素晴らしい大会に参加できたことをとても嬉しく思います。

さて、来年の全国大会は、平成24年度長野大会以来10年ぶりに北信越ブロック連盟がお引き受けし、北陸大会と称して石川・富山・福井三県での開催を予定しています。私たち北陸大会は、「北陸に集いし若き精鋭 今こそ実れ豊作の時」、「稲穂揺れる豊かな大地 我ら農クの魂輝く」のスローガンのもと、コロナ対策に万全を期し、参加される全国のクラブ員が安心して日頃の学習成果を発揮することのできる大会を目指し、準備を進めております。また、三県が一つとなり、豊かな風土、文化、そして北陸らしい温もりを発信するとともに、新たな感動に心躍らせ、夢と希望にあふれる大会となりますよう精一杯努め、皆様のお越しを心よりお待ちしております。

第72回日本学校農業クラブ全国大会での 最優秀賞

1年 平田 歩美

今回の全国大会では、今までの練習をしっかりと発揮して一番良い発表ができました。そして、その発表で最優秀賞をとれたことが本当に嬉しいです。

プロジェクト発表の練習を始めた頃は、まだ全国大会はとても遠く、想像もできないほどでした。ですが、県連、北信越と大会を重ねていくごとに全国に近づくのが分かり、不安もありましたが、期待がとても大きくなっていきました。コロナの影響で活動できる時間が減り、満足に練習できない時期もありましたが、最終的にはこうして全国という舞台で、チームが一丸となって良い発表ができたことがとても嬉しいです。

現地に行ってからは、大会への緊張で不安もありましたが、リハーサル of 空気や記録簿を見て「私たちが一番だ」という自信を持てたおかげで、本番は思っていたよりも落ち着いて発表できました。とても良い発表をすることができたので最優秀賞をとる自信はあったけど、結果発表の時はとてもドキドキしていました。

私たちがこうして最優秀賞をとることができたのは、最優秀賞という目標を達成するために、それぞれが努力を積み重ねてきたからだだと思います。全員がそれぞれ精一杯がんばってきた結果が発揮できて、本当に良かったと思います。私はまだ1年生なので、これから先もたくさんの方にチャレンジしていきたいです。

農業クラブ全国大会で優秀賞を受賞

3年 忠村 隼

私は平板測量競技で全国大会に出るのが初めてだったので、当初は分からないことだらけでした。大会に出場してみて、他県のチームのこの大会に向けてのやる気がすごかったことがとても印象に残っています。

私たちは、夏休みの毎日朝7時から練習を開始し、計50枚以上の図面を作成して大会に臨みましたが、静岡県のチームは県連大会で8チームが戦ったと聞き、他県のレベルは高いと感じました。そのような中でも、今回私たちは優秀賞に輝くことができたので、本当に良かったです。一次作業でわずかに誤差が出ましたが、二次と三次作業で普段の実力を発揮して、練習を重ねてきた図解法により誤差を修正し、面積格差

を2㎡以内に入れることができたため、この結果につながったのだと思いました。限られた練習量の中で結果を出せた要因は、質の高い練習をしてきたからだだと思います。

学校生活の中で唯一の全国大会に出場でき、優秀賞をとれたことがとても嬉しかったです。「全力とは、全員の力である。」という言葉が心の中にあったからこそ、ここまで来れたのだと思っています。

石川県高等学校測量技術コンテストで 最優秀賞

2年 岡島 拓真



石川県測量技術コンテストに出場して、今回は運良く、Aチームが最優秀賞、Bチームが優秀賞という結果となり、とても嬉しく思っています。

土砂降りの雨の中の水準測量は、いつもより時間がかかってしまい、規定時間の60分を超えてしまい焦りもあったが、市村先生から「時間よりも精度。どれだけ早くても、精度が悪いと結果は出ない。」と言われたことを思い出し、「時間をオーバーしてもいいから、今までどおりにしっかり測定しよう。」とチームで取り決めたことで、今回のような結果につながったと思っています。平日1～2時間、土日は半日～一日、祝日や代休まで使って練習に付き合ってくれた先生のおかげだと感じました。さらに、チームワークや思いやり、仲間を大切にするという大事なことを学ぶことができたと思います。今回のことを生かし、来年北陸で開催される農ク全国大会の平板測量競技でも、仮にチームメイトが変わったとしても一丸となり、今回のような良い結果を残せるように努力したいです。

生徒の琴線に触れる時

教諭 市村 実

「ここ数年は、食品科学コースの活躍ばかりが目立つが、他のコース・分野は何をしているの？」との声

が漏れ伝わる昨今でした。

本校にて初めて教壇に立ち彼此29年。「翠星LOVE」を合言葉に、時節時節精一杯、生徒に寄り添い、時に背中を押したり、進むべき方向を導いたりして来たつもりでしたが、左様な指摘には明確な返事を見つけれないでいました。

そんな日々でも、ここ数年力を注ぎ込んで来た指導が「測量士補国家試験の補習」でした。本格的に取り組み始めたのは4年前。その年の受験者は3名で、結果は3名共に、あと1、2問のところでは不合格でした。

ようやく結果が出始めたのは昨年でした。土日を中心に200時間超の補習を行った結果、5名中2名が合格しました。翠星高校初の測量士補が誕生しました。そして、今年度は250時間を超える補習時間を経て、3名見事に合格しました。他の工業高校でも毎年数名程度が受験しているとの話ですが、今年は合格者数で金沢市立工業と並び、県内1位になりました。喜ばしいことですが、長期間の補習について来てくれた生徒達の努力の賜物であると実感しています。

また、例年出場している各種測量競技会でも、顕著な成績を収めることができました。「農業クラブ全国大会平板測量競技会」では、3年生が優秀賞に輝きました。この大会は、私自身が長年に渡り、指導に携わってきた競技です。若い頃は、結果に気を取られてばかりでなかなか勝てない時期もありました。しかしながら、競技に携わってくれた生徒達が変化し、成長し、自立してゆく姿に触れているうちに、競技の練習期間が掛け替えのない楽しい時間に変化しました。一方、県内の工業高校と例年測量技術を競い合う「石川県高等学校測量技術コンテスト」では、2年生が1位2位を独占しました。寒冷前線通過中の豪雨真っ只中での水準測量競技でしたが、生徒達は学んだ技術をひたすら発揮しようと真剣でした。そんな姿に私自身が背中を押されていることに気付かせて貰えた1年でした。

私は、測量学の知識や技術を教えている時が一番楽しいです。それは若い頃からそうでした。ただ、その対象が松農・翠星の生徒だからこそ特別なのかも知れません。やはり、たくましい自我を形成し、人格を完成させてゆく生徒達との出会いは、私にとっても掛け替えのない3年間だったのです。

大蔵同窓会会長が松農校長時代に、「心の琴線に触れる」というお話をされました。今から20年以上も前のことです。私は今年で52歳になります。ようやく、その話の意味が理解できるくらいの経験を積むことができたのかも知れません。

日進月歩

3年 森 信之佑

私は、高校生活で二度生徒会長を務めました。生徒会活動では、朝の挨拶運動やスポーツ大会、文化祭を中心とした行事の運営や準備など、生徒の代表として、恥じない行動をしようと精進して日々生活してきました。

初めて生徒会長を務めた2年生の時は、自分が学校の代表だという自覚がなかなか持てず、積極的に行動する力が少し足りていませんでした。それらを踏まえ3年生になってからは、仕事をこなしていくうちに人前に出る力がついたり、コミュニケーションをとる力がついたり日々成長を続け、人と人とのつながりの大切さを知ることができました。そして、少しずつ生徒会長としての自覚を持つことができました。

私は生徒会に入ったことで、仲間と協力することの大切さや的確に物事を考え、行動に移すことの重要性も知ることができました。そして、何より生徒会メンバーとの時間は楽しいものでした。これからも、私は生徒会での経験を活かし、人との対話を大切にしながら、助け合うことを忘れることなく精一杯努力して生きたいと思います。私を支え、応援してくださった生徒会のメンバーや先生方、生徒の皆さん、ありがとうございました。



時代を掴む

2年 安部 蓮滝

生徒会とは何か？そう問われた時、皆さんはどう考えるでしょうか。私は、生徒の自由と規律を守る存在であると考えています。この学校の生徒会に所属してから、「これが天下の生徒会である」というような活動がまるっきりないことが正直不満でした。そこで、私が会長になった今、生徒会をそして、翠星高校全体を一步前進させるために尽力しようという思いの下、日々活動しています。

私は、具体的な行動は緻密な計画や民主性を得ることではか成しえないと思っています。だからこそ、生徒一人ひとり皆さんの意見が必要であると思います。すなわち、この高校に変革をもたらすために皆さんの力をお借りしたいのです。

生徒会のメンバーとともに、この学校がより良く生活しやすい学校になるように頑張っていくとともに、各イベントの運営スタッフとしてイベントがスムーズに進行できるようにしたいです。文化祭での反省を基に、これから行われる二度のスポーツ大会を成功させられるようにしたいと思っています。

まだまだ未熟ではあるものの、この学校を改革するために生徒に寄り添って高め合っていけるよう、これから尽力していく所存です。今後の生徒会活動にご理解とご協力をよろしくお願いします。これをもちまして、会長挨拶とさせていただきます。



修学旅行を通して

2年 小津 奈緒

私は修学旅行を通して、友人と仲良くなることができたと思います。最初で最後の修学旅行でたくさんの思い出をつくることができたのも良かったです。

特に印象に残った場所は3つあり、1つ目はハウステンボスです。それまであまり話したことがなかった人と話ができて仲良くなれたことや観覧車からの景色やイルミネーションがとてもきれいでした。

2つ目はホテル内でのことです。3日間、疲れ切って3人とも消灯時には寝ていましたが、友人たちとは家が遠いため普段遊べなかったり、一緒に泊まることなどもできないため、ずっと一緒にいれるのがとても嬉しかったし、楽しかったからです。また、朝起きてテレビを見ながら一緒に歯を磨いたり、準備をしたり、まるで姉妹みたいでなんかいいなと思いました。

3つ目は長崎原爆資料館の見学です。原爆資料館は、日本人として戦争の怖さや残酷さを知るためにも、1回は行って見たかったからです。覚悟はしていたつもりでしたが、実際の展示物を見ると、言葉を失うほどとても衝撃的でした。特に壁に写ったはしごや人の影、焼け倒れている親子の展示がとても印象的でした。他にも、原爆が落とされた日の絵日記に、その日の天気良かったことやその日していたことが書かれてあって、核は一瞬にして、青くきれいな空や楽しい時間を奪い去ってしまったのだと悲しい気持ちになりましたが、反面、もう絶対にそのようなことがあってはいけないという想いが強くなりました。私は、修学旅行を通して、友人と良い思い出をたくさん作り、修学旅行という名のとおり、原爆やお城等、日本が歩んだ歴史についても学ぶことができて良かったです。

文化祭を振り返って

1年 山崎 由奈

私は、今回の文化祭を通じて、クラスのみんなで協力して一つのものを作り上げることができ、文化祭前より全体での団結力も上がり、すごく良かったと思いました。フォトブースを作るのはとても大変な作業が多かったけれど、他の企画の準備にあたっている友人が手伝いに来てくれてとても助かりました。そのお

かげで、フォトブースも無事に完成することができ、とても嬉しかったです。

次に、芸能王選手権では、吹奏楽部の素敵な演奏や先輩方の歌やダンスを聴き、どれもとってもクオリティが高かったし、一緒に手拍子などで応援もできて、とても楽しかったです。自分のクラスの準備だけでも忙しいのに、それプラスで芸能王の準備や練習もやっていたのは、とてもすごいなと思いました。

文化祭当日は、一般のお客さんや地域の方々もフォトブースに来てくださり、スマートフォンなどで記念に写真を撮ってくれて、作って良かったなと思いました。大人だけでなく、赤ちゃんや小学生、中学生も来てくれていて、とてもかわいかったし、楽しんでくれていて嬉しかったです。また、他のクラス企画の映画や射的などもすることができ、とても楽しかったです。3年生の模擬店で買った食べ物を友だちみんなで食べることができ、外で食べたのは寒かったけどとてもおいしかったです。初めての文化祭で、準備など何もかもが思っていた以上大変だったけど、大変な思いをしながら頑張った分、様々な方々が写真を撮りに来てくれたし、最後にはクラス全員でフォトブースでの記念撮影ができたので、とても思い出に残る良い文化祭になったのではないかなと思いました。



第73回日本学校農業クラブ全国大会 令和4年度北陸大会特集

大会式典における主催者代表あいさつ



3年 吉村 絵里

皆さん、おはようございます。霊峰白山に守られし緑豊かな石川の地へ、ようこそお越しいただきました。第73回日本学校農業クラブ全国大会令和4年度北陸大会生徒実行委員長を務めます吉村絵里と申します。北陸三県12校1700名の農業クラブ員を代表して心より歓迎いたします。

さて、昨年コロナウイルス感染症が猛威を振るう中で苦心しながらも、新たな試みを重ね、見事成功を収めた兵庫大会の意志を受け継ぎ、私たち北陸大会も準備を重ねてきました。生徒実行委員会は、そのほとんどがリモート開催になりましたが、「TEAM北陸 〜体は Social distance 心は濃厚接触で〜」をキャッチフレーズに、一歩ずつ歩んでまいりました。同じくリモート開催となった春季代議員会では、代議員の皆さんの温かい心遣いに深く感動を覚え、楽しい交流ができました。また、次年度熊本大会の生徒実行委員会の

皆さまとはZoomを用いて交流し、どんなに離れていても想いは共有できることを知りました。

振り返れば、私たちの高校入学時期と全国的なコロナウイルス蔓延時期とが重なり、多くのクラブ員が大切な「始まりの2ヵ月間」を休校期間として失い、その後も、縮小・延期を余儀なくされる学校行事が相次ぐなど、その脅威は衰えを知りません。さらに、今年に入ると平和の祭典であるオリンピックの余韻も覚めぬうちに、ロシアによるウクライナへの侵攻が始まると、瞬間に世界に緊張が走り、その様相が一変していきました。しかしながら、こうしてご参集いただいた皆さまに直接お会いし、どんな状況であっても決して冷めることのない「農ク熱」を直に肌で感じ、改めて全国大会が開催できた喜びを実感しています。

北陸大会にご支援ご協賛いただいた多くの方々、ご臨席を賜りましたご来賓の皆さま、審査や指導助言にあたってくださった先生方、そして選手の方々やライブでご視聴されている皆さま、農業クラブに関わる全ての皆さまに北陸3県のクラブ員を代表し感謝を申し上げます。最後に、日本学校農業クラブ連盟の更なる発展と持続的な全国大会の開催を心より祈念し、北陸大会に灯った「農ク熱」が、来年度「火の国」熊本県で一層その輝きが増すことを願い、私たちの想いを届けます。クラブ員の皆さま、ありがとうございました。

<大会スローガン> 「北陸に集いし若き精鋭 今こそ実れ豊作の時」
「稲穂揺れる豊かな大地 我ら農クの魂輝く」

<大会シンボルマーク>

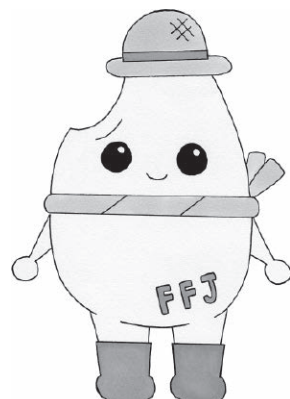


<大会ポスター>



作 新宅紗弥(R3卒)

<大会マスコット>



マイマイくん

大会式典実施委員長あいさつ



3年 宮崎 夢七

約一年の準備期間を経て、第73回日本学校農業クラブ全国大会令和4年度北陸大会は、無事終わりを迎えることができました。本大会の運営に関わってくださった方々に心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

私たち生徒実施委員は、約1年半前から式典の準備を始めました。しかし、準備といっても何をすれば良いのか分からず、コロナウイルスによる影響で行動制限が設けられている中での進行となり、満足のいく打合せ等ができませんでした。さらに、今回の大会は石川県だけではなく北陸三県での開催となっており、全体的な進行状況の把握や連携を図ることが課題となっていました。そのような中、兵庫大会の視察に行かせていただき、コロナ禍にもかかわらず、笑顔にあふれ、丁寧に対応している兵庫県の皆さんの姿にとても感銘を受けました。そして、自分たちも兵庫大会のように笑顔あふれる大会式典にしたいと強く感じました。

式典運営では、兵庫大会のコロナウイルス対策を参考にし、検温や消毒、入場制限等を行いました。また、YouTubeで配信することで多くの方々に見ていただくこともできました。本番前のリハーサルでは、役員全員が何度も試行錯誤を繰り返し、一丸となってより良い式典になるよう努力しました。このように式典に携わった役員全員が、一生の宝となるような誇らしい体験ができたかと強く感じています。当日は多くのトラブルに直面しましたが、数多くのリハーサルやミーティングを通して培ったチームワークを生かし、臨機応変に対応することができました。これも練習で培われた経験が基にあったからこそできたのではないかと思います。一年半の準備期間では、思い通りの準備・進行ができないことへの焦燥感や不安感を感じましたが、それらを乗り越えることで、ともに結果を残すことができました。そのような仲間たちとは、より絆が深まったと感じ、言葉にできないくらいの感動と達成感を得ることができました。

最後に、来年度の熊本大会ではコロナ禍を脱し、今年よりも大勢のクラブ員が参加できることをお祈りしています。

代議員会生徒実施委員長あいさつ

3年 辻森 さくら

会場にお集まりの皆さんこんにちは。新型コロナウイルス感染予防のため、普段から行っている手洗い・手指消毒・マスクの着用を順守し、皆さんが安心して参加できる代議員会になるよう、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

さて、私たちの学校、翠星高校のある白山市は、金沢市の南西部に位置しており、豊富な海の幸をもたらし、してくれる日本海、県内最大の流域を誇る一級河川手取川や白山手取川ジオパークなど海・川・山の豊かな自然に恵まれた地域にあります。白山市は森林面積が70%を占めており、皆さんのお手元にある名刺は、白山市の杉の木を活用して作成しました。ぜひ手に取って木の質感と香りをお楽しみください。本大会の記念として、名刺フォルダーごとお持ち帰りください。そして、日本で有数の歴史と伝統を誇る農業専門高校である本校は、農・食・環境を主軸に置いた生物資源コース・食品科学コース・環境科学コースの3コースに分かれています。私、辻森と副委員長の麥田は食品科学コースに所属しており、HACCP第三者認証「JFS-B規格」という一般企業でも取り入れられている衛生管理基準でクッキーを製造しています。そのクッキーを2つ目の本大会の記念品としました。こちらの音楽堂は全館、飲食禁止となっておりますのでどうぞお持ち帰りの上、お楽しみください。

全国大会に向け、北陸3県の12校が協力し準備を進めてまいりました。新型コロナウイルスの影響によりリモート会議も多々ありましたが、大会が素晴らしいものとなるよう意見を出し合い、一生懸命取り組んできました。大会中お困りのことなどありましたら、本校の生徒に気軽にお声かけをお願いします。それでは本日1日よろしく申し上げます。



北陸大会生徒実行委員会の軌跡

【第1回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

本日は、わざわざお集まりいただき、誠に感謝を申し上げます。移動に2時間以上もかかってお越しになられている方もいます。北陸3県と言っても、簡単に集まれる距離ではないなと改めて感じました。私は、北陸大会事務局総務を務めます、石川県立翠星高等学校の市村実と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

皆さんは、「ドラえもん」をよくご存じですね。ドラえもんは22世紀が舞台の話です。20世紀生まれの私にとっては、遠い未来の物語のような感覚で馴れ親しんで来ましたが、21世紀に生まれた皆さんなら、頑張って長生きすれば実際にドラえもんに会えるかもしれません。私は、最低でも130歳まで生きなければなりません。皆さんは100歳になる前に22世紀を迎える事ができます。実際にドラえもんに会える可能性があるので頑張って長生きしてくださいね。

もしドラえもんに会えたら、何をおねだりしますか。4次元ポケットには夢がありました。実は、ドラえもんの発明グッズが手に入るようになるのはもうすぐなのです。例えば、「タケコプター」はドローン技術の進化によって、実現可能な領域に入っています。すでにドローンタクシーの実験が始まっていたり、ドローンによる荷物の宅配は、許容荷重が増えれば、人間だって運べるようになるはずです。「どこでもドア」、あれば非常に便利ですが、あるのです、もうすぐで。最近CMでよく目にする自動運転技術の向上。そのうち、目的地をセットするだけで、後は映画を見ながらコーヒーを飲んだり、ゲームをしたり、寝ていても勝手に到着するようになるかもしれません。発想次第では、ちょっと時間のかかるどこでもドアと言えませんか。記憶力が良くなるサプリメントがより改良されて「暗記パン」になったり、ドラえもん自体もアンドロイドですから、AI搭載の「ペッパー君」が進化した形かもしれません。何が言いたいのかと言いますと、20世紀に生まれた私たちの叶えたかった未来が、現実ですぐそこまで来ているという事です。

さらに、教育の目標とは、生徒一人ひとりの人格の完成を目指すことです。そのためにも、皆さんに是非この機会に養って欲しい力があります。「豊かな発想力と想像力」です。先ほどの「ドラえもん」の話は、このための長い振りにすぎません。人に発想力が備わると、揺るぎのない信念が芽生え、困難を克服する原動力になります。しっかりとした信念があるからこそ、「Never give up Never surrender」＝「私たちが諦める事を諦めろ」ですね。豊かな発想力は、自分を支え、未来を切り拓く

武器になるのです。

また、想像力を養えば、人に対して思いやりを持って接する事ができるようになります。想像力があるからこそ人の気持ちが理解できるし、共に喜びを分かち合えるのも想像力のなせる業です。人の痛みに気付く事ができる想像力が自分に備わっているかどうか。それにより、その人の人生が大きく変わって行くと言っても過言ではないでしょう。「豊かな発想力と想像力」は、人にとって必要な「生きる力」です。言い換えれば「未来を創造する力」です。未来を思い描けないと人は希望を失います。叶えたい未来を想像し、実現のための目標を持つことで、努力の大切さを初めて実感できます。生徒実行委員会は、皆さんに色々な目標を与え、皆さんに様々な努力をしていただく場所です。叶えたい未来は、努力することでのみ創造できるのです。そしてその努力を支援するのが私たち教師の役割であると考えます。

「生徒実行委員になることで何が身に付くか。」一ヵ月ほど前、翠星高校の子たちに話をしました。今日という日があるので、敢えて具体的に解答を示しませんでしたが、きっと自分なりの「未来創造力」を各自が身に付けているはずです。そして、そんな君たちが叶えたい未来とはどんな未来か？君たちが努力し、創造した未来と一緒に見てみたいと考えています。

【第2回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

みなさん、こんにちは。昨年度3月末に第1回の実行委員会を開いて以来、なかなか開けないでいた生徒実行委員会ですが、ようやくリモートという形で開催することができました。今日初めて参加する生徒さんもいます。本来ならば新しく加わった皆さんも含め、一人ひとりを紹介するような場面を設けたかったのですが、限られた時間の中でのリモート会議ということで、本日はできません。次回以降許された時間の中で工夫をし、交流を深めてもらいたいです。

さて、突然ですが、普段みなさんは規則を守っていますか？自信をもって「守っている」と答えられる人はどのくらいいますか。リアクションしてみてください。・・・「ありがとうございます。」・・・

なぜ規則を守らないといけないのか、真剣に考えたことはありますか。私はこう思います。周囲に法律を守らない人がいたら、普通に不安を抱きますし、迷惑ですらあります。法律とは、人々が安全に、安心して生活するためのルールで、皆がそのルールを理解して行動することで、思いやりの行き届いた暮らしが保障されと考えます。見つからなければ規則を破っても良いとか、自分さえ良ければ良いといった考えは、犯罪者心理によく

似ています。皆さんの中でも、普段規則を守っている人と守らない人が混在する学校生活に窮屈さを感じる人はいるはずです。では、窮屈な思いをされているのはどちら側の生徒でしょう。実は、規則を守っている生徒なのです。教師はこの現実をきちんと把握しなければなりません。逆に、皆が規則を守るようになれば、それが当たり前となり、規則自体がいらなくなるでしょう。このように、一人ひとりの心の持ち方によって、集団は成熟していきます。成熟した集団が周囲に安心を与えることで、皆がより活発に活動を行いやすくなります。この生徒実行委員会という集団も、皆さん一人ひとりの心と考え方の成長により、いつの日か成熟した集団へと変化していくことを目標とし、それぞれが自覚を持って活動に励んで欲しいです。

【第3回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

今回もリモート会議となりました。また、夏休み中とはいえ分散登校や登校禁止措置により参加できない実行委員もいます。普通にできていたことができなくなる。コロナにより高校生活は一変し、学校行事の多くに制限や制約が加わりました。しかし、そのことをできない事の言い訳にするのではなく、できる方法を考えて工夫する。こういう時代だからこそ、そのような力を身に付ける必要があると思います。

そして、今最も苦境に立たされているのが、兵庫大会実行委員の方々です。私たちの想像をはるかに超えるような困難のもと、全国大会の実施に向け、全力で開催にまで辿り着こうと準備に邁進されています。この兵庫大会事務局の先生方や生徒実行委員会の皆さんに、私たちは感謝の意を示すとともに、その努力に対して敬意を払わなければなりません。なぜなら、誰一人として全国大会の開催を疑わず、開催の希望を最後まで持ち続け、決して諦めない姿勢を貫いているからです。全国の農業高校生の夢や希望を絶やさぬためにも、全国大会は必ず実施しなければなりません。

前回、「一人ひとりが成長することで、集団は成熟する。」という話をしました。当然、人が成長するには努力も必要だし、周囲の支えも必要です。ですが、どんな状況であつても、折れない心さえあれば人は努力できるし、また、ひたすら努力し打ち込むことのできる環境が農業高校にはあるのです。そして、その努力の成果と成長の証を確かめる場所こそが農業クラブ全国大会です。選手として参加する人も運営側として携わる人も、一人ひとりが目標を持って全国大会に参加することがで

きるようになるためにも、生徒実行委員会としての成熟を期待しています。

【第9回生徒実行委員会 事務局あいさつ】

皆さんに、こうして翠星高校に集まっていたいて開催する生徒実行委員会は、これまで数えるほどしかできませんでしたが、本日が全国大会前の最後の生徒実行委員会です。今日は、取材記録講習会も併せて実施いたします。この講習会を開くにあたって、わざわざ東京より、いつも皆さんが楽しみに拝読している農ク機関紙「リーダーシップ」編集部の方々に来ていただいております。本日はお忙しい中、誠にありがとうございます。どうぞよろしくお願いいたします。

さて、この取材記録講習会ですが、全国大会を開催するにあたって、たいへん重要な役割を担っています。各種目の実施委員会においては、お越しになれるクラブ員の皆さんの競技や発表にかける真剣でひたむきな姿を逃さずフィルムに焼き付けていただきたいです。また、取材やインタビューを通じて、クラブ員の生の声をリポートすることは、北陸大会の足跡を残し、次年度以降の持続的な全国大会開催のための貴重な資料になるはずです。皆さんが撮影した写真やデータ及び取材記録は、北陸大会の報告書や大会HP、各種出版機関へ提供され、全国から参加されるクラブ員の皆さんの大切な思い出となります。この講習会を通じて、各自がそれぞれの役割をしっかりと認識し、大会運営者としての自覚に目覚めていただけたらと考えます。

いよいよ、開催まで残り3か月を切り、全国大会が目の前まで迫ってきました。皆さんは北陸大会のHPやインスタグラムをこまめにチェックされていますか。事務局では、ここ数日の間に、大会100日前PR動画や北陸大会参加申込要領、各種発表・会議における事前提出書類、平板測量競技実施要領などを大会HPに立て続けにアップしました。さらに今週は、大会申込Webシステムの運用を開始する予定です。今後も大会に関する様々な情報をHPから全国に発信する予定でいますので、定期的に関覧することをお勧めします。

それでは、本日の実行委員会が実りの多いものとなることを祈って事務局挨拶とします。ここまでの道のりは、あつという間であつたようにも感じますが、辛抱強くいつも笑顔で話を聴いてくれる生徒実行委員の皆さんと陰ながら支えてくださる各校の顧問の先生方には、たいへん感謝をしております。どうか、あと僅かではありますが、北陸大会の終焉まで一緒に務めていただきたいと思います。皆さんの力を結集し、北陸大会を大成功に導きましょう。

文化祭を振り返って

3年 日和 唯斗

文化祭は、準備期間からずっと楽しかったです。出し物は唐揚げとパンケーキをしました。準備では看板を作ったり、試作をしたり、テントを張ったりしました。看板は色を塗るだけでしたが、友人と話をしながら一緒に制作できてとても楽しかったです。

1日目の文化教室は、とても感動しました。ミュージカル映画は見たことがあって楽しみにしていたのですが、実際に目の前で演技して歌っている様子を見ると映像では全然違うということがわかりました。一人一人が自分の出番じゃない時も、いろんな表情をしていて、一人で何役もしているのを見て本当にすごいなと思いました。

2日目の芸能王は、どの組もたくさん練習してきたんだと思うパフォーマンスばかりでした。それぞれ違う良さがありましたが、印象に残った3組は、少し違いがあるなと思いました。芸能王に出てくれた人たちのおかげで文化祭が盛り上がったと思います。本当にありがとうございました。

3日目の学校公開は特に大変でしたが、楽しかったです。まず、一年生のお化け屋敷のクオリティが高くて本当に怖かったです。少ない準備期間であれほどすごいものを作っていて、自分の時とは比べ物にならないくらい良かったです。また、模擬店はどのクラスも賑わっており、特にケバブサンドがおいしかったのを覚えています。自分たちの模擬店は、とにかく忙しかったです。唐揚げにはずっと列ができていて、最後に足りないというアクシデントが起きましたが何とか対応し、良い形で終わることができました。

僕は、最後尾で係をしていたのですが、水分補給のため何度か代わって貰えたり、話しかけて来てくれる人もいたりで、楽しんで行うことができました。一番思い出に残っている事は、小さい子供に食券を渡したのですが、その子がお礼にと唐揚げを1つ譲ってくれた時、心がほっこりしました。最後の文化祭は、友達、先生方のおかげでとても楽しく過ごすことができました。

三年間を振り返って

3年 中山 柚奈

私の高校生活は、後先を考えずに様々な事に挑戦できた三年間でした。

一年生の頃は、定期テストで頭がいっぱいで、特に農環のテストだけは100点をとることに全力でした。とある先生の一言で「教師になる」と決めた私は、進学を心に決め、食品科学コースを選択しました。今思えばこの選択で人生が変わったなと思います。

二年生になると、農業クラブ役員、和菓子部、意見発表でとても忙しくなりました。忙しいこと自体は良かったのですが、これがきっかけで三年次の忙しさにも影響を与えたのだと思います。この一年間はほとんど意見発表の記憶しかないですが、その中でも大会式典で司会をした直後に意見発表の選手席まで走ったことは良い思い出です。後にも先にもあまりいない人材だと思うので特別感があって楽しかったです。

三年生になり和菓子部部長や農ク校内会長など、リーダーになることが増えました。農業クラブ役員は、二年次よりも仲が深まり、文化祭のステージはとても楽しかったです。また、和菓子部でプロジェクト発表にも挑戦したのですが、正直ずっと地獄でした。やっぱりもう一度意見発表したかったなと思い続けていますが、嫌なことを全力で頑張れたのも、今後役に立つ日が来るのかなと思います。今まで、目の前だけを見て進んできましたが、進学の際に自分の活動報告書を見て、「頑張りすぎだろ!」と感動しました。

高校三年間を通して、主体的に動くことやコミュニケーション能力を身に付けることなど、たくさん成長することができました。何事もいざやってみると「自分ってこんなにできるんだ!」と自身の新しい可能性を見出すことができます。積極的に動くことの大切さを翠星で学ぶことができました。

翠星を受験して正解でした!



三年間を振り返って

3年 竹中 和葉

和菓子文化が盛んな石川県で生まれ、「和」のついた名前になる。食べることも作ることも好きになる。十歳の時に翠星クッキーに会い、中学二年生の時に翠星高校に入学することを決意する。入学してすぐの意見発表で和菓子を意識するようになり、和菓子部の存在を知って入部する。和菓子屋さんのデュアルシステムに参加し、その和菓子屋さんに就職することになる。卒業後は働きながら和菓子部に関わっていくことになる。なんとまあわかりやすい人生だろうか。仕組みされているんじゃないかと思うほど、流れが安定している。不思議な感じだ。

この人生に深く影響する高校生活。振り返ってみると本当に色々なことがあった。「私は普通の女子高校生です。」と言うと、友達から「普通の意味を辞書で調べてみて。」と言われ、母からはめちゃくちゃ驚かれる程度には特殊な経験をしてきたと思う。例をあげたらきりがないので書かないが、翠星高校に入学して良かったとは、はっきり言えるくらい充実した日々を送ることができた。残り三ヶ月も経たないうちに、この生活が終わってしまうことを寂しく思う。

この三年間の高校生活は、あっという間だった。「光陰矢の如し」とはまさにこのことだろう。卒業後も思い出を大切にしながら、母校である翠星高校に積極的に関わっていきたいと思う。翠星高校は、私の誇りだ。

100年の森 造園分野での取り組み



教諭 高田 葵

本校は、2026年に開校150年を迎えます。昭和51年に行われた100周年記念事業では、4つの様式の庭園（フランス・イタリア・イギリス・日本）が前庭として作庭されました。現在この前庭は、50年近くの時が経過し、鬱蒼とした状態となっています。かつての造園科が造園コースとなり生徒数も減少し、管理が行き届かなくなったためです。本校の正面玄関前の緩くカーブした道の両脇に列植されたタギョウショウも枯

死が目立ち、名物景観としての尊厳が失われています。

そこで、150周年記念を機に約50年前に植栽された先輩方の熱き思いを50年先の未来へ残すため「100年の森」計画がスタートしました。タギョウショウを含む前庭を改修し、管理しやすく見通しのよい、そして、生徒の授業や地域の方々への憩いの場「緑あふれる愛される庭」に生まれ変わろうとしています。まず、私たちはタギョウショウの生育調査を行いました。調査資料は立花造園の社長で樹木医の立花栄志さんから頂いた「樹木地上部の衰退度判定」をもとに実施しました。衰退度は、枯死寸前(V)、著しく不良(IV)、不良(Ⅲ)、やや不良(Ⅱ)、良(I)の5段階で評価されます。58本のタギョウショウを調査したところ、Vが7本、Ⅳが12本、Ⅲが15本、Ⅱが13本、Iが4本ととても悪い結果でした。原因は、状態の悪い粘土質の栽培土壌、そして広がりすぎた樹冠同士や繁茂しすぎた日本庭園により日照が遮られるためだと考えられます。そこで、科目「総合実習」で生徒と共にタギョウショウの伐採を始めました。伐採する樹木は、日照を確保しながら景観を損なわないように選定しています。

今後は、伐採と並行し、前庭全ての残すべき樹木の選定を行う予定です。私が翠星高校生の頃に、4つの様式の庭園を「憩いの場」として利用したことはありませんでした。農学分野で学んだ私ですが、二年前から「造園分野」を担当したことで庭園の魅力を知りました。生徒が気軽に入りたくなるような、遊びたくなるような、そんな「庭に触れる体験」ができる「魅力ある100年の森」の完成を目指し、生徒と共に頑張っています。



栄養と水分が摂れる美味しい非常食を私が作る!



3年 上谷 菊環

令和6年1月1日、16時10分。マグニチュード7.6の大地震が石川県能登半島を襲いました。私は、輪島市町野町にある父の実家で全壊した家屋の下敷きとなり、近所の方々に救出されたのは3時間後でした。

家族で「JAのと町野支店」に避難し、4日間の避難所生活を送りました。備蓄食料は無く、断水・停電・通信不可という状況で、家族5人で紙コップ一杯の水を分け合いました。

2日目、避難者が半壊した自宅や畑から食料を持ち寄って作ってくれた温かいおにぎりやみそ汁。食べると不安や恐怖がスーッと消えました。被災後初めてみんなに笑顔が戻り、「食べることは生きる力になる。」「希望を持つ力になる。」と感じました。

3日目、自衛隊から救援物資が届きましたが、非常食の缶詰は種類が少ない上、クラッカーや乾パンは硬くて食べづらく、粉末スープはお湯がないため飲めませんでした。ようやく5日目に自宅に帰ることができましたが、私はこの経験から「栄養と水分が手軽に摂れる美味しい非常食を作ろう。」と決意しました。

01 美味しい非常食「酒米甘酒羊羹」を開発!

石川県立翠星高等学校の部活動「食品科学研究会」は、地元の生産者から出る処分・廃棄される食品の利活用を力を入れています。地元酒蔵「吉田酒造店」は、石川県オリジナル酒米「百万石乃白」を使って大吟醸酒を製造しています。日本酒製造の過程で出る「酒米削り粉」は低価格で業者に引き取られています。

私たちは、吉田酒造店の依頼で、酒米削り粉に付加価値を付けブランド化する加工品開発に取り組んでいます。酒米削り粉は、粒子にばらつきがあるためふるいにかけて使用します。その際に、約1mm程度の粒が約1割残り、使い道がなく廃棄されていました。製造実習で甘酒は「飲む点滴」と言われるほど栄養豊富だと知り、廃棄している酒米の粒で甘酒を作れば、非常食になるのではと考えました。

02 酒米甘酒の開発

翠星高校では、授業で麴や甘酒を作り、味噌や大根寿

司を製造しています。甘酒は米麴、蒸米、お湯で作ります。蒸し米の代わりに酒米の粒を使用して「酒米甘酒」を試作しました。酒米は雑味が少ないので、酒米ならではのすっきりとした甘さに仕上がりました。しかし、甘酒はどろっとした食感や発酵食品独特の風味に好き嫌いが分かります。また、避難所経験による「トイレ回数を減らそうと水を飲まなくなった」ことや「空き缶や包装ゴミが増えて臭いがきつかった」こと、「乾パンやクラッカーは硬くて喉が渇く」ことなどから、「液体では飲まれないかもしれない」、「甘酒の容器は臭う可能性がある」と考えました。そこで、液体ではなく適度に水分が摂れて、子どもから高齢者まで食べやすい加工品を考えることにしました。

03 酒米甘酒羊羹の開発

甘酒をゼリーに加工してみました。甘酒特有のクセは消えませんでした。そこで、羊羹に加工してみました。羊羹なら小豆を加えることでクセは軽減され、たんぱく質や食物繊維の栄養価が上がるのではと思い、こし餡で甘酒羊羹を試作しました。羊羹にすることで、甘酒のクセは消え、酒米甘酒ならではのすっきりとした甘味を生かすことができました。また、甘酒の水分も加わることで通常の練り羊羹より柔らかく、食べやすい硬さになりました。アレルギー28品目も入っておらず、包装ゴミも臭いも少なく済みます。

04 製品化、そして生産体制

甘酒用の麴は、能登復興のため輪島市にある「(有)川原農産」の米「能登ひかり」を使用することにしました。学校で麴を作り、酒米甘酒羊羹の甘酒を製造しました。しかし、学校では羊羹の量産ができないため、金沢市にある創業400年の老舗和菓子店「(株)森八」に協力を依頼しました。「(株)森八」は、日本三大銘菓のひとつを製造する銘店で、看板商品に「黒羊羹」があります。黒羊羹に酒米甘酒を加えて備蓄用羊羹を製造して頂けることになりました。

クラウドファンディングで羊羹製造費用を集め、被災の大きかった奥能登4市町に5,000本を配布しました。今後も備蓄推進活動を行っていきます。



農業クラブ全国大会を終えて

2年 小崎 晴道

10月23日農業クラブ全国大会がありました。数ある種目の中、私は平板測量競技の補欠として参加しました。もともと測量競技には参加していませんでしたが、県連大会の後に先生から補欠で出場しないかと声をかけられ、参加することになりました。練習に加わってみて感じた事は、授業で習ってきた水準測量とはやり方が全然違うことでした。水準測量はレベルという器械で測量しますが、平板測量は三脚に平板を取り付けて、その取り付けた平板に直接図面を描いていく方法でした。選手たちを見ていると様々な動きをしていて、動作を覚えるのが大変だなと思いました。

しばらくすると、私も実際に練習してみるようになりました。やってみると何をどうすればいいのかすぐには思い浮かばず、動きが固くなっていました。やはり、見るだけでは頭に入りにくく、実際に体を動かしてすることで覚え易くなるのだなと感じました。

大会が近づくとみんなは緊張していましたが、こういった大会は久しぶりに参加するので懐かしい気持ちになりました。石川を出発する22日は、ほとんど新幹線での移動でした。今から大会に行くのだという実感が湧いてきました。23日になり、いよいよ本番の日を迎えました。私はコートから離れて見ていただけでしたが、少なからず緊張していました。作業が終わって3人が帰って来るのを待っている時が1番緊張した気がします。3人から結果を聞いて優秀賞が見えていると分かった時は、一緒に喜ぶことができました。

24日の結果発表の際、優秀賞の中に自分たちの名前が書かれているのを見た時は、すごく嬉しかったです。全国大会ではいろいろな経験をすることができました。来年は進路について考えていく年なので、この経験を役立てようと思いました。



北陸でのイチゴの産業化を目指して



実習教諭 高木 利李

高等学校DX加速化推進事業通称「DXハイスクール」とは、大学教育段階でデジタル・理数分野への学部転換の取組が進む中、その政策効果を最大限発揮するためにも、高校段階におけるデジタル等成長分野を支える人材育成の抜本的強化が目的の事業です。

翠星高校では、令和六年度に「北陸でのイチゴの産業化」をテーマにDXハイスクールに認定されました。現在石川県でのイチゴ栽培は、ほぼ行われていません。理由としてイチゴの需要が一番高まるのが12月～3月頃となりますが、石川県の気候では日照時間が足りず設備コスト等の採算が合わないためです。また、商業化していても観光農園が主となっています。そこで、センサー等を用いてデータを取り、北陸の気候条件の中で栽培できる作型を検討していきます。そして、本校産のイチゴを用いて本校人気商品「イチゴジャム」に加工し、校内六次産業化の実現を視野に入れ、コースの垣根を越えて共に活動しています。

令和五年十月、本校のガラス温室に高設栽培キットを導入して45株の試験栽培を行いました。その時は何もかも手探りで状態での栽培だったので、収量も少なく、形も不揃いになり上手くできませんでした。今年度の栽培では、以前の失敗から学んだ事を活かして1000株を栽培しています。現在はやや生育不良の状態ですが、昨年度より上手く栽培できています。

今後は、北陸におけるイチゴの高設栽培モデルの確立や安定した栽培で本校での六次産業化を目指し、生徒と共に頑張っていきます。



校内会長になって



3年 日野 一輝

私は、農業クラブ役員としての活動を通じて、多くの学びと成長を得ることができました。校内意見発表会やオリエンテーションの運営に携わり、役員同士で協力しながら一つの行事を作り上げる中で、責任感と達成感を強く実感しました。この経験は、私にとってかけがえのない成長の機会となりました。

二年次に副会長、三年次には校内会長として、農業クラブ活動の活性化に取り組んできました。毎朝のあいさつ運動や放送活動に加え、文化祭では芸能王への出場、オリエンテーションでのFFJダンス披露など、会長として幅広い活動に挑戦しました。また、中学校での学校紹介や翠星高校創立150周年に向けた新制服考案に参加し、貴重な経験を積むことができました。

中でも印象に残っていることは、三年生で初めて主体的に運営したリーダー研修会です。能登高校の生徒を迎え、交流を深めながら分科会を実施し、農業クラブ活動の活性化について意見を交わしました。これまで何度も分科会を経験してきましたが、今回の研修会は最も完成度の高いものだったと感じています。意見交換だけでなく、ゲームなどを取り入れた交流が活発に行われ、三年生が中心となって会を運営したことで、自分たちの成長を強く実感する機会となりました。

三年次に校内会長として役員全体をまとめる立場となり、一つ一つの活動に対する責任の重さと緊張感をこれまで以上に意識するようになりました。そして、役員一人一人が高い意識を持ち、それぞれの役割を理解して行動していたことで、活動は円滑に進行しました。役割分担が明確であったことが、組織としての強さにつながっていたと感じています。

農業クラブ役員としての活動では、全員が主体的に役割を担い、自身の課題克服や得意分野の伸長を意識して取り組んできました。その中で私は、人前で話す力を身に付け、自分に自信を持てるようになりました。農業クラブで得た経験と学びは、今後の人生においても必ず生かせるものだと確信しています。これからも農業クラブが、多くの生徒にとって成長と挑戦の場であり続けることを願っています。

一味違う県連大会技術競技会



3年 佐野 優空

今年もやってきた。農業クラブ県連大会技術競技会が8月5日にありました。やはり本番では様々なアクシデントが付きものです。

大会当日から遡ること約1ヵ月前、平板測量競技に出場するにあたって、3年生チームは昨年のまま、2年生チームは3人＋補欠がすでに決まっていた。去年の県連大会では、私隊のチームにはまだ補欠もいなかったのに、2年生が平板測量競技に少しでも興味を持ってくれたことに嬉しさを感じました。そして始まった練習では、なんと3年生が2年生にやり方やルールを教えていく形でした。今回の県連大会も去年同様の3年と2年が競い合う校内戦ですが、そのような形になったため、自分たちは何をどのように説明すれば正解なのかを悩みながら、練習に取り組みました。



本格的に練習を始めたのは7月に入ってからで、授業終わりの放課後や休日に集まり、平板測量の練習に励んでいました。もちろん屋外の活動なので暑いのですが、午後4時から行う練習が涼しいと思えるぐらい、休日の朝8時から行う練習がもの凄く暑かったです。測量するたびに腕や額から汗が吹き出するため、外業が終わるとみんなヘトヘトになっていました。そんな中でも、2年生は誰一人欠けることもなく、僕達や先生に質問したり、昼頃まで練習を続けたりして、とても偉いなと感じました。そして迎えた本番当日は、練習ではあまり体験していない強めの風が吹いていました。2年も3年も練習成果を発揮しようと尽力しました。それでも、自分はペンを落とし、内業では書損

じや四捨五入のミスが発生してしまい、本番という場面がいかに凄く恐ろしいかを改めて実感しました。

この1ヵ月間は、自分達の平板測量技術を思い返すとともに、その技術を2年生に教え且つ一緒に練習に励んで来たため、2年生それぞれの成長を身近に感じることができた1ヵ月間でした。本番で実力を出し切ることを大変さ、目標を立てそれに向けて努力を重ね続ければ成長できることを体験できた後輩達のこれからの成長が楽しみになったのと同時に、自分も来るべき本番に向け、平板測量競技を通じて培ったことを忘れずに、努力を重ねていこうと心に誓いました。

文化祭を振り返って

2年 中村 月花

私は、今年の文化祭が昨年よりも楽しめたと思いました。1日目の芸能王では、去年と違って声出しが良くなりました。そのため、友人とともに盛り上がったし、皆楽しめていて良いステージだなと思いました。2日目は、大勢の外部の方がお客様として色々なものを買ってくれました。翠星高校の文化祭は他校とは違い、農産物をはじめ多くの販売物で賑わうため、お客様も十分楽しめていることがわかりました。

準備では、看板作りをしました。誰もさぼったりせずに、自分のすべきことをしっかりできていて、協力する力がすごくあるなあと思いました。時間が余った時は、宣伝用にアンパンマンキャラクターのお面をみんなで作りました。段ボールを型に切り抜いてからマジックで顔を描き、絵の具を塗りました。そのお面を1年生にあげたら、喜んでくれたことが嬉しかったです。また、当日の販売では、ミニバラがすぐに売り切れたと聞き、とても嬉しかったのを覚えています。

今年の文化祭は、みんながルールを守って楽しんでいたから、誰かが怒られているところを見ることもなく、とても充実した文化祭だったと思います。今回の文化祭では、協力する力とルールを守る大切さ、関わったことのない人とも関わってみることの大切さなどを学びました。この2日間で話したことのない人達とも仲良くなって、今まで自分からあまり知ろうとしなかったことをちょっと後悔しました。クラスの仲がより深まった文化祭だったし、これからの学校生活に生かすことがいっぱいある文化祭だと思いました。来年は、今年よりもさらに楽しめて、先生も生徒も笑顔で終われるような文化祭にしたいです。

一粒のイチゴが教えてくれたこと
— 生徒と歩んだ、挑戦の日々 —

教諭 川端 伸

「農場でイチゴを育て、そのイチゴでジャムを作ろう。校内で六次産業化もできるはずだ！」谷前校長の“鶴の一声”によって、イチゴのプロジェク活動は始まりました。当時、食品科学コースから生物資源コースに異動して数日目だった私は、「イチゴジャムの製造自体は難しくない。何とかなるだろう」と軽い気持ちで引き受けました。そのことを周囲に話すと「イチゴは難しいですよ」、「よりによってイチゴですか」、「病気や害虫が多く薬剤散布が大変ですよ」と返ってくるのは否定的な意見ばかり。野菜栽培の経験が乏しかった私は、不安を募らせていきました。

令和5年10月、本校のガラス温室に4.5mの高設栽培キットを導入。栽培品種「章姫」45株の試験栽培を開始しましたが、何もかもが手探りの状態で収量も極めて少なく、果実の形も不揃いで、「一体、何を栽培しているのだろうか」と感じることもありました。そんな時、一緒に取り組んでいた生徒が、収穫した中で一番きれいな一粒を、「先生、食べてください」と差し出してくれました。普段は学校の農作物を口にすることの少ない私でしたが、その一口は、「あまっ！スーパーで販売されているものよりもおいしい！」と雷に打たれたかのような衝撃を受けました。このイチゴが安定して収穫できれば、「翠星高校の新たな魅力となり、生物資源コースの特色ある学びになるのではないか」と思うようになり、次第にイチゴ高設栽培に力を注ぐようになりました。



翌年には、文部科学省「高等学校DX加速化推進事業」(DXハイスクール)に認定され、本校のガラス温室の改修工事を行い、約100mの高設栽培キットや室

温を10℃以上に保つ大型ヒーター、根域を15℃以上に保つショウオンボイラ、LED電照などが整備されました。前年の反省を活かしながら、もう後戻りできないとの背水の陣で栽培品種「章姫」1000株の管理に取り組みましたが、定植時期の遅れ等により初期生育が不十分となり、促成栽培には至りませんでした。しかし、3月以降は収穫量が伸び、目標としていた総収量500kgを達成し、最終的には約535kgのイチゴを収穫することができました。収穫したイチゴのうち規格外となった約110kgは食品科学コースへ提供し、本校産イチゴを用いたジャムの製造に活用しました。これにより、校内における六次産業化を実現することができました。さらに、規格外果を活用した和菓子やジェラートの開発にも取り組み、コースの垣根を越えた探究的な学習活動へと発展しました。



今年度は、品種を極早生品種「かおり野」に切り替え、11月14日からの収穫に成功し、促成栽培を実現することができました。3月からは自家育苗にも挑戦します。この取り組みをまとめたプロジェクト発表では全国大会への出場を果たし、私にとっても7度目の挑戦で生徒とともに勝ち取った大きな成果となりました。

イチゴの高設栽培に取り組む中、私は一つの大きな気づきを得ました。それは、どのような状況においても「不可能」と決めているのは、環境や常識ではなく「自分自身」であるということです。軽い気持ちで始めた取り組みでしたが、生徒とともに真剣に栽培管理を続けた結果、本校のイチゴ栽培をきっかけに新規就農者が誕生するなど、活動は地域へと広がりました。

目標の達成を信じて行動し続けることの大切さを改めて実感するとともに、このような貴重な学びを得られる翠星高校は、「地域を支える人材育成」のトップランナーであると確信しています。今後は、「決して不可能なことはない」と信じ、石川県におけるイチゴ高設栽培モデルの確立や本校産イチゴを活用した150周年記念事業の記念品製作に向けて生徒とともに尽力していきます。

若者への和菓子の普及を目指して



教諭 金田 侑也

食品科学コース「和菓子部」では、地元和菓子店から「若者の和菓子離れや後継者不足に悩んでいる」と相談を受け、若者への和菓子普及を目的に活動しています。市内の和菓子店でキャンペーン商品を販売し、年長者を敬う敬老の日に「若者から年長者へ和菓子を贈る」という新文化の定着を図り、若者への和菓子の普及と和菓子業界の活性化を目指す「敬老の日キャンペーン」を令和5年度から実施しています。3回目となる今年は、白山市地産地消課・地元和菓子店9店舗・イオンモール白山・道の駅めぐみ白山と協力し、「第3回敬老の日キャンペーン」を開催しました。今後は、全国展開を目指していきたいです。

また、地元和菓子店「御菓子司雅風堂」と連携し、「翠星産イチゴ」と「本校乳酸菌飲料ラクピス」を合わせたイチゴ大福（名称：イチゴイチエ）の協働開発を行いました。校内や店舗、イオンモール白山「和スイーツ祭」などで販売をし、地域の方々に対する地元食材の魅力の発信や和菓子の普及ができました。このキャンペーンの開催や和菓子の開発・販売などの取り組みは、生徒の努力と地域の方々のご協力があったからこそ成果に結びついたと考えています。さらに、第76回日本学校農業クラブ全国大会西関東大会プロジェクト発表会において、二年連続優秀賞を受賞することができました。今後も、生徒と共に地域との繋がりを大切にしながら和菓子の魅力を普及し、日本の伝統文化和菓子を守り続けていきたいです。



第4章

地域と共に歩む翠星高校



継続は力なり 廃棄果皮ゼロ宣言！ 丸ごと生かそう「金沢ゆず」



プロジェクト発表会 分野Ⅱ類 北信越ブロック 石川県立翠星高等学校
総合グリーン科学科 3年 上田梨々花
1年 太田 風音
3年 織田菜々子
3年 山谷 花恋
3年 米谷莉乃亜
1年 木戸 彩耶

1. はじめに

石川県金沢市東部に位置する浅川地区は、昭和50年、減反政策の流れを受けて本格的にゆず栽培を始めました。「金沢ゆず」は北陸地方の気象による肉厚な果皮と、強い香りが特徴で、生産量のほとんどが果汁として利用されています。

平成23年「ゆず生産者が、搾汁後のゆず果皮の廃棄に困っている。捨ててしまう果皮の再利用が出来ないだろうか？」とJA金沢市金沢柚子部会から依頼を受け、連携し「ゆずマーマレード」を開発・製造販売したことが本プロジェクトの始まりです。現在までに、1,373個を販売。

平成25年、金沢ゆずのピール煮を開発。ピール煮とは、柑橘類の果皮を砂糖で煮た製菓材料で、ピール煮を使ったシフォンケーキ、パウンドケーキ、マフィン、クッキー、パンを開発。「金沢ゆずクッキー」はコンテストで奨励賞を受賞。各商品は地域イベントを始め、常設売り場で常時販売しており、これまでの販売総数は6,151個です。



図1 金沢ゆず

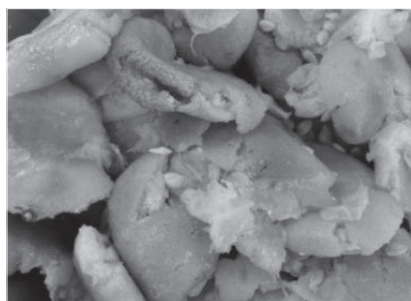


図2 金沢ゆず廃棄果皮

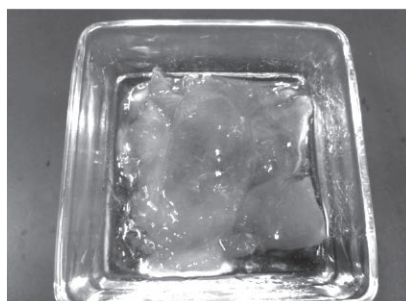


図3 ピール煮



図4 金沢ゆずスイーツ

2. 課題と目標

平成28年度には、廃棄果皮全体の50%である4,650kgが1kg90円で食品加工業者に販売され、生産者の重要な収入となりました。

残り50%の廃棄果皮のうち、食べられる果皮が30%、汚れなどで食べられない果皮が20%です。これらの活用方法を検討し、廃棄果皮ゼロを目指しました。

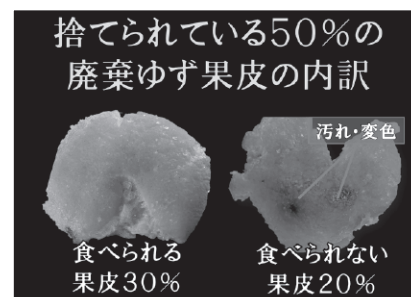


図5 廃棄果皮の内訳

3. 活動内容及び結果

(1) 食べられる果皮30%の活用法

食べられる果皮30%の活用法として、私たちは生産者が製造販売するジャムやスイーツでの6次産業化を提案し、本校で「ゆずパウンドケーキ講習会」を実施。しかし、技術習得が困難・機材不足など問題点があり、6次産業化はなかなか実現しませんでした。

そんな時、「金沢ゆず」をブランド化して浅川地区を盛り上げたい！と自宅のガレージを改造し製造免許を取得したゆず生産者の田中さんから「廃棄果皮を使ってゆずマーマレードを作っているんだけど、安定した品質や量が確保できない」と相談を受け、本校にて製造協力を実施。14.5kgのマーマレードを割烹「緑草音（りよくそうね）」へ納品。6次産業化支援が実現しました。

その後、スイーツより簡単に作れる製菓材料のピール煮での6次産業化を再度提案。「ゆずピール煮講習会」を田中さんのガレージで行なったところ「本当に手軽で簡単！」「このまま食べた方がおいしい！」と参加者全員が製菓材料としてではなく、お菓子としての製造販売に乗り出しました。



図6 パウンドケーキ講習会



図7 ピール煮製造協力



図8 ピール煮講習会

そこで私たちはJA金沢市金沢柚子部会と協働でピール煮の商品化に着手。そのまま食べて食べごたえのある果皮の大きさや見た目の美しさ、パッケージ方法、内容量やラベルデザインを検討。結果、縦12cm×横9cmのレトルト袋に果皮を100g、汁を30g充填後、100℃ 10分の殺菌を行いました。35℃ 3日間の保存試験で微生物の繁殖が認められず、ゆずピール煮の商品化に成功しました！

7月、生産者自身による製造販売が実現。金沢ゆずピール煮を「よこっちょファーマーズマーケット」で販売し大好評。ついに6次産業化が実現しました！

廃棄していた食べられる果皮30%は2,790kg。1kgの果皮から金沢ゆずピール煮は8袋できます。ピール煮1袋の原価は34.8円。1袋200円で販売すると約369万円の利益となります。1kg90円で業者に販売した場合は約25万円の利益となり、その差額は344万円。田中さんはピール煮の将来性を感じ、年内には団体を立ち上げ本格的に製造販売する予定です。「金沢ゆず」のブランド化にも一歩近づきました。

廃棄されていた食べられる果皮30%の活用法が確定しました！



図9 ピール煮の商品化



図10 生産者による製造



図11 6次産業化の実現

（２）食べられない果皮20%の活用法

次に私たちは、食品に利用できない20%の果皮の活用方法を模索。「食品化学」の授業で香気成分について学んだことがきっかけで、食品に利用できない果皮からアロマオイルを抽出することを思いつきました。香気成分とは、香りを有する揮発性の物質です。調べてみると、ゆず果皮の油胞組織は香気成分D-リモネンを主体とする精油成分を含んでおり、オイルの抽出が可能であることがわかりました。

アロマオイルの抽出には、原料を高温の水蒸気で熱し精油成分を気化させ、冷却層で冷やし水とオイルを分離する蒸気蒸留法を採用。学校にある実験器具類を用いてオイル抽出装置を試作しました。デシケーターの蓋が割れたり、冷却器に蒸気が流れなかったり、オイルが抽出できて微量と失敗続き。

そこで、アロマデザイナーの市井さんに相談。「カットした果皮を軽く押し潰して使用してください」と指導を受け、10.5kgの果皮から約3mLのアロマオイル抽出に成功！

金沢工業大学谷田先生の協力により、私たちの抽出したオイルにD-リモネンが含まれていることが確認できました。



図12 科目「食品化学」

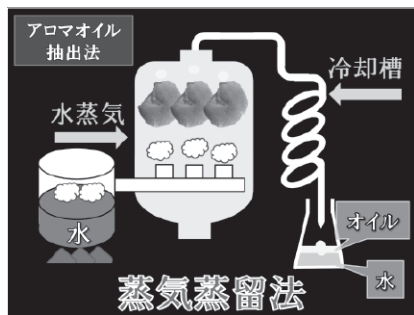


図13 蒸気蒸留法



図14 アロマデザイナー市井さん

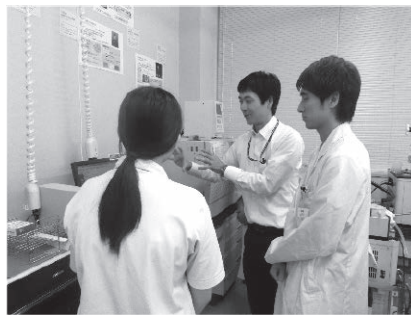


図15 金沢工業大学谷田先生

抽出したオイルは市井さんに「レベルの高い香り！十分商品になります！」と高い評価を受け、市井さんが東京で経営する会社「Aroma Gift（アロマギフト）」との協働開発品として「金沢ゆずキャンドル」「金沢ゆず石鹸」の商品化ができました。

「Aroma Gift」に委託製造すると、食品に利用できない20%、1,860kgの廃棄果皮から3,720mLのオイル抽出が見込まれ、相場の1mL700円で販売すると260万円になります。経費として果皮の輸送費10万円とオイル抽出費29万円の39万円を差し引くと221万円の利益となります。捨てていた果皮から利益を生むことができ、オイルから様々な商品を開発することにより「金沢ゆず」のブランド化に貢献できます。

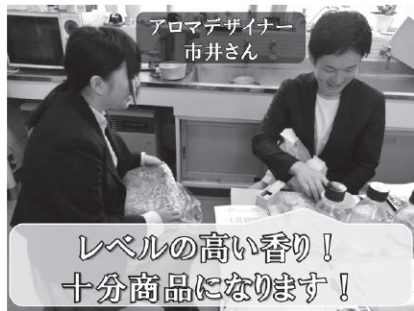


図16 香りの評価



図17 金沢ゆずキャンドル・石鹸



図18 利益の試算

現在、石川県内の障がい者就労施設「リハス」からオイル抽出を請け負いたいとの申し出があり、実現すれば輸送費が削減できるとともに障がい者の就労支援が可能となります。

さらにアロマオイル抽出後の残渣を明和工業㈱で「炭」にすることに成功。生産者に農地に撒くことを提案したところ「ぜひ、肥料としてゆず園に撒きたい！」と、散布。循環型農業を実践できました。

食品に利用できない20%の果皮の活用法を開拓出来ました！



図19 オイル抽出後残渣



図20 残渣の炭化に成功



図21 循環型農業に発展！

4. まとめ

私たちの研究により「金沢ゆず」廃棄果皮ゼロを達成することが出来ただけでなく、大きな利益を生む可能性を見出しました。

5. おわりに

これらの研究成果を報告したところ、金沢市農業センター所長朝日さんからは「これからも金沢ゆず商品の販売に協力して欲しい」とイベントを紹介していただき、金沢市山野市長には「これからも生産者の力になって欲しい。期待しています」と奨励されました。

私たちの活動はNHK金沢放送局の取材を受け、夕方のテレビニュース「かがのとイブニング」で特集されました。

11月に「第1回金沢ゆず香るん祭り」が開催されます。JA金沢市金沢柚子部会から出店依頼され、アロマオイルの話をする「若い人にPRできる！」と新たな6次産業化の提案に期待を寄せました。

活動の中で「食品加工に消極的だった生産者が、あなたたちのおかげでやる気になった」「高校生の知識や技術に刺激を受けた」という声を聞き、私たちは地域農業における農業高校生の役割を実感しました。

今後も生産者と協働し東京オリンピックでの活用や海外市場開拓を目指し「産・学・官」と連携した継続的な活動を続けます。



図22 金沢市農業センター



図23 金沢市山野市長



図24 JA金沢市金沢柚子部会の皆様

全国六次産業化計画！ 各地域に合わせた「廃棄果皮0システム」



プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 北信越ブロック 石川県立翠星高等学校

総合グリーン科学科 3年 太田 風音
1年 山田 真穂
3年 福村 月菜
1年 大津 駿
1年 山下慎二郎
1年 大西 花

1. 課題と目標

人材不足により衰退する農業の未来を変えるには、農業が魅力的でなければなりません。それには6次産業化の充実が必要です。6次産業化は眠っている地域資源を総動員する創造的な事業だと考え、私たちは「廃棄果皮0（ゼロ）システム」の普及を目指しました。

2. これまでの経緯

石川県金沢市「金沢ゆず」生産者の6次産業化支援のため私たちが構築した「廃棄果皮0システム」は、搾汁後廃棄果皮をピール煮やアロマオイルに加工・商品化。加工後残渣は炭にし、ゆず園に撒いて還元。利益を生み、就農者増加、農福連携を実現。

ピール煮とは柑橘の果皮を砂糖で煮た製菓材料で、特別な道具は不要、製造は簡単。6次産業化に適した加工品で、搾汁後果皮は冷凍保存でき、農閑期の作業に最適です。



図1 金沢ゆず廃棄果皮0システム(タイプA)

3. 活動内容及び結果

(1) 金沢ゆずでの研究

去年は、ピール煮を使用した「金沢ゆず大福」を生産者田中さん、(株)六星と共に開発。3か月で13,000個完売。

今年システムを導入した田中さん親子は、2月、ピール煮800kgを製造。食品保存試験を私たちが実施し問題ないことを確認。残留農薬検査は日本食品分析センターに依頼。結果を石川県立大学関口先生に見て頂き「問題なし」と判定。



図2 金沢ゆず大福開発

5月、ピール煮273kgを六星へ納品。1kg 2,722円で743,106円を売上げました。「金沢ゆず大福」は7月に販売を開始し、残りのピール煮と製造時に出る煮汁は六星の新商品に使用されます。

田中さんは「来年は人を雇って製造量を増やしたい！」と規模拡大の予定です。

(2) 国造ゆずでの研究

石川県能美市「国造ゆず」は無農薬のため果皮の汚れが多く、搾汁後果皮の半数を捨てていました。「金沢ゆず大福」の開発経験から「ピール煮を細かく粉砕し餡などに混ぜ込めば汚れが目立たず食用に利用できる」と生産者に業務用ピール煮を提案。生産者は乗り気でしたが、高齢のため断念。

そんな時、総務省地方創生事業【地域おこし協力隊】阿部さんが「やってみたい」と手を挙げ、本校にて3月、製造指導を実施。地元和菓子店「大松庵」と協働し、新商品開発に着手。ピール煮の原材料や配合を検討。糖度を餡と同じ53度に揃え、上白糖をゆずの香りが引き立つグラニュー糖に変更。保存試験も問題なく、1kg2,674円で国造ゆずピール煮5kgを大松庵に納品。甘さ控え目の上品なゆず餡に仕上がり「国造ゆず餡団子」が完成！松浦社長から「廃棄果皮の活用が注目を集め、売れ行きも好調だった。夏のおはぎにゆず餡を使用したい」とピール煮の追加注文を頂き、阿部さんは本校で7kgのピール煮を製造し納品。ゆずおはぎは県内デパートなどで販売され好評でした。東京から能美市に移住し起業したいと考える阿部さんの後押しができました。

アロマコーディネーター伊藤さんは、地元で大切に育てられた農産物を使った地域ブランドを展開。(株)ケイズと、国造ゆず搾汁後果皮で化粧品開発をしています。製造過程の植物生体水抽出装置で細胞水抽出後に黄色の乾燥残渣が出るため、伊藤さんから残渣活用の相談を受けました。ケイズは食品製造業免許がなく、食用に使えません。

近隣の「加藤和紙」は、江戸時代から続く日本唯一の雁皮紙専門店で、国立博物館などの依頼を受け修復用和紙を製作。雁皮紙は丈夫で美しく、虫の害や変色に強いことが特徴で、美術紙や賞状など永久保存紙に使われることに着目。

8代目満紀子さんにゆず色の和紙が作れないか相談。「残渣を粉末にすればできますよ」と教えて頂き、残渣を粉砕機で粉砕。紙漉き液に溶かし、漉いた紙にかけて色付けすると、ゆず色の和紙が完成！人工着色料には無い味わいのあ

る黄色を出すことに成功！



図6 ゆず和紙試作 8代目加藤満紀子さん(右)



図3 国造ゆず搾汁後果皮



図4 国造ゆず餡団子完成！

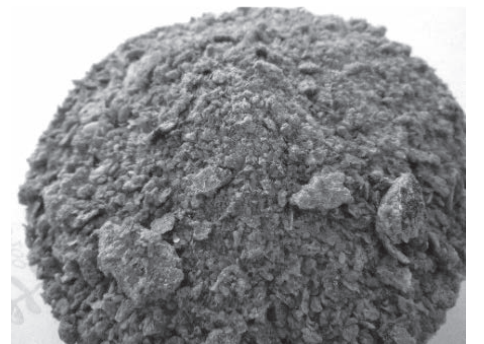


図5 国造ゆず果皮乾燥残渣



図7 ゆず色の和紙が完成！

生産者にお見せすると「自分で作って名刺にしたい!」と早速紙漉し福祉就労施設「はまかせ」が印刷。障がい者就労支援を可能にしました。

能美市井出市長に試作品を披露。長寿の表彰状に使用が決定!「他の使い道も一緒に考えましょう!」と前向きで、農林課村本さんは「ゆず和紙の紙漉し体験を県外や海外向けの能美市ツアーに取り入れたい」と新たな国造ゆず活用方に期待を寄せました。



図8 生産者が紙漉し実施

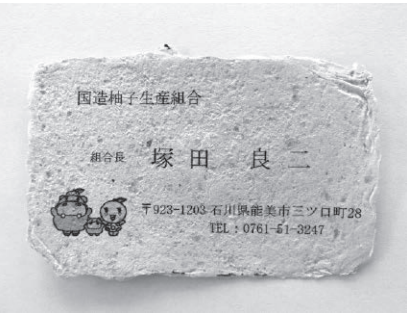


図9 印刷した生産者の名刺



図10 能美市井出市長に披露

市主催「サイエンスフェスタ能美'19」で限定20名の子供たちとゆず和紙紙漉し体験を実施。体験後のアンケートで8割が紙漉し職人に、9割が国造ゆず生産者に興味がある・なってみたいと回答。地元農業や伝統文化継承のきっかけになりました。

伊藤さんと協働でゆず和紙を使った「紙のお香」を開発。渋谷ヒカリエで販売されました。廃棄果皮と伝統工芸が融合し、国造ゆずオリジナルのシステムが構築できました!



図11 乾燥残渣で和紙を色付け



図12 ゆず和紙を用いた「紙のお香」



図13 国造ゆず廃棄果皮0システム(タイプB)

(3) 全国展開へ向けての研究

「廃棄果皮0システム」は柑橘全般に应用可能です。私たちは地域おこし協力隊のネットワークを用いて36都府県にシステムを紹介。

各地から届いた果皮は種類によって厚み・味・香りの強さが異なるため、煮こぼしや砂糖の量を調節し、各果皮用のピール煮を考案。それを使ったパウンドケーキとピール煮を生産者に送り、煮汁の活用法を含め各地域に合わせたシステムを提案。

佐賀県「早津みかん園」の河内晩柑。早津さんは「システムに大きな可能性を感じる」と大絶賛。

宮崎県幻の柑橘へべす。「成合へべす園」は毎年約2tの搾汁後果皮を捨てており、成合さんは「希少価値の高いへべ

すの加工品を増やせる」と意欲的です。

愛媛県「雅園」の甘夏。搾汁を請け負う「(株)フォレストリーフアーム」露口さんは「果皮もピール煮も冷凍保存でき暇な時期に色々なスイーツが作れる!」と「廃棄果皮0システム」導入決定!

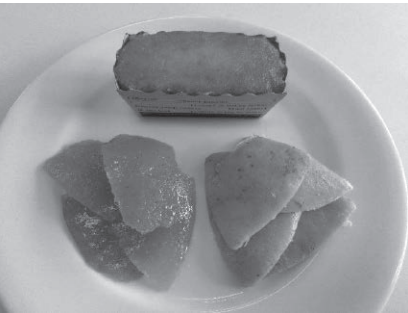


図14 河内晩柑パウンドケーキ(上)・ピール煮(左下)・果皮(右下)

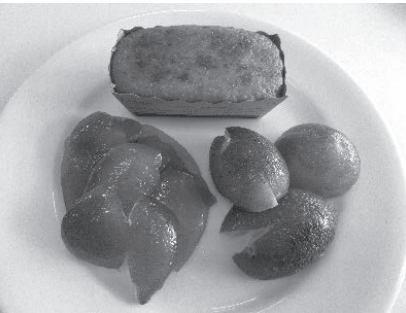


図15 へべすパウンドケーキ(上)・ピール煮(左下)・果皮(右下)

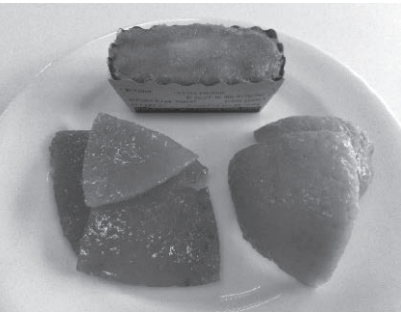


図16 甘夏パウンドケーキ(上)・ピール煮(左下)・果皮(右下)

埼玉県越生町「浅見農園」は加工所がなく搾汁後のゆず果皮を捨てていましたが、私たちの助言で近隣の障がい者就労施設「晴れ晴れ」に委託が決まり、システム導入決定!インターネットビデオ通話にて技術指導を実施。「晴れ晴れ」石崎さんは「ゆずを丸ごと加工して手間やコストが掛かり止めるつもりだった。システムは手軽でおいしく本当に助かる」とピール煮でサブゼリー、煮汁でゼリーを商品化。農福連携に繋がりました。

全国展開に伴い「廃棄果皮0システム」のロゴマークを作成し、商標を登録。商品にロゴマークとQRコードを貼付し、手にしたお客様へ廃棄果皮を活用した6次産業化の情報を発信しています。



図17 インターネットビデオ通話による技術指導

4. まとめと今後の展開

「廃棄果皮0システム」は農業以外の分野からも注目され、国連のSDGs(持続可能な開発目標)の達成に貢献する施策「消費者庁主催“エシカル・ラボin石川”」で活動事例として登壇。エシカルな消費とは「人と社会」「地域」「地球環境」を考慮して作られたものを購入・消費すること。システムを導入して作られた商品はこれら全てに当てはまり、私たちの研究は社会問題の解決に貢献する活動だと言えます。

活動を通して各地域で感じた「地元のものを使って作りたい」という強い思い。地元のものを使い地元の人の手で作る、その喜びが地域への愛着を育み、後継者不足や過疎の対策に繋がると確信。農業の新しい魅力を伝える私たちの活動はまだまだ続きます!



図18 ロゴマークと廃棄果皮0システム HPのQRコード



図19 エシカル・ラボin石川

「HACCP導入」応援団！ 農業高校生が食品の安全安心を考える



プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 北信越ブロック 石川県立翠星高等学校
総合グリーン科学科 2年 佐藤 楓
1年 平田 歩美
3年 山田 真穂
1年 石村 心菜
1年 小林 真唯

1. 背景

食品衛生法改正で、2021年6月、全ての食品等事業者（食品の製造・加工、調理、販売等）が「HACCP（ハサップ）」に沿った衛生管理が義務化。HACCPを導入しなければ、加工食品・生鮮食品の販売や飲食店で食品提供が出来なくなります。私たちは、2012年模擬株式会社SUISEI-FACTORYを設立し、儲かる6次産業化のモデルとして様々な加工食品の開発・製造販売・ブランド化を実現してきました。活動を続けるため、科目「食品製造」の学びを活かし、2019年10月「HACCP導入」開始！

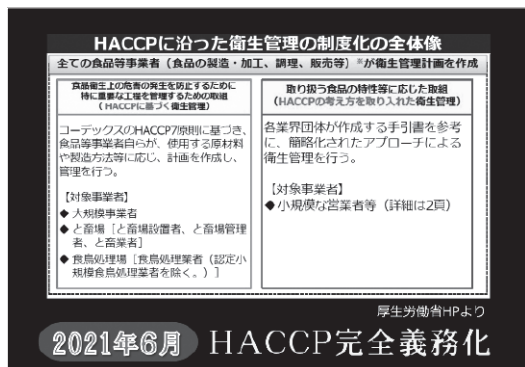


図1 HACCPに沿った衛生管理の義務化

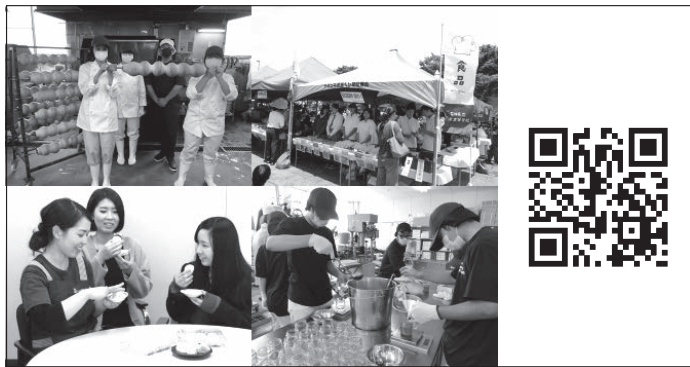


図2 これまでの私たちの活動 及び 活動紹介動画QRコード

2. 課題と目標

HACCPとは「危害要因分析・重要管理点」の略で、国際的な衛生管理手法。仕入れから販売までで健康被害が起こる要因を分析し、衛生管理計画を作成・実行・記録しますが、問題に対して正解はなく幾通りもの答えがあり、何を問題とし、どの答えを選ぶか自分たちで決めるという、今までと全く違う考え方の理解が難しく、「ルールに見える化」や『製品抜き取り検査』を『重要工程全数チェック』に変更 など手順も膨大に増えます。

私たちは、6次産業化事業や地元企業が対応に苦慮し廃業に到るのではと考え「HACCPを含めた6次産業化支援」を目指しました。

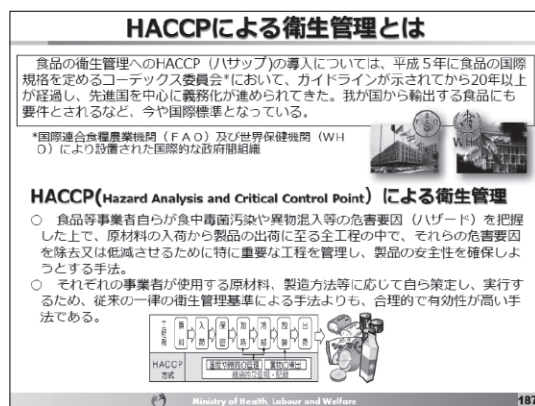


図3 HACCPによる衛生管理とは (厚生労働省HP)

3. 活動内容及び成果

（1）6次産業化支援継続のため第三者機関によるHACCP認証取得

生産者の信用を得るため、第三者認証取得を決意。昨年6月「石川県予防医学協会」川口さんの指導で「汚染区域や清潔区域のゾーン分け」「水質検査」「原材料・製品・アレルゲン・設備・器具・排水・廃棄物・害虫の管理」などを徹底。コーデックス委員会の「7原則12手順」に沿ったHACCPプランを作成。製造・洗浄・清掃などのマニュアルと65手順、659ルールを決定。

「重要管理点の記録は、焼く温度と時間でいい？」「焼き色と記録者名も！」

「手洗い場のスポンジはピンク、シンクは青、調理器具は黄色ね」

「持ち込んでいい飲物は、アレルゲンが入ってない水・お茶・スポーツドリンクだね！」

実践しながら、修正・改善を繰り返し、検証。

10月「食品安全マネジメント協会」藤田さんが東京から来校。監査を受けた結果、SUISEI-FACTORY「はくさん米粉クッキー」製造ラインが「世界レベルの衛生管理基準・JFS-B規格」適合証明に合格！

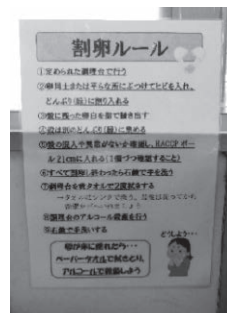


図4 見える化(一例)



図5 適合監査の様子



図6 「JFS-B規格」適合証明合格！



図7 はくさん米粉クッキー

教育機関初の快挙として日本農業新聞全国版や地元新聞に掲載。テレビの密着取材を受けるなど大注目！そして「イオンモール白山」のスーパーで販売決定！工場検査に来た「イオンリテール株式会社」中村さんは「JFS-B規格だから安心して取り引きできます」と断言！規格の安全性と有効性が証明されました。



図8 イオンスタイルに納品

（2）HACCPを含む6次産業化支援・企業へのHACCP導入支援の実施

県内野々市市「生産者団体・ヤーコン倶楽部」からピュール製造支援依頼があり「HACCP ってなに？」という生産者に講習会を実施。私たちの衛生管理方法を紹介。翌年度製造するJA加工工場にも行き、HACCP導入が可能な施設だと確認。「難しいけど、教わりながらならできそう！」と、生産者と準備を進めています。

県内金沢市「きよし農園」多田さんは、私たちが支援した「ゆずピール煮」で6次産業化事業に成功しています。

「HACCP勉強中だけど全然わからない」と相談され、製造現場でゾーン分けや原材料の保管など問題点を指摘。本校で私たちの方式やルールの可視化を見学され、一緒に異物混入・食中毒・農薬などの危害要因を分析。「きよし農園専用HACCPプラン」を作成し、殺菌方法、温度・時間の記録について解説。「実際に見ると具体的にわかる！来年建設する加工場と店舗も協力して！」と依頼されました。



図9 試験製造・施設確認

県内小松市「菓子製造販売会社・明月堂(めいげつどう)」竹田専務から「JFS-B規格を取得したいので教えて欲しい」と依頼を受け、会社の機械・原材料保管場所・製造方法・直営店を見学。後日、本校の施設を見に来られ、食品事故の原因を追跡可能にする「トレーサビリティシステム」構築に重要な、原材料入荷時の温度や状態確認・ロットナンバーによる管理法・ロットが混ざらない工夫、製品番号や販売先等の記録方法を説明。「漠然としていた課題が明確になった。翠星方式をすべて取入れたい!」と大好評!



図10 危害要因分析



図11 製造現場確認(明月堂)

(3) HACCP導入事例のモデル化と全国発信(6次産業化事業・中小企業・他の農業高校)

本校での体験が、わかりにくいHACCPの具現化に繋がると実感!そこで、私たちの実践をモデルケースとした「翠星HACCPスクールツアー」を企画。ツアー内容や回る順番、説明文を考えリハーサル。そんな時、食品安全学の研究者・南九州大学長田准教授から「宮崎県の農業高校に『JFS-B規格』を普及させたい」と相談があり、ツアーの話をする。「企画に協力したい!」と説明内容や言葉を監修していただき、ツアープログラムが完成!

「HACCPで他校と交流したい!」と、全国の農業高校220校にウェブアンケートを実施。県内能登高校・七尾東雲(しのめ)高校、宮崎県の日南振(にちなんしん)徳(とく)高校・都城(みやこのじょう)農業高校、北海道の大野農業高校に来校ツアーやZOOMでリモートツアーを実現!「具体的に見たらハードルが低くなった。見える化や記録方法をマネしたい」と、今後も交流を続けます。

以前加工技術支援を行った埼玉県「障害者就労施設・晴れ晴れ」石崎さんから「加工場を新設するのでHACCP向きの設計にしたい」と相談を受け、リモートツアーを実施。「動線、原材料の保管場所、トイレの位置など、今悩んでいることの参考になった。他の施設にもツアーを紹介していい?」と好評!再度、職員全員でのツアー申し込みがあり、実施。



図12 南九州大学長田准教授のスクールツアー監修



図13 他の農業高校校にリモートツアーを実現



図14 障がい者就労施設にリモートツアーを実現

テレビで私たちの活動を知った食品加工販売会社「畑のシェフ」奥谷さんが来校。「畑のシェフ」は、大手ハンバーガー店やコンビニにカット野菜を提供しています。「従業員のHACCP共通理解が難しい。新規事業を展開するにあたり、HACCPを学んだ翠星高校卒業生をチームリーダーとして採用したい!」と求人申し込みがありました。私たちの活動は、食品産業から求められていると強く感じました。

和菓子職人松浦さんは「日本食品衛生協会」の指導員として、本校がある松任地区の事業所にHACCPの普及を行っています。「年配の事業者にHACCPを理解してもらえず、面倒だから廃業と言われる。高校生が親しみやすく説明して欲しい」と、スクールツアーの視察に来校。「手順やルールに見える化の方法が良い手本になる。質問しやすく答えもわかりやすい。教材に使いたい」と、和菓子店を紹介頂き、ツアー実施。

「すべての食品従事者にHACCP共通認識を」と、スクールツアーの動画を作成。YouTubeで配信。石川中央保健所「食品衛生指導員研修会」で動画が教材として採用。食品衛生協会から「DVDはないの?事業者に見せたい!」と要望があり、予算が付きツアー動画のDVD化が決定!「全国の保健所で使って欲しい」と、厚生労働省に私たちの活動を報告。HACCP普及活動に貢献できました!

4. まとめと今後の展望

この10年、食中毒事件数は減らず、異物混入事故は増加。「難しい・ややこしい・面倒くさい」と言われるHACCP。地産地消を支える中小企業に普及していないという現状は、食品事故の危険と隣り合わせということ。農業高校生の私たちが「安全安心の発信地」となり「皆さんにもできます!」と寄り添うことが、食品事故の防止と地産地消の推進につながるのです!



図15「畑のシェフ」従業員へ来校スクールツアー実施



図16 日本食品衛生協会指導員松浦さんによるツアー視察



図17 ツアー動画作成



図18 ツアー動画配信・QRコード



図19 石川中央保健所の講習会で動画が採用



図20 食品衛生協会からツアー動画のDVD化が決定!

石川の未来を創るイチゴ ～イチゴ高設栽培モデルの確立と校内6次産業化への挑戦～



プロジェクト発表会 分野I類 北信越ブロック 石川県立翠星高等学校

総合グリーン科学科 3年 日野 一輝
3年 畑中 隼基
3年 中森 郁生
2年 吉川 翔人
2年 石倉 雄太

石川県をイチゴの産地にしたい！イチゴで校内6次産業化を実現したい！
この思いから、本研究を開始しました。

1. はじめに

農林水産省の「作物統計」によると、イチゴの都道府県別出荷量のトップは栃木県で24,400t、全体の15.1%を占めています。2位は福岡県、3位は熊本県です。私たちの暮らす石川県は、「0%」。つまりイチゴが生産されていない県なのです。また、「農業経営調査」によると10aあたりの農業所得が最も高いのは施設野菜であり、その中でもイチゴは約190万円と高水準。「石川県でもイチゴを栽培できれば、地域の農業を大きく変えることができる!」と考え、2023年度よりイチゴ栽培に挑戦しています。栽培初年度（2023年度）は、石川県の厳冬下では十分な室温が確保できず、大失敗。

これまでの栽培データを参考に私たちは再びイチゴの高設栽培に挑戦しました。この研究が成功すれば、イチゴが新たな収入源となり、石川県の農業の活性化につながります。そこで私たちは温度や収量などのデータを解析し、「石川県でイチゴを育てるための“最低条件”を解明!」「地域の農家に普及!」「石川県を新たな産地にする!」ことを目的に活動を開始。

2. 研究方法

実験はガラス温室で行い、株式会社アグリスの「ベリーザキット」による高設栽培を行いました。栽培品種は章姫で、1,000株を管理。地元農家とも協力しながら実践的な栽培に取り組みました。



図1 2023年度 定植の様子



図2 2023年度 生育調査



図3 翠星高等学校 ガラス温室

3. 栽培初年度（2023年度【1期】）の活動

10月、ベリーザキットを4.5m導入、品種「章姫」45株を定植。しかし、定植した苗が小さく、初期生育不良となり、収穫はほとんどできませんでした。12月、いちごファームHakusanを視察。「農家のような栽培は難しい」「経験や感覚に頼る部分が多い」「継続的なデータ収集が必要」と実感。そして、私たちは「失敗も貴重なデータ」と捉え、石川県に適したイチゴ栽培モデルの確立を目指しました。栽培初年度の結果は規格外率が63.89%、1株あたり収量が25.96gと目標収量500gには届きませんでした。この経験をもとに、2024年度の栽培計画を立案しました。



図4 ベリーザキット(4.5m)の設置
地元農家の視察及び設置の協力



図5 いちごファームHakusan視察

4. 栽培2年目（2024年度【2期】）の活動

本校は「令和6年度DXハイスchool採択校」となり、データサイエンスができるガラス温室の改修工事を開始。7月から整備を始め、9月には新たに104mのベリーザキットを設置。さらに最適な温度管理のために根域を15℃に保つショウオンボイラ、室温を10℃に保つ大型ジェットヒーター、ハダニの増殖などを防ぐUVB電照を導入。



図6 石畳の整備



図7 温室の改修工事

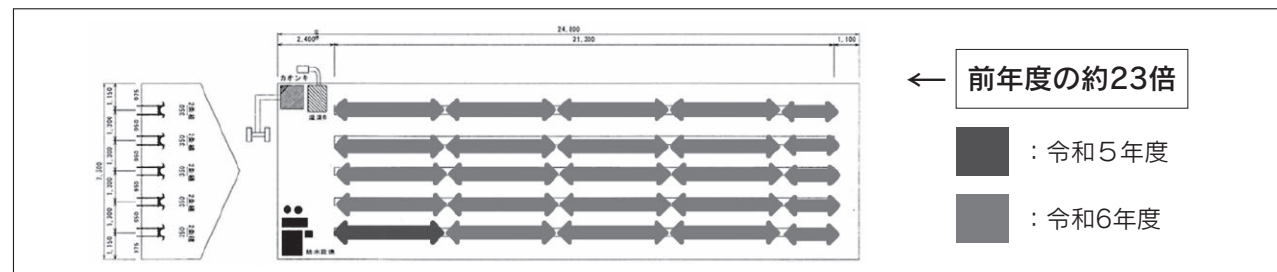


図8 栽培規模の比較(R5とR6の比較)

ところが、9月に定植予定だったイチゴ苗が「花芽分化未確認苗」であることが判明。このまま定植すると収量が減少するため、定植を10月上旬に延期し、花芽分化を促すことにしました。10月、章姫1000株を定植。11月には石川県の厳冬に備えてスカート状にマルチングを行い、玉受けネットも設置。株式会社アグリ栽培指導員から「草丈が15cmしかない。この時期だったら30cmは欲しい」と指摘され、促成栽培に失敗していることが判明。そこでハウス内の温度を可視化したところ、イチゴの生育適温である18℃以上に届いておらず、燃料代も1日あたり約1,965円と高額であることが判明。栃木県農業振興事務所の結城さんは、「ハウス内を保温する工夫が必要。そして、栽培品種の選定も重要」と評価。来期【3期】に向けて安価で最も効率的な方法を模索した結果、温室内を二重構造化へと改善し、極早生品種「かおり野」による促成栽培の実現を目指すことにしました。1月から5月までの総収量は535.56kg、目標収量500kgを達成。一方で規格外率は37.35%、規格外量は200.04kgとなり、品質面の課題が残りました。追い打ちをかけるように来期【3期】のイチゴ苗の単価が約341円であることが判明。石川県にはイチゴ苗を販売する業者がおらず、輸送費や養生費がかかります。石川県でのイチゴ栽培の普及には育苗技術の確立が必要と判断。いちごファームHakusanの育苗施設を見学しました。親株から育苗すると、1株あたり約72円、1000株で約27万円のコスト削減になります。20a規模で14,000株を栽培する農家であれば、約376万円のコスト削減が見込まれます。私たちは、「育苗から収穫まで全工程を網羅した石川県における新たなイチゴ栽培モデル」構築を決意しました。今後、3月から育苗を実施、育苗技術を確立し、この栽培モデルを地元農家と共に完成させます。「石川県をイチゴの一大産地」へと発展させます。

5. 新たな価値の創造

今期【2期】収穫したイチゴが「儲かる農作物」であるかを確かめるため、1パック400円、500円、800円で販売。その結果、スーパーより高い価格設定に関わらず、連日即完売。追熟しにくい果物であるイチゴは、収穫した時点の熟度が味を左右します。本校の「完熟イチゴ」はその味の良さから販売力のある商品であることを実感しました。今後、販売方法や販売戦略を考え、販路の拡大にも取り組みます。その第一歩として、販売用ロゴを作成。さらに来期【3期】はイチゴの市場価格が高騰する12月から販売を行い、儲かる農作物であることを証明して



図9 定植の様子(10/11)



図10 株式会社アグリ栽培指導



図11 栃木県農業振興事務所指導

みせます。

さらに本校食品科学コースと連携し、成分分析を実施。ジャム製造に適した品質であると確認しました。糖度・酸度は2～4月にかけて徐々に低下し、ペクチンは常に一定量含まれていました。果実の硬度は徐々に柔らかくなり、4月以降は果実の熟れによって規格外率が増加しました。

規格外イチゴ110kgを食品科学コースに納品し、イチゴジャムを製造しました。さらに食品科学コースは、今年度、イチゴジャムのHACCP第三者認証「JFS-B規格」に挑戦します。現在、本校産イチゴの規格外品を用いた様々な加工品が考案されています。商品化によって、これまで無価値であった規格外品が利益となります。加工品は保存性や流通面で優れていることから、石川県産イチゴを全国各地へPRできます。石川県を新たなイチゴの産地として全国へ発信します。



図12 即売会の様子

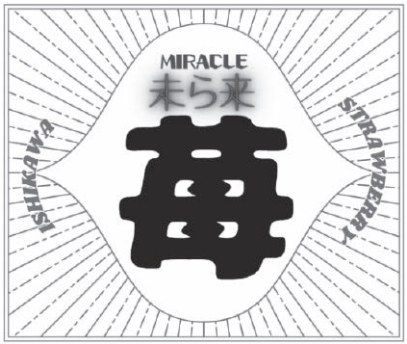


図13 販売用ロゴ【未来イチゴ】

6. 今後の展望・目指すべき姿

これまでに本校では、イチゴの高設栽培に関心を持つ方々に施設を公開し、取り組みを紹介してきました。その結果、見学をきっかけに9月から石川県内でイチゴ栽培を始める新規就農者が誕生！私たちの挑戦が地域に広がり始めています。さらに、2月に地元中学生を対象とした「イチゴ狩りツアー」を計画！次世代に向けてイチゴの魅力を発信します。

生産量「0」から始まった挑戦は、2年目で500kgを突破し、6次産業化・企業連携・自家育苗へとステージを進めています。私たちの活動事例を通して、地域の農家が「今の栽培方法は本当に適切なのか」「改善の余地はないのか」と問い直すきっかけを提供。「育てる！作る！届ける！石川のイチゴが未来を創る」、地域に根ざした持続可能な農業の姿を発信しつつけます。

「イチゴを食べに石川に行こう！」

私たちは「次世代型温室でのイチゴ栽培」を実践し、これからの農業の未来を創造します。



図16 イチゴの新規就農者

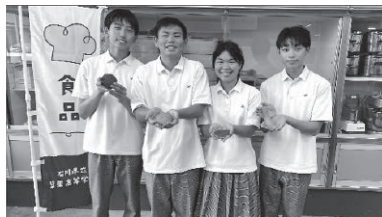


図14 イチゴジャムの製造



図15 イチゴ狩りツアー計画書

和菓子でつなぐ世代の絆 ～白山市から全国へ届ける敬老の日の贈り物～



プロジェクト発表会 分野Ⅲ類 北信越ブロック 石川県立翠星高等学校
総合グリーン科学科 3年 山本 琉偉
3年 山田 晴紀
2年 西田 沙樹
2年 宮井 奏

1. はじめに

江戸時代、加賀百万石の礎を築いた前田利家公は茶の湯への関心が高く、お茶に欠かせない菓子作りが盛んとなり、和菓子文化が石川県に育まれてきました。

令和元年、地元白山市の和菓子店「大松(だいまつ)庵(あん)」松浦社長から「県の和菓子業界全体が若者の和菓子離れによる消費低下や後継者不足に悩んでいる」と相談を受け、若者への和菓子の普及を目指し「翠星・和菓子部」を結成。数ある和菓子の中で、「餡炊き」「生地作り」「包餡」など基本技術を全て学べる「饅頭」の製造を行い、毎年卒業生には紅白饅頭を贈っています。学んだ技術を活かし、毎年全国和菓子甲子園に参加。令和2年、地元白山(しらやま)比咩(ひめ)神社「恋文奉納」の巻物をモチーフにした「恋(こい)つゝみ(つつみ)」で優勝！商品化され、現在も販売中です。



図2 「恋つゝみ」



図3 第11回全国和菓子甲子園優勝



図4 商品化した「恋つゝみ」

2. 活動目標・課題の設定

本令和5年、「母の日のカーネーション」「バレンタインデーのチョコ」のように定番の贈りものが決まっていない敬老の日に着目。「若者から年長者に和菓子を贈る」新文化を定着させ、地元和菓子文化の活性化を目指した「敬老の日キャンペーン」を考案しました。白山市地産地消課・地元和菓子店9店舗の協力のもと、キャンペーンを開催。回を重ねながら、更なる認知度向上を目指し、和菓子の魅力発信及び「敬老の日キャンペーン」の普及・啓発に取り組んでいます。

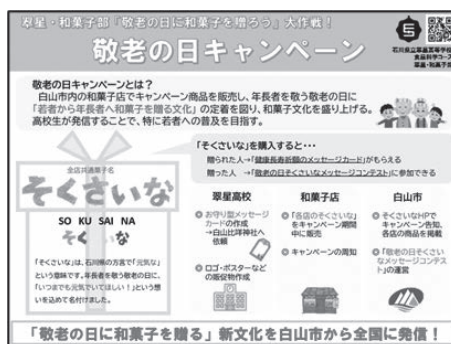


図5 「敬老の日キャンペーン」内容

3. 活動内容・結果

(1) 地元産食材を活用した食品開発

「敬老の日キャンペーン」は、「そくさいな」という全店舗共通の菓子名をつけた、各店独自の創作和菓子を販売します。「そくさいな」とは、石川県の方言で「元気な」という意味で、「いつまでも元気でいてほしい」という願いを込めました。

私たち「和菓子部」のオリジナル「そくさいな」は規格外品や地元食材を使って市内和菓子店と協働開発しています。第1回は、「彩(さい)霞堂(かどう)」城戸口社長に技術指導いただき、地元産「おまつと牛乳」と本校のイチゴジャムを使用した琥珀糖を開発し、大好評！彩霞堂の通常商品に加えていただきました。第2回は「御菓子司むらもと」村本さんと校内アンケートで、好きな和菓子上位であった「どら焼き」を開発。「白山ブルーベリー園」代表打越さんから「総収量の約2割が未熟果や傷で規格外となっている」とお聞きし、規格外ブルーベリーと本校乳酸菌飲料「ラクピス」で『食べた人が元気になる「そくさいな」』が完成！

今年は「雅風堂(がふうどう)」安田社長に協力を依頼し、校内アンケートで人気1位だった和菓子「大福」の協働開発が決定！本校では今年からイチゴの本格栽培が始まっており、生物資源コース代表川端先生から「収量の約4割が規格外となっている」とお聞きし、規格外翠星イチゴを活用したイチゴ大福を開発！学校で育てたものを自分たちの手で商品にして販売する、そんな「校内六次産業化」が今、始まります。



図6 「彩霞堂」
城戸口社長との協働開発

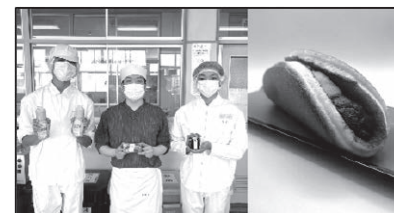


図7 「御菓子司むらもと」
村本さんとの協働開発

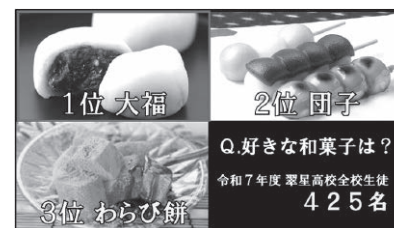


図8 令和7年校内アンケート
Q.好きな和菓子は何ですか



図9 「御菓子司雅風堂」
安田社長との協働開発



図10 イチゴ収穫体験



図11 イチゴの調整(ヘタ取り)

(2) 「敬老の日キャンペーン」の開催・成果

「第2回敬老の日キャンペーン」は令和5年に引き続き、白山市と市内和菓子店「彩霞堂」「圓八(えんぱち)」「田中屋」「雅風堂」「大松庵」「つるやハニー」「むらもと」「ひろの」「甘(かん)清堂(せいどう)」の9店舗が協力して下さっています。

「そくさいな」購入者には、白山比咩神社で健康祈願したお守り型メッセージカードの配布や白山市運営でメッセージコンテストも実施。



図12 「そくさいな」お守り型

イオンモール白山ゼネラルマネージャー岩濱さんは「素晴らしい企画です！ぜひ協力させてください！」と、館内大型モニターやイオンモールアプリでキャンペーンの紹介、メッセージコンテストの館内展示および「県内菓子セレクトショップ・シラヤマスweetsファクトリー」での販売を快諾。

キャンペーン周知は、市のホームページ掲載と市内小中学校全27校、生徒約9,100人へチラシを配布。キャンペーン期間は、敬老の日を含む9月10日から16日の7日間開催され、地元のテレビ局などメディア4社に取り上げていただきました。

白山市田村市長からは「素晴らしい取り組みですね。『敬老の日キャンペーン』を今後も継続して欲しい！」と奨励され、県内最大の道の駅「めぐみ白山」に特設ブースの設置が決定！特設ブースでは9店舗の「そくさいな」を購入でき、用意した132個が開始2時間で完売するほど盛況でした。オリジナルどら焼きの仕上げ体験には小中学生54名が参加し、大好評でした。



図13 メッセージコンテストの館内展示



図14 第2回「敬老の日キャンペーン」のチラシ



図21 市内和菓子店との集合写真



図22 第3回敬老の日
キャンペーン運営会議



図15 白山市役所訪問 活動報告



図16 道の駅「めぐみ白山」
そくさいな販売



図17 道の駅「めぐみ白山」
どら焼きの仕上げ体験会

「そくさいな」は店舗販売だけでなく、校内予約販売も実施。生徒42名が購入に訪れ、このうち54.7%が、贈り物として購入してくれました。全校生徒を対象としたアンケート結果では、「敬老の日にはプレゼントを贈る人」が第1回キャンペーンから着実に広がっており「敬老の日には和菓子を贈る」という新文化が、根付き始めていることが分かりました。



図18 「そくさいな」校内販売

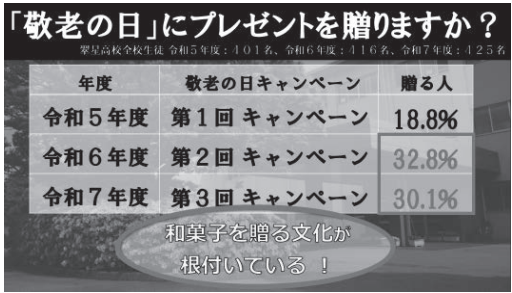


図19 校内アンケート
「『敬老の日』にプレゼントを贈りますか？」集計結果

和菓子店からは「今年は『そくさいな』の予約注文も入りたくさん販売できたよ！」「昨年よりキャンペーンを知っているお客様が多かった！」と、嬉しい声を聞くことができ、「第2回敬老の日キャンペーン」が成功！



図20 「つるやハニー」坂井社長

キャンペーン終了後、和菓子店9店舗にアンケートを実施。「キャンペーンを継続することで和菓子業界の活性化に繋がる」が89%、「キャンペーンが若者への和菓子の普及に繋がる」が78%と、「敬老の日キャンペーン」が若者への和菓子の認知度向上と和菓子業界の活性化に繋がる事を実感できました。

令和7年5月に「第3回敬老の日キャンペーン運営会議」を実施。昨年同様、9店舗の和菓子店とイオンモール白山・道の駅めぐみ白山に協力して頂けることになり、「キャンペーンのPRと新商品開発に力を入れていこう！」と、皆の気持ちが一つになりました。さらに、令和7年9月、イオンモール白山で、石川県内の和菓子店が集まる「和スイーツ祭」の開催が決定！翠星・和菓子部のインスタグラムも6月に開設しました。「敬老の日には和菓子を贈る」新文化を白山市から石川県、そして全国へと発信していきます。

（3）小中学生への食育活動

地域子ども達に和菓子の魅力を知ってもらいたいと考え、敬老の日と絡めて、令和6年9月、市内小中学生に和菓子体験会を開催。17名の子ども達と令和4年全国和菓子甲子園で大会特別賞を受賞した「ほーほけきょ！」を製造しました。「ほーほけきょ！」は地元産グリーンピースを使った羊羹です。体験後にアンケートを実施。「和菓子を初めて作った」が67%、「和菓子職人に興味を持った」が100%。作った和菓子は「おじいちゃん、おばあちゃんにあげる！」と大好評でした。

また、白山市立松南小学校の4年生49名と地元食材を用いた饅頭体験や校内・地域のイベントでも和菓子体験会を実施し、合計165名の子ども達に和菓子の魅力を伝えることができました。



図23 「ほーほけきょ！」



図24 和菓子体験会



図25 白山市立松南小学校
饅頭作り体験会

5. 今後の展望

和菓子は、長い歴史と文化に育まれた日本の宝です。そこには、職人の技や四季の美しさ、そして人と人との温かいつながりが込められています。この魅力を未来の世代へとつなぐために、今後も若者へ和菓子の魅力を発信していきます！

「敬老の日といえば和菓子だね！」が定番となる、全国一大ムーブメントを起こし、日本の大切な伝統文化「和菓子」を守ります！

あつまれ！100年の森

～高校生が実践する学校庭園再生と環境教育・防災教育・生涯学習の拠点づくり～



プロジェクト発表会 分野Ⅱ類 北信越ブロック 石川県立翠星高等学校
総合グリーン科学科 3年 飛田 卓羽
3年 直江晟士朗
3年 近辻 未悠
3年 宮島承大朗

1. はじめに

「こらー！庭園で鬼ごっこするなー！」

そんな声が聞こえてきたのは、50年前のこと。昭和50年「開校100周年記念事業」で造られた本校の庭園「造園実習見本園」は、皆に親しまれる庭園でした。16,000㎡の広大な敷地に、日本・イギリス・イタリア・フランスという世界の代表的な庭園様式が集められ、管理方法や剪定・雪吊りなどの技術を実践的に学べる、まさに「生きた教材」でした。



図1 造園実習見本園



図2 生きた教材

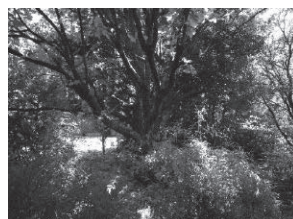


図3 荒廃した庭園

本校は明治9年開校。令和8年に創立150周年を迎える地域と共に歩んできた、伝統ある農業高校です。現在は、学科改編により造園を学ぶ生徒や授業数が激減。庭園は、十分な手入れが行き届かず、鬱蒼とした森のように見る影もなく荒れ果ててしまったのです。長年にわたり「生徒の学び」を支えてきた庭園が失われることは、私たちにとって見過ごせない問題でした。

2. 課題の設定と目標

「人が集う庭園をよみがえらせたい！」「高校生が管理できる100年後も続く庭にしたい！」と、環境科学コースと生徒実行委員会で「チーム100年の森」を結成。創立150周年記念事業として、活動を開始しました。

3. 活動内容と結果

（1）庭園の現状を把握し、再生しよう！

まず庭園内の「未来に残したい樹木」を選定。「造園技能検定3級で出題される樹木」38種と「学校のシンボルツリー」5種、合計43種の樹木を選びました。

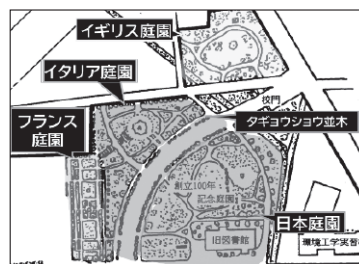


図4 庭園のエリア分け

次に、庭園を「日本」「イギリス」「イタリア」「フランス」「タギョウショウ並木」の5つのエリアに分け、整備を開始。

「タギョウショウ並木」は、本校の名物景観です。近年、生育不良が目立つようになり、生育調査を実施。結果に基づき、剪定・伐採を行い、樹冠と根の干渉を解消。生育不良を改善しました。現在も、科目「総合実習」で管理作業を継続的にを行っています。

「日本庭園」は「池泉回遊式庭園」で、見所の池は鯉の背びれが見えるほど水深が浅く、濁っていました。そこで、ヘド口をかき出し水深を回復。排水口に繁茂する水を堰き止めていた樹木の根を取り除き、詰まりを解消。濁りを改善しました。今後は、枯山水・築山・露地の整備や小道を再建する予定です。

「イタリア庭園」は、見通しを良くするために、生垣の伐採・伐根を実施。イタリア庭園の象徴である噴水は、ポンプの破損により水が吹き上がり、長年堆積した泥に水草が繁茂し、景観を乱していました。水草の根が張った泥は重くて簡単には持ち上がり、スコップでブロック状に切断し、数人がかりで噴水の外にかき出しました。今後は、噴水を花壇として利用する他、パーゴラに新たにフジを植え、芝生を再生させます。

「フランス庭園」は、外郭のカイズカイクキが肥大化し、外部からの見通しを悪くしていました。そこで、環境設計分野と協力してカイズカイクキの伐採・除去を行い、60本中、52本の撤去を終えました。引き続き作業を行っています。

令和5年度から現在までの庭園再生作業は、「延べ人数1,229人」、「延べ時間2,403時間」でした。



図7 噴水内の泥の撤去作業



図8 伐根作業

（2）手入れしやすく環境教育・防災教育に役立つ庭園を作ろう！

フランス庭園内は沈床式で、周囲より50cm低く、水はけが悪いため雨で地面がぬかるむと「乗用草刈機」が使用できず、除草効率の悪さが問題でした。

「もっと水はけが良かったらなあ」「無人草刈り機が走れたらなあ」

そんな時、科目「造園計画」で次世代のグリーンインフラである「レインガーデン」について学びました。レインガーデンとは、「雨水浸透緑地帯」とも言われ、雨水を一時的に貯めてゆっくりと地面に浸透させる「最新の造園手法」です。下水道負荷の軽減、水質浄化、植物の蒸発散によるヒートアイランド現象の緩和、ゲリラ豪雨時の表面水敷地外流出を抑制、地下水涵養などの効果が期待できます。

「これだ！」と思った私たちは、地元出身の国内外で屋外環境設計を手掛ける岩村卓弥さんに相談。「レインガーデンなら、水はけの改善と手入れのしやすさが両立できるね。無人草刈り機も走れるよ」と、フランス庭園に隣接する草花温室跡地も含め、円形広場を設計していただきました。



図9 フランス庭園内(現在)



図10 円形広場レインガーデン(SOMEWHERE DESIGN STUDIO)

本校がある白山市松任地区は、手取川扇状地に位置します。白山・手取川・日本海をつなぐ水のサイクルが地域内で完結していることから、2023年「ユネスコ世界ジオパーク」に、市全域が対象の自然公園「白山手取川ジオパーク」として認定されました。水が運ぶ石によって作り出される多彩な風景が特徴で「水と石のジオ」と言われています。

レインガーデン造成の際に、川の流れによって削られた扇状地特有の丸石が出てくると予想されます。通常は工事中にしか見られない石の露出を、レインガーデンの一面に残すことで、ジオ学習に繋がると考えました。

白山市「ジオパーク推進課」日比野さんから「扇状地のゴロゴロした石が出てくる様子を、気軽に見られると嬉しい！ジオ遠足やジオツアーにぜひ使いたい！」と好評。8月「世界ジオパーク再認定」調査会にも呼ばれ、レインガーデンでのジオ学習計画を紹介し、手応えを感じました。



図11 翠星高校と手取川扇状地



図12 白山市ジオパーク推進課



図13「世界ジオパーク再認定」調査会

また、庭園の地下水を「災害時の生活用水として地域に活用して欲しい」と考え、白山市危機管理課に「災害時協力井戸」を申請し、登録されました。



図14 庭園の地下水

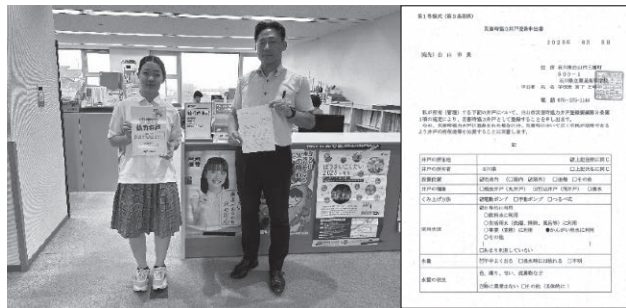


図15「災害時協力井戸」申請

(3) 地域活性化に貢献する庭を目指そう！

26年前、本校では庭園を巡り樹木クイズを解いていく野外文化活動「グリーンアドベンチャー」が行われていました。しかし、庭園の荒廃に伴い活動は停止。私たちは、地域の方々が生涯を通じて学べる体験型環境学習「グリーンアドベンチャー」の復活を決意しました。

過去の「グリーンアドベンチャー」を体験してみると、樹木の枯死・道がない・番号札がないなど、多くの問題点を発見。

そこで、12本の樹木を新たに選定し、クイズを作成。ルート設定・掃除・案内板の設置を行い、7月に「プレ翠星グリーンアドベンチャー」を開催。地域の子ども9名が参加しました。子どもたちは「木に詳しくなった！」「大きな松ぼっくりがあった！」「正解できてうれしかった！」と大喜び。アンケート結果から「楽しかった」が89%、「また来たい」が89%と、「100年の森」は「昔のように人が集う庭園に復活できる！」と確信。

課題として「矢印がわかりにくい」「休憩ポイントが欲しい」などが挙げられました。地域の小学校に案内を出し、11月に完成版「翠星グリーンアドベンチャー」を開催します。



図 16 案内板の設置



図17 子どもたちの様子

4. 今後の展望

今後は、季節・ジオ学習・防災など「100年の森」ならではの内容に加え、難易度の高いクイズを取り入れ、幅広い年代が学べる環境教育プログラム「翠星グリーンアドベンチャー」を完成させます。さらに「ジオ学習ができるレインガーデン」の整備を進め、持続可能な地域社会に貢献する「環境教育・防災教育・生涯学習の拠点」を目指します。

私たちの庭園再生作業は、鬱蒼とした森に光が差すにつれ、人々が集まる未来が見えてきました。庭園の整備を通して地域とともに学び、私たちは成長し続けます。今日も、明日も、そして100年後も、この庭園が地域と人を育む大切な場所であり続けるために。

「No Garden, No Community, No Future」



図18 参加者集合写真



図19 翠星高校庭園映像
再生前(左)と現在(右)

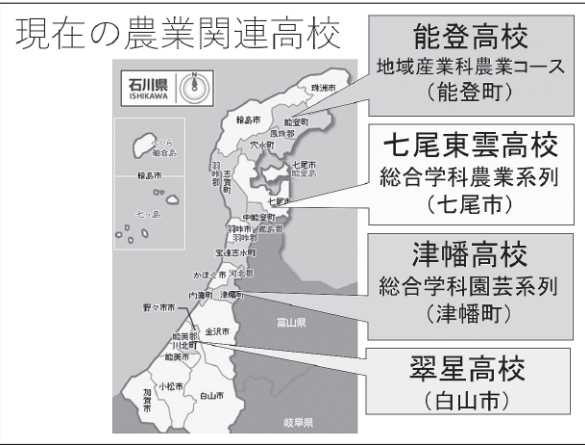
地域社会や産業界で活躍できる人材育成を目指して ～石川県内唯一の農業高校の挑戦～

石川県立翠星高等学校 校長 宮下 正司

1. はじめに

本県では、平成12年度までは、県内に3校の農業専門高校（松任農業高校、七尾農業高校、柳田農業高校）及び農業科併設校が1校（津幡高校）あった。

平成12年度から始まった本県の高等学校再編整備に伴い、現在は、農業専門高校1校（翠星高校）、農業に関する系列を有する総合学科併設校2校（七尾東雲高校、津幡高校）、農業に関するコースを有する専門学科併設校1校（能登高校）となった。本校は、県内唯一の農業専門高校として時代の流れに柔軟に対応しながら、本県の高等学校における農業教育を推進し、地域社会や産業界で貢献できる人材を育成することを使命として教育活動を行っている。



2. 本校について

(1) 概要

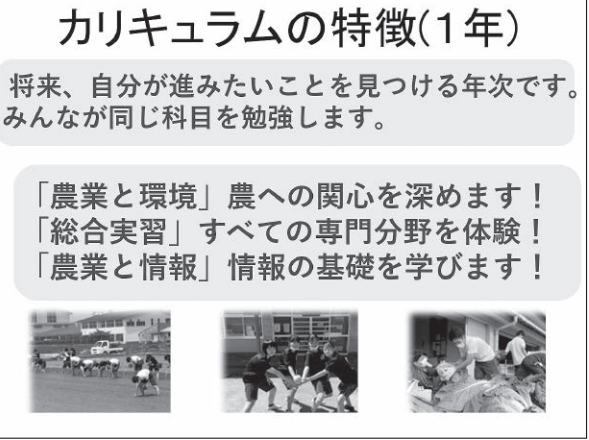
本校は、石川県中央部の白山市に設置されている。白山市は、図に示した通り、西は日本海に面し、加賀平野、手取川扇状地、さらに南東には、霊峰白山を有して岐阜県と接する県内随一の広大な面積を持つ市である。白山市は平成の大合併により、一市二町五村が一つとなり誕生している。

校地の敷地面積は、107,759㎡であり、うち農場面積54,121㎡となっている。



(2) 沿革

明治9年に石川県金沢区方勤業場において、農業に熱い思いを持った若い農業篤志家に農書を講義したことが始まりであり、今年で創立149年目を迎え、全国でも長い歴史と伝統を誇る農業高校である。同時期には、「少年よ、大志を抱け」で有名な札幌農学校（現在の北海道大学農学部）が設立されている。その後、校名を何度か変え、平成12年に松任農業高等学校から、全国で初めての単位制農業専門高校として改編し、現在の校名の翠星高等学校に変更された。現在の校地（三浦町）には、昭和39年に現在の松任高校の校地（馬場町）より、移転してきた。



生徒の在籍状況については、1学年4クラス160名定員であり、2年次からコース・分野を選択し専門的な学習を行っている。教職員数の状況については、非常勤講師を含め54名である。教員数を年代別でみると、60代の数が最も多くなっている。一方で、最近、農業科を含め若手の教員採用が増加している。教員として必要な資質や知識、技術等の継承が喫緊の課題となっている。特に、農業科の教員として、専門的な技術の習得は欠かせない素養である。

(1)生徒在籍状況(令和8年5月1日現在)															448名														
学科	1年				選択	2年				3年				合 計															
	男	女	計	選択		男	女	計	選択	男	女	計	選択	男	女														
総合 グリーン 科学科	77	74	151	4	コース	—	32	42	74	4	33	22	55	4	244	204													
					生物 資源 食品 科学												—	15	19	34	29	24	53						
					環境 設計																			18	0	18	10	0	10
					造園																								
合計	77	74	151	4	85	69	154	4	82	61	143	4	244	204	448	12													

(2)教職員数(令和8年5月1日現在)															54名		()は講師内数	
年代	20代		30代		40代		50代		60代以上									
人数	6(0)		15(2)		7(1)		10(1)		16(5)									
内 農業の教員(教諭)	6		7		2(1)		2		2(1)									
内 農業の教員(実数)					2		2		2(1)									
校長・教頭・教諭・養護教諭・実習教諭・実習助手・講師は合わせて54名 うち育児休暇2名																		

(3) 教育目標

- ① 自然と人間の関係を重視した教育を施し、心豊かな人間を育成する。
- ② 生徒の興味・関心に基づく主体的な学習を促し、生涯にわたって学び続ける意欲や態度を育成する。
- ③ 自己の進路への自覚を深め、社会の変化に柔軟に対応できる資質や能力を身につける。

(4) スクールミッション

- ① 農業専門高校として、農業教育を通して、地域の食や農業、環境問題に積極的に関わり、地域の活性化に貢献する意欲と態度を育成する。
- ② 学習意欲の向上と進路に応じた学力の定着を図るとともに、進路実現に向けて指導体制の充実を図り、地域に有為な人材を育成する。
- ③ 社会人として必要な生活習慣や規範意識、他者への敬愛と協力を重んずる態度を育成する。

(5) 進路状況

例年、進学4割強、就職6割弱の割合である。国公立大学は、ほとんどが石川県立大学の専門高校推薦合格者である。昨年度は、石川県立大学2名、福井県立大学1名、公立小松大学に1名が進学した。現在の在校生についても、ほぼ例年並みの割合で進路を希望している。

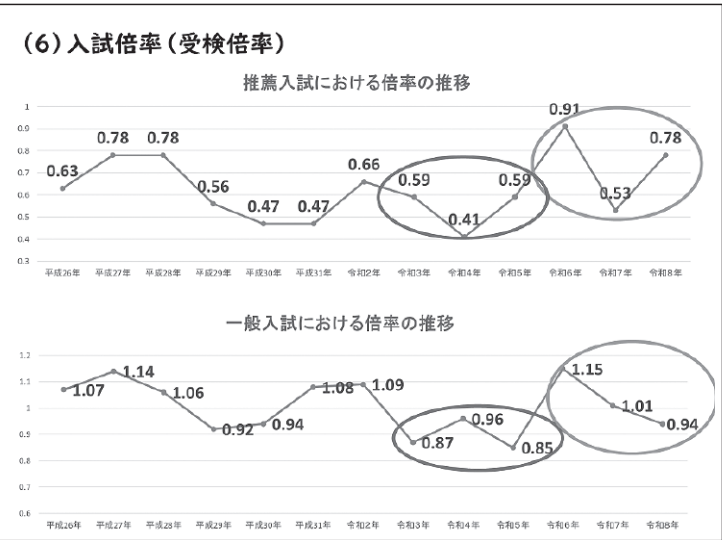
(5) 進路状況(令和8年4月1日現在)									
卒業生数		進 学						就 職	そ の 他
		四年制大学 国公立	私立	短期大学 国公立	私立	専修 各種	計		
R3.3 卒	132	3	9	0	4	30	46	84	2
R4.3 卒	142	0	10	0	6	40	56	81	5
R5.3 卒	147	5	14	0	5	26	50	96	1
R6.3 卒	123	2	16	0	5	35	58	64	1
R7.3 卒	133	1	10	0	2	34	47	84	2
R8.3 卒	107	4	14	0	6	19	43	63	1

(6) 入試倍率(受検倍率)

本校では、定員の20%を推薦入試に配分しているが、定員に達する年は近年ではない。松任農業高校時代の小学校の頃は、学科により定員を超えていたこともあったが、翠星高校総合グリーン科学科の大学科となった以降は超えていない。直近では、令和6年度入試において、あと少しで定員を満たすところだったが、残念ながら及ばなかった。一般入試については、コロナ禍であった数年は定員割れが続いたが、令和6年度、7年度と2年連続で倍率が1倍を超えている。

ここ12年間の入試倍率は、次頁の図に示した通りである。特に、コロナ禍で本校への入学希望者が激減した。これは、中学校での高校説明会が中止されたり、中学生の体験入学ができないなど、中学生に対して十分な情報を伝えきれなかったことが原因であると考えられる。専門教科の内容を知らない中学生には、あらゆる機会を通じて農業高校の様子を伝えることが大切であると改めて思い知らされた。

コロナ明け後は、推薦入試、一般入試ともに倍率が上昇した。来年度以降も入学希望者が増えるよう努力し、中学生とその保護者から選ばれる学校を目指していきたい。昨年度からは、体験入学とは別に、休業日である土曜日に、「オープンハイスクール」を実施している。年を追うごとに参加者数が増加しており、入学希望者増加の一因となっている。体験入学、オープンハイスクールともに、生徒が運営の中心となり、学校やコース・分野の説明、体験実習の説明と補助など生徒主体に実施している。本校生徒の姿を中学生や保護者、中学校関係者等に見てもらうこともねらいのひとつである。



(7) 教育内容

本校は、大学科農業科として、総合グリーン科学科の1学科を設置している。前述の通り、1学年160名4クラス編成であり、1年次は、全生徒が必履修科目を中心とする普通教科や原則履修科目「農業と環境」、「農業と情報」、すべての専門分野を体験する「総合実習」を履修する。2年次より、生徒の進路希望や興味・関心に応じた3コース4分野の専門分野及び選択科目を履修する形態をとっている。また、毎朝10分間の朝学習「翠星タイム」を通じて基礎学力の定着や進路実現に向けた一般常識等の習得を目指している。昨年度から1人1台パソコンによるスタディサプリ(株)リクルート)を導入している。効果については、検証を続けながら、改善を模索して進めている。

3コース4分野について簡単に紹介する。

① 生物資源コース

農作物の栽培を中心に経営・流通、園芸福祉、バイオテクノロジー等の専門的な学習をしている。農業法人、先端農業、流通・小売業、福祉産業に必要な資質能力を身につけることを目標としている。

② 食品科学コース

食品の加工、分析、有用微生物に関する専門的な学習をしている。特に、食品安全規格JFS-B規格に基づく衛生管理を学び、実践している。

- ③ 環境科学コース（環境設計分野）
農業土木に関する専門的な学習をする。農業土木に携わる技術者に求められる設計・施工・測量の基礎とともに、水・環境・社会基盤について実践的に学び、関係資格を取得している。
- ④ 環境科学コース（造園分野）
造園、都市緑化に関する専門的な学習をしており、庭園の施工や緑化材料について実践的に学び、関係する資格を取得している。

食

食品科学コース

「食品化学」「食品製造」「食品微生物」「食品流通」など

農

生物資源コース

「作物」「野菜」「草花」「農業経営」「植物バイオテクノロジー」「生物活用」など

環

環境科学コース

「農業土木施工」「測量」「農業土木設計」「造園施工管理」「造園計画」「造園植栽」など

3. 地域と連携した教育活動

課題研究をはじめとする農業科目や部活動に相当する各コースの研究会活動では、地元白山市をはじめ、近隣の金沢市、野々市市、能美市など自治体、学校やJA、農業法人、企業等の産業界、各種団体と連携した活動を積極的に実施している。

3 地域と連携した教育活動

① 他校種と連携した教育活動



「たんぼの学校」
白山市立松任小学校5年



「白山米粉クッキー作り」
白山市立松南小学校4年



「サツマイモの定植」
白山市立千野保育園



「SDGs連携事業」
金城大学短期大学部



「食育教室」
白山市立蕨城小学校3年



「農福連携事業」
明和特別支援学校

- （1）他校種と連携した教育活動
近隣小学校の体験学習を継続的に実施しており、生物資源コースでは、「たんぼの学校」として、小学5年生が本校農場で、田植えやイネの観察、収穫を高校生が先生役となり体験し、農業の大切さ、たんぼと自然環境、食・命の大切さなど学んでいる。また、保育園児の交流授業や特別支援学校との合同実習など異世代間交流やインクルーシブ教育にも取り組んでいる。
- 食品科学コースでは、近隣の小学校児童に米粉饅頭作りやジャム作りの食育授業を実施し、地産地消、食の安全、持続可能な社会の実現などを伝えている。

生徒にとって、日頃の学びを定着させるためには、身につけた知識や技術を発揮する場が必要である。その意味では、コミュニケーション能力の向上を図り、自己有用感、達成感や充実感などを感じさせることができる機会を設定することが肝要である。すべての生徒ができるわけではないが、一人でも多くの生徒にこのような機会を与えることが、ひいては学校全体のレベルアップへと繋がると考えている。

- （2）地元自治体との連携
本校の地元である白山市には、全国的にも珍しい産業部地産地消課があり、平成29年から、食品科学コースは、地産地消連携事業の委託事業契約を締結している。予算額は、1件30万円であり、毎年2件ずつ実施しており、総額60万円となる。白山市内の農産物を活用した商品開発を行い、地元農産物の魅力をPRするとともに地元事業者との連携を行っている。
- これまでに、「松任梨」「剣崎なんば」「ジビエ」「まっとうトマト」「酒米削り粉」「おまつと牛乳」「白山市産グリンピース」などで商品開発を行ってきた。これらの商品の中には、全国高校生パンコンテストや和菓子甲子園の優勝作品が生まれており、地元白山市の農作物を全国の舞台で披露することができた。この資金により、商品の研究開発はもとより、ポスター等を作成し、本校の研究活動を広く市民に、県民に周知することができる。「敬老の日に和菓子を贈ろう！大作戦」については、市内の全小学生・中学生に配付されている。この辺りも、本校の教育活動が理解・支持されている一因となっていることと考えられる。

② 地元自治体との連携
白山市（地産地消連携事業）

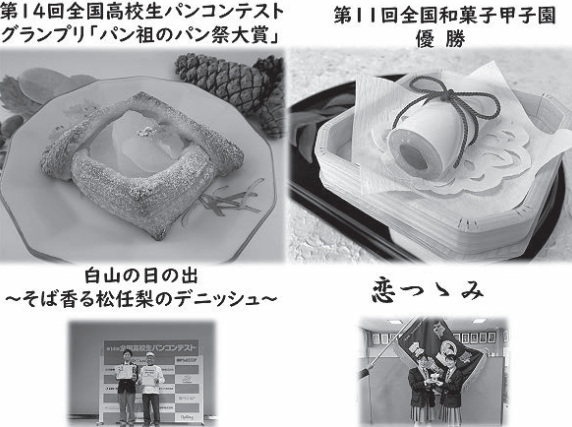


第14回全国高校生パンコンテスト
グランプリ「パン祖のパン祭大賞」

白山の日の出
～そば香る松任梨のデニッシュ～

第11回全国和菓子甲子園
優勝

恋つゝみ



また、例年2月に、白山市長室において新商品報告会が開催され、商品プレゼン及び試食会を実施している。さらに、本事業については、白山市ホームページ内に大きく紹介され、専用ページとして掲載されている。

市長報告会



市長報告会



敬老の日に和菓子を贈ろう！大作戦



現在も開発した商品は、めん房本陣の全店舗で絶賛販売中である。また、トマトを摘果した際に生じた本来は廃棄される青い果実をピクルスにし、ハンバーガーに活用したものも大好評である。石川県白山市にお越しの際には、What's up ?にお寄りいただければ、翠星高校の関係者として割引価格で食することができるので、ぜひ、ご賞味いただきたい。

また、令和3年に白山市に開業した巨大ショッピングセンターのイオンモール白山とも連携協定を締結し、会場でのイベントや協力企業とのコラボを積極的に実施している。



「めん房本陣」全店舗で、R5.6月29日～9月10日の間に合計17,903枚販売されました。

令和6年度



令和5年度

9/11(月)販売開始！

石川県立
What's up? ※ 翠星高等学校

青春トマトバーガー

¥1,400

青ビバーガー

¥1,400

クルビバーガー

¥1,400

令和6年度

What's up? ※ 翠星高等学校

翠星青春Again!シリーズ

青春Again!バーガー

¥1,300

青春Again!パスタ

¥1,000

イオンモール白山との連携協定



(3) 地域との連携を牽引する研究会活動

本校の特色として、各コースの学びをさらに深め、地域との連携を牽引する研究会活動がある。学習活動をより深めたり、幅広く取り組んだりすることを目的として、各コース・分野ごとに研究会を設置している。「食品科学」、「生物資源」、「環境設計」、「造園」の各研究会が活動を行っている。活動は、授業時間外の放課後や土日などに行っており、部活動と同等の活動を行っている。

中でも、食品科学研究会は、平成24年に模擬株式会社「SUISEI - FACTORY」を設立し、地域と連携した事業を積極的に展開している。これまでの具体的な活動としては、金沢市で栽培されている「金沢ユズ」を搾搾汁後に、廃棄や低価格で処分されている果皮をマーマレードや製菓材料に加工し、付加価値の高い製品に活用、さらに、そのノウハウを地元の生産者に社員である生徒が技術指導し、農家の6次産業化を推進し、収益の増収を後押しする活動を継続的に行った。この取り組みは、全国の柑橘農家に対しても情報発信するとともに希望する地域の農家に対してオンラインによる技術指導も行った。

③ 地域との連携を牽引する研究会活動

生物資源研究会



環境設計研究会



収益は、白山の「外来植物対策事業」とキリマンジャロ山麓の「植林活動」に活用

食品科学研究会 模擬株式会社SUISEI FACTORY



食品科学研究会

廃棄果皮0システム タイプA



地域への愛着を育む！

食品科学研究会

廃棄果皮0システム タイプB



地域への愛着を育む！

これら一連の活動は、第7回「食品産業もったいない大賞」において農林水産大臣賞を受賞するとともに2度の農業クラブ全国大会プロジェクト発表会で最優秀賞及び文部科学大臣賞を受賞するなど、多くの団体、コンテストにおいて高い評価を得ている。

令和元年 第7回 食品産業もったいない大賞 表彰式・事例発表会

農ク全国大会プロジェクト発表会 最優秀

食品産業もったいない大賞

ディスカバー農山漁村(おら)の宝



今年度の日本学校農業クラブ全国大会西関東大会では、プロジェクト発表会において、3部門とも北信越の代表として出場することが決まった。筆者の記憶にもなく、初めての快挙ではないかと思う。生徒・教員ともに、研究活動に勤しみ、その成果として大きな実を結んでいることと思う。長年続けてきた研究会活動の成果の現れであると思う。

(4) 地域の食の安全を守る活動

次に、コースと研究会が共同で地域の食の安全を守る活動について紹介する。令和元年度末から始まった新型コロナウイルス感染拡大により、地域に出向いての活動が大きく制限された。また、食品衛生法改正により、令和3年6月1日から「HACCP に沿った衛生管理」が食品を加工・販売する事業者に義務付けられた。食品科学コースでは、食の安全性確保を深く考え、制度改正に対応するため、教員、生徒が協力して食品安全マネジメント規格「JFS-B 規格」の適合証明合格を目指した。休校中は職員が、休校明けには生徒たちも加わり、実習施設の環境改善や様々な衛生管理基準の設定、製造操作のマニュアル化など、精力的に実施し、令和2年11月、教育機関では日本初の適合証明合格を果たした。

この取組は、「HACCP スクールツアー」として広く情報公開し、HACCP 導入に不安を抱えていた地域の食品事業者や県内をはじめ全国の農業高校が学校訪問やオンラインにより、具体的かつ丁寧な説明を受け、地域の食の安全の維持に貢献することができたと自負している。さらに「HACCP スクールツアー」は、本校ホームページに動画を掲載するとともに、DVD に収録し、石川食品衛生協会において食品衛生責任者研修の教材として使用され、会員に配布されている。



4. 地域産業の核となる人材育成に向けた取り組み

本県教育委員会の「産業連携による人材育成推進事業」の指定を平成22年度より受け、長期型企業実習（デュアルシステム）及び企業の専門家による実技指導を実施している。事業指定当初は、栽培を中心とした農業法人のみの長期型企業実習であったが、平成26年度より、食品製造分野に事業を拡大し、昨年度より、本事業は「次世代の地域産業を担う人材育成事業」に改編された。

年を追うごとに各専門分野に対する就業意欲が向上し、実習先に就職したいと申し出る生徒も出てきており、卒業後に当事業所に就職している生徒もいる。また、各コースの特徴的なキャリア教育を施すことで、農業及び関連産業の担い手の育成につなげている。

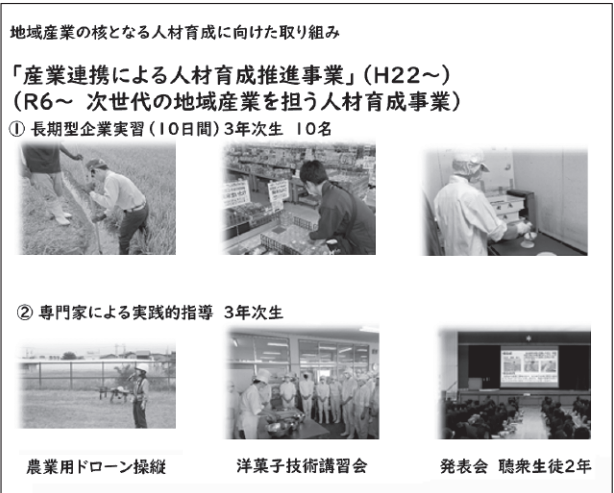
1年次生のコース選択前には、食品、農業、造園、土木の各分野で活躍する講師による講演会を開催し、それぞれの産業の現状と今後の見通しについて理解を深めさせ、各コース別の特徴的な体験実習とともに2年次以降のコース選択の参考とさせている。

コース選択後は、生物資源コースでは就農に関心がある生徒に対して、「いしかわ農林漁業就業合同面談会」（いしかわ農業総合支援機構主催）への参加を呼び掛け、多くの生徒が、県内の農業法人関係者とコミュニケーションを図っている。また、同機構が企画する先進農家見学会にも多くの希望者が参加し、県内の農業法人の現況について見聞を深めている。さらに、この取り組みにより、近年は、法人就農や就農準備校（県外農業者大学校等）への進学者が増加している傾向にある。

環境科学コース（造園分野）では、石川県造園緑化建設協会による現場研修会の開催、各学年に対しての出前講座や技術指導を実施しており、毎年、造園の魅力を深く理解し、造園業界へ多くの人材を輩出している。

環境科学コース（環境設計分野）では、県及び白山野々市建設業協会と連携して、「建設産業の若手人材確保のための意見交換会」や「マイスター派遣実技講習」を毎年実施している。協会の青年委員と生徒たちが建設産業に対するイメージ、働きやすさ、働きがいなどについて、座談会形式で活発に意見を交わし、進路選択に向けてとても参考になっている。また、現場見学会や技能講習会など、関係団体と精力的に連携し、実施している。

食品科学コースでは、石川県食品協会と担当教員が意見交換を行い、教育内容の改善に努めている。また、課題研究や研究会活動において地域の食品産業と連携したプロジェクト活動を推進し、学校と各事業者とのコミュニケーションを積極的に行っている。関連大学、専門学校への進学者が過半数であるが、就職希望者の大部分が地元食品製造業に就職しており、HACCP についても企業から高い評価を得ている。



5. 台南大学附属高級中学との交流

令和7年度より、本校卒業生である白山市議会議員 藤田政樹氏、同 山本佳裕氏をはじめとする白山市議会の皆様のご尽力により、台南大学附属高級中学との交流がスタートした。同年10月、白山市議会会派「一創会」の台湾訪問に際し、相手校への親書を託した。その後、校長同士がメールのやり取りをはじめ、親交を深めていった。翻訳アプリを使っでのやり取りに当初は不安もあった。しかし、これからのグローバルな時代を見据え、農業や環境など関連学習を通じた次世代の交流と友好関係構築に大きな期待を持ったことが原動力となった。

実際、オンラインでの生徒交流会では、学校紹介のプレゼンテーションを行ったが、中国語（繁体字）で表記するなど生徒には意欲と成長を感じられた。また、簡単な英語でコミュニケーションを図ろうとするなど前向きな姿勢がみられ、生徒自身も今後の進展に自信を深めていた。



10月の150周年記念式典にあわせて、台南大学附属高級中学校長をはじめとする教職員と代表生徒が来校する予定で調整が行われているが、両校の信頼と親睦が今後も深まっていくことを願っている。

6. これまでの成果

生物資源コースでは、農業法人からの求人増加、法人就農者及び就農準備校進学者の増加、長期型企業実習先への就職などが挙げられる。

食品科学コースでは、企業から HACCP の取組に対して評価、起業家精神の醸成（研究会の部長は起業を考えている）、業界団体との交流強化などが挙げられる。

環境科学コースでは、業界団体との連携強化、生徒の業界への理解が深まる、専門を生かした就職増加などが挙げられる。

6 これまでの成果

生物資源コース	食品科学コース	環境科学コース
●農業法人からの求人増加 ●法人就農者及び就農準備校進学者の増加 ●長期型企業実習先への就職	●企業からHACCPの取組に対して評価 ●起業家精神の醸成 ●業界団体との交流強化	●業界団体との連携強化 ●生徒の業界の理解が深化 ●専門を生かした就職増加

7. 今後の農業教育に向けて

これには多分に私見が入るが、世の中では、第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション（DX）、六次産業化等、産業構造・仕事の内容が急速かつ絶えず革新していく状況にあり、産業構造の絶え間ない変化に即応した職業人材育成が急務となっている。

本校では、令和3年度に、文部科学省の「スマート専門高校」事業により、ガラス温室1棟の環境自動制御装置及び水耕栽培装置を更新導入し、水田にはIoT水門を新規導入、食品科学棟のIoT化を構築するため加工機器の稼働状況データ収集システムを導入した。

さらに、昨年度は、文部科学省の「DXハイスクール」事業の指定を受け、イチゴの高設栽培施設の設置、大学と連携したAI、IoT及びデータサイエンスに関する教員研修に参加、先進農場への視察を行った。これらの取組を通じて時代に対応した農業教育を展開していきたい。

今後は、少子化による人口減に伴い、食料の国内需要の減少が見込まれており、将来的に販路を海外に求める傾向が強まると考えられる。近い将来、農業及び関連産業のグローバル化に対応した教育を検討する必要があり、時代の流れに対応するだけでなく、時代を先読みしながら生徒たちがこれから生き抜いていく未来を力強く歩めるような教育内容に変えていかなくてはならないと考えている。

7 今後の農業教育に向けて

第4次産業革命の進展、デジタルトランスフォーメーション（DX）、六次産業化等、産業構造・仕事の内容が急速かつ絶えず革新する中、産業構造の絶え間ない変化に即応した職業人材育成が必要

令和3年度 スマート専門高校	令和6年度～ DXハイスクール事業	令和7年度以降 グローバル化に対応した教育
●ガラス温室の更新 - 環境自動制御装置 - 水耕栽培装置 ●IoT水門の新設 ●食品科学棟のIoT化 - 加工機器稼働状況データ - 収集システム	●イチゴ高設栽培 - 栽培施設 - 環境制御装置 - 計測機器 - 栽培データの活用 ●AI,IoT,データサイエンス - に関する研修 ●課題研究・農業と情報への - 活用 ●産地視察 - 栃木県(農業試験場、生産 - 法人、農業高校等)	●コミュニケーション能力の - 向上 - 外国語教育の推進 - チャットGPTの活用 (同時通訳ソフト) - 海外留学事業の活用 ●グローバルマーケティング - の学びの推進 - 食品流通・農業経営の内 - 容充実 - 海外展開の企業・法人と - の連携

8. おわりに

令和8年、本校は、創立150周年を迎えることができた。長い年月の中で、幾多の変遷を経ながら、現在までに2万2千人余りの卒業生を輩出した。県内はもとより、県外、さらには国外へと同窓生たちがそれぞれの地で活躍している。本校を卒業し、故郷を離れても、母校を愛し、故郷を思う気持ちは、今なお持ち続けられており、本校の存在意義は大きく深い。今後も、長い歴史と伝統に恥じぬよう、地域と共に歩みながら、社会に貢献できる心豊かな人間を育てていきたい。また、これからも本校は、関係各位のご指導を仰ぎ、情報を収集しながら、新しい時代に即した農業教育に邁進していくことが県内唯一の農業専門高校である本校の大きな使命である。



石川県立翠星高等学校

編集後記

この度、創立150周年記念事業の一環として『翠星高校150周年記念誌』を発刊する運びとなりました。本校の記念誌は、昭和41年に「90年史」、昭和50年に「100年史」、平成22年には翠星高校10年間の歩みをまとめた「翠星十年」が刊行され、平成28年に創立140周年を記念した「140周年記念誌」が発刊されました。本誌では、これらの記念誌と学校に残る貴重な資料をもとに、明治9年の開校から現在に至るまで、150年にわたる大いなる歩みを振り返ることとしました。

第1章「150年の歴史」では、これまでの記録をもとに明治、大正、昭和、平成、令和の各時代における特筆すべき出来事を振り返りました。県を代表する農業高校として歩んできた本校の歴史と、数多の時代を築いてこられた卒業生や教職員の皆様の熱い思いを感じ取っていただければ幸いです。

第2章「教育活動の変遷」では、時代の要請に応じ変遷をたどる教育内容等についてまとめました。校名変更や1学科単位制の農業専門高校となるに至った経緯をはじめ、脈々と受け継がれゆく伝統を大切にしながらも新時代に対応し、変革と発展を遂げ行く歩みをご覧くださいのことと思います。

第3章「生徒の活動」では、部活動、農業クラブ活動、学習活動、学校行事、生徒会活動等、生徒たちの活躍を年代ごとに紹介しています。各々の分野で力を発揮する生徒たちと、努力のできる環境を整えそれを支え見守る教職員の姿勢から、活気に満ちた本校の姿をより身近に感じていただきたいです。

第4章「地域と共に歩む翠星高校」では、農業教育を通じて地域との関わりを深めている様子を、プロジェクト研究活動を通して紹介しています。地域との連携や農産物の生産・加工・販売、環境保全、特産品づくり等、地域に根ざした農業高校としての役割を十分に確認することができます。

このように、幾度となく変化の時節を迎えながらも、本校の「農業を学び、地域と共に歩む」という精神は、時代を超え連綿と受け継がれています。本誌を通して、これまで本校の発展に尽力された卒業生、保護者、地域の皆様、教職員の皆様の真摯な志と、時代を彩ってきた生徒たちの活躍を感じ取っていただければ幸いです。そして、本誌が次代を背負う生徒たちにとって、歴史と伝統を振り返る一助となり、来るべき200周年へ向けての偉大なる歩みを支える礎となれば、編集委員一同、これ以上の喜びはありません。150周年という節目が、これまでの歩みを未来へとつなぐ希望の羅針盤となり、次代への新たな挑戦につながることを願っています。

最後になりましたが、発刊にあたり、資料提供、原稿執筆、写真選定、校正など多方面にご協力いただきました卒業生、同窓会、教職員の皆様に、心より感謝申し上げます。また、長く本校を支えてくださったすべての皆様に深い敬意と感謝を表するとともに、さらなる翠星高校の発展を心より祈念いたします。

記念誌編集委員会 委員長 市村 実

「創立150周年記念誌」編集委員会

委員長／市村 実

委員／広瀬 勝己、従二 元

写真協力／橋本写真館

石川県立翠星高等学校 創立150周年記念誌

令和8年10月1日 発行

編 集 翠星高等学校 創立150周年記念誌編集委員会

発 行 石川県立翠星高等学校
翠星高等学校 創立150周年記念事業委員会
白山市三浦町500-1 電話 (076) 275-1144

印 刷 高桑美術印刷株式会社